

男女共同参画に関する市民意識調査
報告書

令和元年 9 月
富士見市

I 調査の概要	3
1. 調査の目的	3
2. 調査の方法	3
3. 調査内容	3
4. 回収結果	3
5. 報告書の見方	4
II 回答者の属性	7
III 調査結果	11
1 男女共同参画全般について	11
(1) 各分野における男女の地位の平等感	11
2 家庭生活・子育て・介護について	24
(1) 子どもの有無	24
(2) 一番下の子どもの状況	26
(3) 要介護者の有無	28
(4) 「男は仕事、女は家庭」という男女の役割分担意識	30
(5) 男女の役割分担についての考え方	32
(6) 家庭での役割分担	34
(7) 家事の分担状況	36
(8) 子育てへの関わり	59
(9) 子育てへの関わりが十分でないと思う理由	61
(10) 配偶者・パートナーの子育てへの関わり	62
(11) 配偶者・パートナーの子育てへの関わりが十分でないと思う理由.....	64
(12) 家庭での子育てや学校での教育に関する考え	65
(13) 要介護者の世話について	71
(14) 男女がともに介護を担うために必要なこと	73
3 就業について	75
(1) 就業形態	75
(2) 働いて収入を得ている理由	77
(3) 職場における女性の仕事内容や待遇	79
(4) 現在の形態で働いている理由	81
(5) 就業経験の有無	83
(6) 仕事を辞めた理由	85
(7) 将来の就業希望	87
(8) 働きたいが働けない理由	89
(9) 女性の働き方について望ましいと思うもの	90
(10) 女性の働き方の現状	92
(11) 働く場で「女性の活躍が推進されている」と言えるために必要なこと.....	94

目次

(12) 女性が働き続けることを困難にしたり、妨げになっていることがあると感じるか	96
(13) 女性が働き続けることを困難にしていること	98
(14) 女性が働き続けるために必要なこと	100
(15) 有給休暇や育児・介護休業の取りやすさ	102
(16) 男女がともに仕事と家庭を両立するために必要な条件	106
4 社会参加について	108
(1) 地方自治体などの施策への女性の意見や考え方の反映	108
(2) 女性の意見や考え方が社会に反映されにくい理由	110
(3) 女性の参画が進むべきだと思う分野	112
(4) ポジティブ・アクションについての考え	114
(5) 女性が活躍する場を設けることによる社会全体への効果	116
5 災害時の配慮について	118
(1) 防災・災害復興対策に必要な配慮	118
6 性と生殖について	120
(1) 男女がともに妊娠・出産について考えていくために必要な取り組み	120
7 性的少数者（マイノリティ）について	122
(1) 性的少数者（LGBT等）の認知度	122
(2) 性的少数者にとって生活しづらい社会だと思うか	124
(3) 性的少数者にとって生活しづらい社会だと思う理由	126
(4) 性的少数者が生活しやすくなるために必要なこと	128
(5) 身近な方が性的少数者だった場合の接し方	130
(6) 学校や職場内の人が性的少数者だった場合の接し方	132
8 DV（配偶者等からの暴力）について	134
(1) 暴力として認識される行為	134
(2) DV被害発見や相談しやすい環境づくりに必要なこと	151
(3) 配偶者・パートナーまたは恋人から暴力を受けた経験	153
(4) 暴力を受けたことについての相談の有無	155
(5) 暴力を受けたことについての相談先	156
(6) 暴力を受けたことについて相談しなかった理由	157
(7) 暴力を防止するために必要なこと	158
9 富士見市の取り組みについて	160
(1) 男女共同参画にかかる富士見市の取り組みの認知度	160
10 男女共同参画行政について	165
(1) 男女共同参画社会の実現のために必要な取り組み	165
11 男女共同参画社会に関する意見・要望	167
IV 使用した調査票	181

I 調査の概要

I 調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、「富士見市男女共同参画プラン（第3次）」が令和3年3月で計画期間が満了することから、富士見市における男女共同参画に関する状況について把握し、次期計画を策定するための基礎資料とすることを目的とする。

2. 調査の方法

- (1) 調査地域 富士見市全域
- (2) 調査対象 市内在住の満18歳以上の男女
- (3) 標本数 2,000人（男性1,000人、女性1,000人）
- (4) 抽出方法 住民基本台帳から無作為抽出
- (5) 調査方法 郵送調査法（郵送配布－郵送回収）
- (6) 調査期間 令和元年7月19日～8月2日

3. 調査内容

- (1) 男女共同参画全般について
- (2) 家庭生活・子育て・介護について
- (3) 就業について
- (4) 社会参加について
- (5) 災害時の配慮について
- (6) 性と生殖について
- (7) 性的少数者（マイノリティ）について
- (8) DV（配偶者等からの暴力）について
- (9) 富士見市の取り組みについて
- (10) 男女共同参画行政について

4. 回収結果

	標本数	有効回収数	有効回収率
全 体	2,000	904	45.2%
男 性	1,000	389	38.9%
女 性	1,000	507	50.7%
その他		-	
性別無回答		8	

5. 報告書の見方

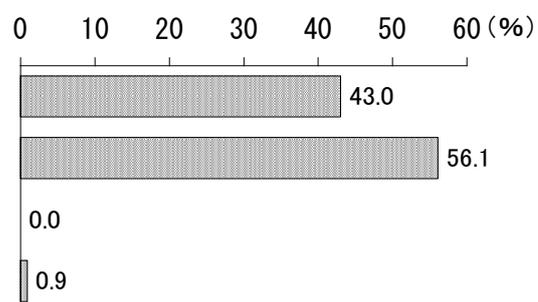
- (1) 図中の「n」は、各質問の回答者数を示す。
- (2) 集計は、小数点第2位を四捨五入して算出した。したがって、回答率を合計しても100%にはならず、0.1%の範囲で増減することがある。
- (3) 回答の比率(%)は、その設問の回答者数を基数として算出した。したがって、複数回答の設問はすべての比率を合計すると100%を超えることがある。
- (4) クロス集計の図では、分析軸となる質問(性別、性/年齢別など)に無回答だった人については掲載していない。そのため、各層のnの合計が総数とは一致しない場合がある。
- (5) 回答者数が20に満たないものについては、図示するに留め、この報告書の中では特に取りあげていない場合がある。
- (6) 本文や図中の選択肢表記は、場合によっては語句を簡略化してある。

Ⅱ 回答者の属性

II 回答者の属性

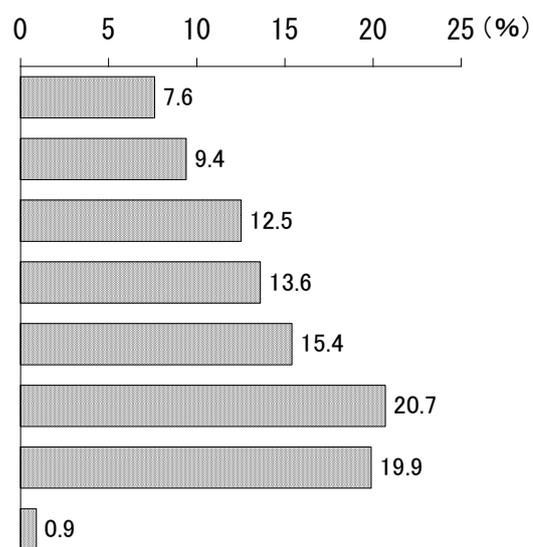
1 性別

	基数	構成比
男 性	389	43.0%
女 性	507	56.1
その他	0	0.0
(無 回 答)	8	0.9
合 計	904	100.0



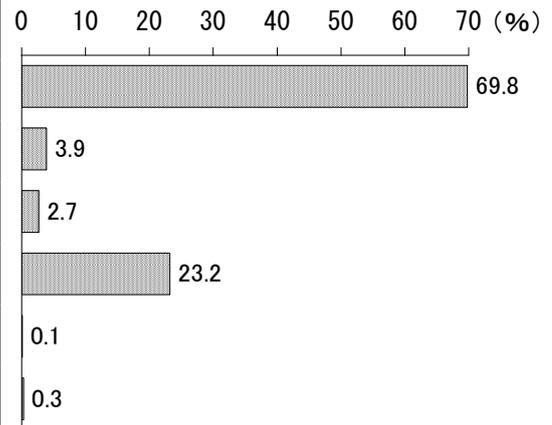
2 年齢

	基数	構成比
18～19歳	69	7.6%
20～29歳	85	9.4
30～39歳	113	12.5
40～49歳	123	13.6
50～59歳	139	15.4
60～69歳	187	20.7
70歳以上	180	19.9
(無 回 答)	8	0.9
合 計	904	100.0



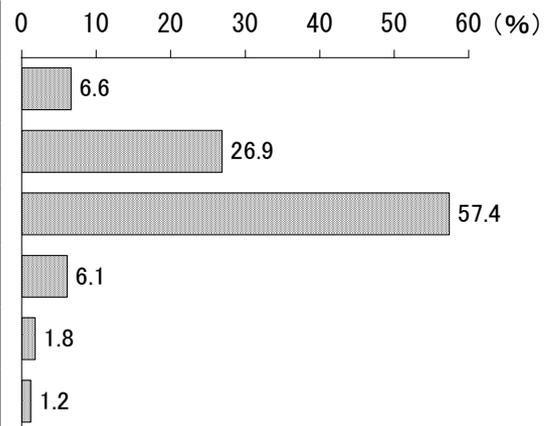
3 婚姻状況

	基数	構成比
している	631	69.8%
死別した	35	3.9
離別した	24	2.7
未婚	210	23.2
その他	1	0.1
(無 回 答)	3	0.3
合 計	904	100.0



4 家族構成

	基数	構成比
ひとり暮らし	60	6.6%
夫婦(パートナー)のみ	243	26.9
親と子(2世代世帯)	519	57.4
親と子と孫(3世代世帯)	55	6.1
その他	16	1.8
(無 回 答)	11	1.2
合 計	904	100.0

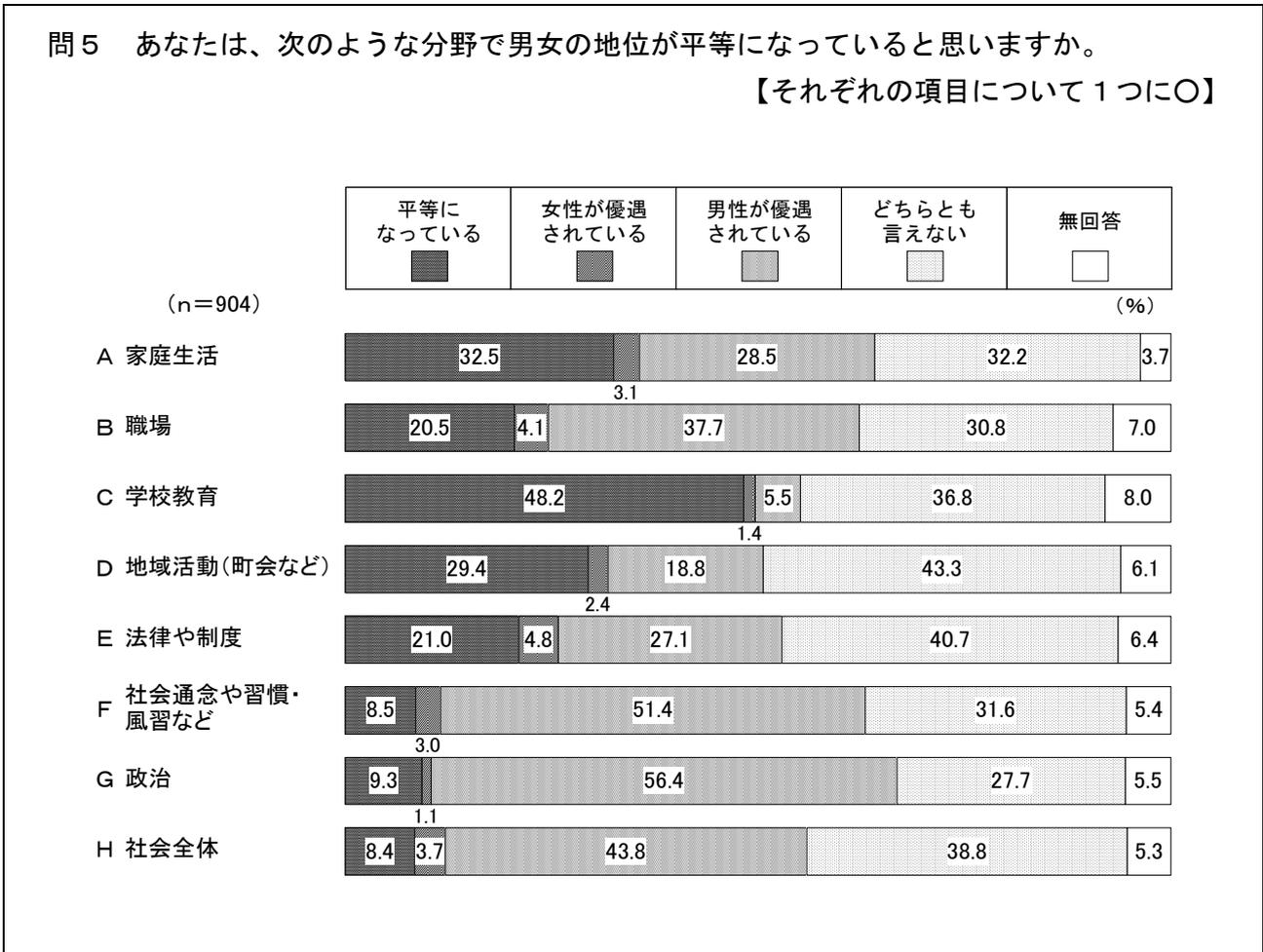


Ⅲ 調查結果

Ⅲ 調査結果

1 男女共同参画全般について

(1) 各分野における男女の地位の平等感



各分野で男女の地位が平等になっていると思うか聞いたところ、「平等になっている」は“学校教育”(48.2%)が5割近くで最も高く、次いで“家庭生活”(32.5%)、“地域活動(町会など)”(29.4%)、“法律や制度”(21.0%)となっている。

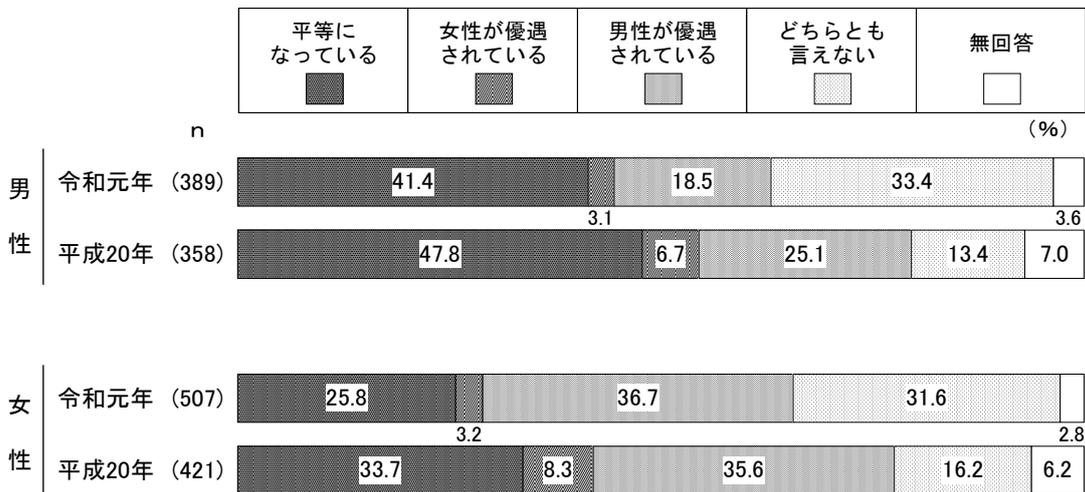
「男性が優遇されている」は“政治”(56.4%)が5割半ばで最も高く、次いで“社会通念や習慣・風習など”(51.4%)、“社会全体”(43.8%)、“職場”(37.7%)となっている。

<経年比較> (“H 社会全体” は今回調査から追加された項目のため経年比較は無い)

A 家庭生活

家庭生活について平成20年の調査結果と比較すると、男性では「平等になっている」が6.4ポイント、「男性が優遇されている」が6.6ポイント、それぞれ減少している。

女性では「平等になっている」が7.9ポイント、「女性が優遇されている」が5.1ポイント、それぞれ減少している。

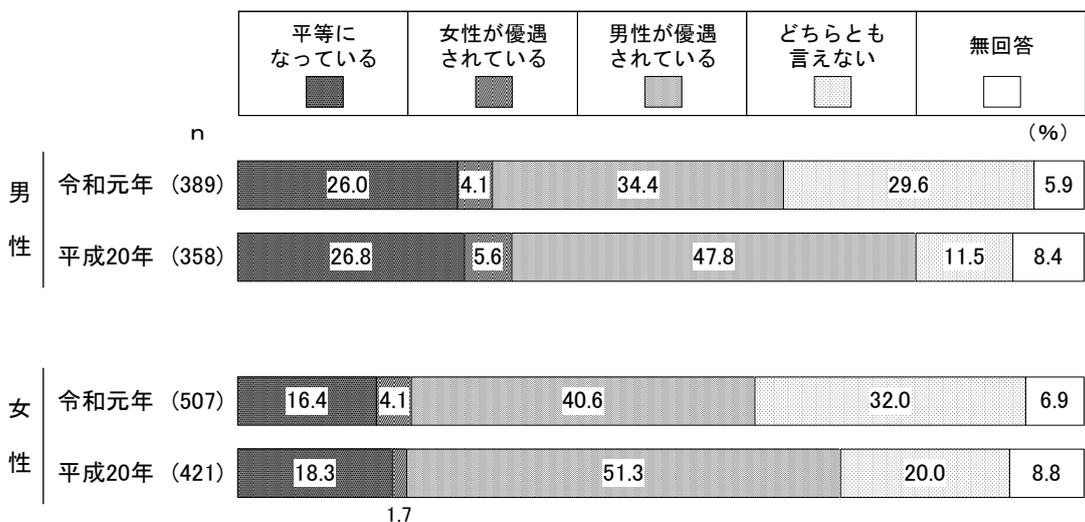


※「どちらとも言えない」は、平成20年調査では「わからない」となっていた

B 職場

職場について平成20年の調査結果と比較すると、男性では「男性が優遇されている」が13.4ポイント減少している。

女性では「男性が優遇されている」が10.7ポイント減少している。

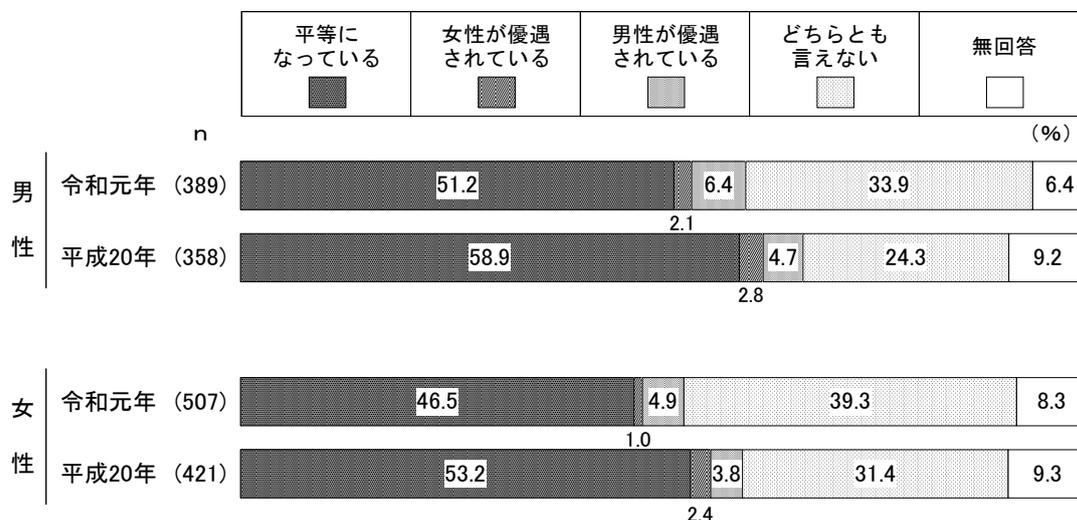


※「どちらとも言えない」は、平成20年調査では「わからない」となっていた

C 学校教育

学校教育について平成20年の調査結果と比較すると、男性では「平等になっている」が7.7ポイント減少している。

女性では「平等になっている」が6.7ポイント減少している。

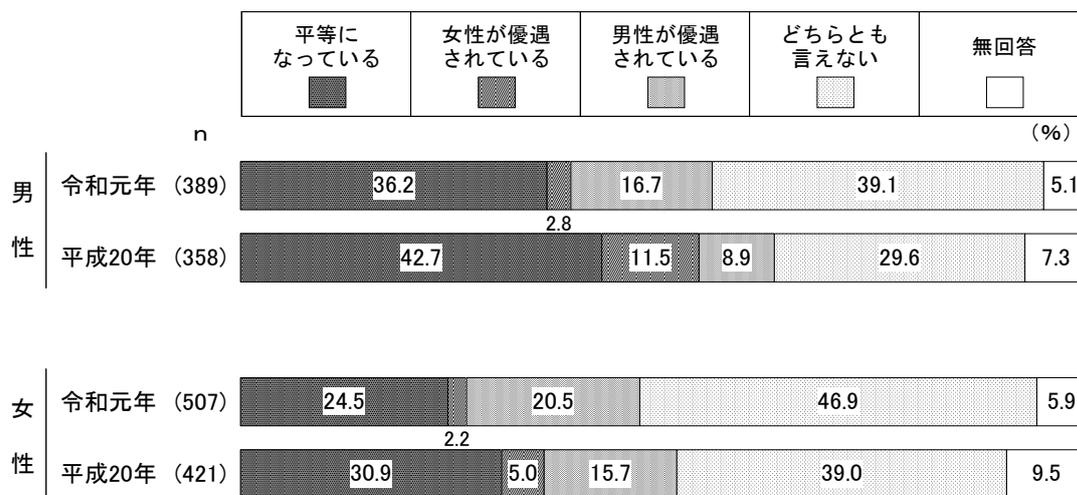


※「どちらとも言えない」は、平成20年調査では「わからない」となっていた

D 地域活動（町会など）

地域活動について平成20年の調査結果と比較すると、男性では「男性が優遇されている」が7.8ポイント増加している。一方、「女性が優遇されている」が8.7ポイント、「平等になっている」が6.5ポイント、それぞれ減少している。

女性では「男性が優遇されている」が4.8ポイント増加している。一方、「平等になっている」が6.4ポイント減少している。

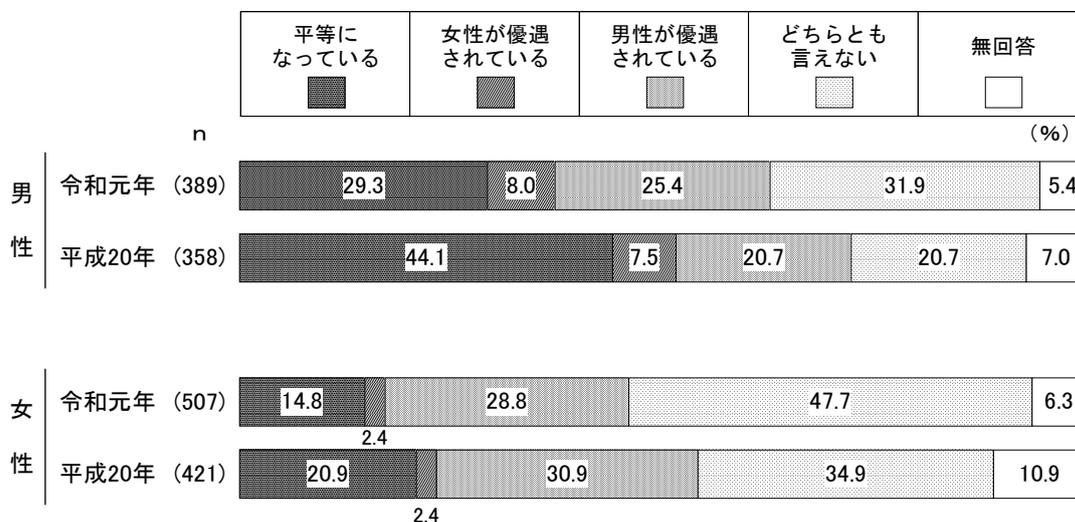


※「どちらとも言えない」は、平成20年調査では「わからない」となっていた

E 法律や制度

法律や制度について平成20年の調査結果と比較すると、男性では「男性が優遇されている」が4.7ポイント増加している。一方、「平等になっている」が14.8ポイント減少している。

女性では「平等になっている」が6.1ポイント減少している。

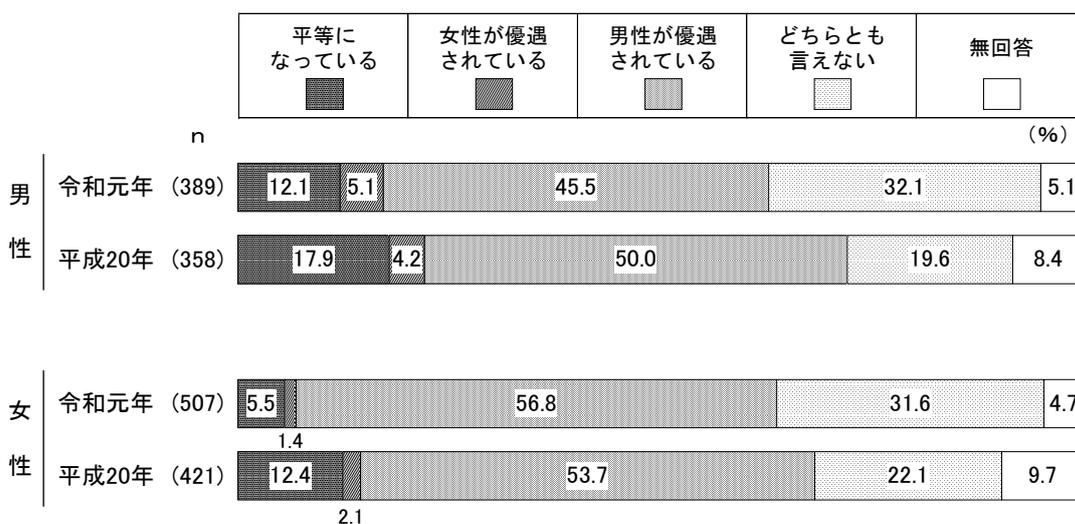


※「どちらとも言えない」は、平成20年調査では「わからない」となっていた

F 社会通念や習慣・風習など

社会通念や習慣・風習などについて平成20年の調査結果と比較すると、男性では「平等になっている」が5.8ポイント、「男性が優遇されている」が4.5ポイント、それぞれ減少している。

女性では「男性が優遇されている」が3.1ポイント増加している。一方、「平等になっている」が6.9ポイント減少している。

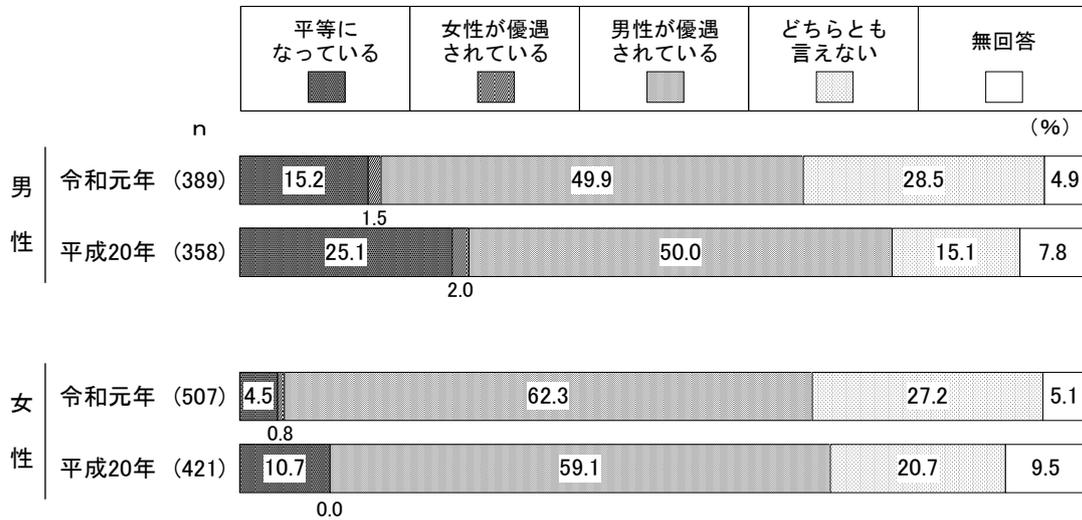


※「どちらとも言えない」は、平成20年調査では「わからない」となっていた

G 政治

政治について平成20年の調査結果と比較すると、男性では「平等になっている」が9.9ポイント減少している。

女性では「男性が優遇されている」が3.2ポイント増加している。一方、「平等になっている」が6.2ポイント減少している。

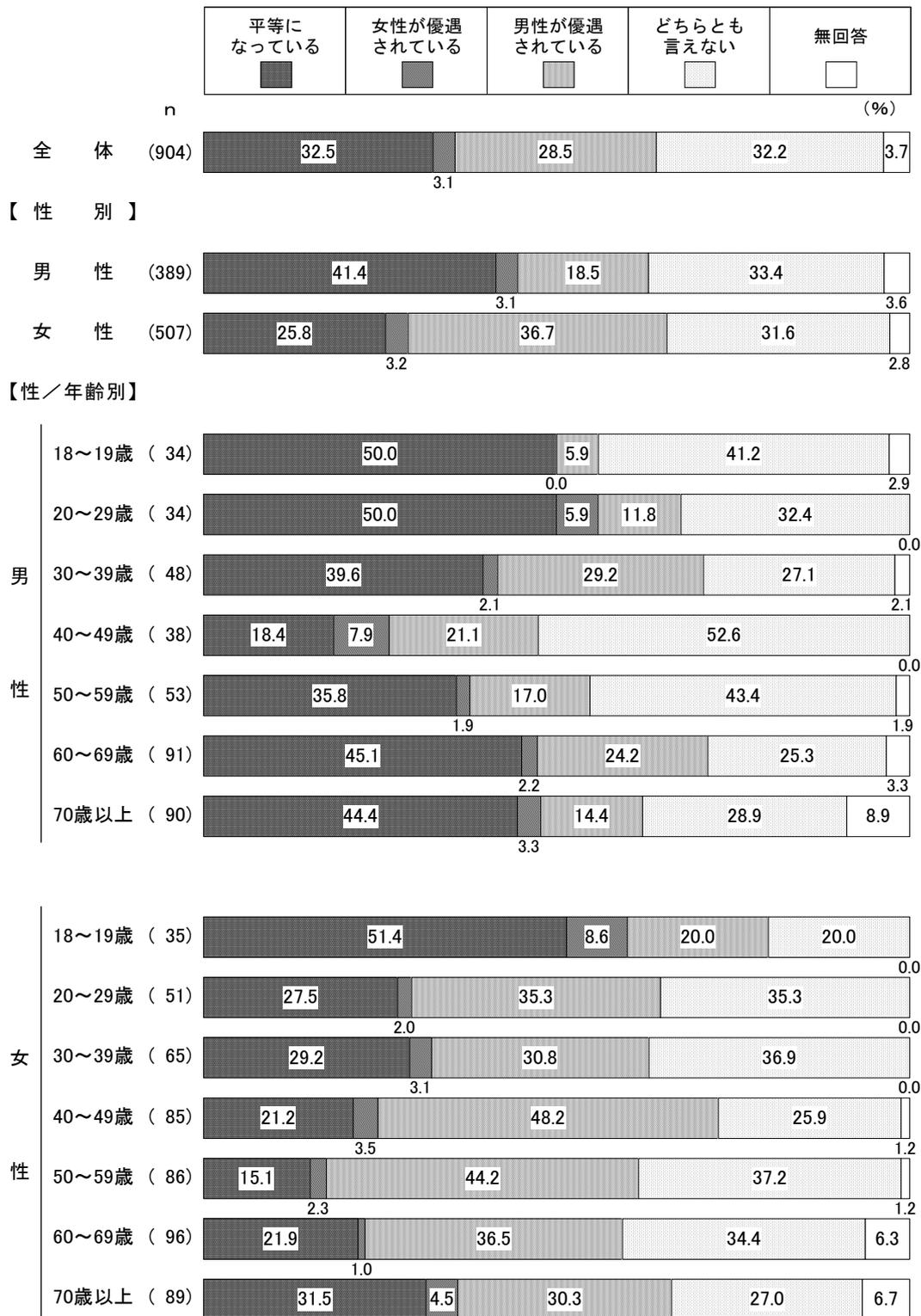


※「どちらとも言えない」は、平成20年調査では「わからない」となっていた

<性別、性／年齢別> A 家庭生活

家庭生活について性別で見ると、「男性が優遇されている」は女性（36.7%）が男性（18.5%）より18.2ポイント高くなっている。一方、「平等になっている」は男性（41.4%）が女性（25.8%）より15.6ポイント高くなっている。

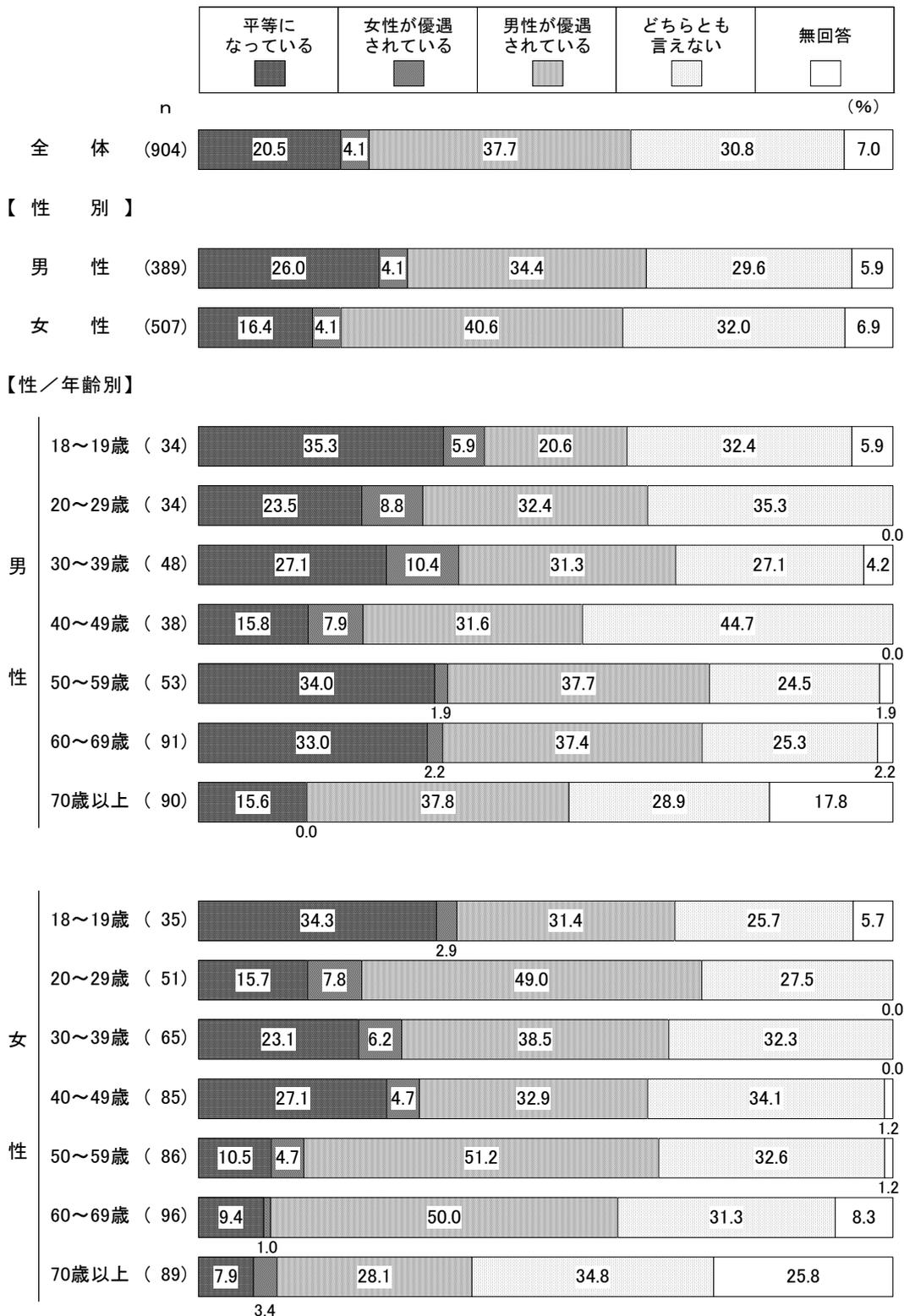
性／年齢別で見ると、「平等になっている」は女性18～19歳（51.4%）、男性18～19歳（50.0%）、男性20～29歳（50.0%）で5割台と高くなっている。「男性が優遇されている」は女性40～49歳（48.2%）と女性50～59歳（44.2%）で4割台と高くなっている。



<性別、性／年齢別> B 職場

職場について性別で見ると、「平等になっている」は男性（26.0%）が女性（16.4%）より9.6ポイント高くなっている。一方、「男性が優遇されている」は女性（40.6%）が男性（34.4%）より6.2ポイント高くなっている。

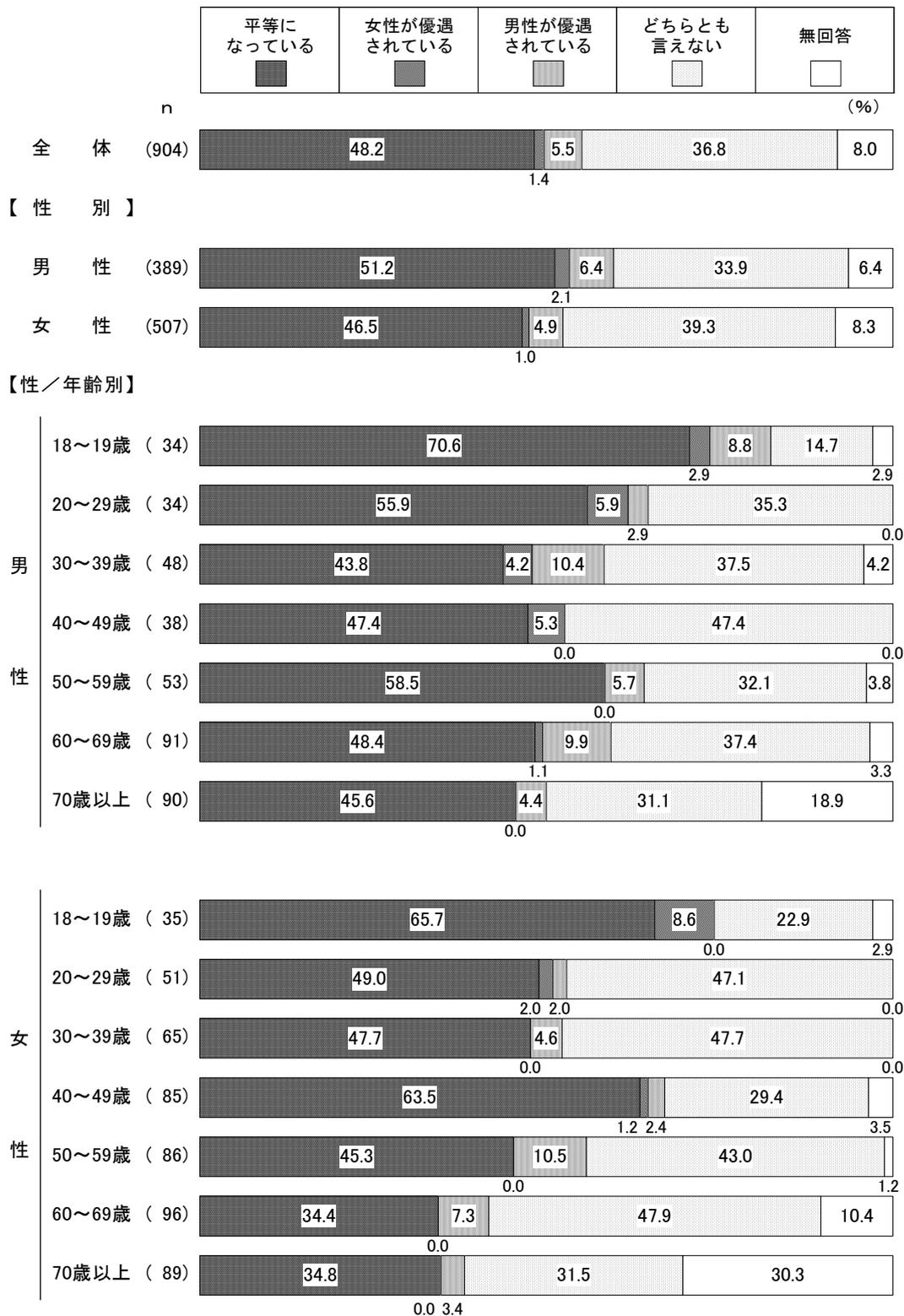
性／年齢別で見ると、「平等になっている」は男性18～19歳（35.3%）、男性50～59歳（34.0%）、男性60～69歳（33.0%）、女性18～19歳（34.3%）で3割台と高くなっている。「男性が優遇されている」は女性50～59歳（51.2%）と女性60～69歳（50.0%）で5割台と高くなっている。



<性別、性／年齢別> C 学校教育

学校教育について性別でみると、「平等になっている」は男性（51.2%）が女性（46.5%）より4.7ポイント高くなっている。

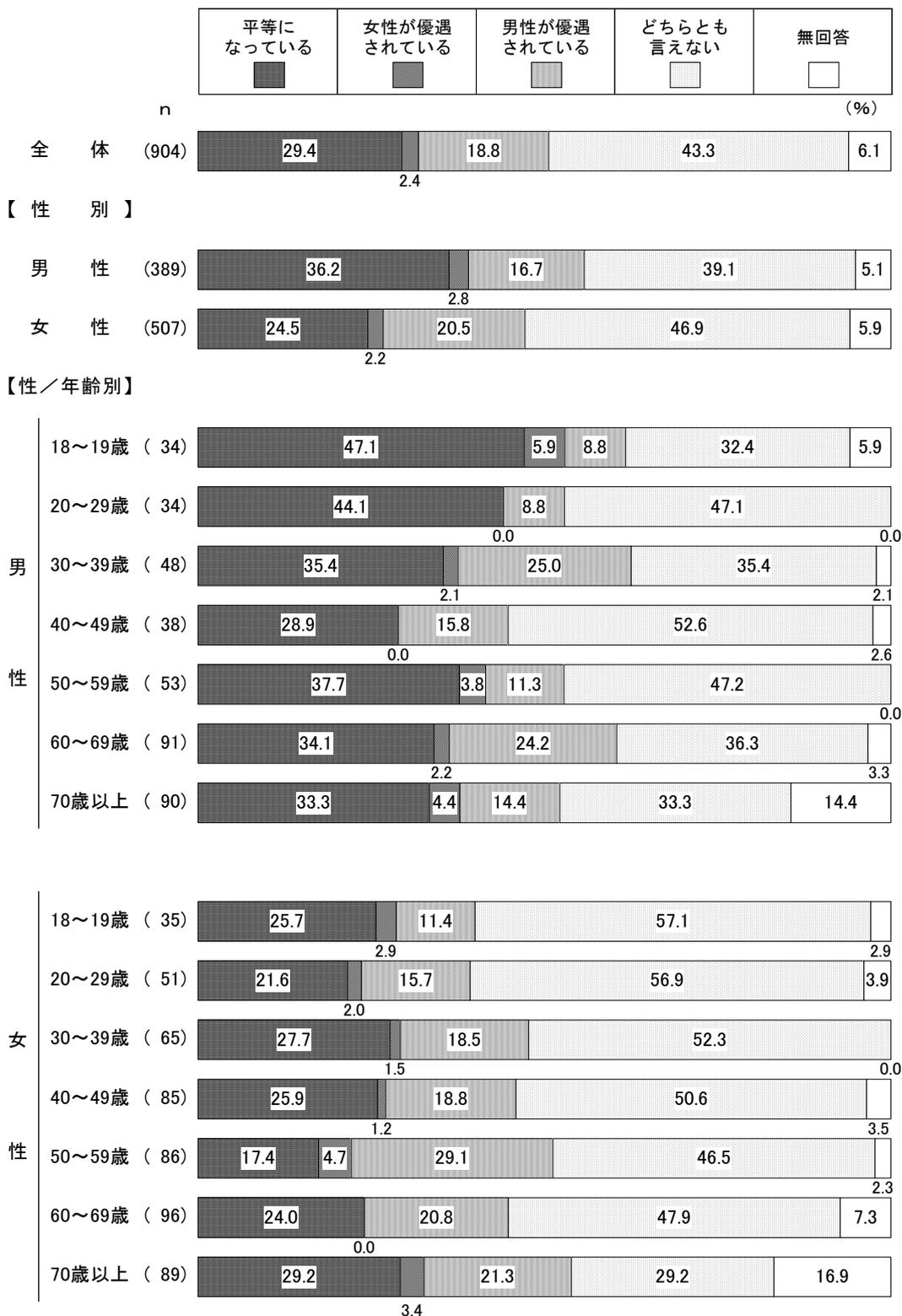
性／年齢別でみると、「平等になっている」は男性18～19歳（70.6%）で約7割、女性18～19歳（65.7%）と女性40～49歳（63.5%）で6割台と高くなっている。



＜性別、性／年齢別＞ D 地域活動（町会など）

地域活動について性別で見ると、「平等になっている」は男性（36.2%）が女性（24.5%）より11.7ポイント高くなっている。一方、「男性が優遇されている」は女性（20.5%）が男性（16.7%）より3.8ポイント高くなっている。

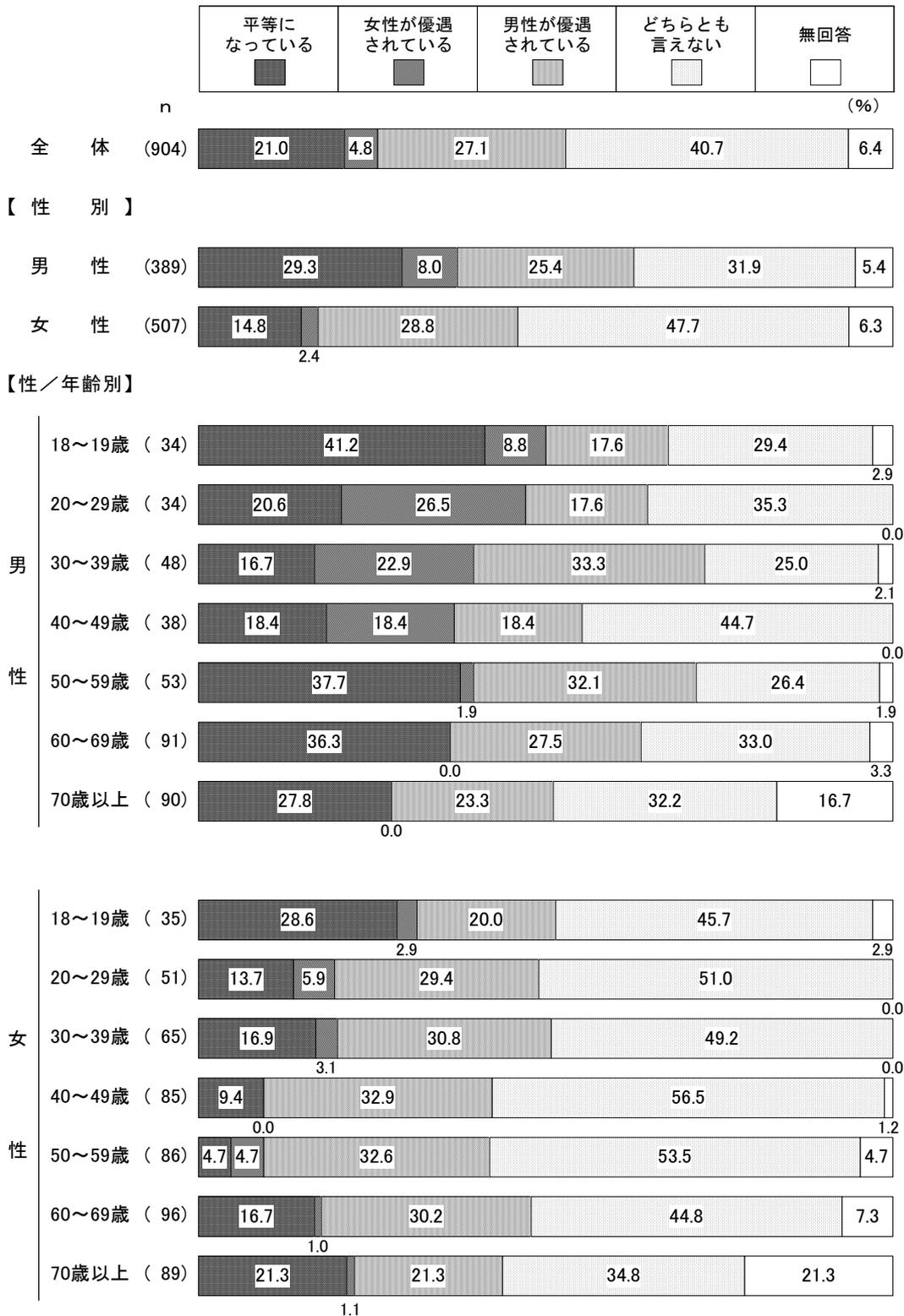
性／年齢別で見ると、「平等になっている」は男性18～19歳（47.1%）と男性20～29歳（44.1%）で4割台と高くなっている。「男性が優遇されている」は女性50～59歳（29.1%）で約3割と高くなっている。



<性別、性／年齢別> E 法律や制度

法律や制度について性別で見ると、「平等になっている」は男性（29.3%）が女性（14.8%）より14.5ポイント、「女性が優遇されている」は男性（8.0%）が女性（2.4%）より5.6ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「男性が優遇されている」は女性（28.8%）が男性（25.4%）より3.4ポイント高くなっている。

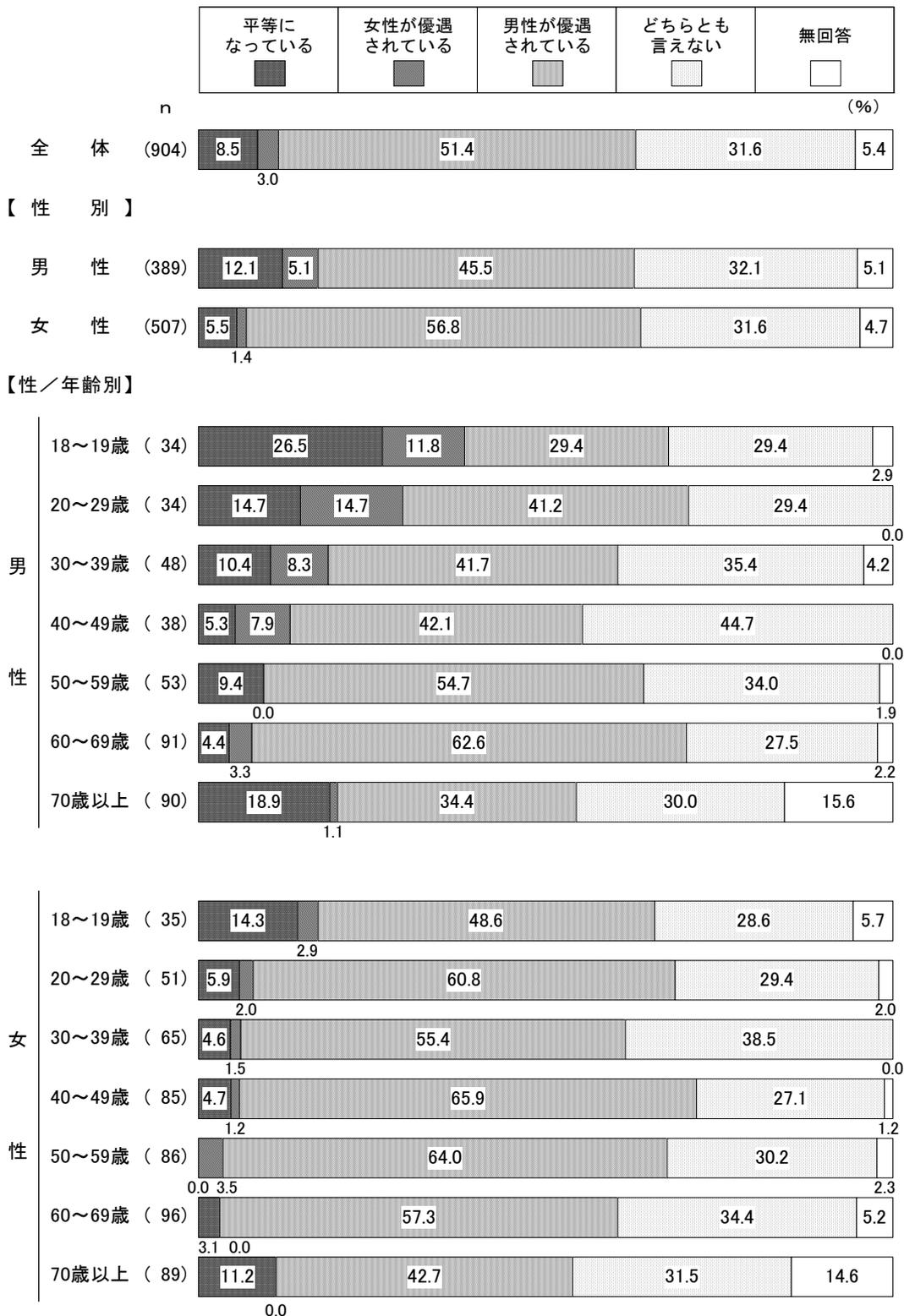
性／年齢別で見ると、「平等になっている」は男性18～19歳（41.2%）で4割を超えて高くなっている。「女性が優遇されている」は男性20～29歳（26.5%）と男性30～39歳（22.9%）で2割台と高くなっている。



<性別、性／年齢別> F 社会通念や習慣・風習など

社会通念や習慣・風習などについて性別でみると、「男性が優遇されている」は女性（56.8%）が男性（45.5%）より11.3ポイント高くなっている。一方、「平等になっている」は男性（12.1%）が女性（5.5%）より6.6ポイント高くなっている。

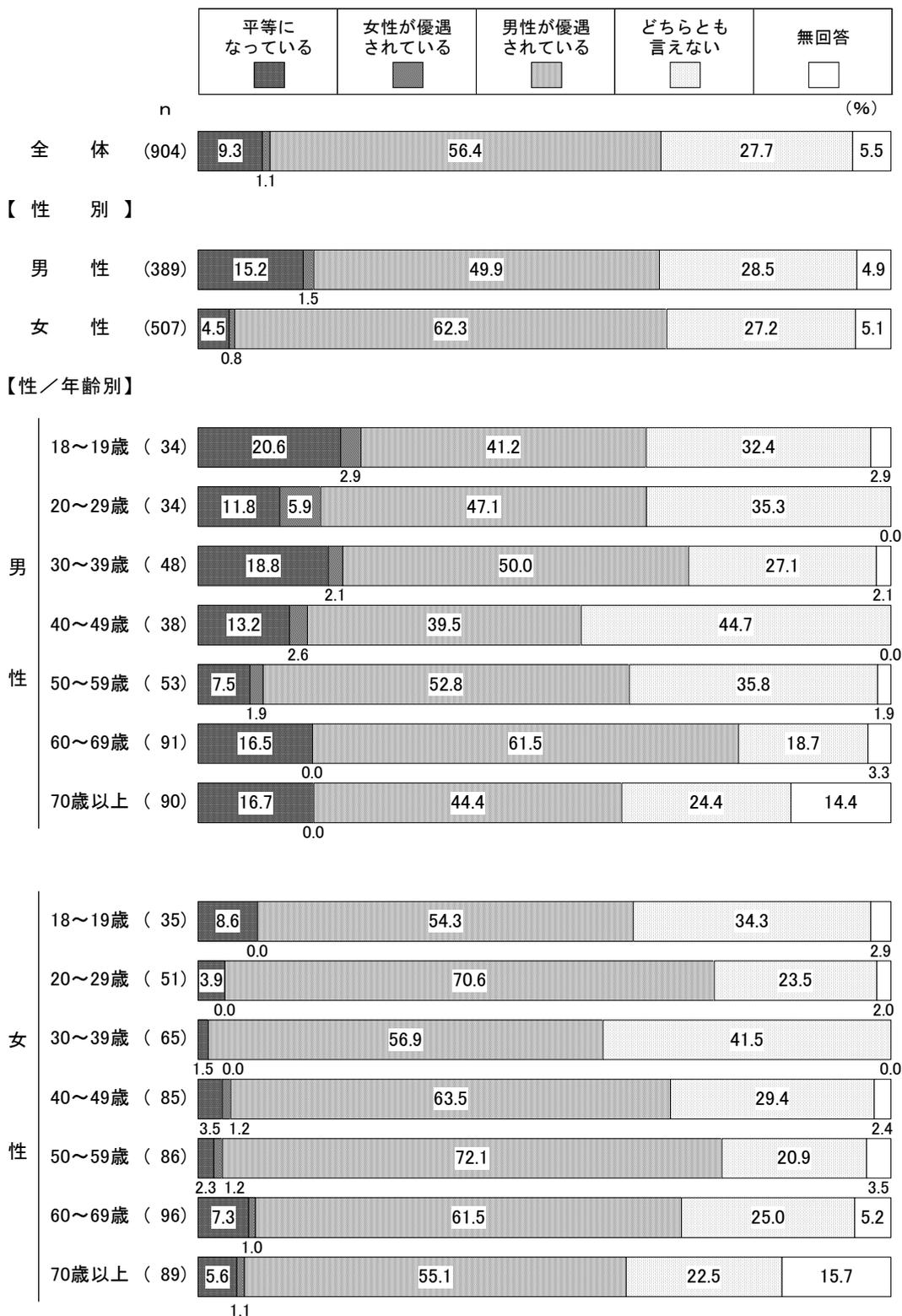
性／年齢別でみると、「平等になっている」は男性18～19歳（26.5%）で3割近くと高くなっている。「男性が優遇されている」は女性40～49歳（65.9%）と女性50～59歳（64.0%）で6割半ばと高くなっている。



<性別、性／年齢別> G 政治

政治について性別で見ると、「男性が優遇されている」は女性（62.3%）が男性（49.9%）より12.4ポイント高くなっている。一方、「平等になっている」は男性（15.2%）が女性（4.5%）より10.7ポイント高くなっている。

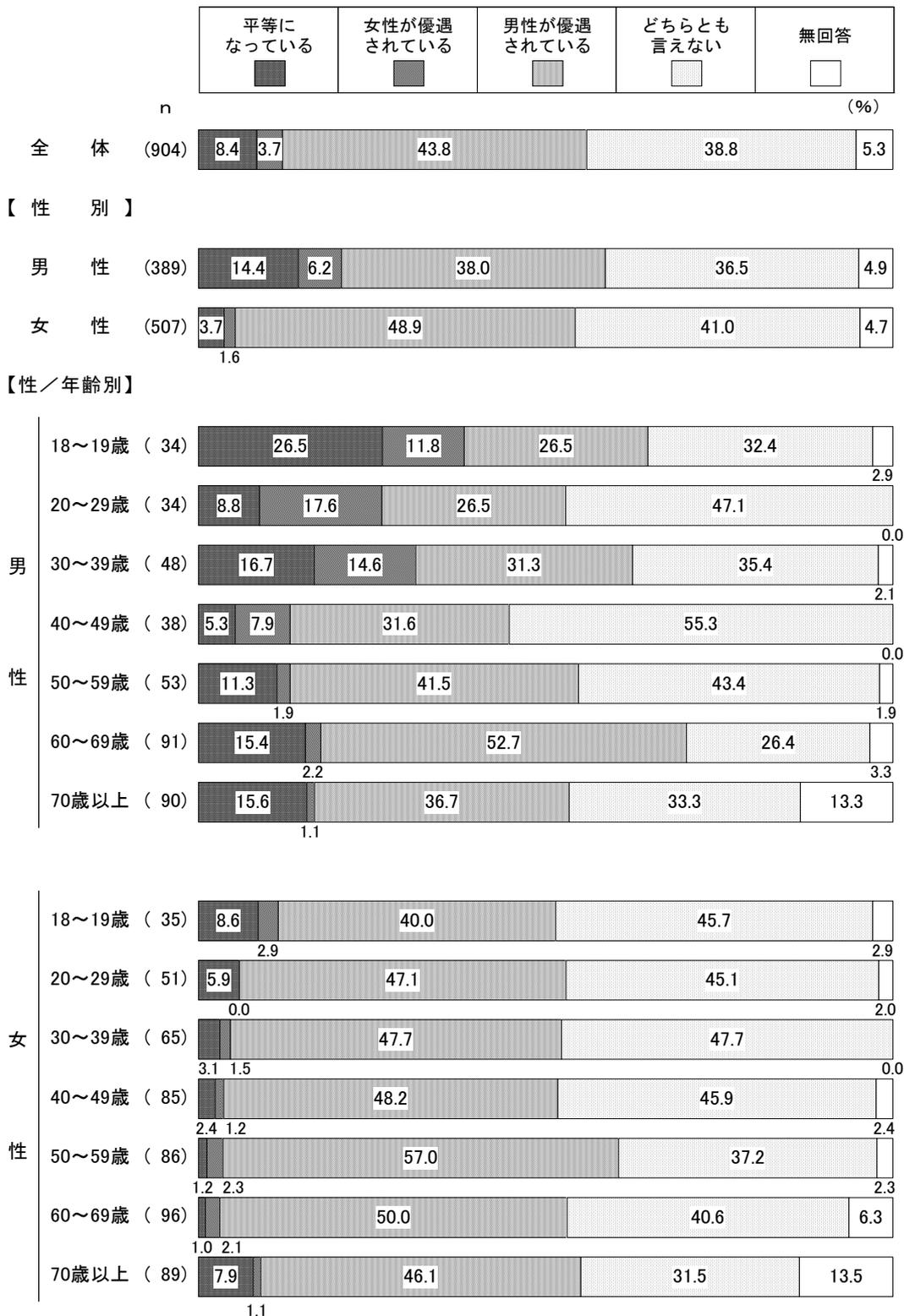
性／年齢別で見ると、「平等になっている」は男性18～19歳（20.6%）で約2割と高くなっている。「男性が優遇されている」は女性20～29歳（70.6%）と女性50～59歳（72.1%）で7割台と高くなっている。



<性別、性／年齢別> H 社会全体

社会全体について性別でみると「男性が優遇されている」は女性（48.9%）が男性（38.0%）より10.9ポイント高くなっている。一方、「平等になっている」は男性（14.4%）が女性（3.7%）より10.7ポイント、「女性が優遇されている」は男性（6.2%）が女性（1.6%）より4.6ポイント、それぞれ高くなっている。

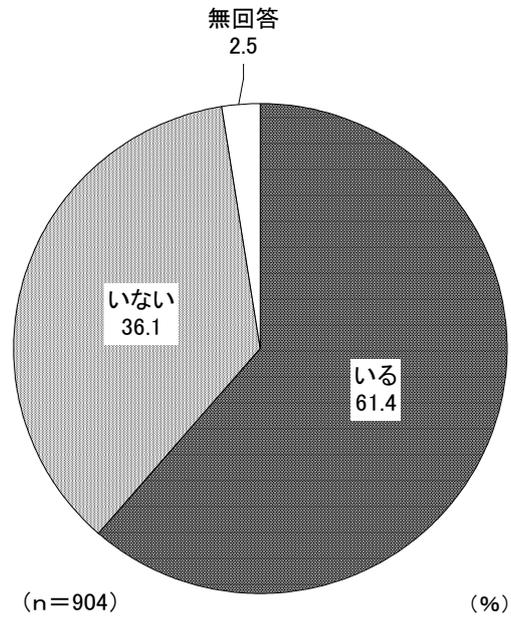
性／年齢別でみると、「平等になっている」は男性18～19歳（26.5%）で3割近くと高くなっている。「男性が優遇されている」は女性50～59歳（57.0%）で6割近くと高くなっている。



2 家庭生活・子育て・介護について

(1) 子どもの有無

問6 あなたには、お子さんがいますか。【1つに〇】

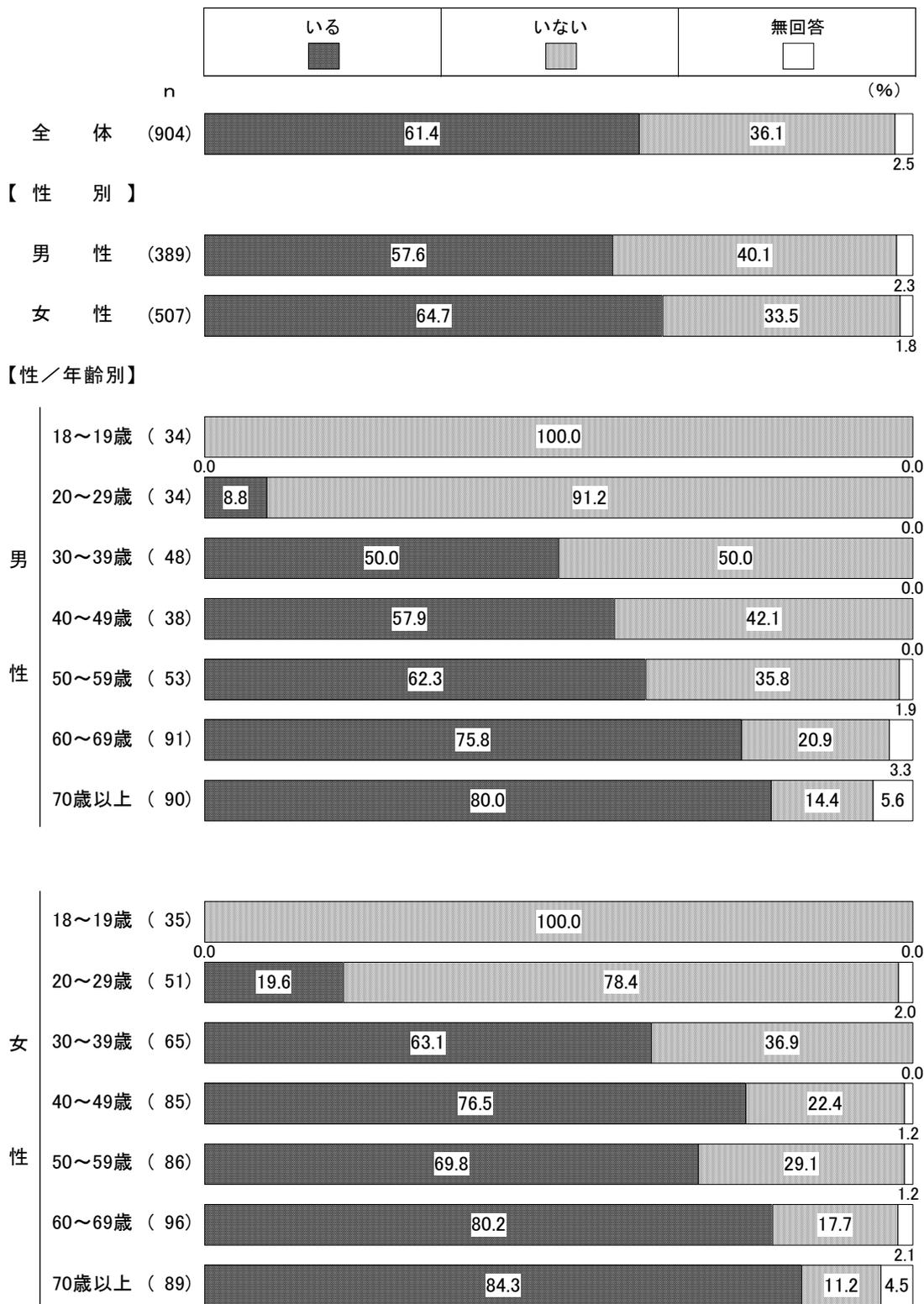


子どもの有無を聞いたところ、「いる」(61.4%)が6割を超え、「いない」(36.1%)は3割半ばとなっている。

<性別、性／年齢別>

性別で見ると、「いる」は女性（64.7%）が男性（57.6%）より7.1ポイント高くなっている。

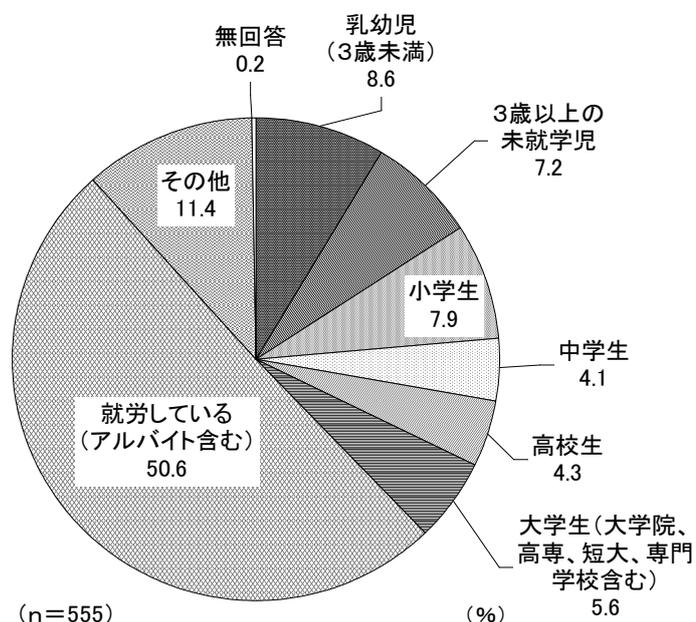
性／年齢別で見ると、男女ともにおおむね年齢が高くなるにつれて割合が高く、女性70歳以上（84.3%）では8割半ばと高くなっている。一方、「いない」は男性18～19歳（100.0%）と女性18～19歳（100.0%）で全数となっている。



(2) 一番下の子どもの状況

【問6で、「いる」とお答えの方にかがいます】

問6-1 あなたの一番下のお子さんは、次のどれにあたりますか。【1つに○】

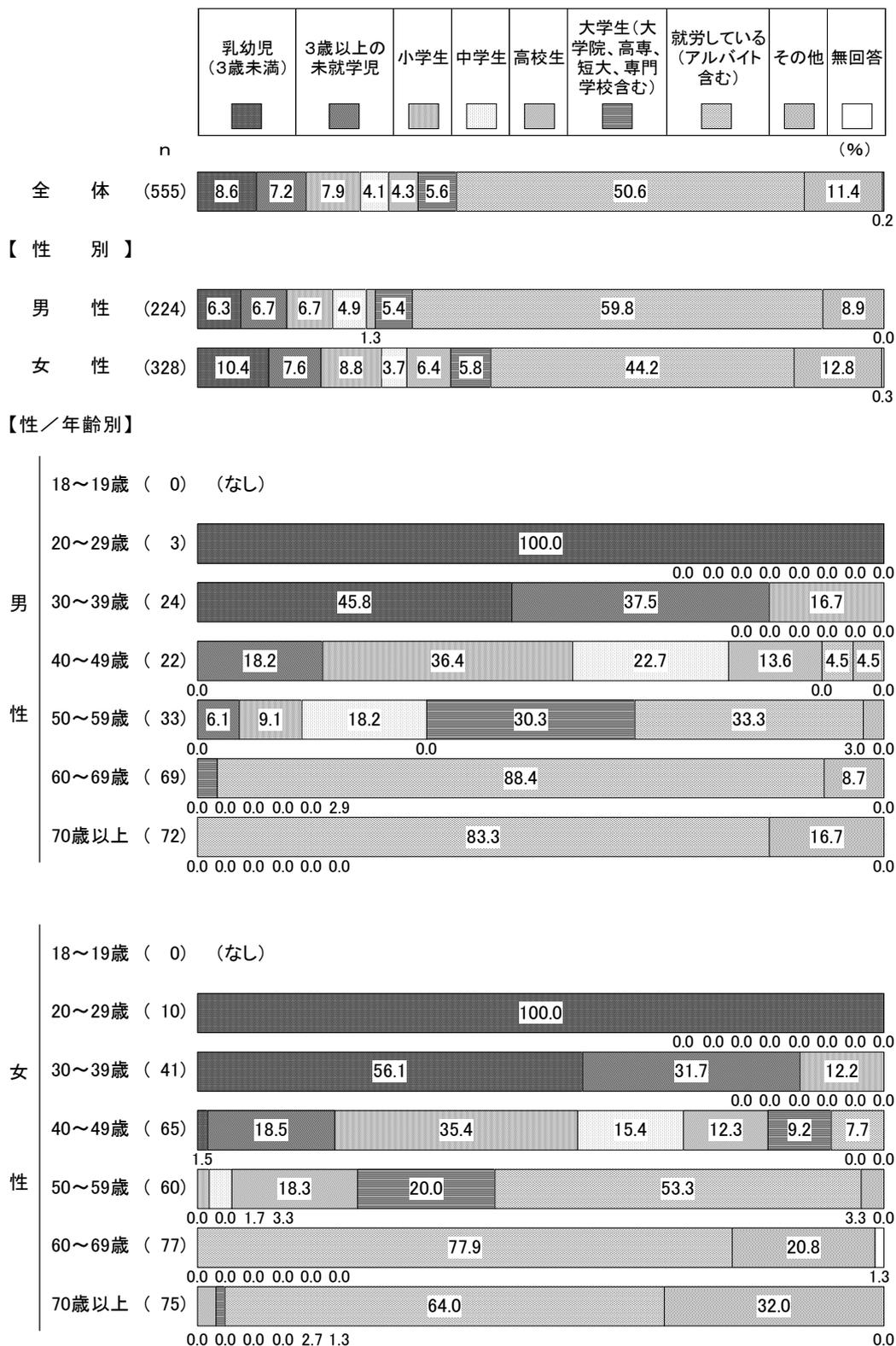


子どもが「いる」と答えた方に、一番下の子どもの状況を聞いたところ、「就労している（アルバイト含む）」（50.6%）が約5割で最も高く、次いで「乳幼児（3歳未満）」（8.6%）、「3歳以上の未就学児」（7.2%）、「大学生（大学院、高専、短大、専門学校含む）」（5.6%）となっている。

<性別、性／年齢別>

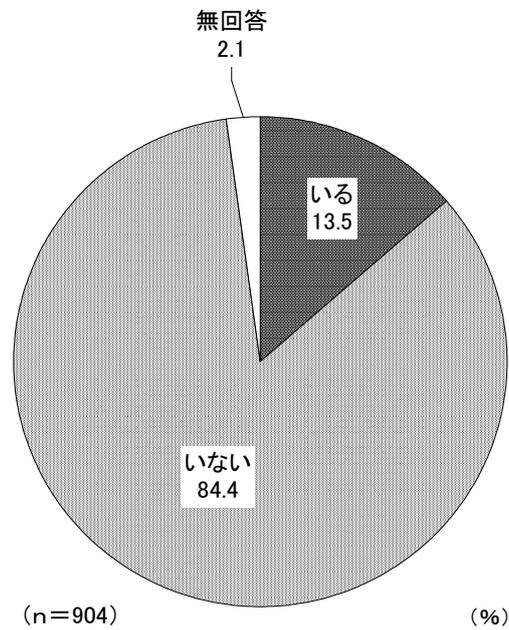
性別で見ると、「就労している（アルバイト含む）」は男性（59.8%）が女性（44.2%）より15.6ポイント高くなっている。一方、「高校生」は女性（6.4%）が男性（1.3%）より5.1ポイント、「乳幼児（3歳未満）」は女性（10.4%）が男性（6.3%）より4.1ポイント、それぞれ高くなっている。

性／年齢別で見ると、「乳幼児（3歳未満）」は女性30～39歳（56.1%）で5割半ばと高くなっている。「就労している（アルバイト含む）」は男性60～69歳（88.4%）と男性70歳以上（83.3%）で8割台と高くなっている。



(3) 要介護者の有無

問7 同居のご家族に、高齢や障がいなどで介護(介助)の必要な方はいますか。【1つに○】

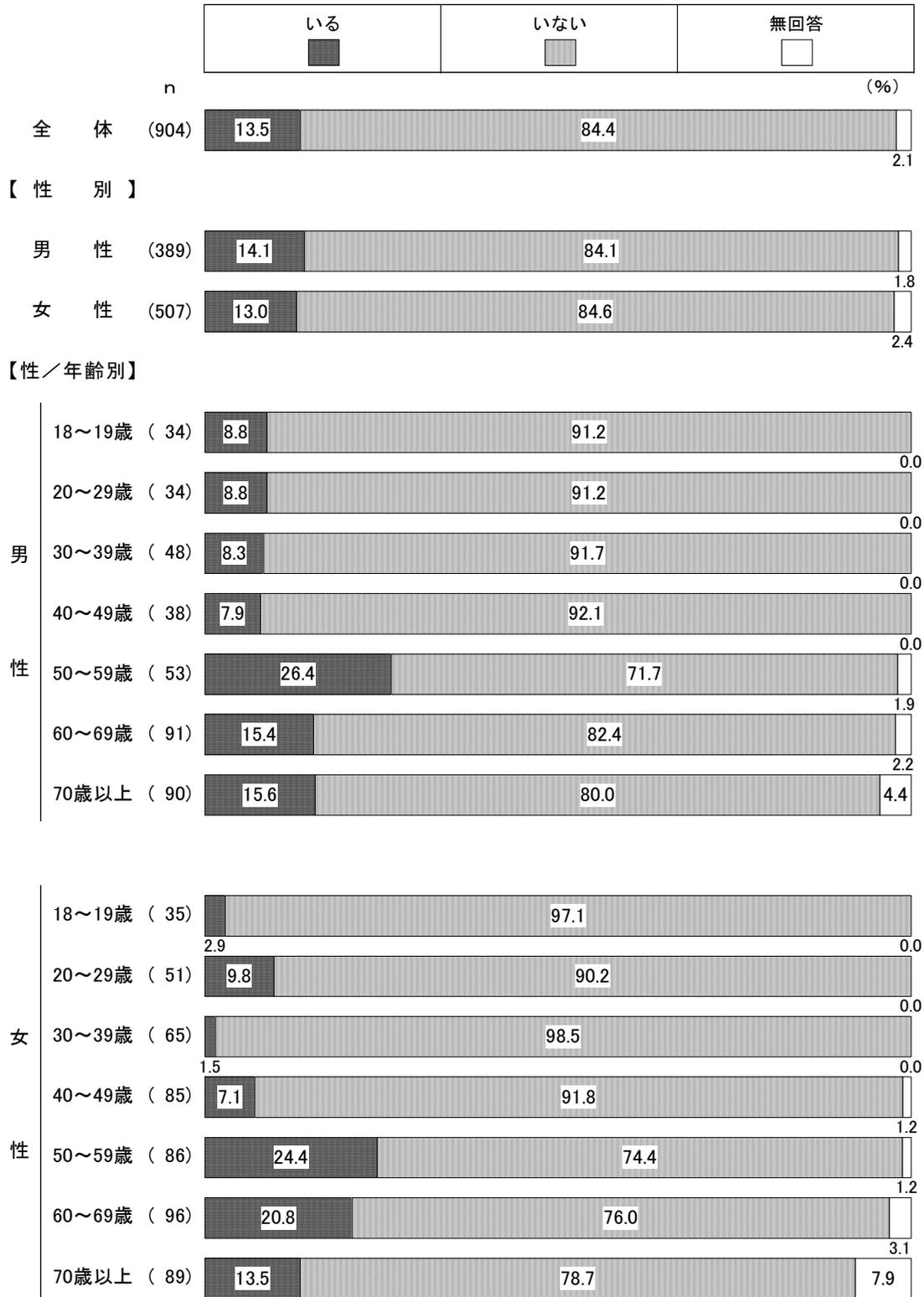


同居の家族に、高齢や障がいなどで介護(介助)の必要な方はいるか聞いたところ、「いる」(13.5%)が1割を超え、「いない」(84.4%)は8割半ばとなっている。

<性別、性／年齢別>

性別でみると、大きな違いはみられない。

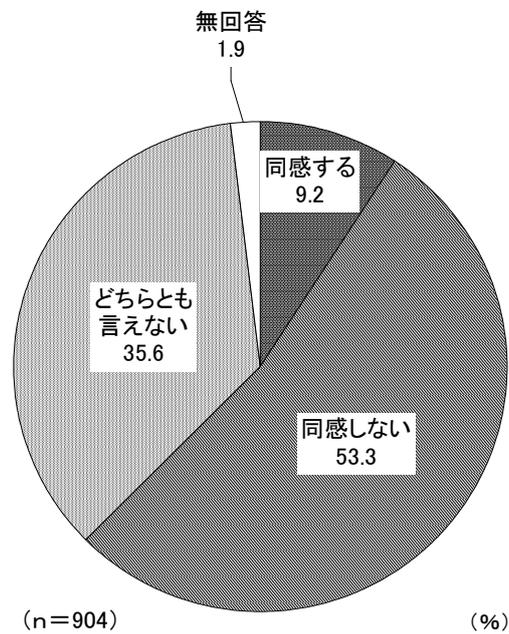
性／年齢別でみると「いる」は男性50～59歳（26.4%）と女性50～59歳（24.4%）で2割半ばと高くなっている。一方、「いない」は女性18～19歳（97.1%）と女性30～39歳（98.5%）で10割近くと高くなっている。



(4) 「男は仕事、女は家庭」という男女の役割分担意識

問8 「男は仕事、女は家庭」という考え方がありますが、あなたはどのように思いますか。

【1つに〇】

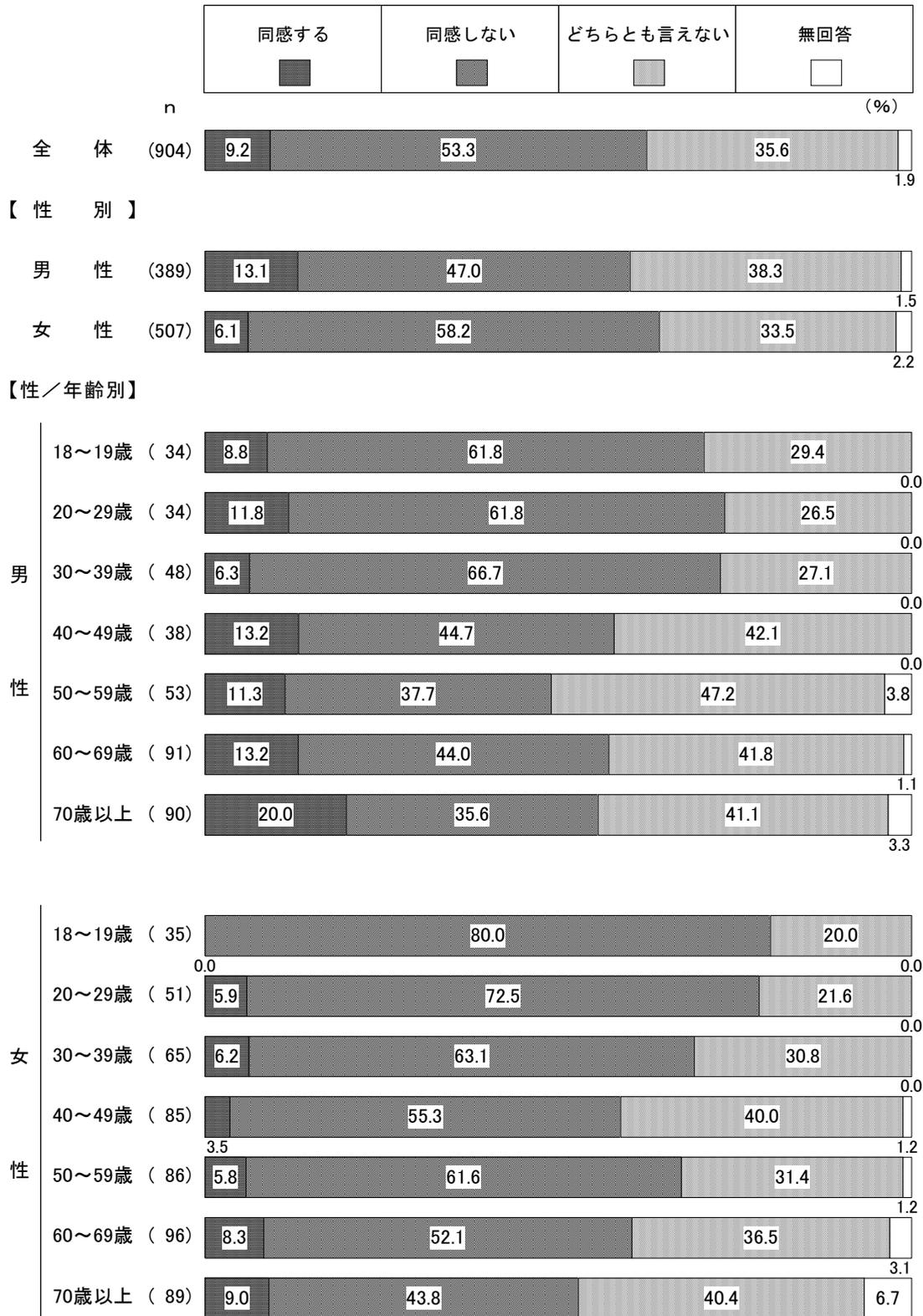


「男は仕事、女は家庭」という考え方について聞いたところ、「同意する」(9.2%)が約1割、「同意しない」(53.3%)は5割を超えている。また、「どちらとも言えない」(35.6%)は3割半ばとなっている。

<性別、性／年齢別>

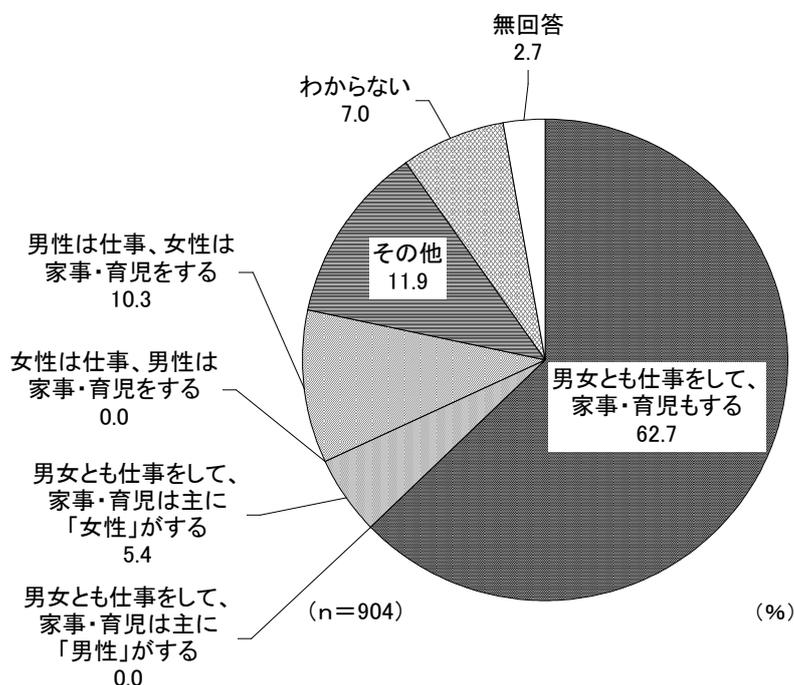
性別でみると、「同感しない」は女性（58.2%）が男性（47.0%）より11.2ポイント高くなっている。一方、「同感する」は男性（13.1%）が女性（6.1%）より7.0ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「同感する」は男性70歳以上（20.0%）で2割と高くなっている。一方、「同感しない」は女性18～19歳（80.0%）で8割、女性20～29歳（72.5%）で7割を超えて高くなっている。



(5) 男女の役割分担についての考え方

問9 男女の役割分担について、あなたはどうかあるべきだと思いますか。【1つに〇】

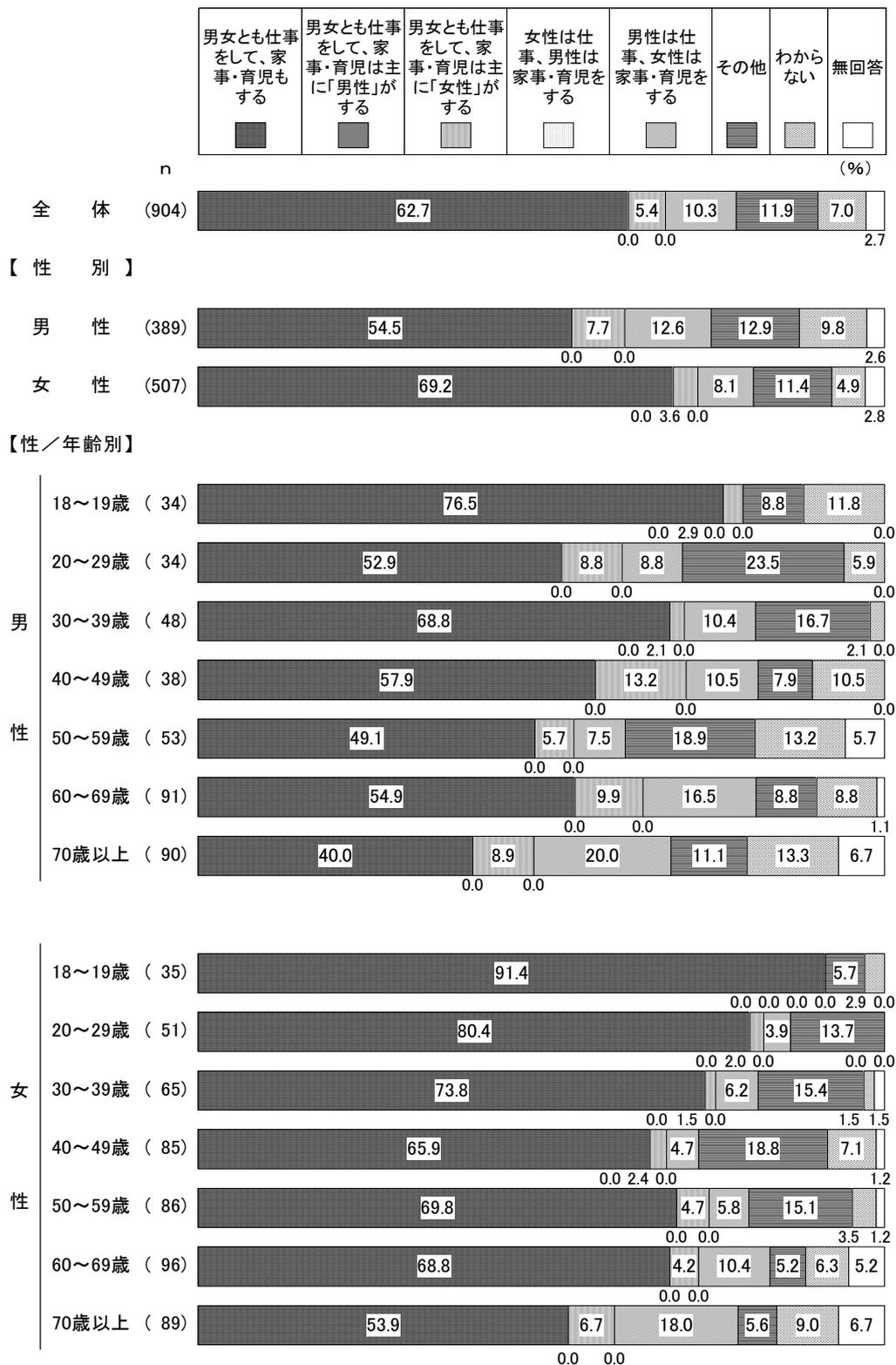


男女の役割分担について聞いたところ、「男女とも仕事をして、家事・育児もする」(62.7%)が6割を超えて最も高く、次いで「男性は仕事、女性は家事・育児をする」(10.3%)、「男女とも仕事をして、家事・育児は主に『女性』がする」(5.4%)となっている。

<性別、性／年齢別>

性別で見ると、「男女とも仕事をして、家事・育児もする」は女性（69.2%）が男性（54.5%）より14.7ポイント高くなっている。一方、「男性は仕事、女性は家事・育児をする」は男性（12.6%）が女性（8.1%）より4.5ポイント、「男女とも仕事をして、家事・育児は主に『女性』がする」は男性（7.7%）が女性（3.6%）より4.1ポイント、それぞれ高くなっている。

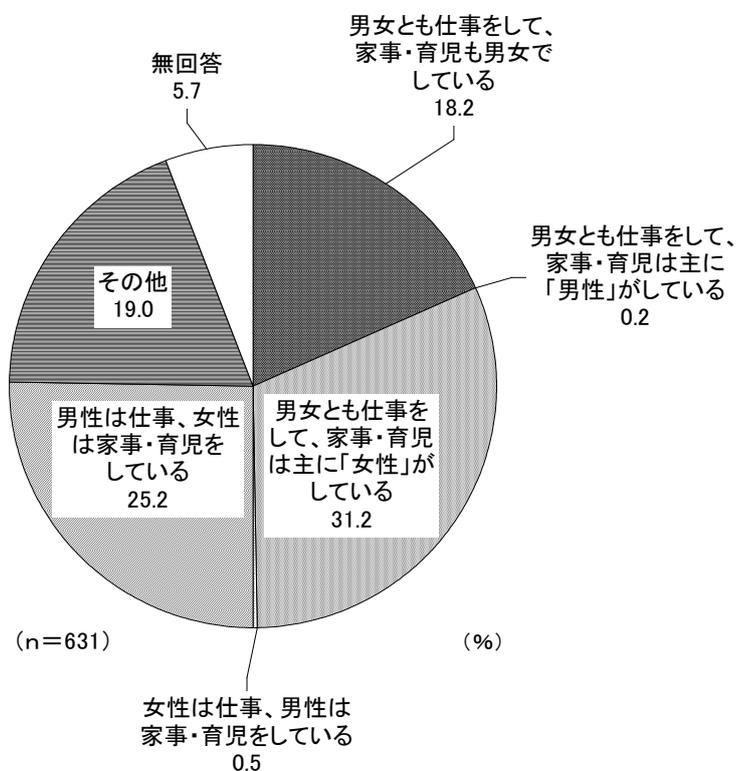
性／年齢別で見ると、「男女とも仕事をして、家事・育児もする」は女性18～19歳（91.4%）で9割を超え、女性20～29歳（80.4%）で8割と高くなっている。「男性は仕事、女性は家事・育児をする」は男性70歳以上（20.0%）で2割と高くなっている。



(6) 家庭での役割分担

【配偶者・パートナーがいる方のみお答えください】

問10 あなたのご家庭での役割はどうなっていますか。【1つに○】

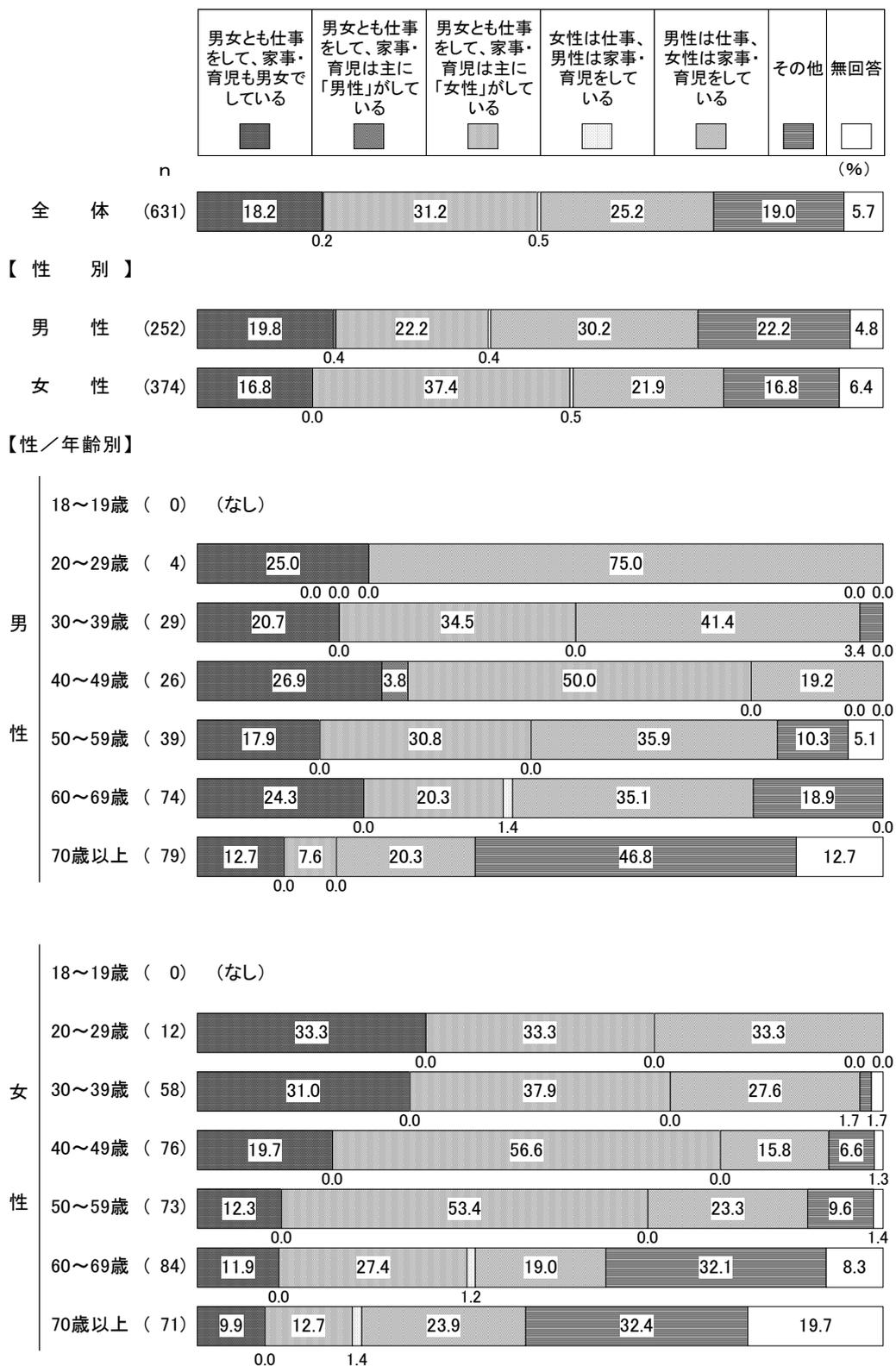


配偶者・パートナーがいる方に、家庭での役割分担を聞いたところ、「男女とも仕事をして、家事・育児は主に『女性』がしている」(31.2%)が3割を超えて最も高く、次いで「男性は仕事、女性は家事・育児をしている」(25.2%)、「男女とも仕事をして、家事・育児も男女でしている」(18.2%)となっている。

<性別、性／年齢別>

性別でみると、「男女とも仕事をして、家事・育児は主に『女性』がしている」は女性（37.4%）が男性（22.2%）より15.2ポイント高くなっている。一方、「男性は仕事、女性は家事・育児をしている」は男性（30.2%）が女性（21.9%）より8.3ポイント高くなっている。

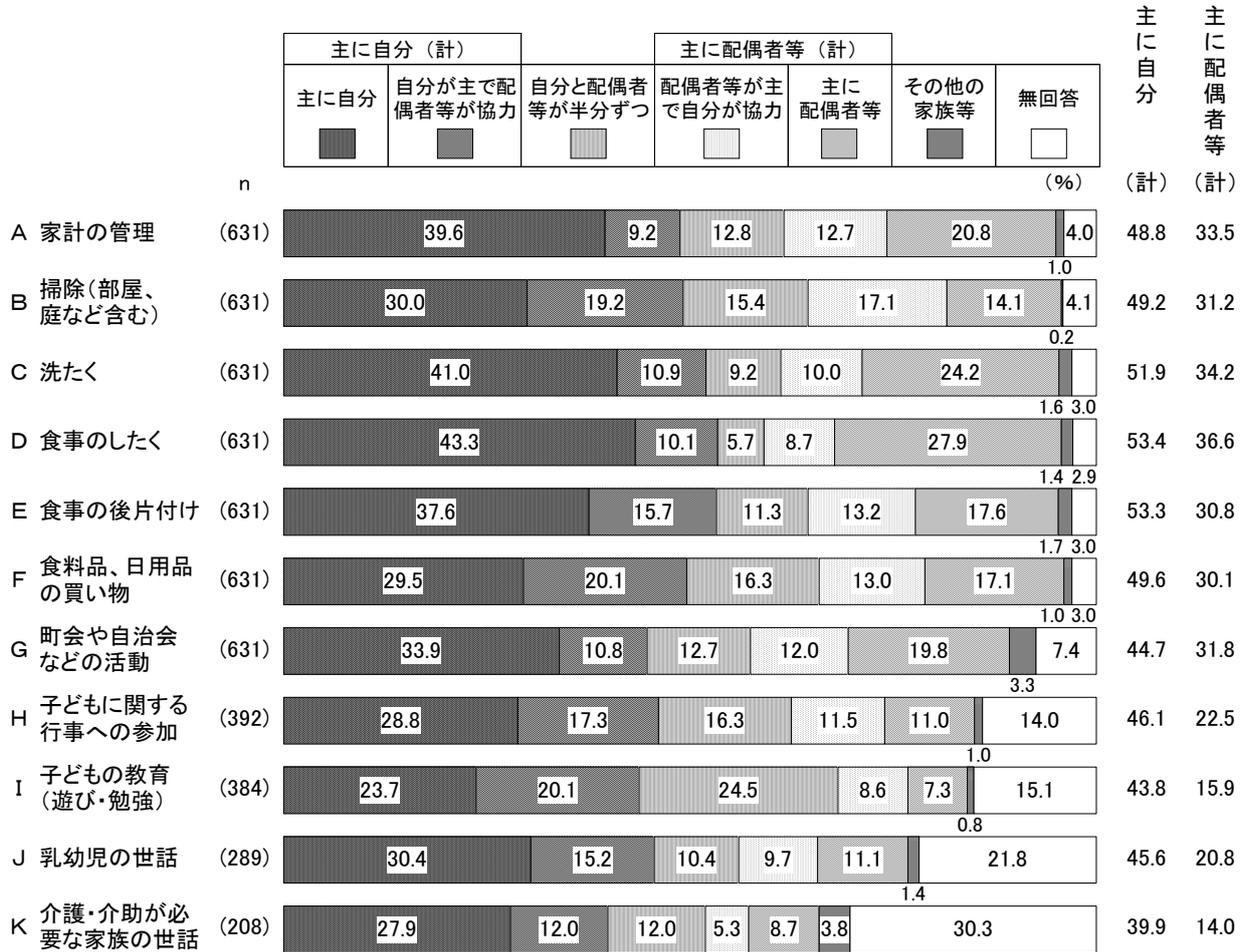
性／年齢別でみると、「男女とも仕事をして、家事・育児も男女でしている」は女性30～39歳（31.0%）で3割を超えて高くなっている。「男女とも仕事をして、家事・育児は主に『女性』がしている」は女性40～49歳（56.6%）で6割近くと高くなっている。「男性は仕事、女性は家事・育児をしている」は男性30～39歳（41.4%）で4割を超えて高くなっている。



(7) 家事の分担状況

【配偶者・パートナーがいる方のみお答えください】

問11 あなたの家庭では、A～Kに掲げる家事を誰が担当していますか。(配偶者等にはパートナーを含みます。)【それぞれの項目について1つに○】



※「子どもに関する行事への参加」「子どもの教育(遊び・勉強)」「乳幼児の世話」「介護・介助が必要な家族の世話」は、「該当しない」と答えた方を除外して算出している

配偶者・パートナーがいる方に、家事の分担状況を聞いたところ、「主に自分」と「自分が主で配偶者等が協力」を合わせた『主に自分(計)』は“食事のしたく”(53.4%)、“食事の後片付け”(53.3%)、“洗たく”(51.9%)がそれぞれ5割を超えて高くなっている。

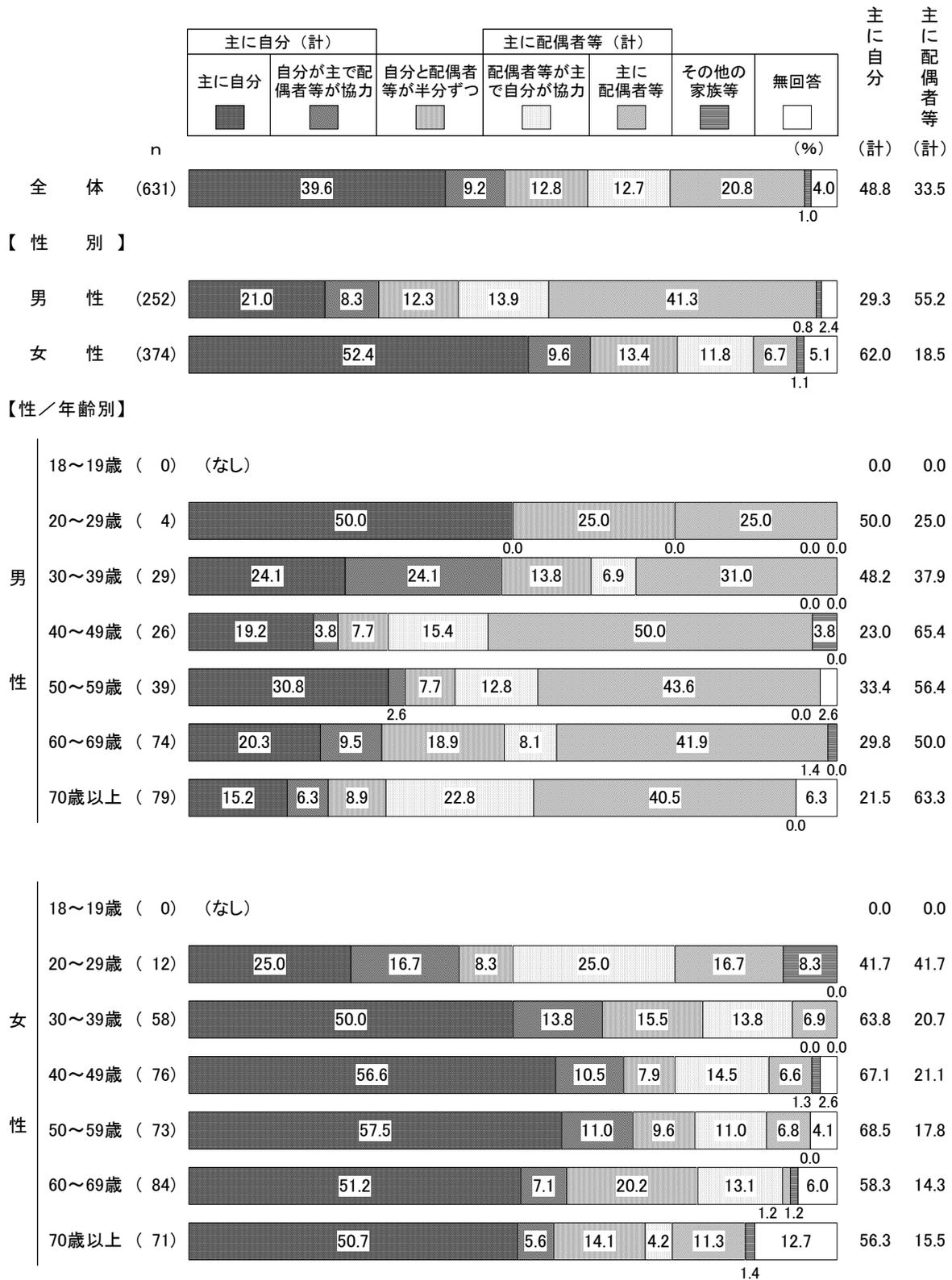
一方、「配偶者等が主で自分が協力」と「主に配偶者等」を合わせた『主に配偶者等(計)』は“食事のしたく”(36.6%)が4割近くで最も高く、次いで“洗たく”(34.2%)、“家計の管理”(33.5%)となっている。

また、「自分と配偶者等が半分ずつ」は“子どもの教育(遊び・勉強)”(24.5%)が2割半ばで最も高く、次いで“食料品、日用品の買い物”(16.3%)、“子どもに関する行事への参加”(16.3%)となっている。

<性別、性／年齢別> A 家計の管理

家計の管理について性別で見ると、『主に配偶者等（計）』は男性（55.2%）が女性（18.5%）より36.7ポイント高くなっている。一方、『主に自分（計）』は女性（62.0%）が男性（29.3%）より32.7ポイント高くなっている。

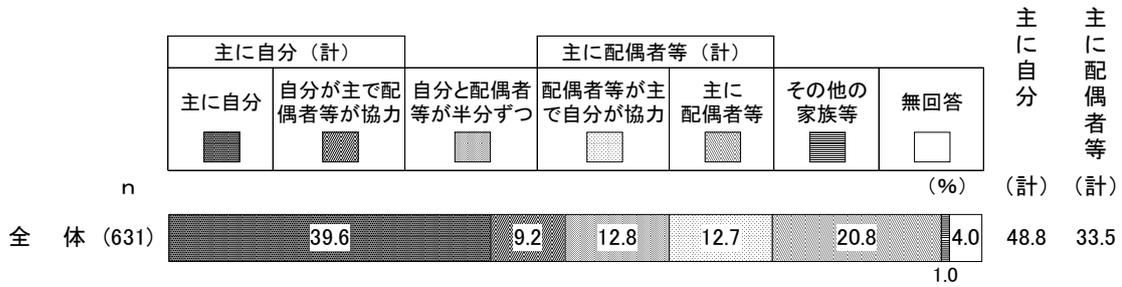
性／年齢別で見ると、『主に自分（計）』は女性40～49歳（67.1%）と女性50～59歳（68.5%）で7割近くと高くなっている。一方、『主に配偶者等（計）』は男性40～49歳（65.4%）と男性70歳以上（63.3%）で6割台と高くなっている。



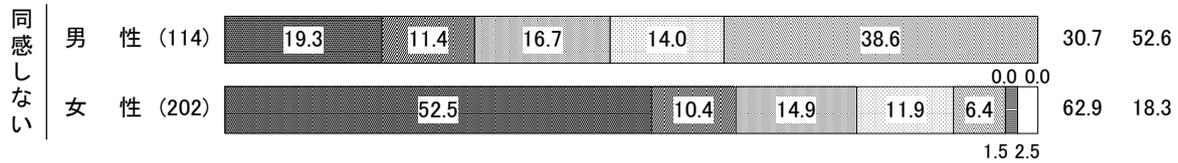
<性／男女の役割分担意識別> A 家計の管理

(「男は仕事、女は家庭」という考え方に「同感しない」と答えた方)

家計の管理について性／男女の役割分担意識別でみると、『主に配偶者等(計)』は男性(52.6%)が女性(18.3%)より34.3ポイント高くなっている。一方、『主に自分(計)』は女性(62.9%)が男性(30.7%)より32.2ポイント高くなっている。



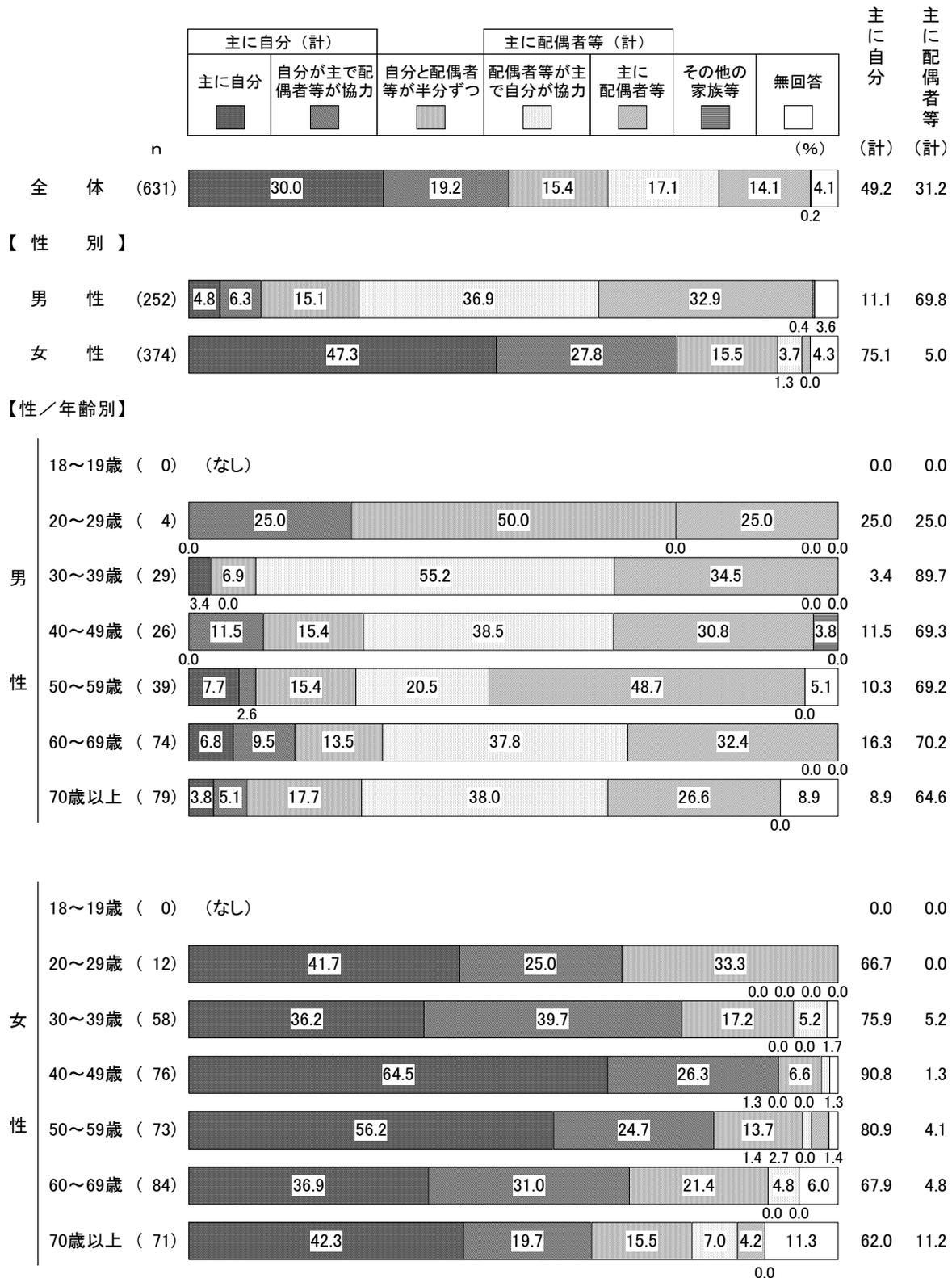
【性／男女の役割分担意識別】



<性別、性／年齢別> B 掃除（部屋、庭など含む）

掃除について性別で見ると、『主に配偶者等（計）』は男性（69.8%）が女性（5.0%）より64.8ポイント高くなっている。一方、『主に自分（計）』は女性（75.1%）が男性（11.1%）より64.0ポイント高くなっている。

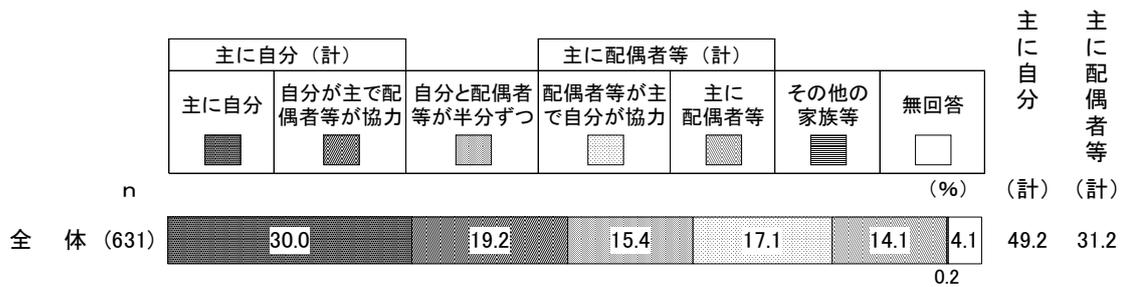
性／年齢別で見ると、『主に自分（計）』は女性40～49歳（90.8%）で約9割、女性50～59歳（80.9%）で約8割と高くなっている。一方、『主に配偶者等（計）』は男性30～39歳（89.7%）で9割と高くなっている。



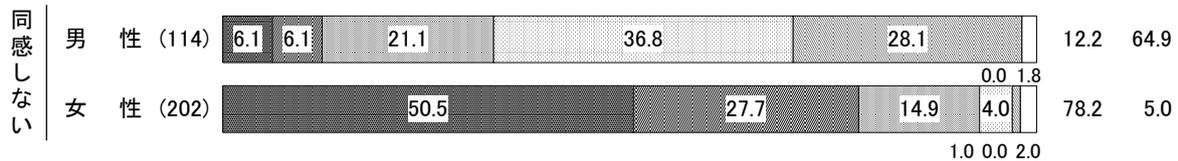
<性／男女の役割分担意識別> B 掃除（部屋、庭など含む）

（「男は仕事、女は家庭」という考え方に「同感しない」と答えた方）

掃除について性／男女の役割分担意識別でみると、『主に自分（計）』は女性（78.2%）が男性（12.2%）より66.0ポイント高くなっている。一方、『主に配偶者等（計）』は男性（64.9%）が女性（5.0%）より59.9ポイント、「自分と配偶者等が半分ずつ」は男性（21.1%）が女性（14.9%）より6.2ポイント、それぞれ高くなっている。



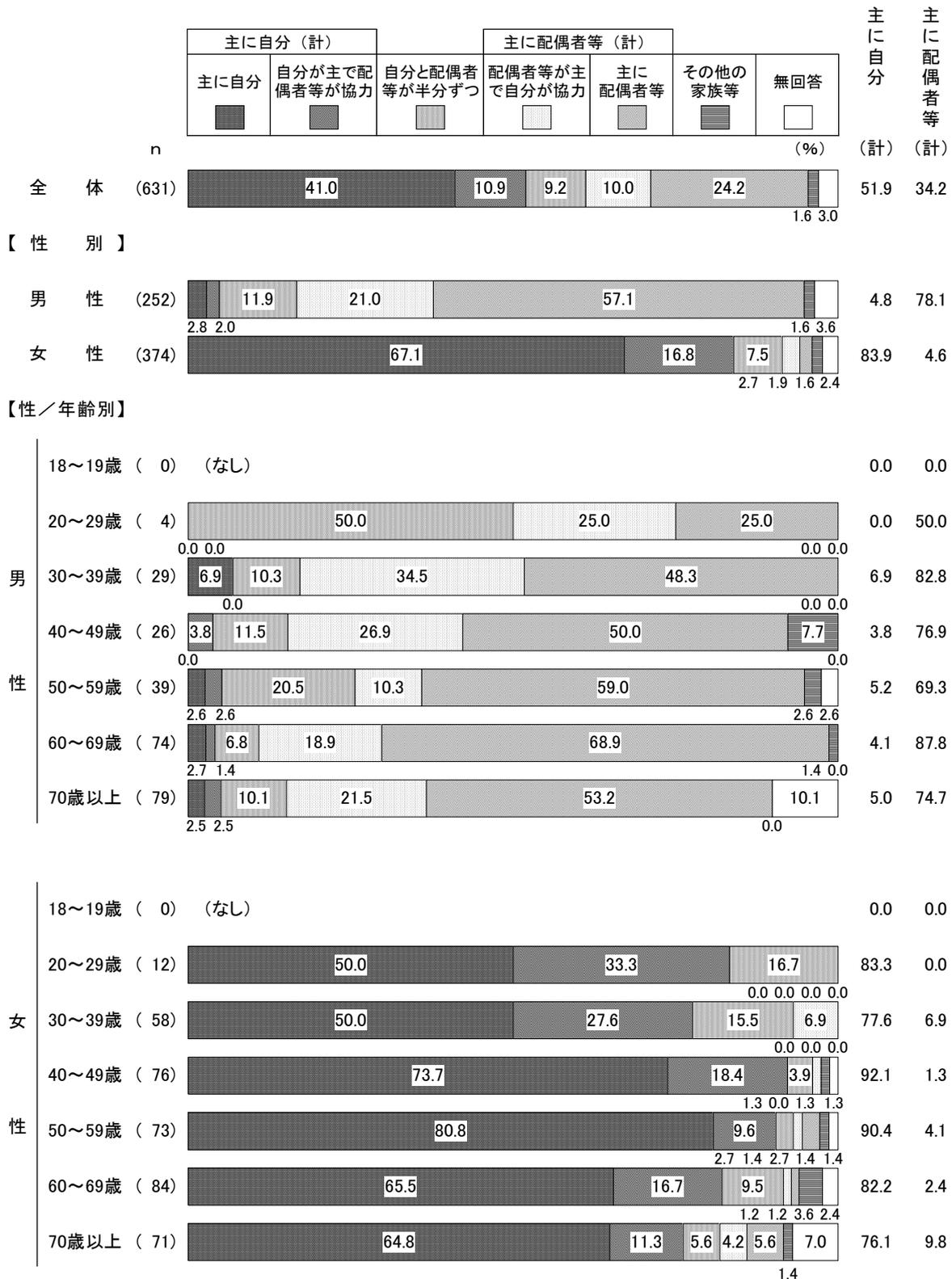
【性／男女の役割分担意識別】



<性別、性／年齢別> C 洗たく

洗たくについて性別で見ると、『主に自分（計）』は女性（83.9%）が男性（4.8%）より79.1ポイント高くなっている。一方、『主に配偶者等（計）』は男性（78.1%）が女性（4.6%）より73.5ポイント高くなっている。

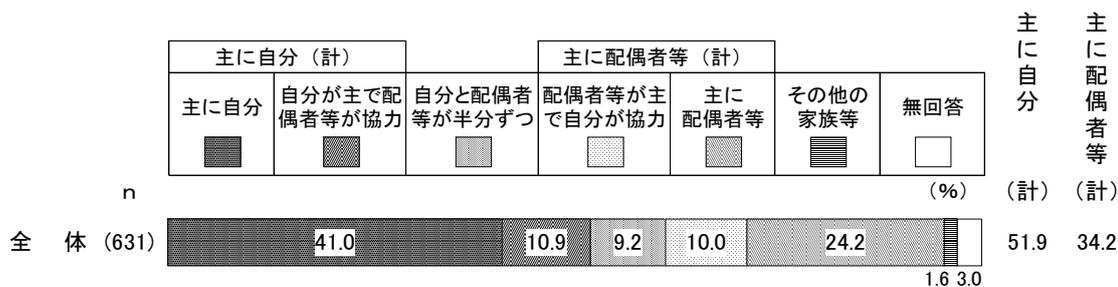
性／年齢別で見ると、『主に自分（計）』は女性40～49歳（92.1%）と女性50～59歳（90.4%）で9割台と高くなっている。一方、『主に配偶者等（計）』は男性30～39歳（82.8%）と男性60～69歳（87.8%）で8割台と高くなっている。



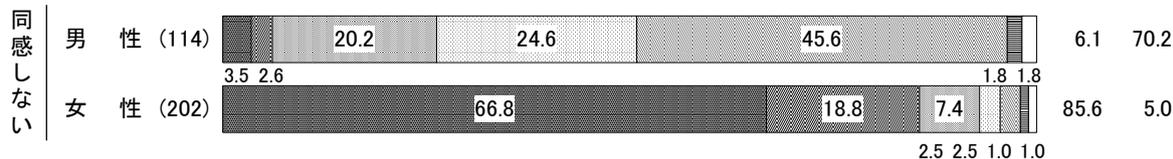
<性／男女の役割分担意識別> C 洗たく

(「男は仕事、女は家庭」という考え方に「同感しない」と答えた方)

洗たくについて性／男女の役割分担意識別でみると、『主に自分(計)』は女性(85.6%)が男性(6.1%)より79.5ポイント高くなっている。一方、『主に配偶者等(計)』は男性(70.2%)が女性(5.0%)より65.2ポイント、「自分と配偶者等が半分ずつ」は男性(20.2%)が女性(7.4%)より12.8ポイント、それぞれ高くなっている。



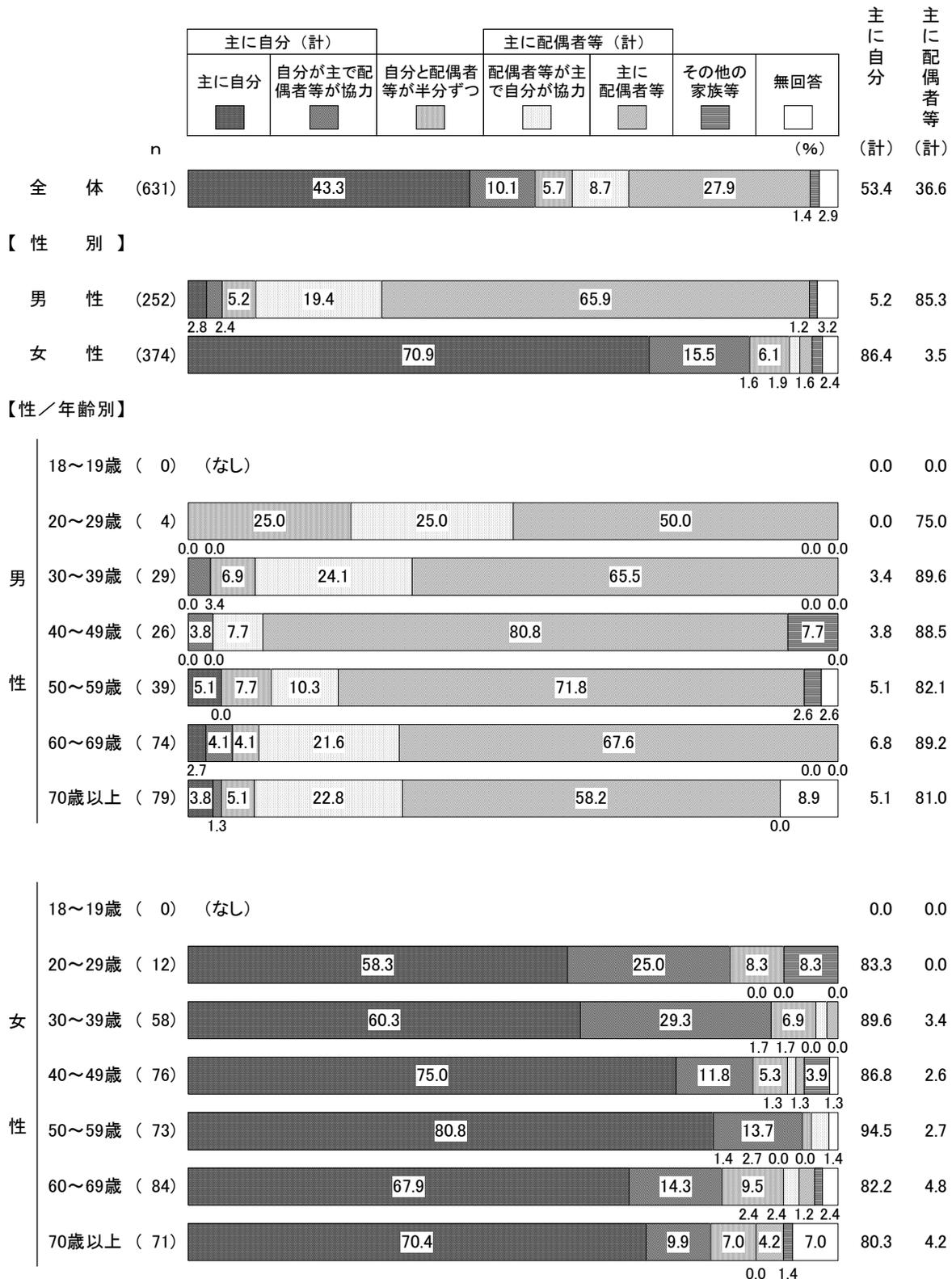
【性／男女の役割分担意識別】



<性別、性／年齢別> D 食事のしたく

食事のしたくについて性別でみると、『主に配偶者等（計）』は男性（85.3%）が女性（3.5%）より81.8ポイント高くなっている。一方、『主に自分（計）』は女性（86.4%）が男性（5.2%）より81.2ポイント高くなっている。

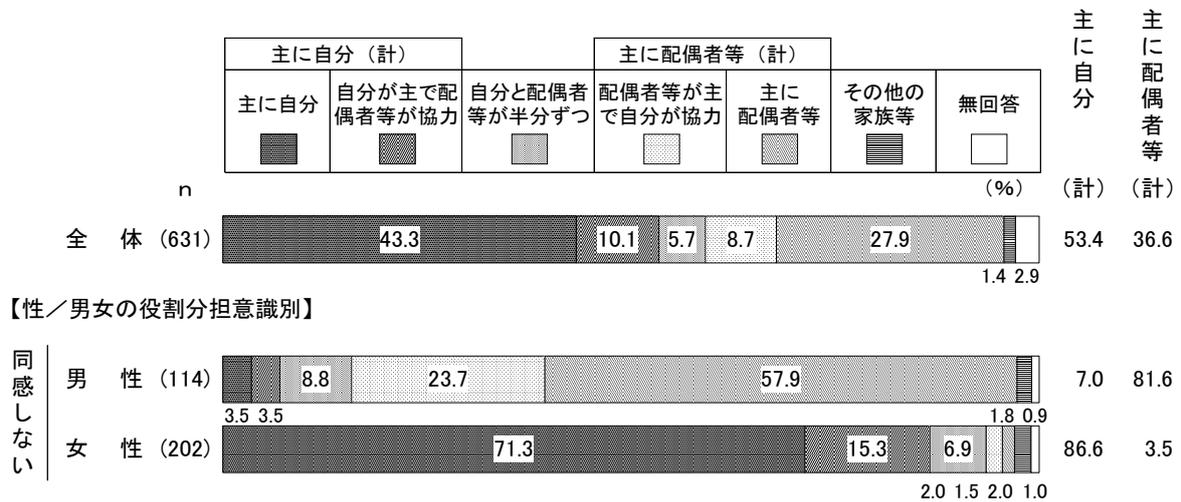
性／年齢別でみると、『主に自分（計）』は女性50～59歳（94.5%）で9割半ばと高くなっている。一方、『主に配偶者等（計）』は男性30～39歳（89.6%）と男性60～69歳（89.2%）で約9割と高くなっている。



<性／男女の役割分担意識別> D 食事のしたく

(「男は仕事、女は家庭」という考え方に「同感しない」と答えた方)

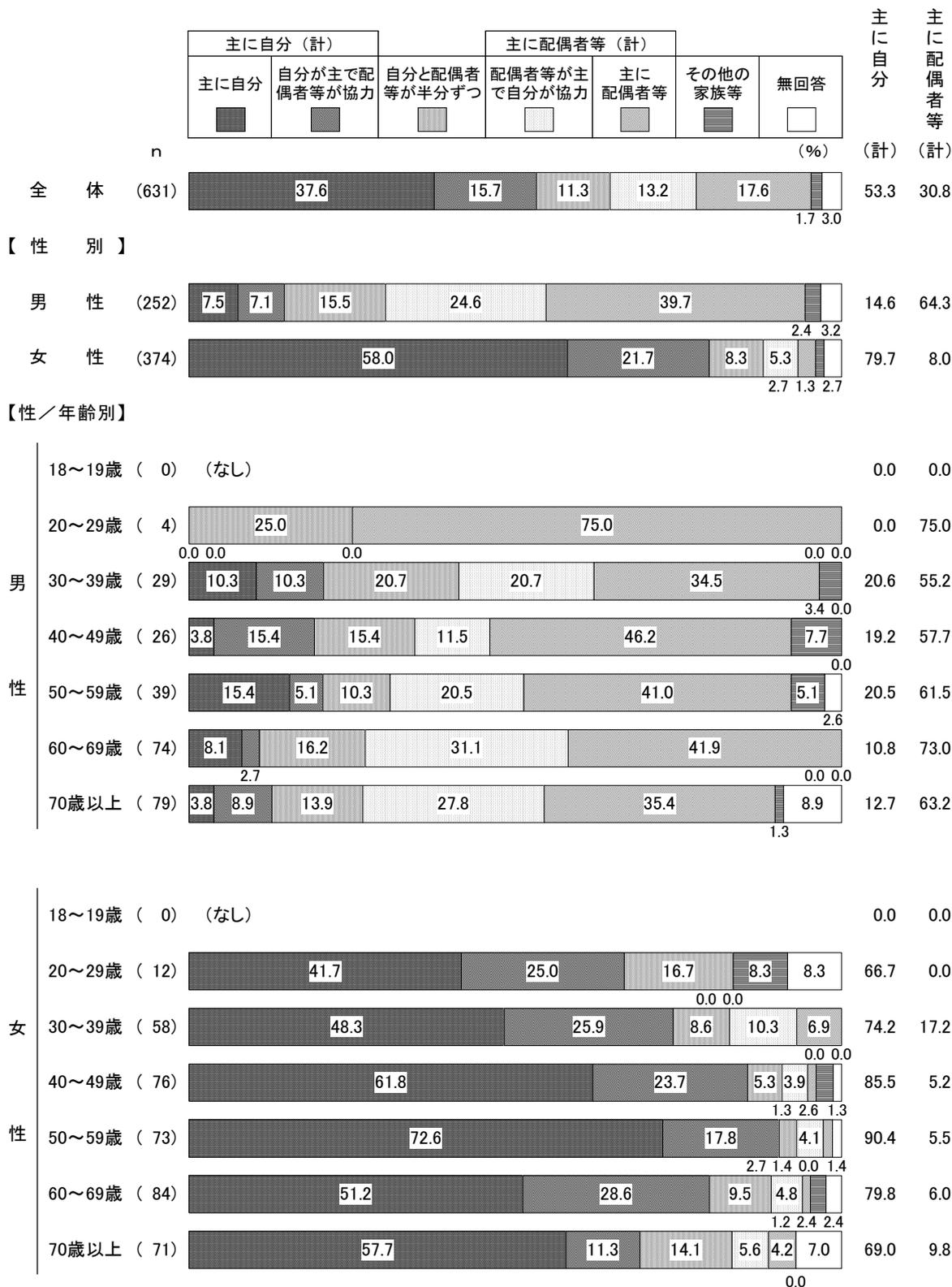
食事のしたくについて性／男女の役割分担意識別でみると、『主に自分 (計)』は女性 (86.6%) が男性 (7.0%) より79.6ポイント高くなっている。一方、『主に配偶者等 (計)』は男性 (81.6%) が女性 (3.5%) より78.1ポイント高くなっている。



<性別、性／年齢別> E 食事の後片付け

食事の後片付けについて性別でみると、『主に自分（計）』は女性（79.7%）が男性（14.6%）より65.1ポイント高くなっている。一方、『主に配偶者等（計）』は男性（64.3%）が女性（8.0%）より56.3ポイント高くなっている。

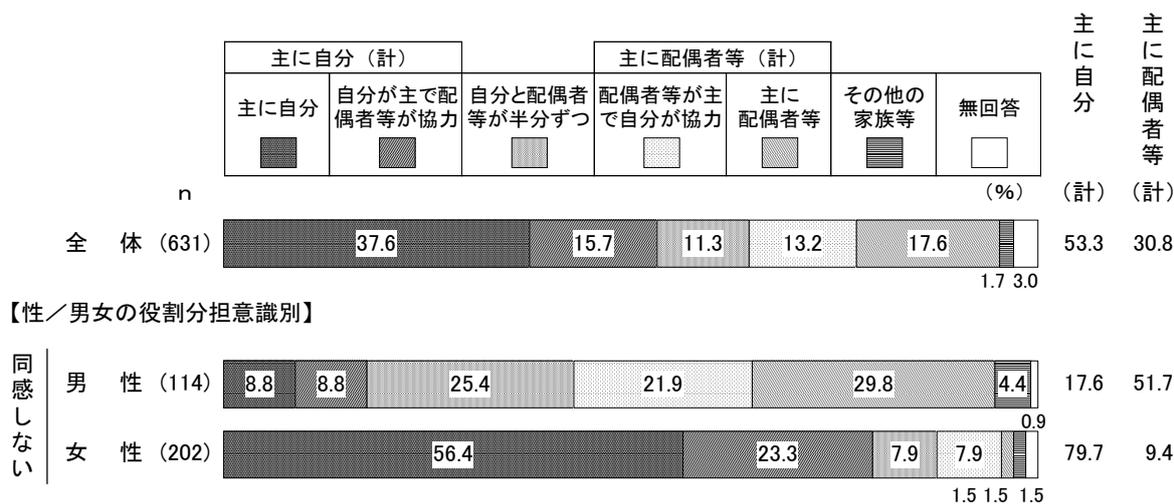
性／年齢別でみると、『主に自分（計）』は女性50～59歳（90.4%）で9割、女性40～49歳（85.5%）で8割半ばと高くなっている。一方、『主に配偶者等（計）』は男性60～69歳（73.0%）で7割を超えて高くなっている。



<性／男女の役割分担意識別> E 食事の後片付け

(「男は仕事、女は家庭」という考え方に「同感しない」と答えた方)

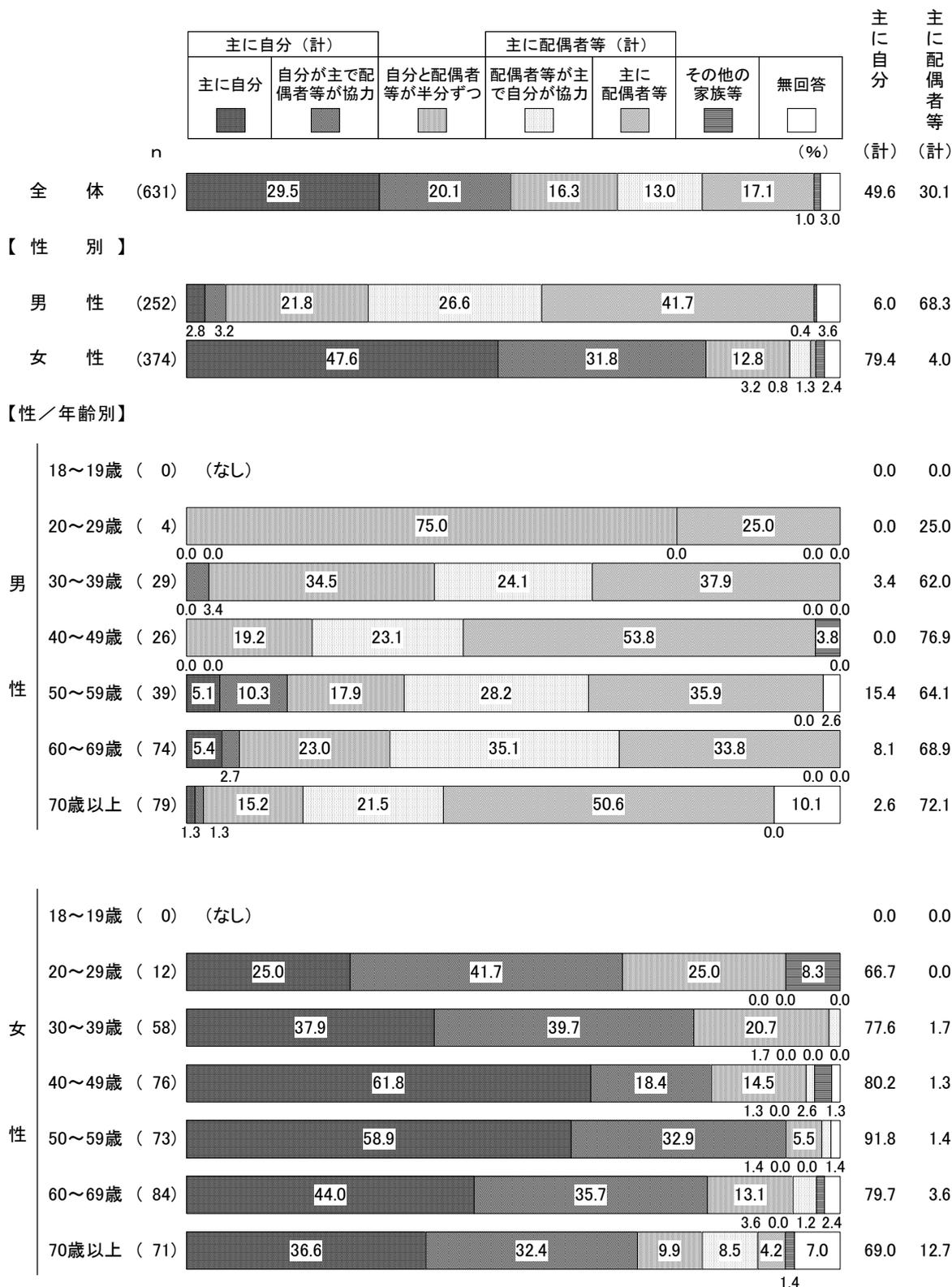
食事の後片付けについて性／男女の役割分担意識別でみると、『主に自分(計)』は女性(79.7%)が男性(17.6%)より62.1ポイント高くなっている。一方、『主に配偶者等(計)』は男性(51.7%)が女性(9.4%)より42.3ポイント、「自分と配偶者等が半分ずつ」は男性(25.4%)が女性(7.9%)より17.5ポイント、それぞれ高くなっている。



<性別、性／年齢別> F 食料品、日用品の買い物

食料品、日用品の買い物について性別で見ると、『主に自分(計)』は女性(79.4%)が男性(6.0%)より73.4ポイント高くなっている。一方、『主に配偶者等(計)』は男性(68.3%)が女性(4.0%)より64.3ポイント高くなっている。

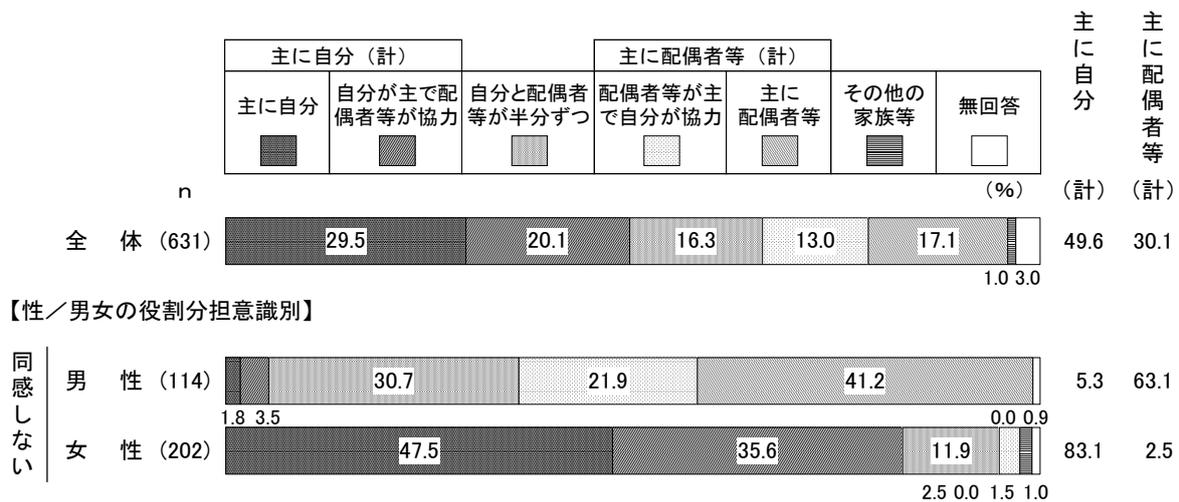
性／年齢別で見ると、『主に自分(計)』は女性50～59歳(91.8%)で9割を超えて高くなっている。一方、『主に配偶者等(計)』は男性40～49歳(76.9%)と男性70歳以上(72.1%)で7割台と高くなっている。また、「自分と配偶者等が半分ずつ」は男性30～39歳(34.5%)で3割半ばと高くなっている。



<性／男女の役割分担意識別> F 食料品、日用品の買い物

(「男は仕事、女は家庭」という考え方に「同感しない」と答えた方)

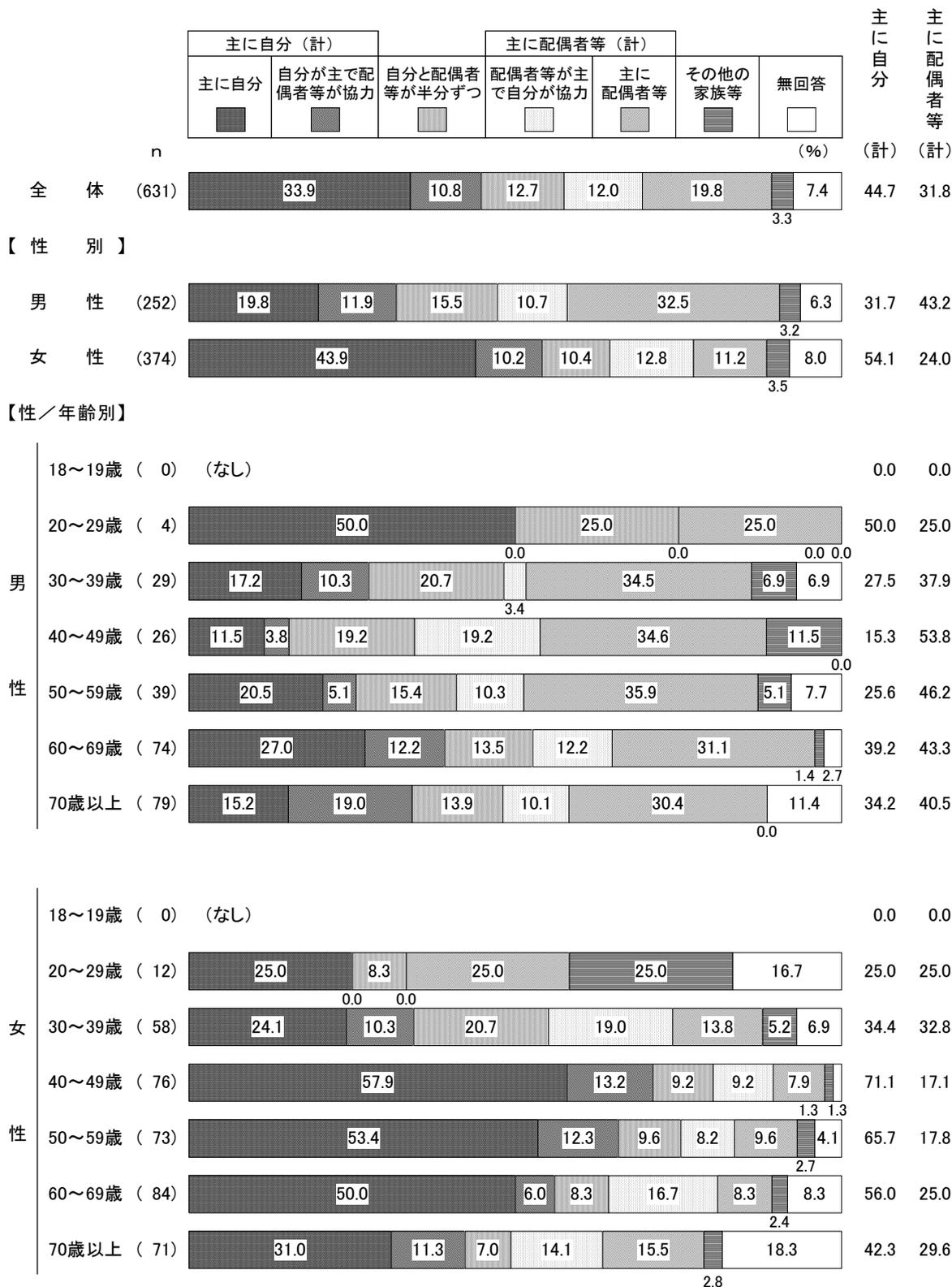
食料品、日用品の買い物について性／男女の役割分担意識別でみると、『主に自分(計)』は女性(83.1%)が男性(5.3%)より77.8ポイント高くなっている。一方、『主に配偶者等(計)』は男性(63.1%)が女性(2.5%)より60.6ポイント、「自分と配偶者等が半分ずつ」は男性(30.7%)が女性(11.9%)より18.8ポイント、それぞれ高くなっている。



<性別、性／年齢別> G 町会や自治会などの活動

町会や自治会などの活動について性別で見ると、『主に自分(計)』は女性(54.1%)が男性(31.7%)より22.4ポイント高くなっている。一方、『主に配偶者等(計)』は男性(43.2%)が女性(24.0%)より19.2ポイント高くなっている。

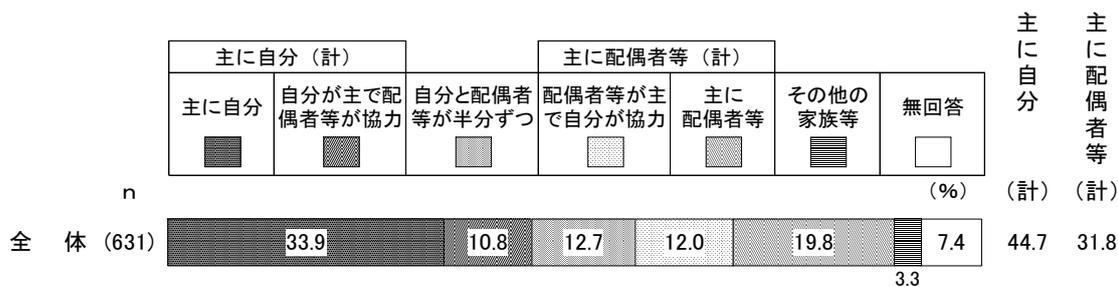
性／年齢別で見ると、『主に自分(計)』は女性40～49歳(71.1%)で7割を超え、女性50～59歳(65.7%)で6割半ばと高くなっている。一方、『主に配偶者等(計)』は男性40～49歳(53.8%)で5割を超えて高くなっている。



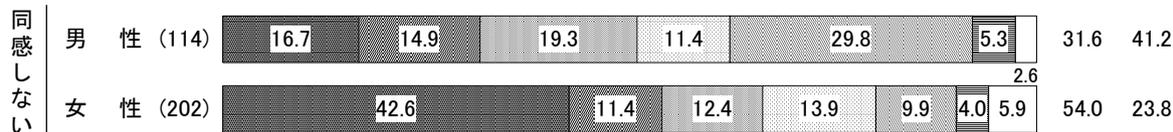
<性／男女の役割分担意識別> G 町会や自治会などの活動

(「男は仕事、女は家庭」という考え方に「同感しない」と答えた方)

町会や自治会などの活動について性／男女の役割分担意識別でみると、『主に自分(計)』は女性(54.0%)が男性(31.6%)より22.4ポイント高くなっている。一方、『主に配偶者等(計)』は男性(41.2%)が女性(23.8%)より17.4ポイント、「自分と配偶者等が半分ずつ」は男性(19.3%)が女性(12.4%)より6.9ポイント、それぞれ高くなっている。



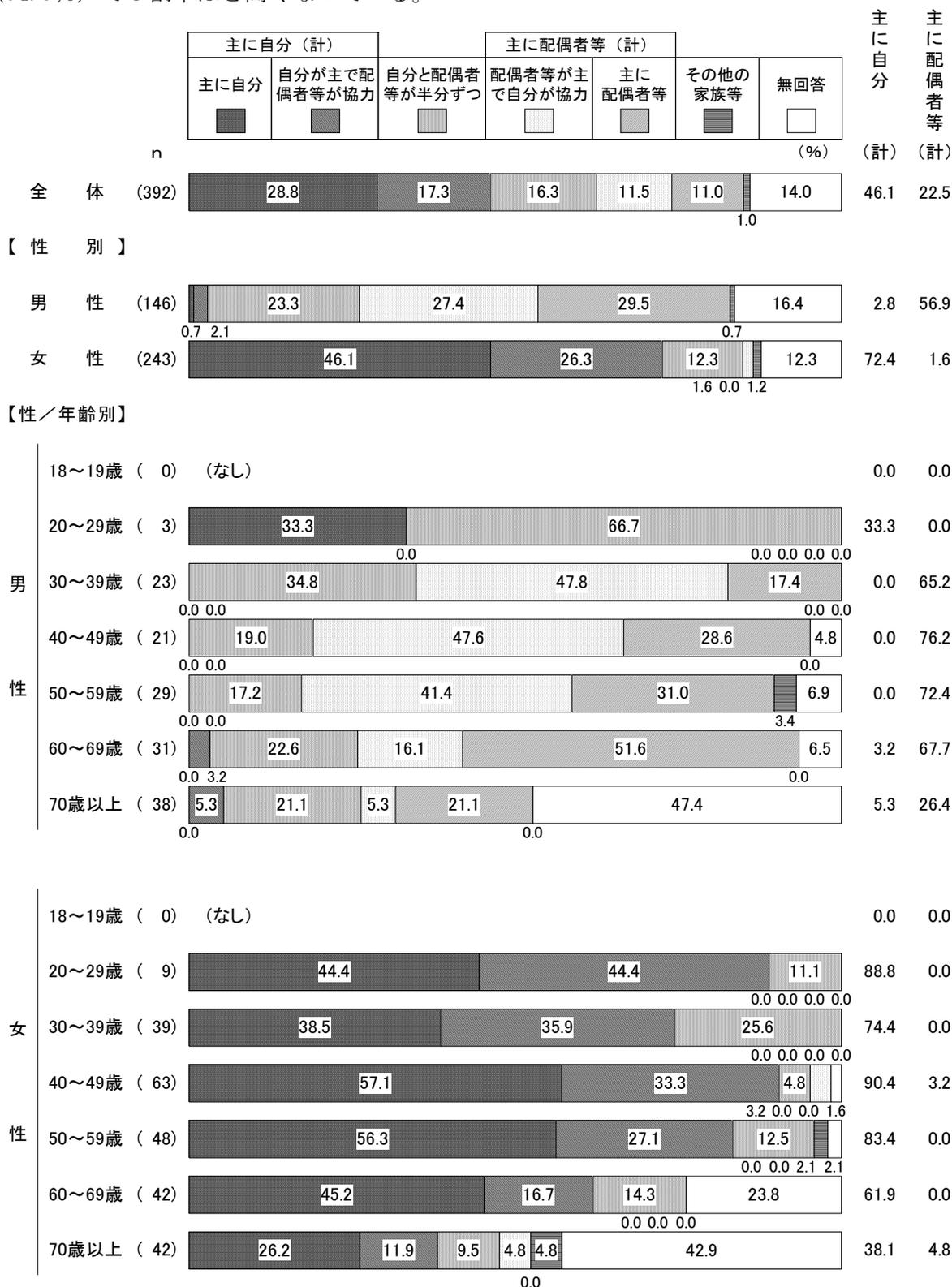
【性／男女の役割分担意識別】



<性別、性／年齢別> H 子どもに関する行事への参加

子どもに関する行事への参加について性別で見ると、『主に自分（計）』は女性（72.4%）が男性（2.8%）より69.6ポイント高くなっている。一方、『主に配偶者等（計）』は男性（56.9%）が女性（1.6%）より55.3ポイント、「自分と配偶者等が半分ずつ」は男性（23.3%）が女性（12.3%）より11.0ポイント、それぞれ高くなっている。

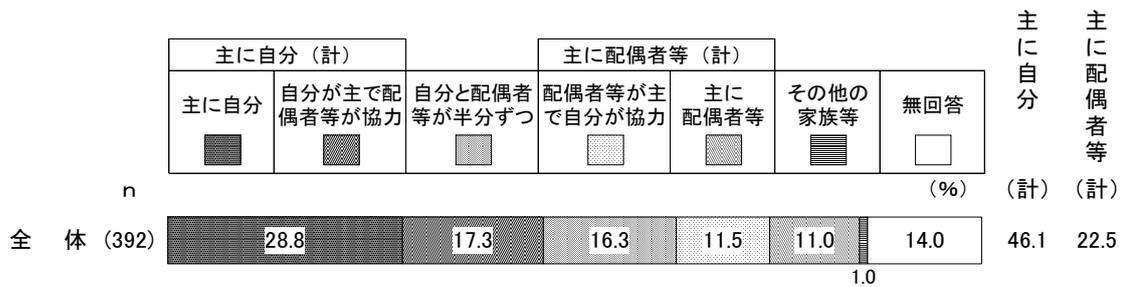
性／年齢別で見ると、『主に自分（計）』は女性40～49歳（90.4%）で9割、女性50～59歳（83.4%）で8割を超えて高くなっている。一方、『主に配偶者等（計）』は男性40～49歳（76.2%）と男性50～59歳（72.4%）で7割台と高くなっている。また、「自分と配偶者等が半分ずつ」は男性30～39歳（34.8%）で3割半ばと高くなっている。



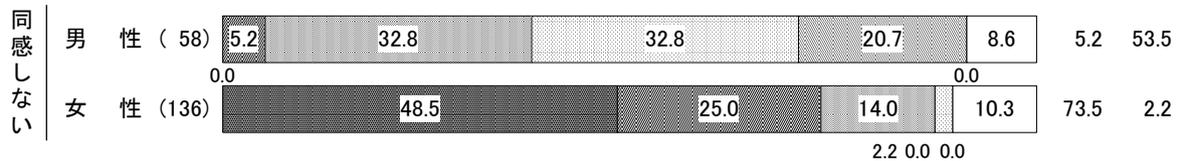
<性／男女の役割分担意識別> H 子どもに関する行事への参加

(「男は仕事、女は家庭」という考え方に「同感しない」と答えた方)

子どもに関する行事への参加について性／男女の役割分担意識別でみると、『主に自分(計)』は女性(73.5%)が男性(5.2%)より68.3ポイント高くなっている。一方、『主に配偶者等(計)』は男性(53.5%)が女性(2.2%)より51.3ポイント、「自分と配偶者等が半分ずつ」は男性(32.8%)が女性(14.0%)より18.8ポイント、それぞれ高くなっている。



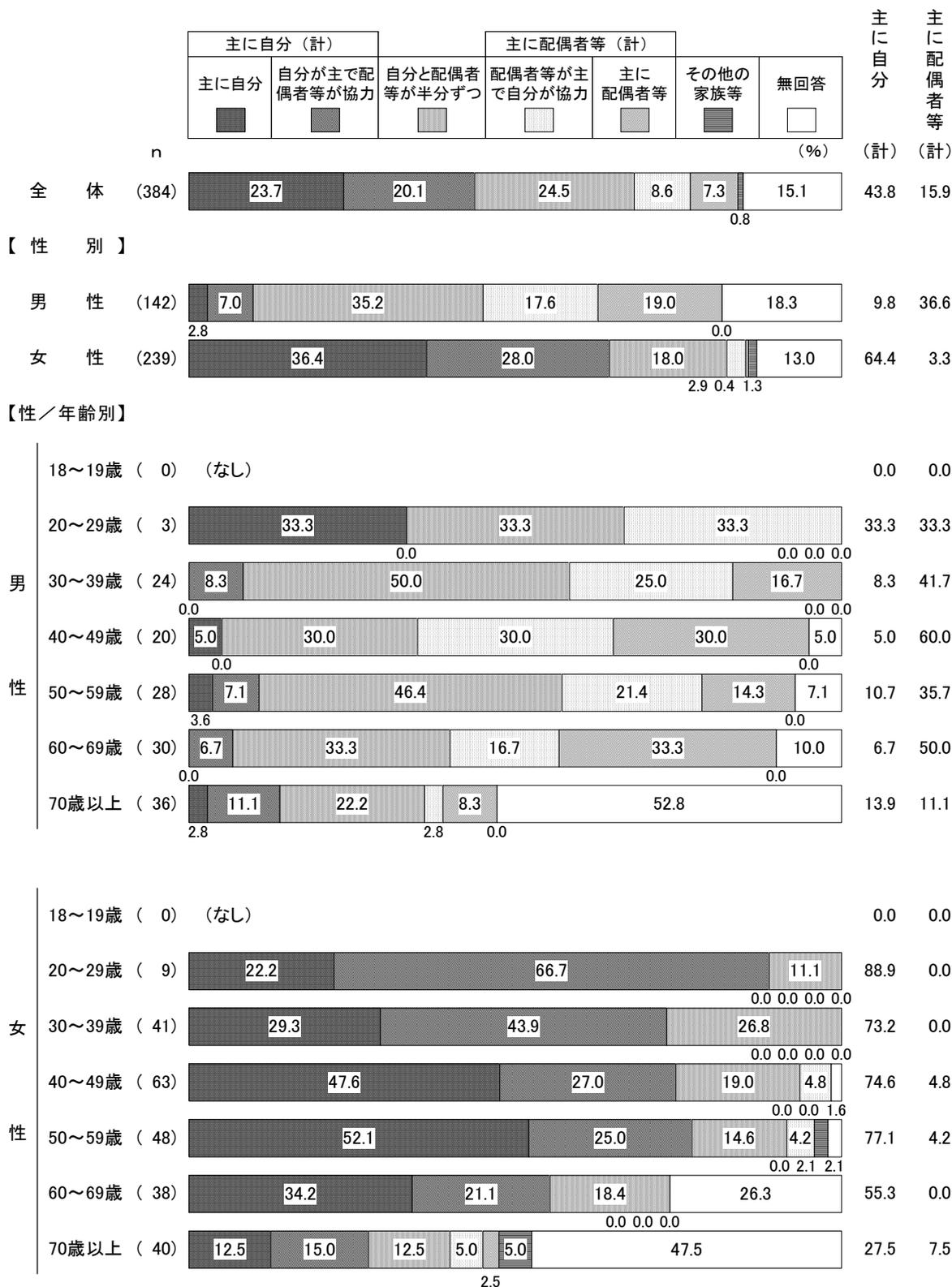
【性／男女の役割分担意識別】



<性別、性／年齢別> I 子どもの教育（遊び・勉強）

子どもの教育について性別で見ると、『主に自分（計）』は女性（64.4%）が男性（9.8%）より54.6ポイント高くなっている。一方、『主に配偶者等（計）』は男性（36.6%）が女性（3.3%）より33.3ポイント、「自分と配偶者等が半分ずつ」は男性（35.2%）が女性（18.0%）より17.2ポイント、それぞれ高くなっている。

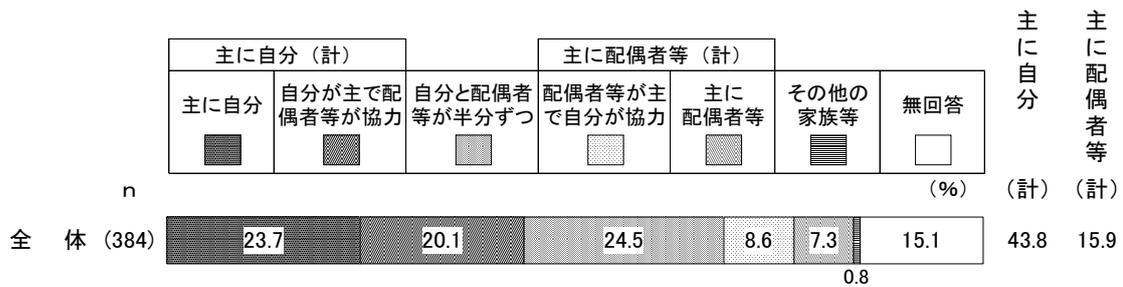
性／年齢別で見ると、『主に自分（計）』は女性50～59歳（77.1%）で8割近くと高くなっている。一方、『主に配偶者等（計）』は男性40～49歳（60.0%）で6割と高くなっている。また、「自分と配偶者等が半分ずつ」は男性30～39歳（50.0%）で5割と高くなっている。



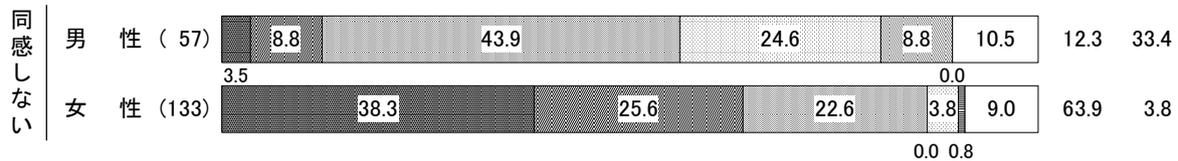
<性／男女の役割分担意識別> I 子どもの教育（遊び・勉強）

（「男は仕事、女は家庭」という考え方に「同感しない」と答えた方）

子どもの教育について性／男女の役割分担意識別で見ると、『主に自分（計）』は女性（63.9%）が男性（12.3%）より51.6ポイント高くなっている。一方、『主に配偶者等（計）』は男性（33.4%）が女性（3.8%）より29.6ポイント、「自分と配偶者等が半分ずつ」は男性（43.9%）が女性（22.6%）より21.3ポイント、それぞれ高くなっている。



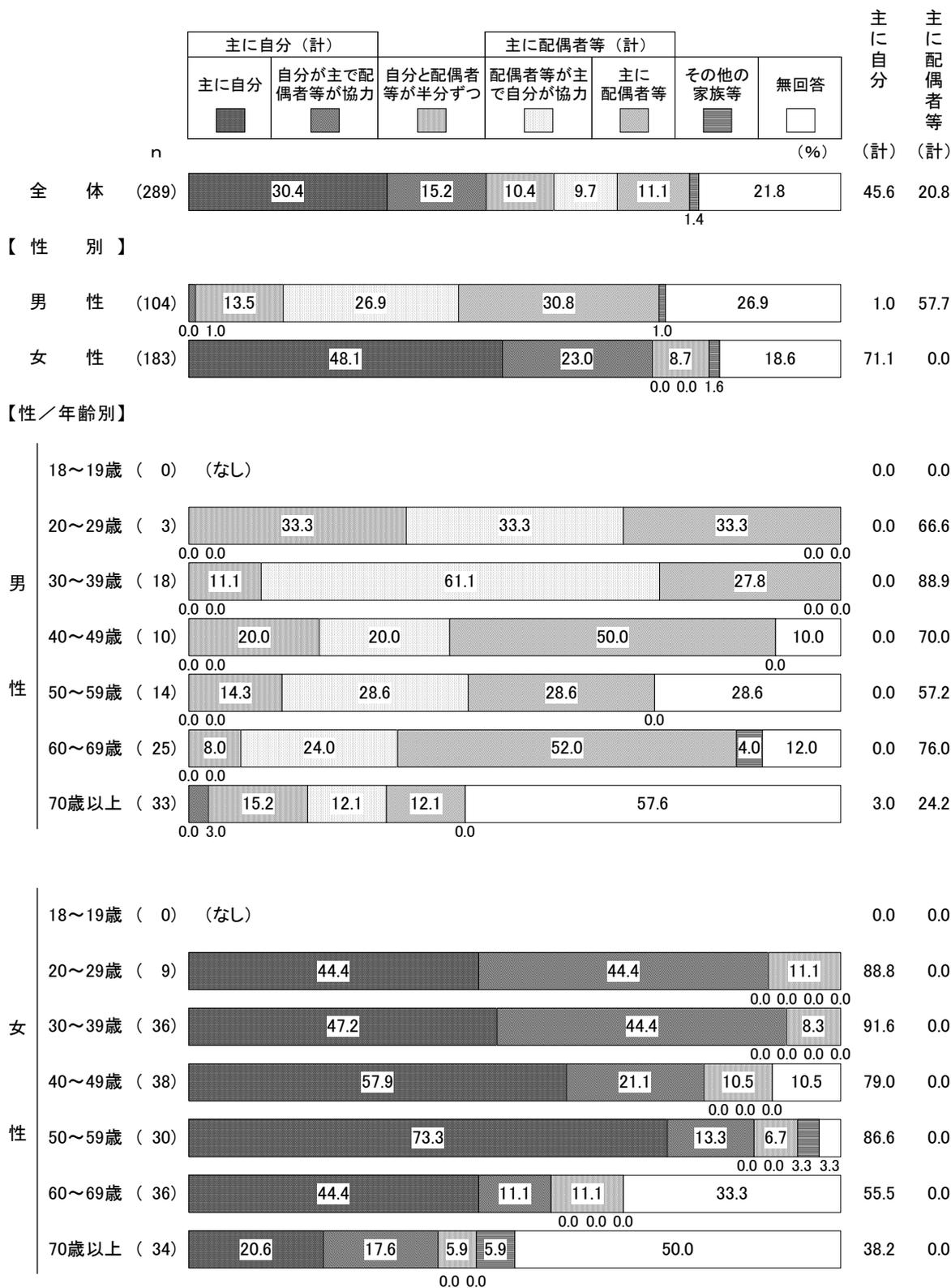
【性／男女の役割分担意識別】



<性別、性／年齢別> J 乳幼児の世話

乳幼児の世話について性別で見ると、『主に自分（計）』は女性（71.1%）が男性（1.0%）より70.1ポイント高くなっている。一方、『主に配偶者等（計）』は男性（57.7%）が女性（0.0%）より57.7ポイント高くなっている。

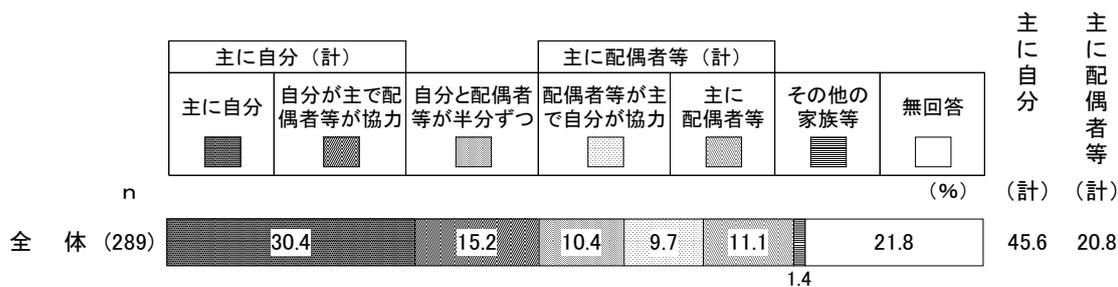
性／年齢別で見ると、『主に自分（計）』は女性30～39歳（91.6%）で9割を超えて高くなっている。一方、『主に配偶者等（計）』は男性60～69歳（76.0%）で7割半ばと高くなっている。



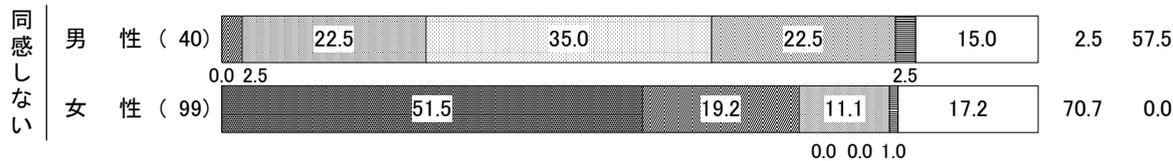
<性／男女の役割分担意識別> J 乳幼児の世話

(「男は仕事、女は家庭」という考え方に「同感しない」と答えた方)

乳幼児の世話について性／男女の役割分担意識別で見ると、『主に自分 (計)』は女性 (70.7%) が男性 (2.5%) より68.2ポイント高くなっている。一方、『主に配偶者等 (計)』は男性 (57.5%) が女性 (0.0%) より57.5ポイント、「自分と配偶者等が半分ずつ」は男性 (22.5%) が女性 (11.1%) より11.4ポイント、それぞれ高くなっている。



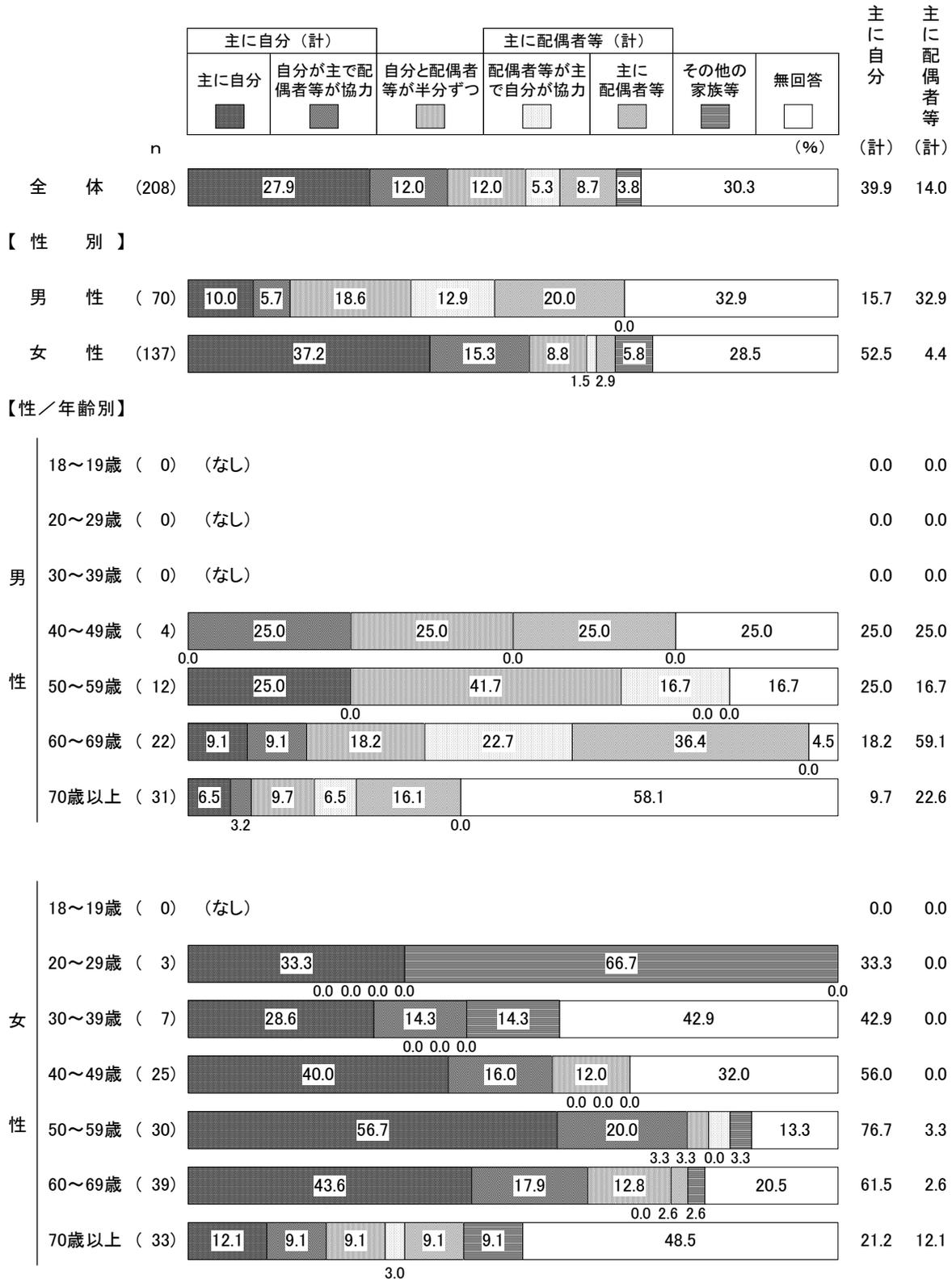
【性／男女の役割分担意識別】



<性別、性／年齢別> K 介護・介助が必要な家族の世話

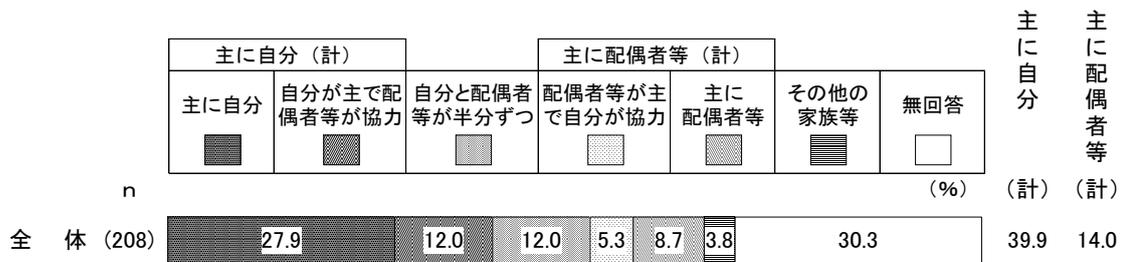
介護・介助が必要な家族の世話について性別でみると、『主に自分（計）』は女性（52.5%）が男性（15.7%）より36.8ポイント高くなっている。一方、『主に配偶者等（計）』は男性（32.9%）が女性（4.4%）より28.5ポイント、「自分と配偶者等が半分ずつ」は男性（18.6%）が女性（8.8%）より9.8ポイント、それぞれ高くなっている。

性／年齢別でみると、『主に自分（計）』は女性50～59歳（76.7%）で8割近くと高くなっている。一方、『主に配偶者等（計）』は男性60～69歳（59.1%）で約6割と高くなっている。

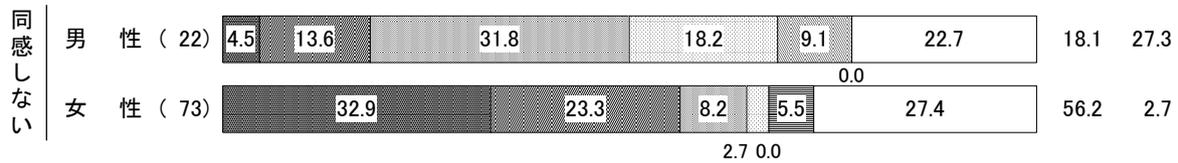


<性／男女の役割分担意識別> K 介護・介助が必要な家族の世話
 (「男は仕事、女は家庭」という考え方に「同感しない」と答えた方)

介護・介助が必要な家族の世話について性／男女の役割分担意識別でみると、『主に自分(計)』は女性(56.2%)が男性(18.1%)より38.1ポイント高くなっている。一方、『主に配偶者等(計)』は男性(27.3%)が女性(2.7%)より24.6ポイント、「自分と配偶者等が半分ずつ」は男性(31.8%)が女性(8.2%)より23.6ポイント、それぞれ高くなっている。



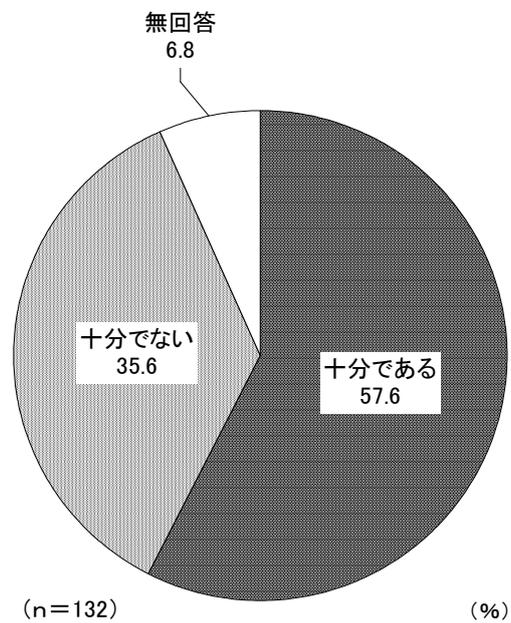
【性／男女の役割分担意識別】



(8) 子育てへの関わり

【小学生までの子育て中の方にうかがいます】

問12 あなたの子育てへの関わりは十分だと思いますか。【1つに○】

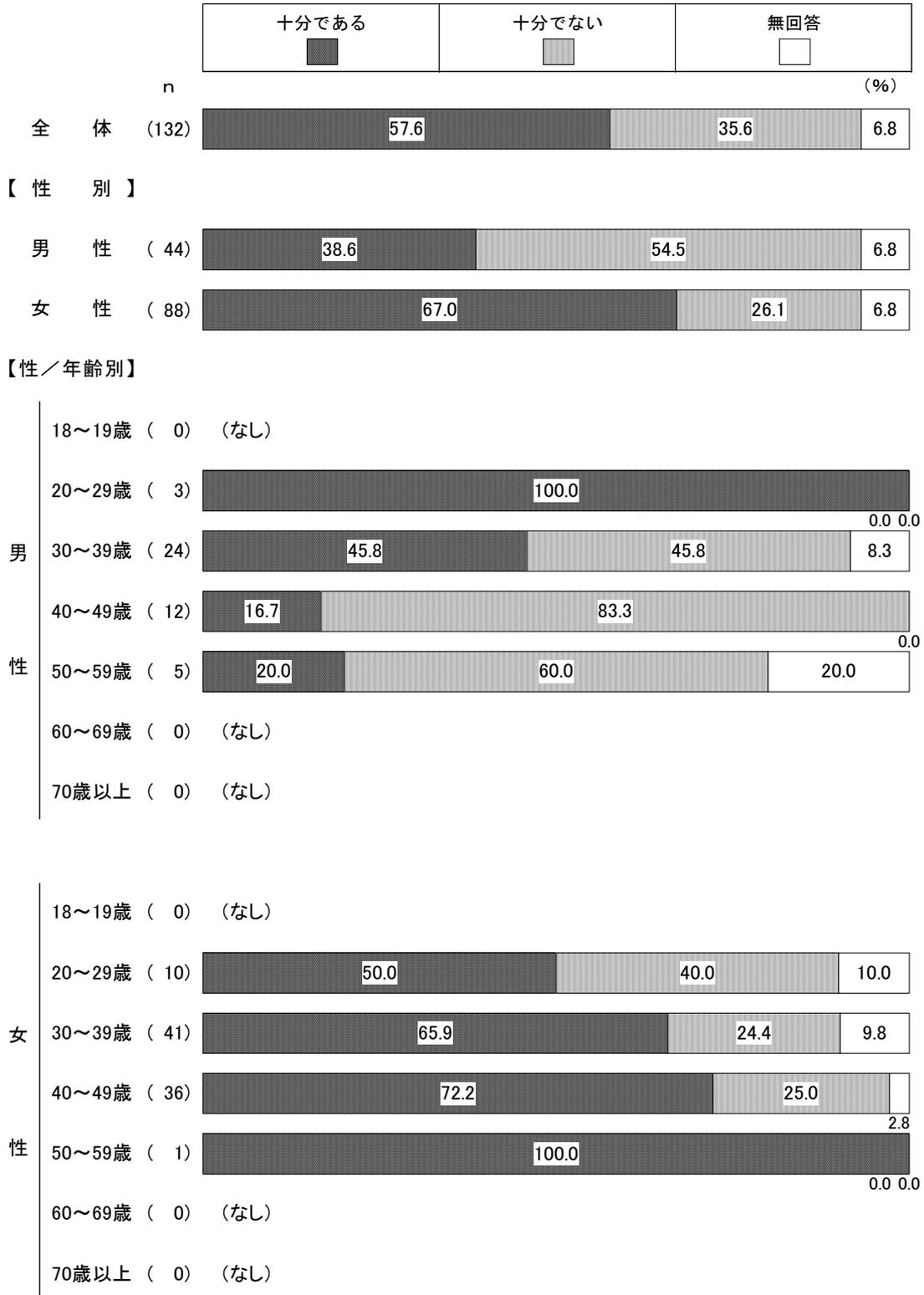


小学生までの子育て中の方に、子育てへの関わりは十分だと思うか聞いたところ、「十分である」(57.6%)が6割近く、「十分でない」(35.6%)は3割半ばとなっている。

<性別、性／年齢別>

性別でみると、「十分である」は女性（67.0%）が男性（38.6%）より28.4ポイント高くなっている。

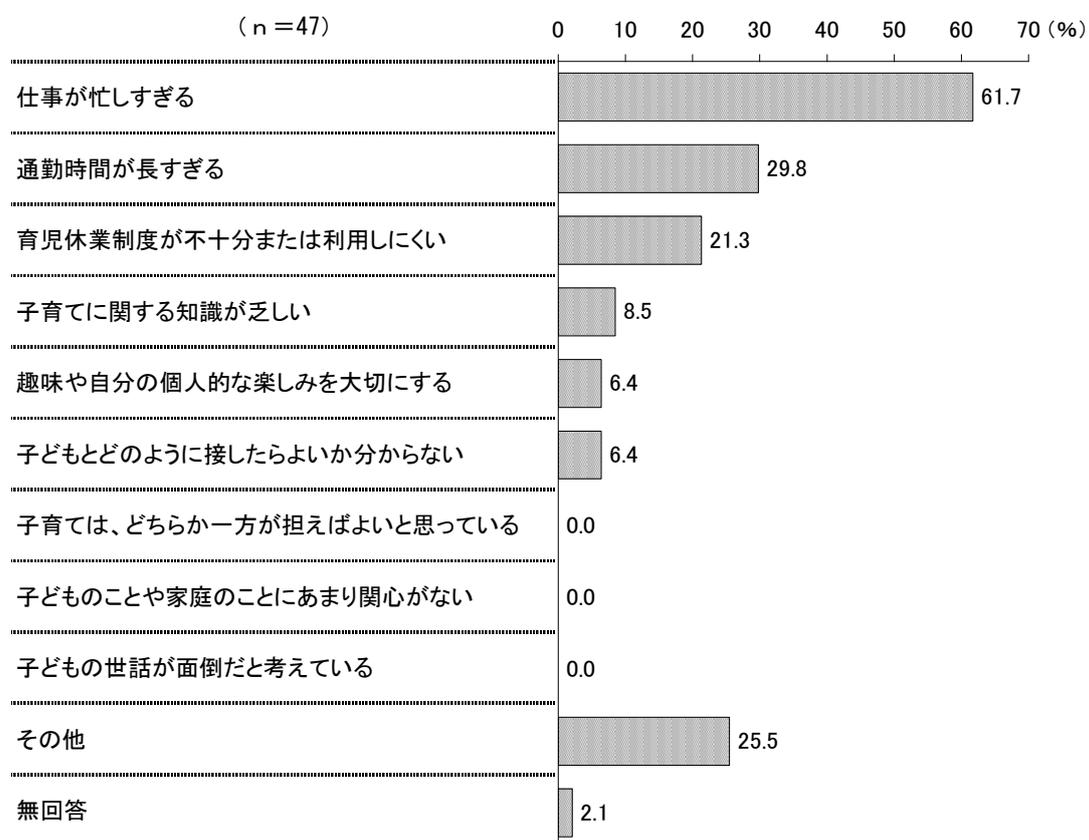
性／年齢別は基数が少ないため、参考に図示する。



(9) 子育てへの関わりが十分でないと思う理由

【問12で、「十分でない」とお答えの方にかがいます】

問12-1 あなたが子育てへの関わりに十分でないと思う理由には、どのようなことがあげられると思いますか。【あてはまるものすべてに○】

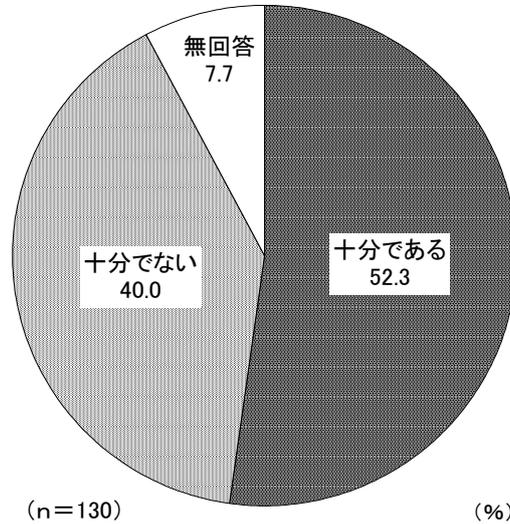


子育てへの関わりが「十分でない」と答えた方に、その理由を聞いたところ、「仕事が忙しすぎる」(61.7%)が6割を超えて最も高く、次いで「通勤時間が長すぎる」(29.8%)、「育児休業制度が不十分または利用しにくい」(21.3%)となっている。

(10) 配偶者・パートナーの子育てへの関わり

【小学生までの子育て中で、配偶者・パートナーがいる方にうかがいます】

問13 あなたの配偶者・パートナーの子育てへの関わりは十分だと思いますか。【1つに○】

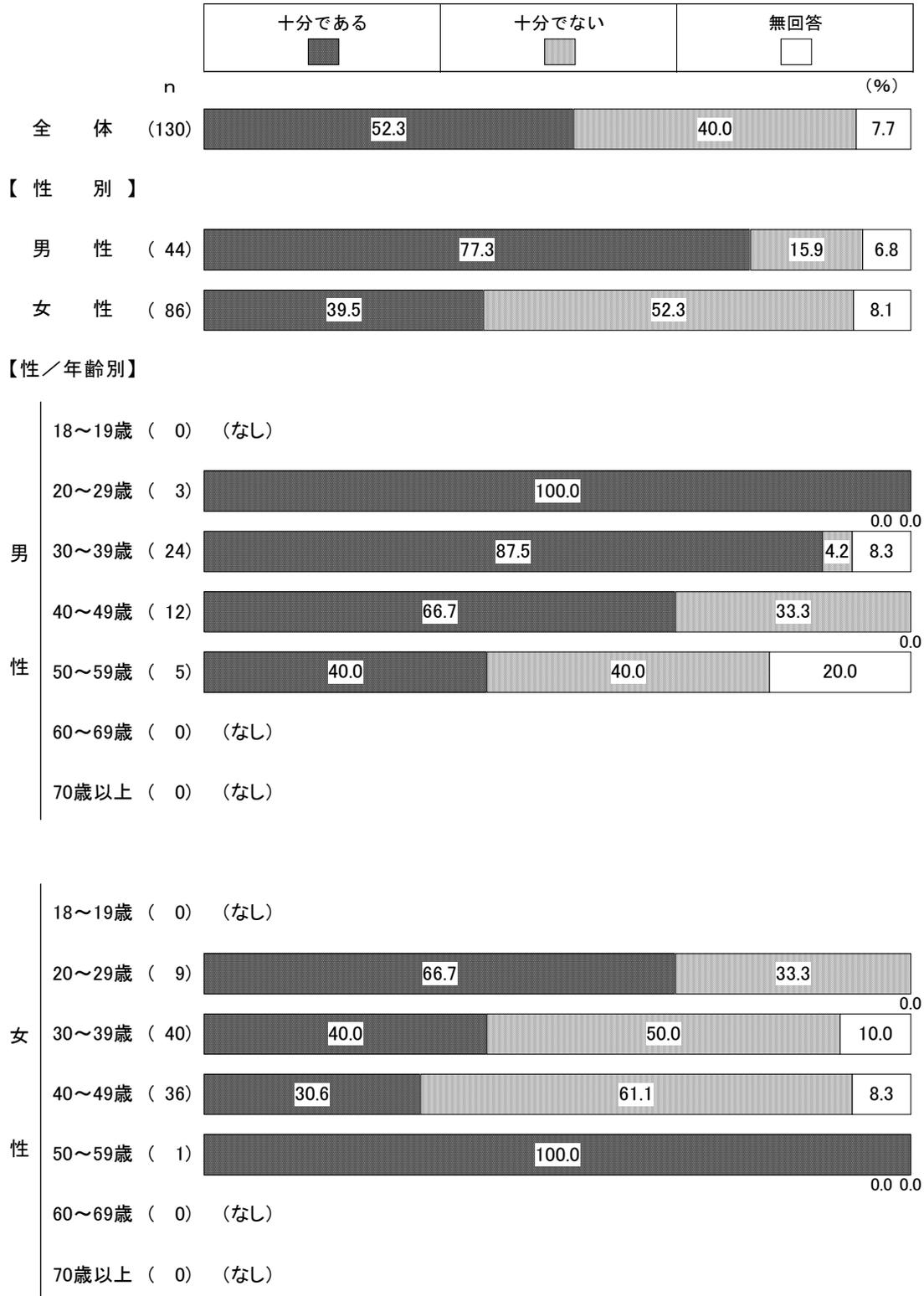


小学生までの子育て中で、配偶者・パートナーがいる方に、配偶者・パートナーの子育てへの関わりは十分だと思うか聞いたところ、「十分である」(52.3%)が5割を超え、「十分でない」(40.0%)は4割となっている。

<性別、性／年齢別>

性別でみると、「十分である」は男性（77.3%）が女性（39.5%）より37.8ポイント高くなっている。

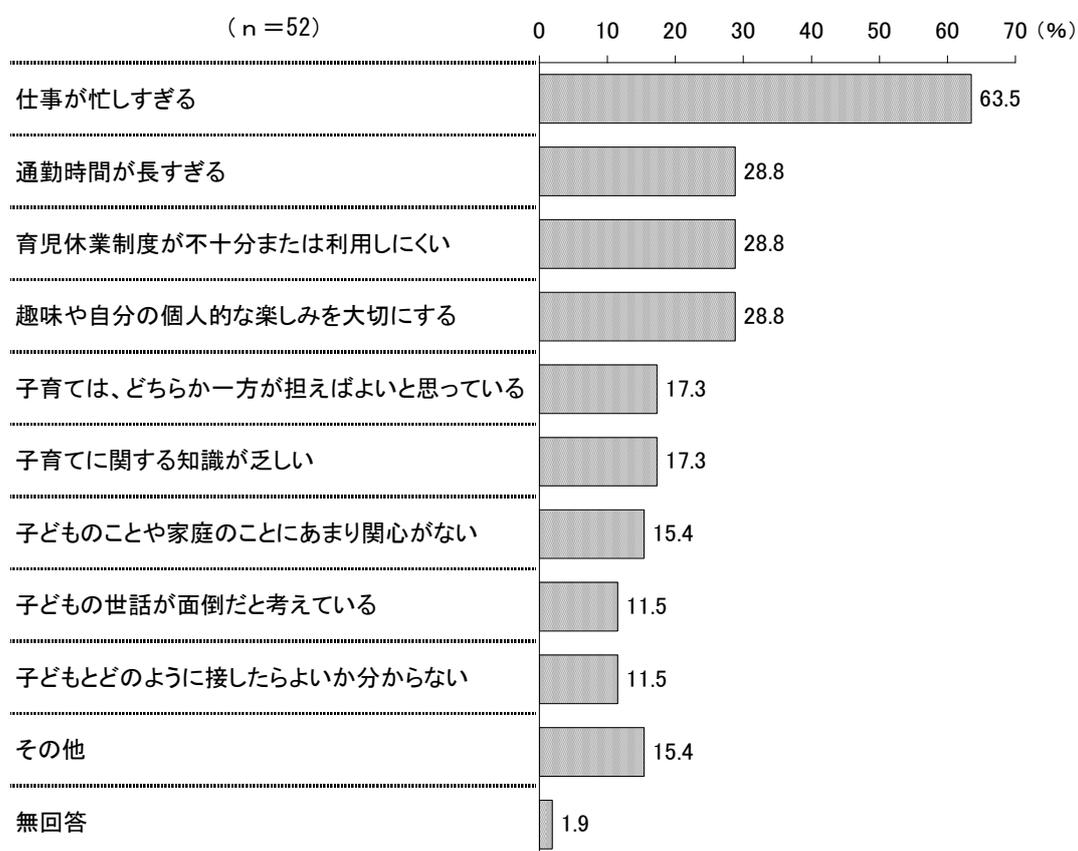
性／年齢別は基数が少ないため、参考に図示する。



(11) 配偶者・パートナーの子育てへの関わりが十分でないと思う理由

【問13で、「十分でない」とお答えの方にかがいます】

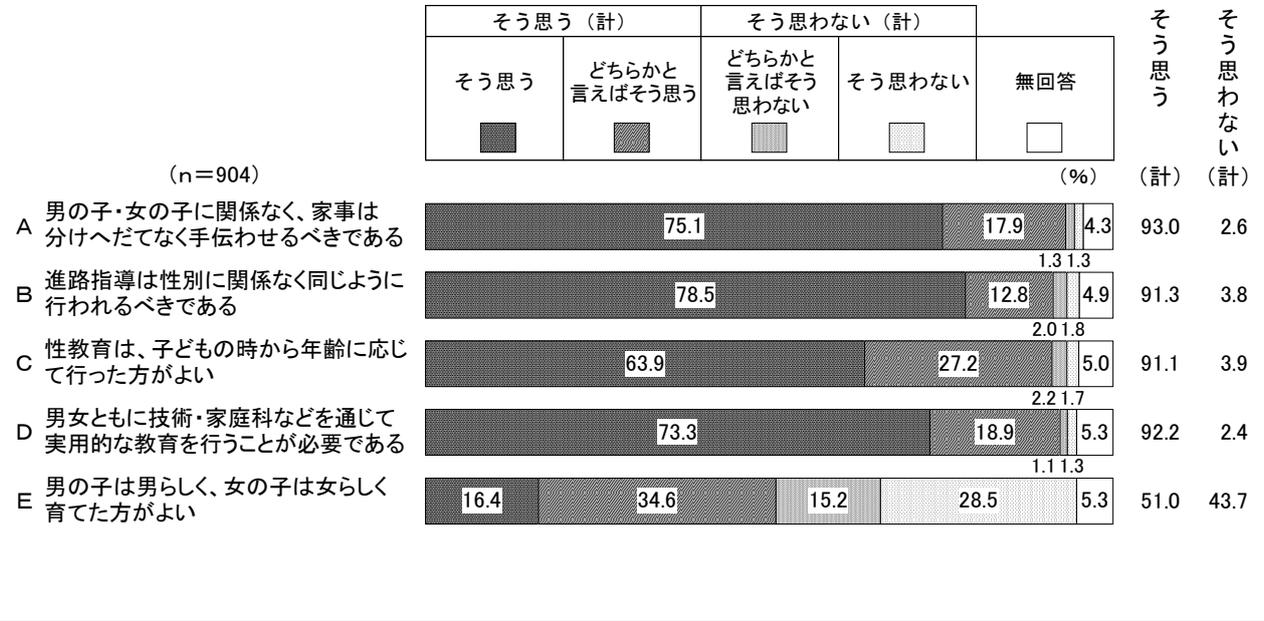
問13-1 あなたの配偶者・パートナーが子育てへの関わりに十分でないと思う理由には、どのようなことがあげられると思いますか。【あてはまるものすべてに○】



配偶者・パートナーの子育てへの関わりが「十分でない」と答えた方に、その理由を聞いたところ、「仕事が忙しすぎる」(63.5%)が6割を超えて最も高く、次いで「通勤時間が長すぎる」(28.8%)、「育児休業制度が不十分または利用しにくい」(28.8%)、「趣味や自分の個人的な楽しみを大切にする」(28.8%)となっている。

(12) 家庭での子育てや学校での教育に関する考え

問14 家庭での子育てや学校での教育に関する以下の考えについて、あなたはどのように思いますか。【それぞれの項目について1つに○】



家庭での子育てや学校での教育に関する考えについて聞いたところ、「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」を合わせた『そう思う (計)』は“男の子・女の子に関係なく、家事は分けへだてなく手伝わせるべきである” (93.0%)、“男女ともに技術・家庭科などを通じて実用的な教育を行うことが必要である” (92.2%)、“進路指導は性別に関係なく同じように行われるべきである” (91.3%)、“性教育は、子どもの時から年齢に応じて行った方がよい” (91.1%) がそれぞれ9割を超えて高くなっている。

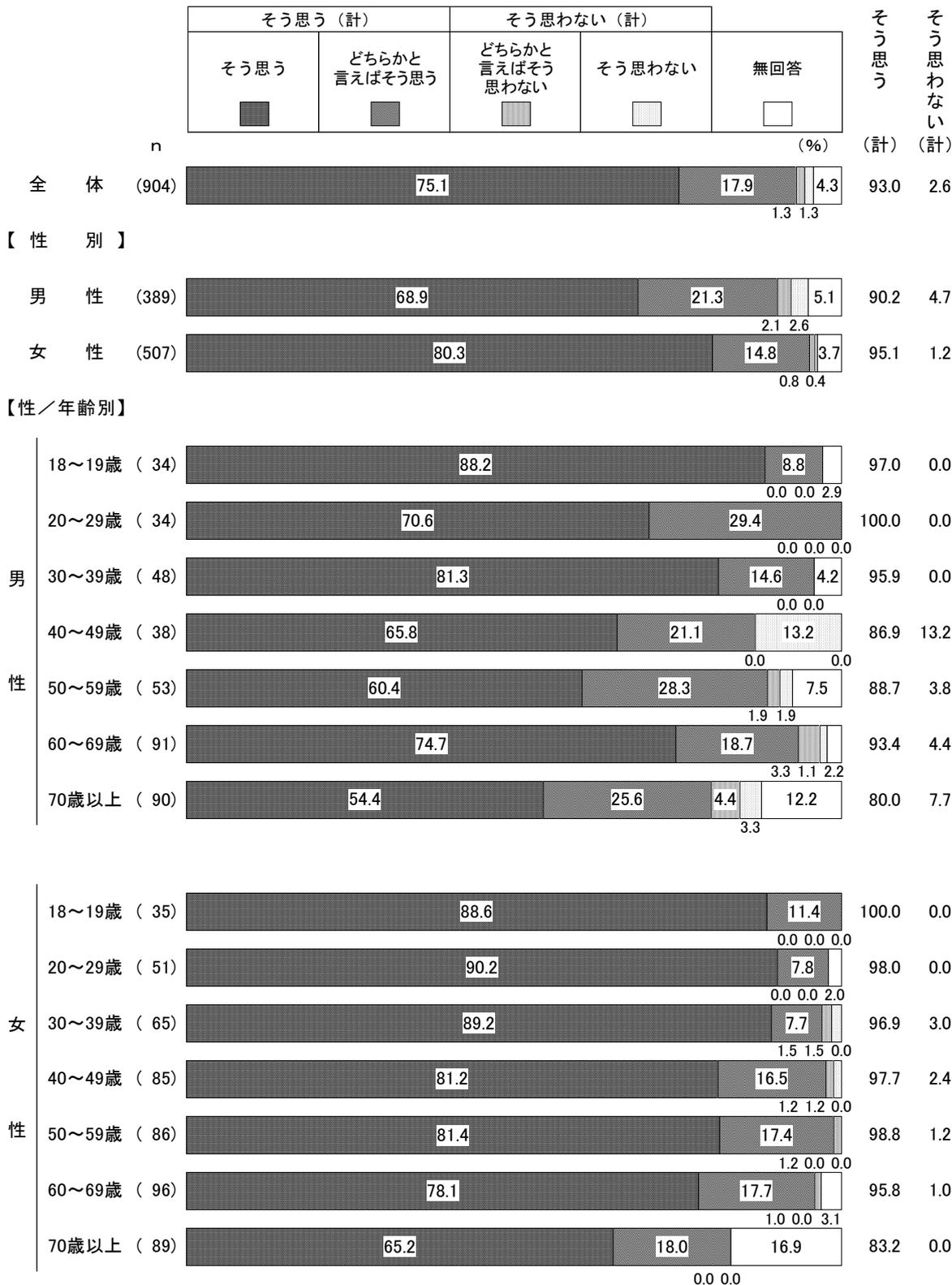
一方、「どちらかと言えばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた『そう思わない (計)』は“男の子は男らしく、女の子は女らしく育てた方がよい” (43.7%) が4割を超えて最も高くなっている。

<性別、性／年齢別>

A 男の子・女の子に関係なく、家事は分けへだてなく手伝わせるべきである

性別でみると、『そう思う（計）』は女性（95.1%）が男性（90.2%）より4.9ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、『そう思う（計）』は男性20～29歳（100.0%）と女性18～19歳（100.0%）で全数となっている。

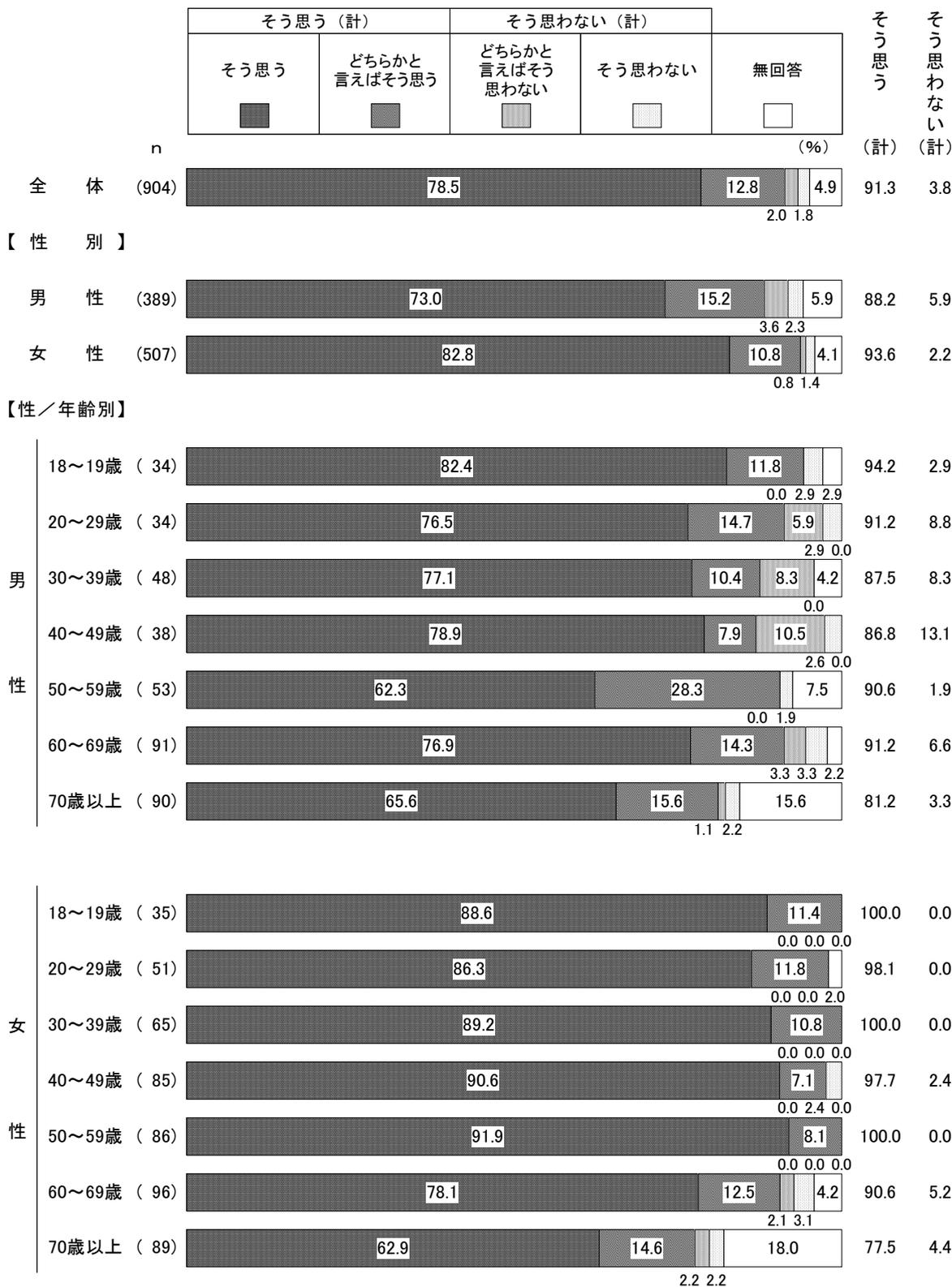


<性別、性／年齢別>

B 進路指導は性別に関係なく同じように行われるべきである

性別でみると、『そう思う（計）』は女性（93.6%）が男性（88.2%）より5.4ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、『そう思う（計）』は女性18～19歳（100.0%）、女性30～39歳（100.0%）、女性50～59歳（100.0%）で全数となっている。

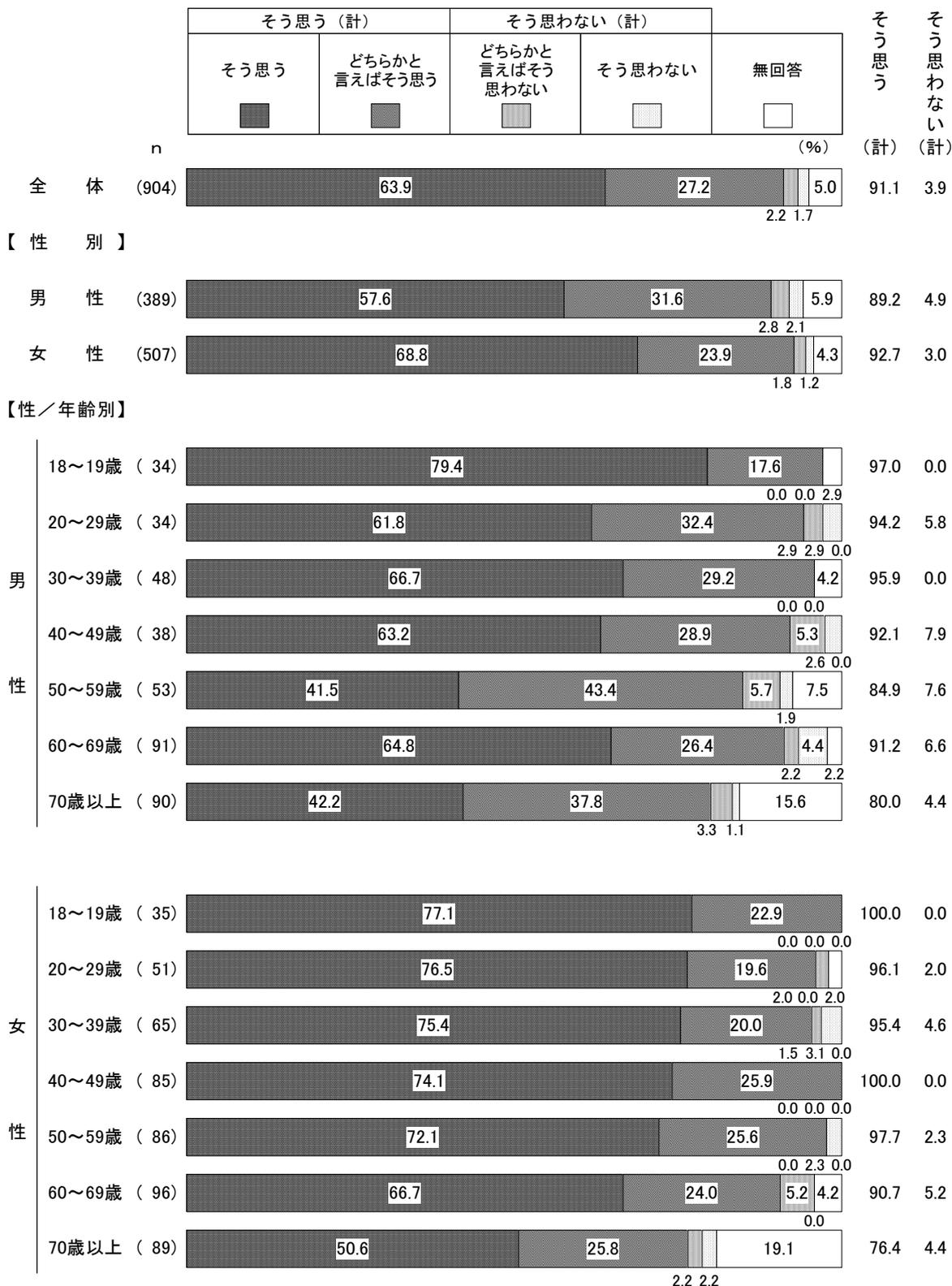


<性別、性／年齢別>

C 性教育は、子どもの時から年齢に応じて行った方がよい

性別でみると、『そう思う（計）』は女性（92.7%）が男性（89.2%）より3.5ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、『そう思う（計）』は女性18～19歳（100.0%）と女性40～49歳（100.0%）で全数となっている。

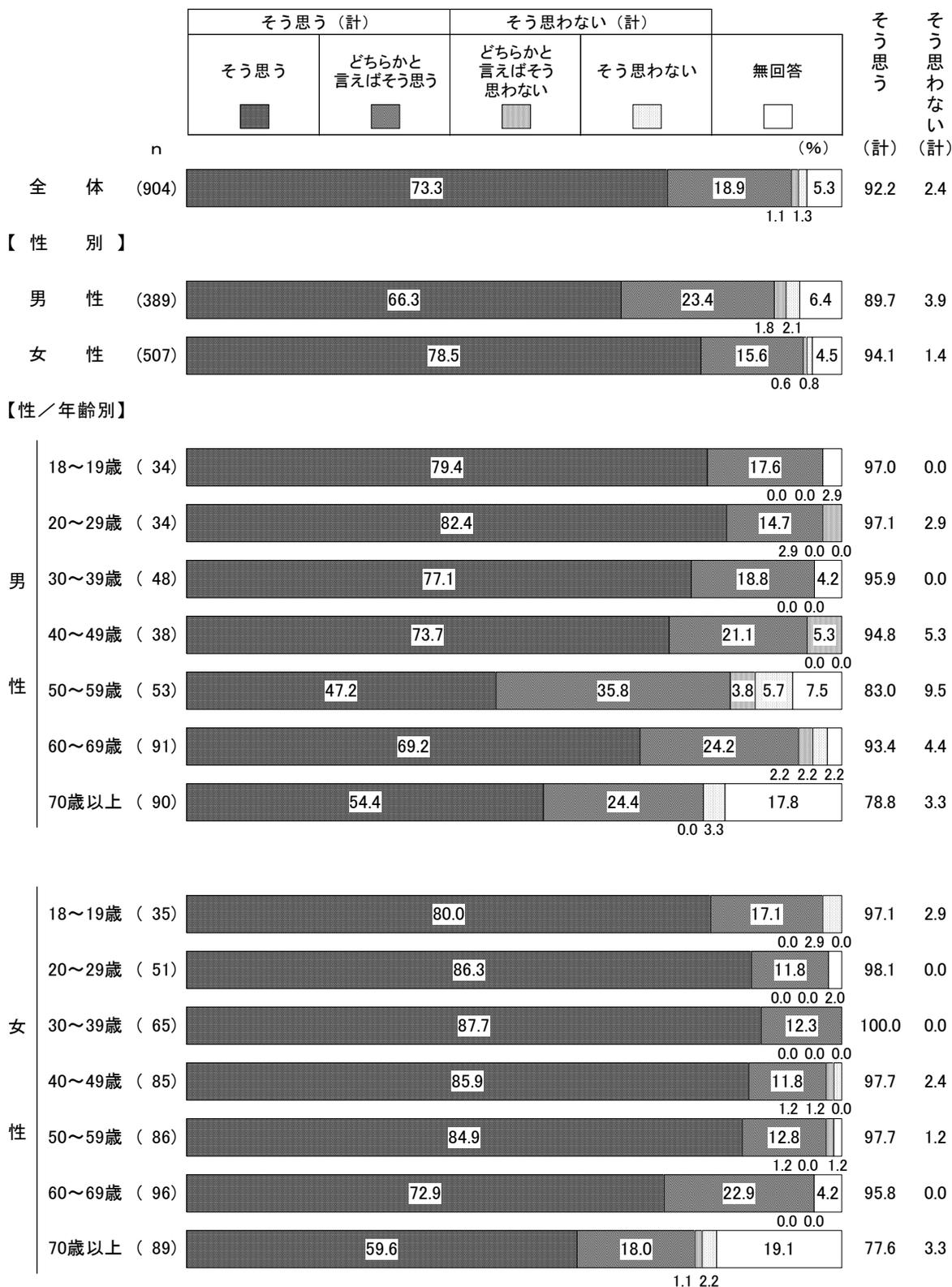


<性別、性／年齢別>

D 男女ともに技術・家庭科などを通じて実用的な教育を行うことが必要である

性別で見ると、『そう思う（計）』は女性（94.1%）が男性（89.7%）より4.4ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、『そう思う（計）』は女性30～39歳（100.0%）で全数となっている。

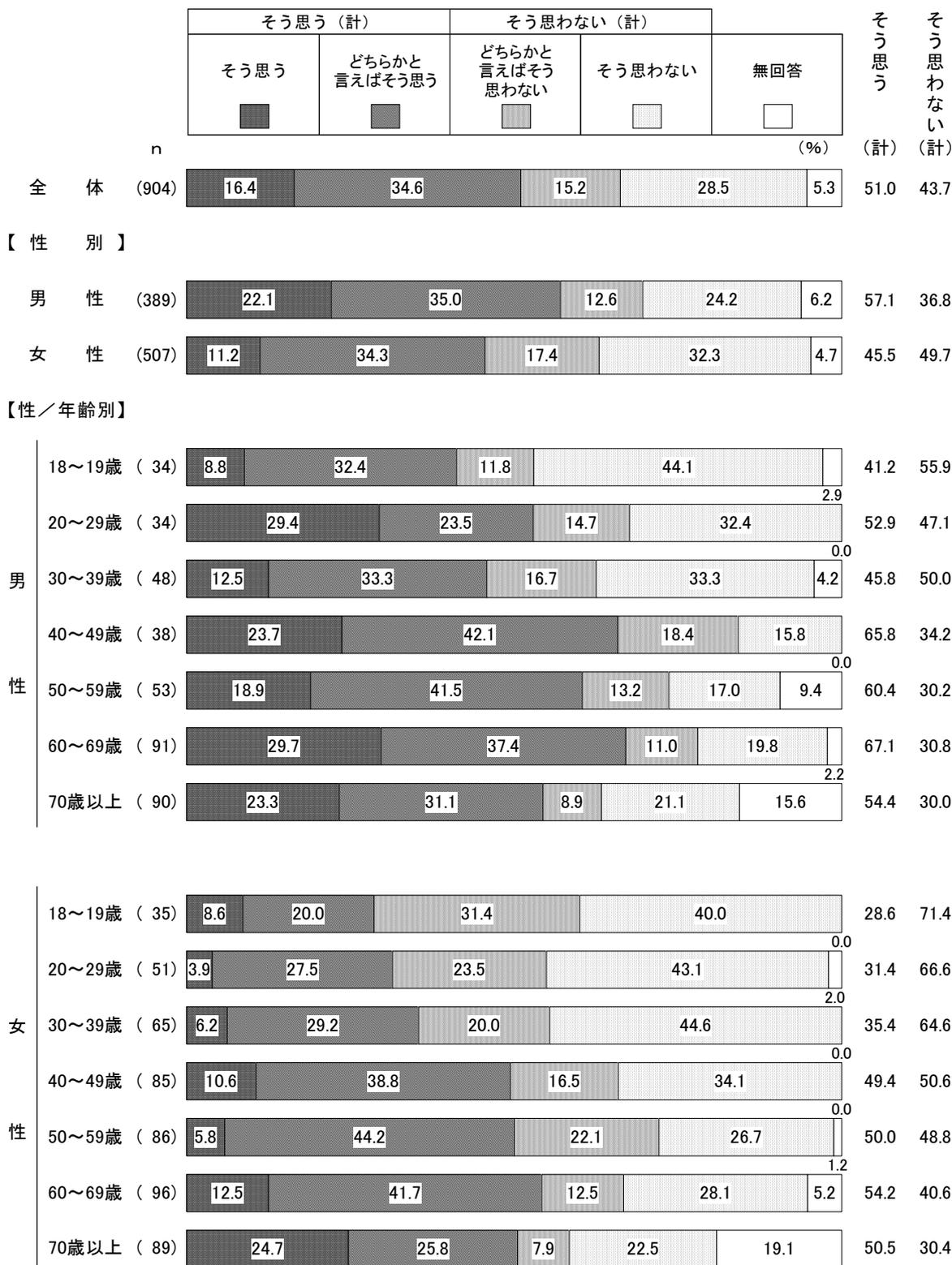


<性別、性／年齢別>

E 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てた方がよい

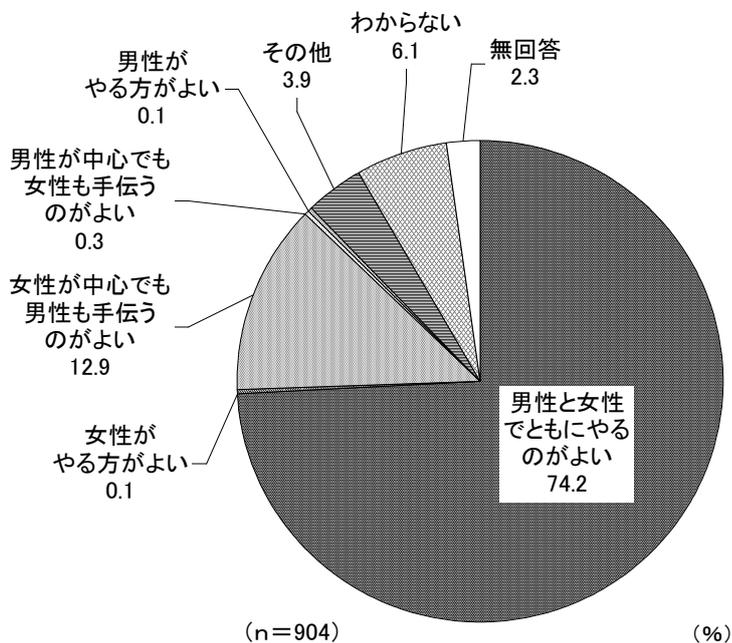
性別でみると、『そう思う（計）』は男性（57.1%）が女性（45.5%）より11.6ポイント高くなっている。一方、『そう思わない（計）』は女性（49.7%）が男性（36.8%）より12.9ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、『そう思う（計）』は男性60～69歳（67.1%）で7割近くと高くなっている。一方、『そう思わない（計）』は女性18～19歳（71.4%）で7割を超えて高くなっている。



(13) 要介護者の世話について

問15 家庭において、高齢や障がいなどで介護（介助）が必要な人のお世話について、あなたはどのように思いますか。【1つに〇】

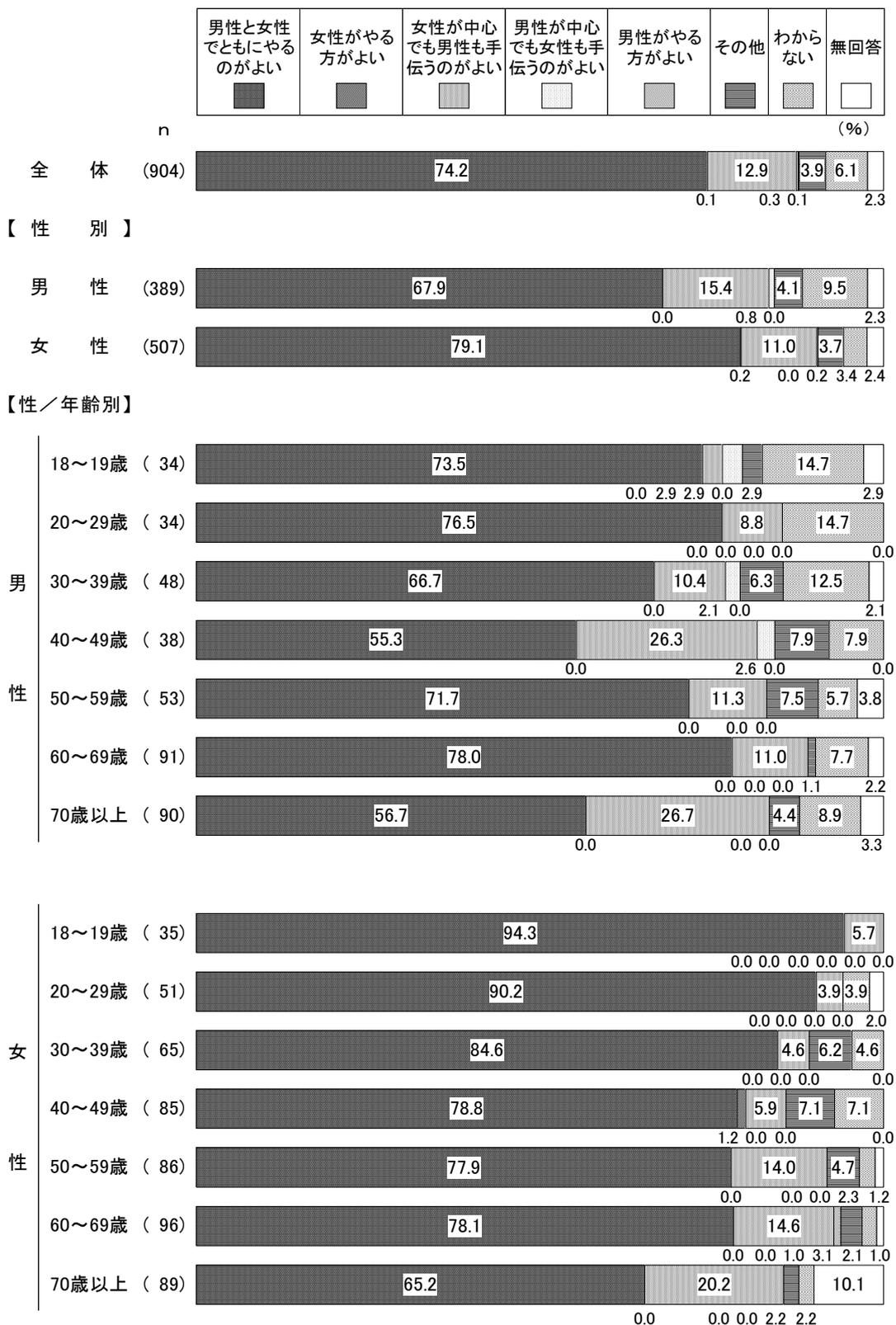


家庭において、高齢や障がいなどで介護（介助）が必要な人のお世話について聞いたところ、「男性と女性でともにやるのがよい」（74.2%）が7割半ばで最も高く、次いで「女性が中心でも男性も手伝うのがよい」（12.9%）となっている。

<性別、性／年齢別>

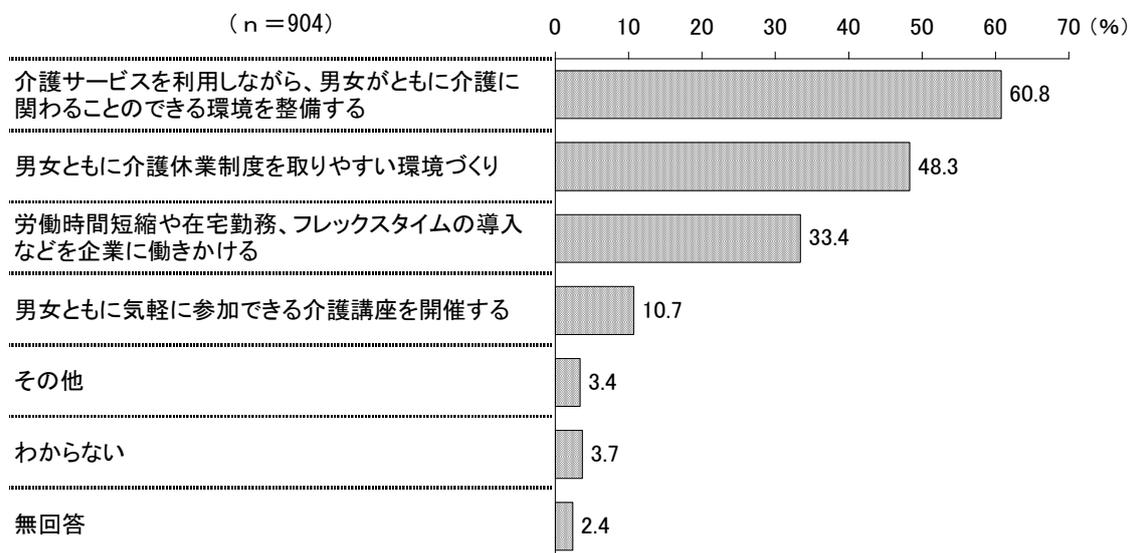
性別でみると、「男性と女性でともにやるのがよい」は女性（79.1%）が男性（67.9%）より11.2ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「男性と女性でともにやるのがよい」は女性18～19歳（94.3%）と女性20～29歳（90.2%）で9割台と高くなっている。「女性が中心でも男性も手伝うのがよい」は男性40～49歳（26.3%）、男性70歳以上（26.7%）、女性70歳以上（20.2%）で2割台と高くなっている。



(14) 男女がともに介護を担うために必要なこと

問16 介護は、家族の協力や行政サービス等を利用しながら、男女がともに担うことが求められます。そのためには、どのようなことが必要だと思いますか。【2つまでに○】

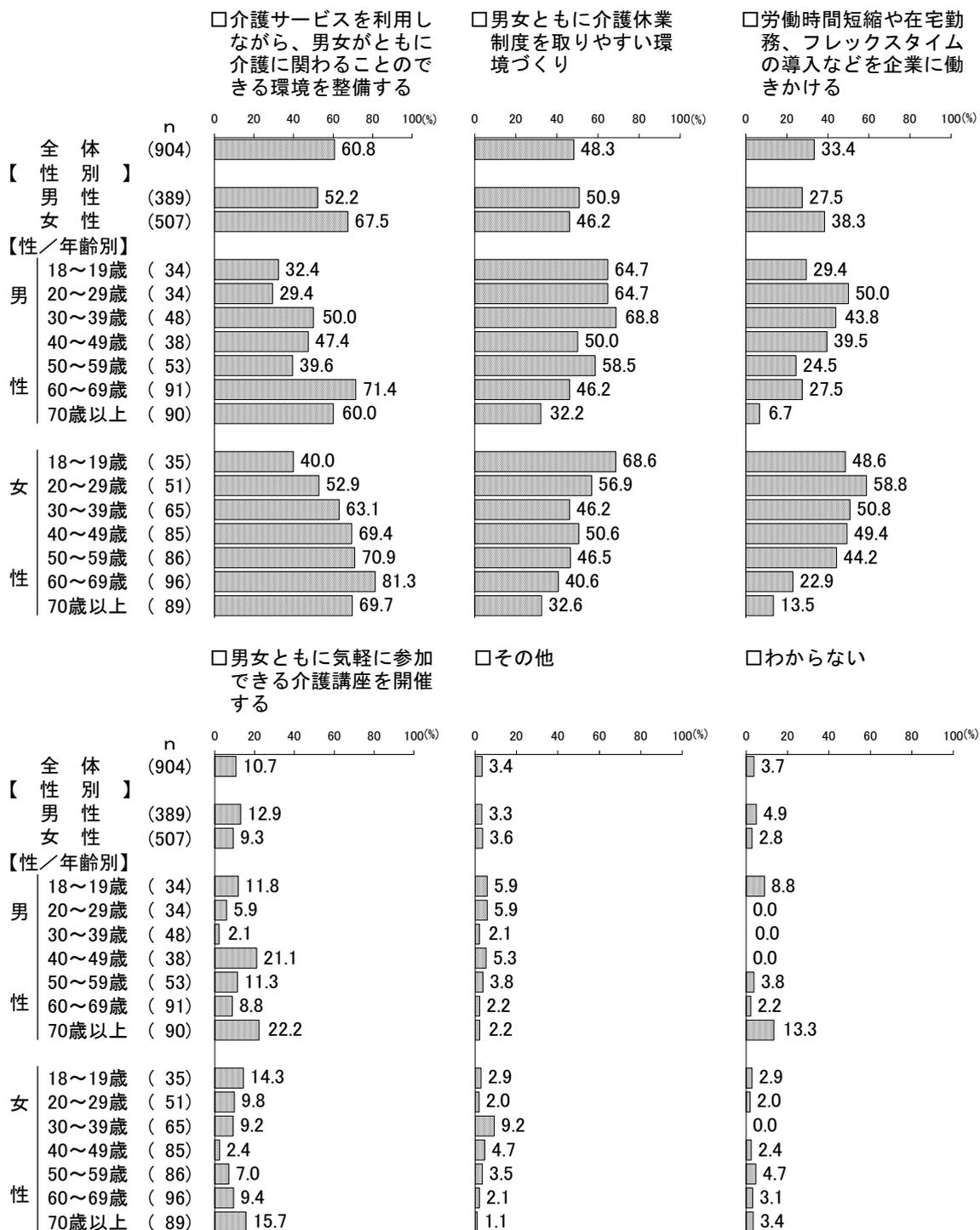


男女がともに介護を担うために必要なことを聞いたところ、「介護サービスを利用しながら、男女がともに介護に関わることのできる環境を整備する」(60.8%)が約6割で最も高く、次いで「男女ともに介護休業制度を取りやすい環境づくり」(48.3%)、「労働時間短縮や在宅勤務、フレックスタイムの導入などを企業に働きかける」(33.4%)、「男女ともに気軽に参加できる介護講座を開催する」(10.7%)となっている。

<性別、性／年齢別>

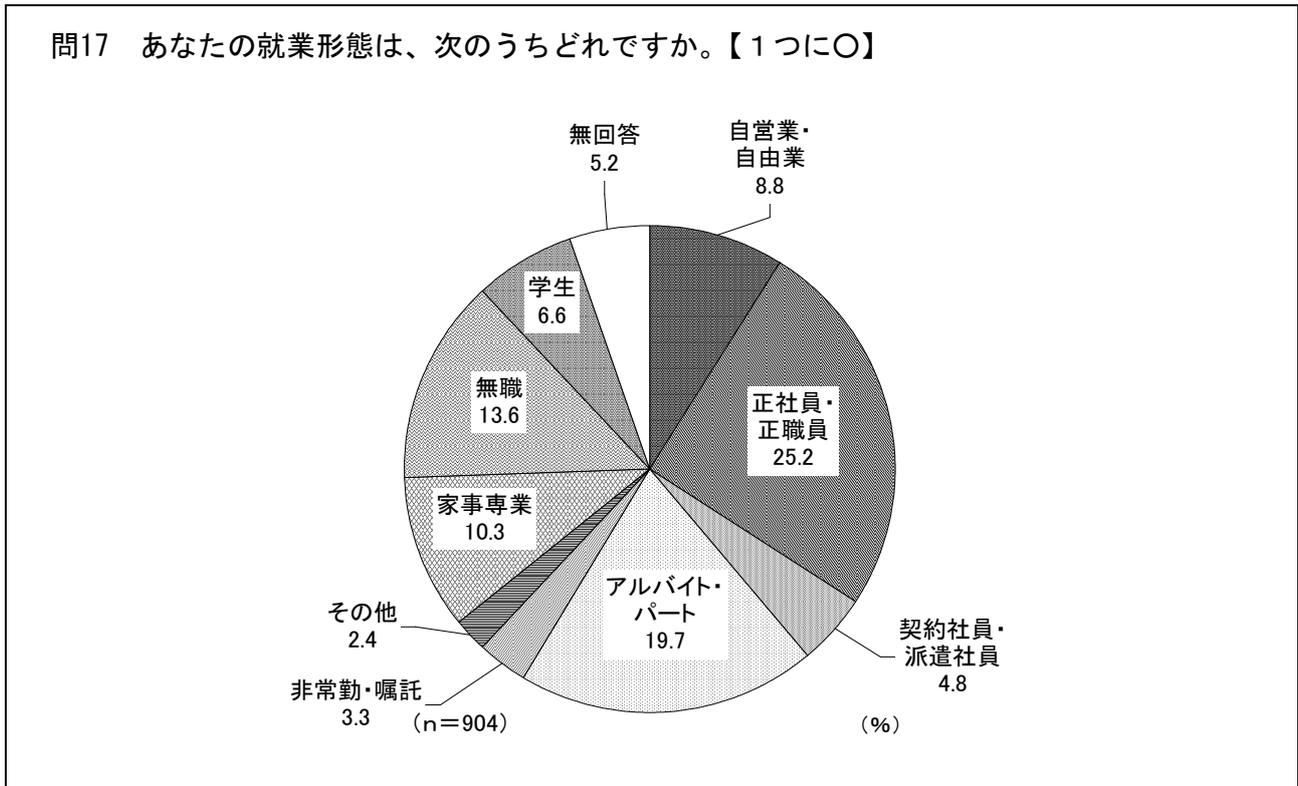
性別でみると、「介護サービスを利用しながら、男女がともに介護に関わることのできる環境を整備する」は女性（67.5%）が男性（52.2%）より15.3ポイント、「労働時間短縮や在宅勤務、フレックスタイムの導入などを企業に働きかける」は女性（38.3%）が男性（27.5%）より10.8ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「男女ともに介護休業制度を取りやすい環境づくり」は男性（50.9%）が女性（46.2%）より4.7ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「介護サービスを利用しながら、男女がともに介護に関わることのできる環境を整備する」は女性60～69歳（81.3%）で8割を超え、男性60～69歳（71.4%）で7割を超えて高くなっている。「男女ともに介護休業制度を取りやすい環境づくり」は男性30～39歳（68.8%）と女性18～19歳（68.6%）で7割近くと高くなっている。



3 就業について

(1) 就業形態

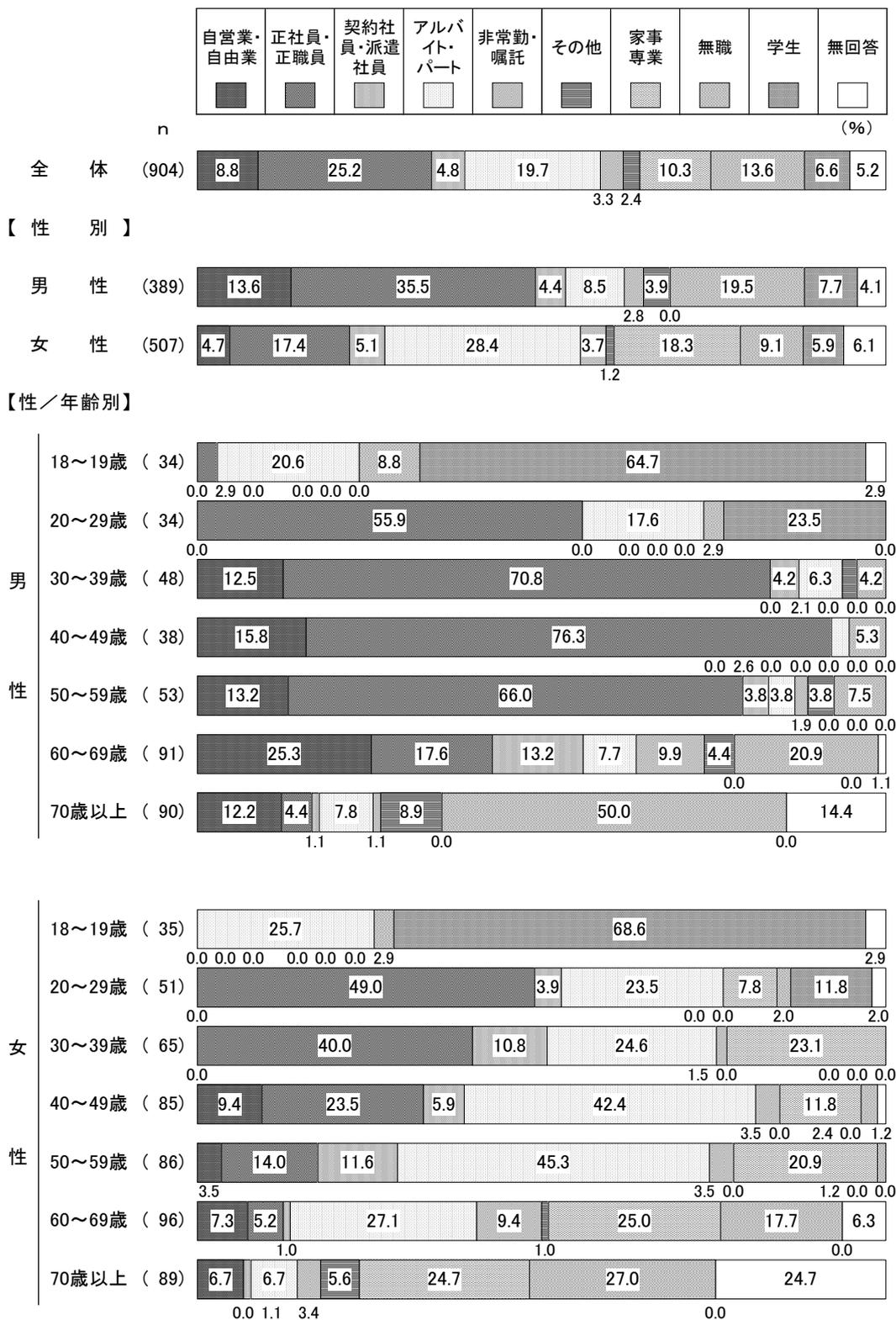


就業形態を聞いたところ、「正社員・正職員」(25.2%)が2割半ばで最も高く、次いで「アルバイト・パート」(19.7%)、「無職」(13.6%)、「家事専業」(10.3%)となっている。

<性別、性／年齢別>

性別で見ると、「正社員・正職員」は男性（35.5%）が女性（17.4%）より18.1ポイント高くなっている。一方、「アルバイト・パート」は女性（28.4%）が男性（8.5%）より19.9ポイント高くなっている。

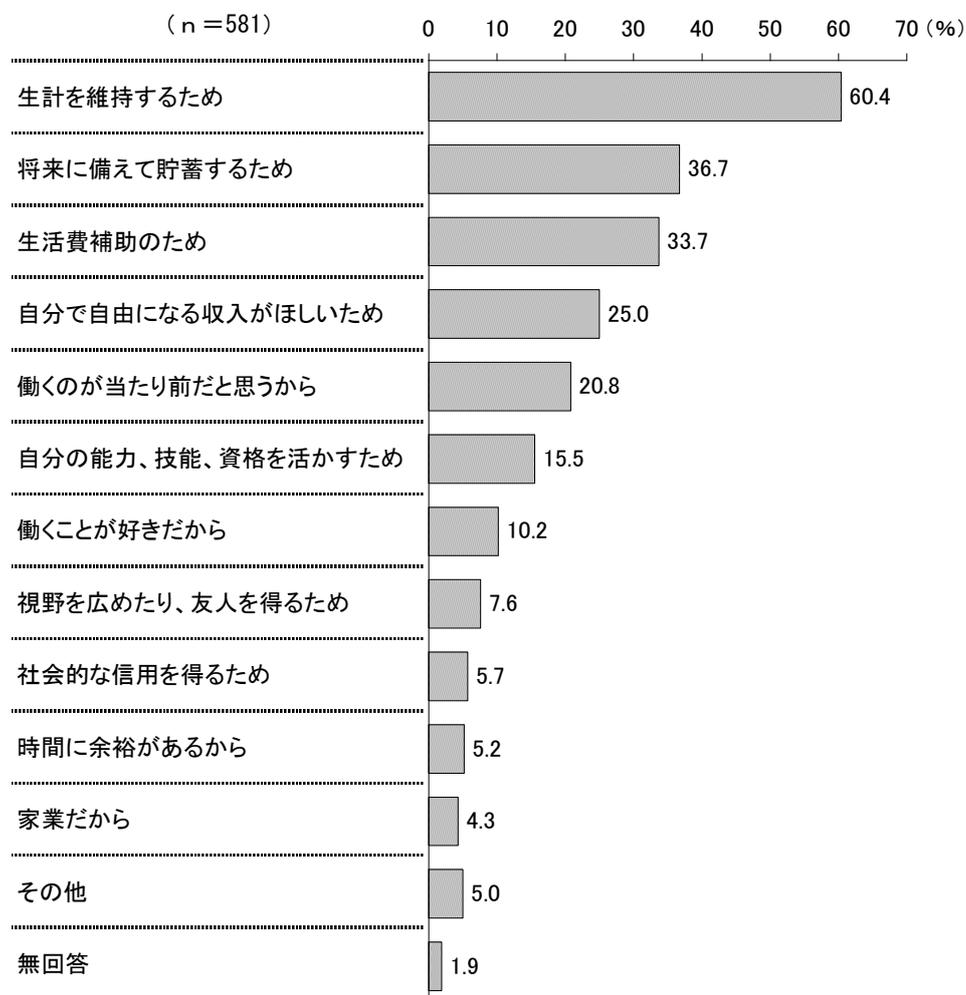
性／年齢別で見ると、「正社員・正職員」は男性30～39歳（70.8%）と男性40～49歳（76.3%）で7割台と高くなっている。「アルバイト・パート」は女性40～49歳（42.4%）と女性50～59歳（45.3%）で4割台と高くなっている。



(2) 働いて収入を得ている理由

【問17で、「自営業・自由業」「正社員・正職員」「契約社員・派遣社員」「アルバイト・パート」「非常勤・嘱託」「その他」とお答えの方にかがいます】

問17-1 あなたが働いて収入を得ている主な理由は何ですか。【3つまでに○】

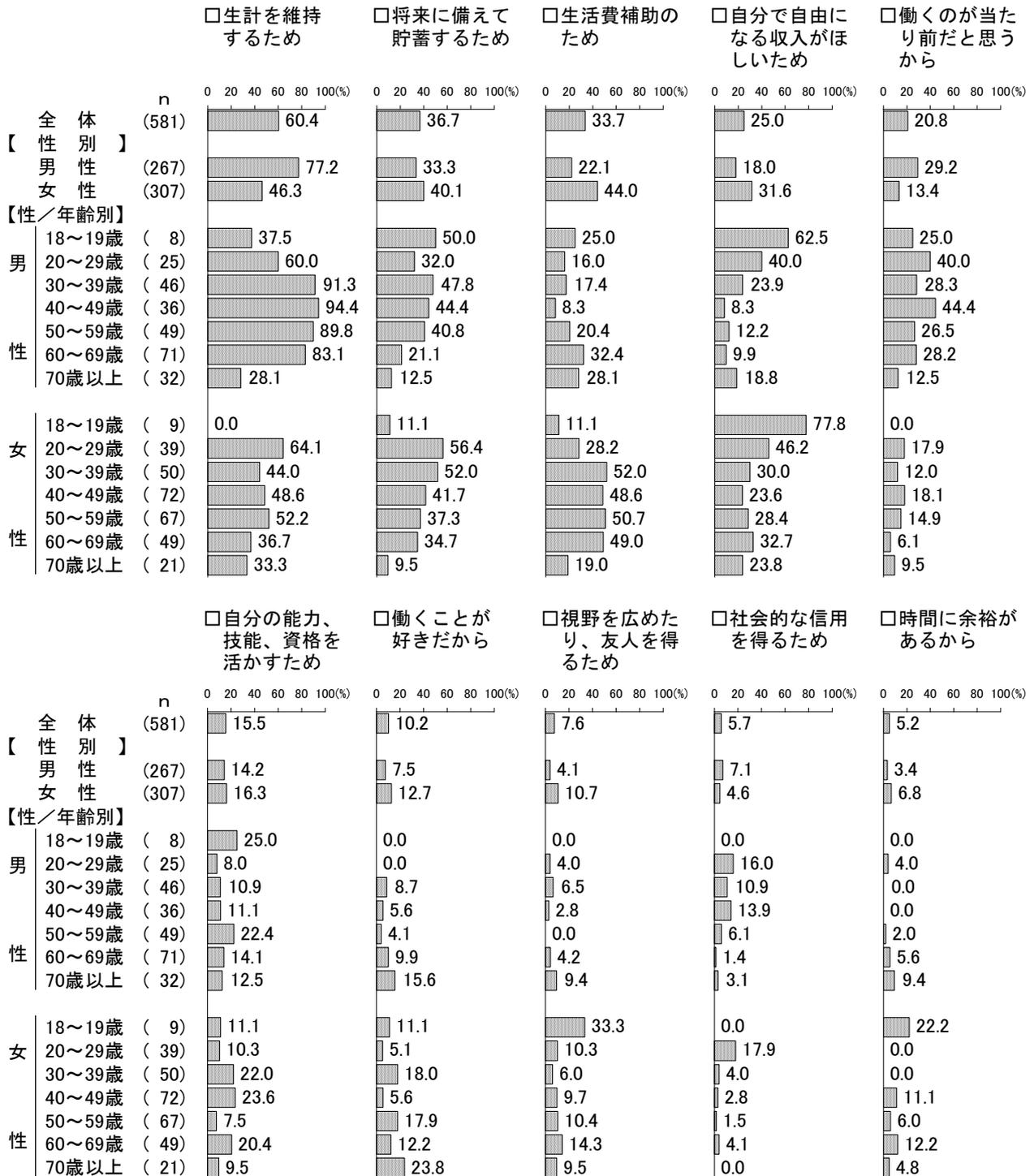


就業形態で「自営業・自由業」「正社員・正職員」「契約社員・派遣社員」「アルバイト・パート」「非常勤・嘱託」「その他」と答えた方に、働いて収入を得ている主な理由を聞いたところ、「生計を維持するため」(60.4%)が6割で最も高く、次いで「将来に備えて貯蓄するため」(36.7%)、「生活費補助のため」(33.7%)、「自分で自由になる収入がほしいため」(25.0%)となっている。

<性別、性／年齢別>（上位10項目）

性別で見ると、「生計を維持するため」は男性（77.2%）が女性（46.3%）より30.9ポイント高くなっている。一方、「生活費補助のため」は女性（44.0%）が男性（22.1%）より21.9ポイント高くなっている。

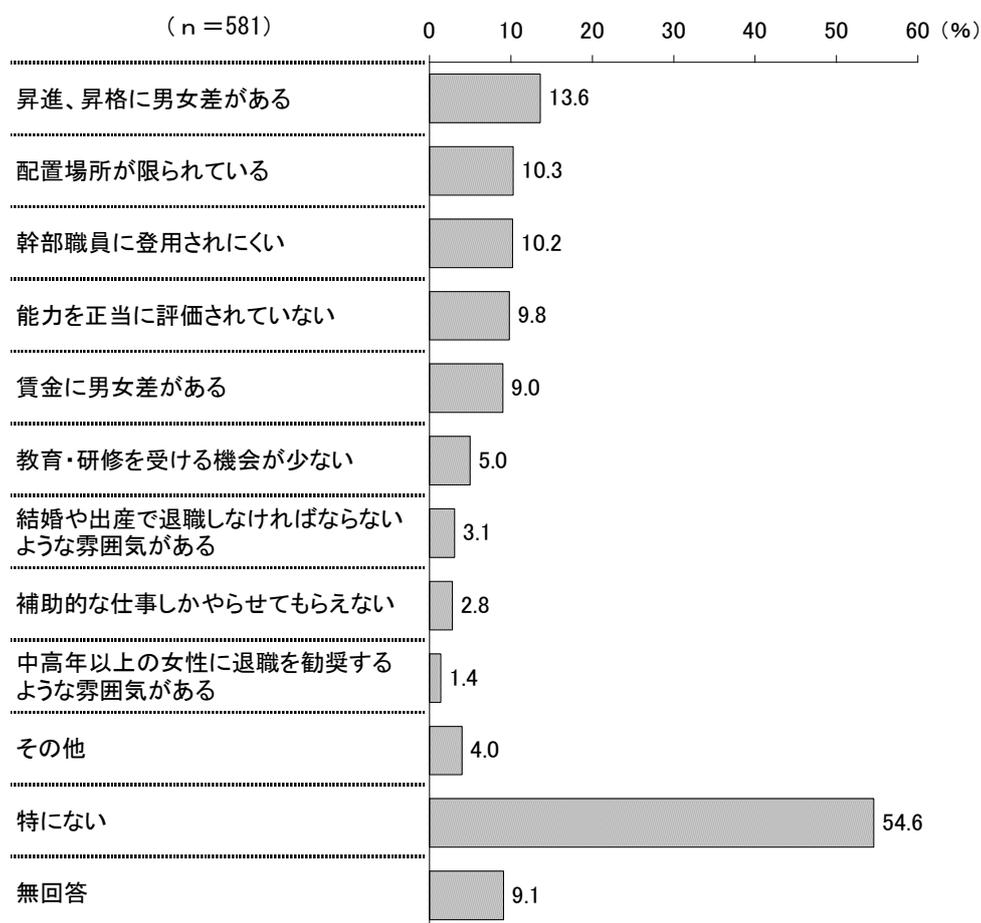
性／年齢別で見ると、「生計を維持するため」は男性40～49歳（94.4%）で9割半ばと高くなっている。「将来に備えて貯蓄するため」は女性20～29歳（56.4%）で5割半ばと高くなっている。「働くのが当たり前だと思ふから」は男性40～49歳（44.4%）で4割半ばと高くなっている。



(3) 職場における女性の仕事内容や待遇

【問17で、「自営業・自由業」「正社員・正職員」「契約社員・派遣社員」「アルバイト・パート」「非常勤・嘱託」「その他」とお答えの方にうかがいます】

問17-2 あなたの職場では、仕事の内容や待遇面で女性に対して次のようなことがありますか。【あてはまるものすべてに○】

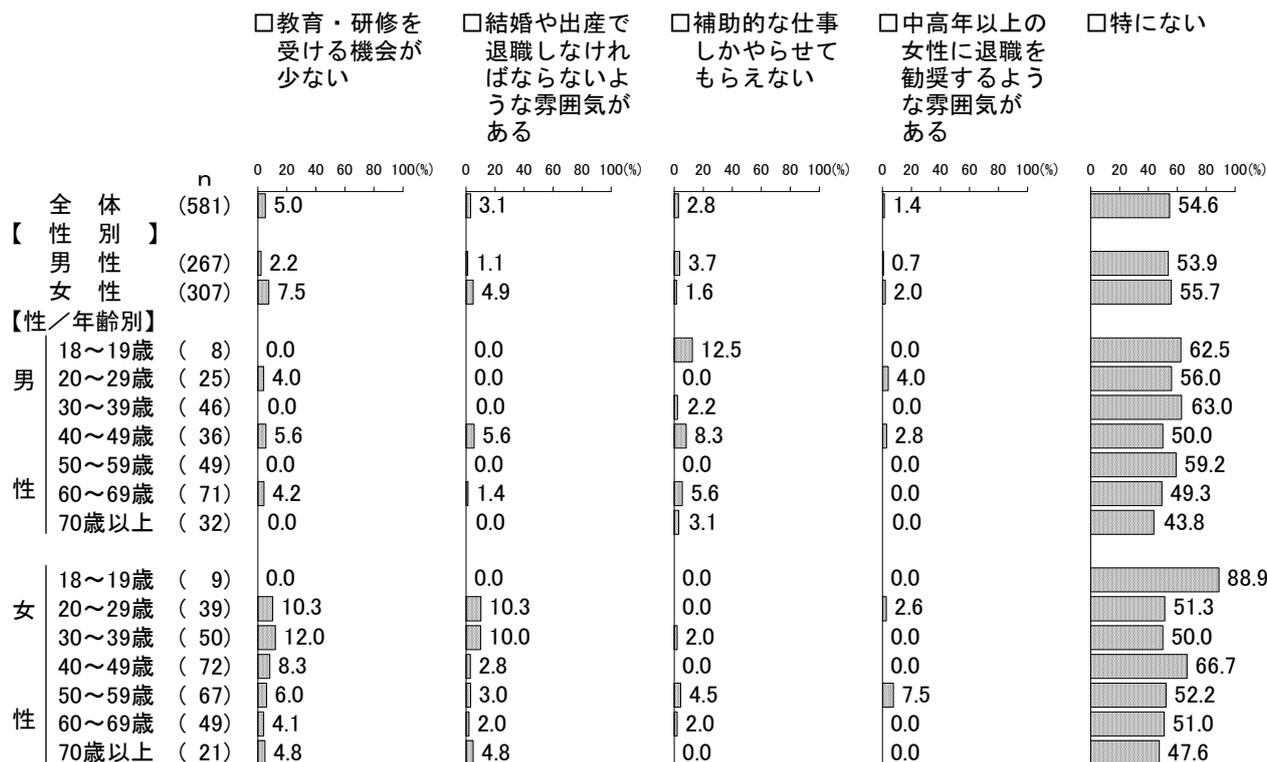
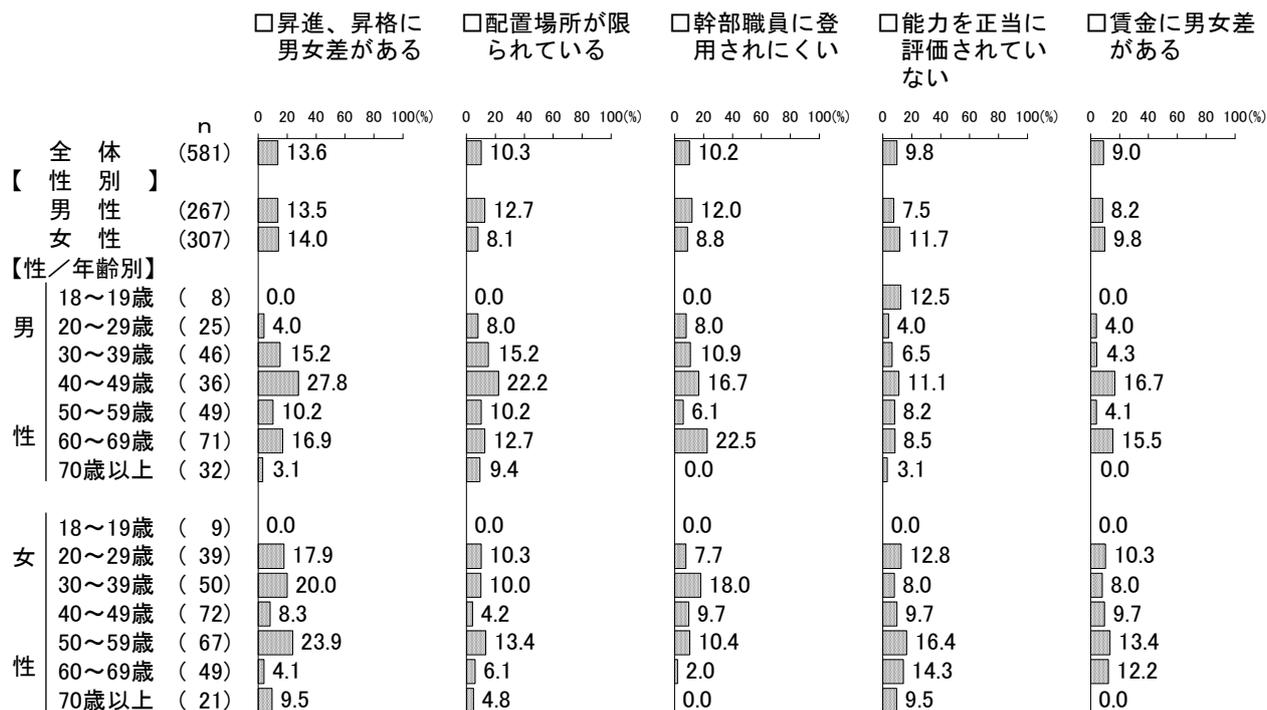


就業形態で「自営業・自由業」「正社員・正職員」「契約社員・派遣社員」「アルバイト・パート」「非常勤・嘱託」「その他」と答えた方に、職場における女性の仕事内容や待遇について聞いたところ、「昇進、昇格に男女差がある」(13.6%)が1割を超えて最も高く、次いで「配置場所が限られている」(10.3%)、「幹部職員に登用されにくい」(10.2%)、「能力を正當に評価されていない」(9.8%)、「賃金に男女差がある」(9.0%)となっている。一方、「特にない」(54.6%)は5割半ばとなっている。

<性別、性／年齢別>

性別で見ると、「教育・研修を受ける機会が少ない」は女性（7.5%）が男性（2.2%）より5.3ポイント高くなっている。一方、「配置場所が限られている」は男性（12.7%）が女性（8.1%）より4.6ポイント高くなっている。

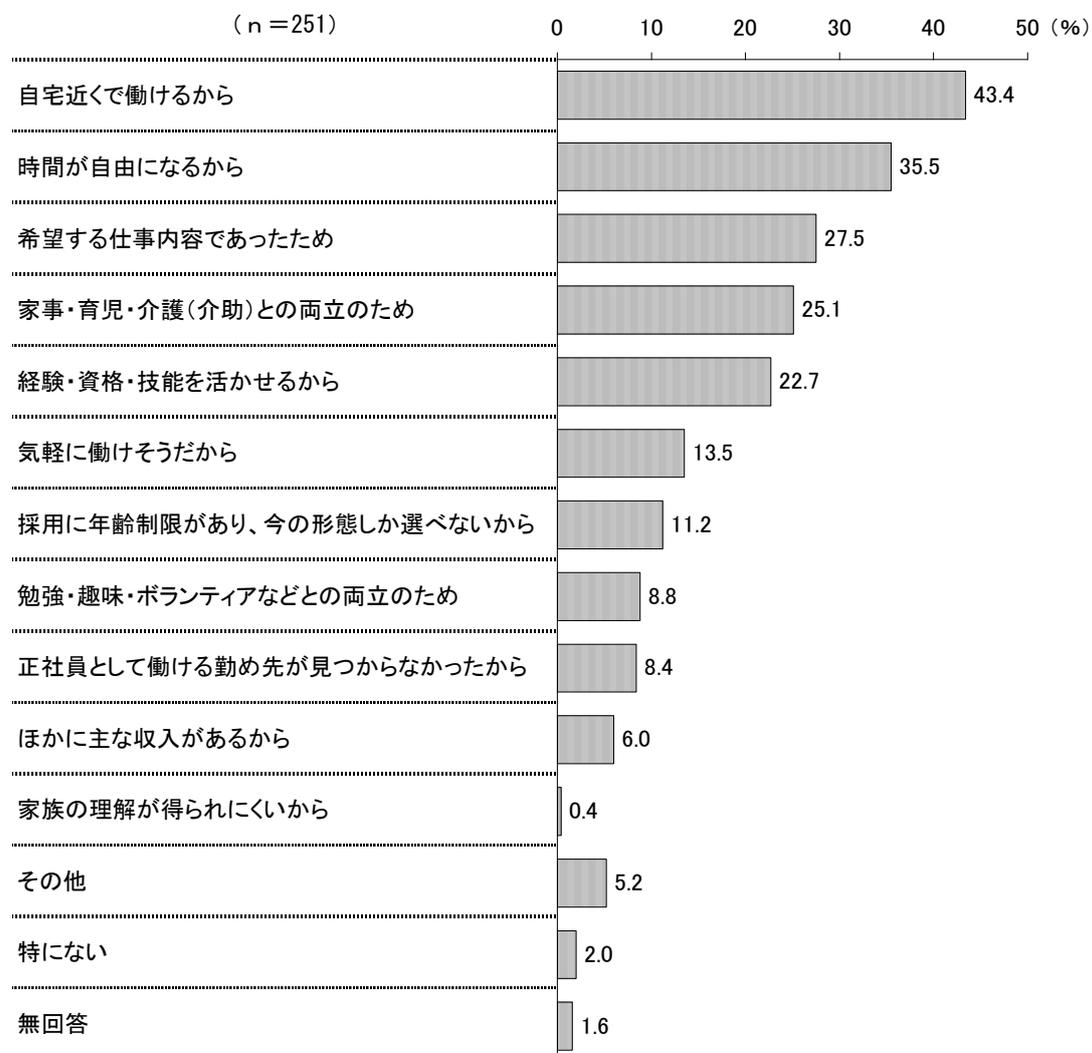
性／年齢別で見ると、「昇進、昇格に男女差がある」は男性40～49歳（27.8%）で3割近くと高くなっている。「配置場所が限られている」は男性40～49歳（22.2%）で2割を超えて高くなっている。「幹部職員に登用されにくい」は男性60～69歳（22.5%）で2割を超えて高くなっている。



(4) 現在の形態で働いている理由

【問17で、「契約社員・派遣社員」「アルバイト・パート」「非常勤・嘱託」とお答えの方にかがいます】

問17-3 現在の形態で働いている主な理由は何ですか。【3つまでに○】

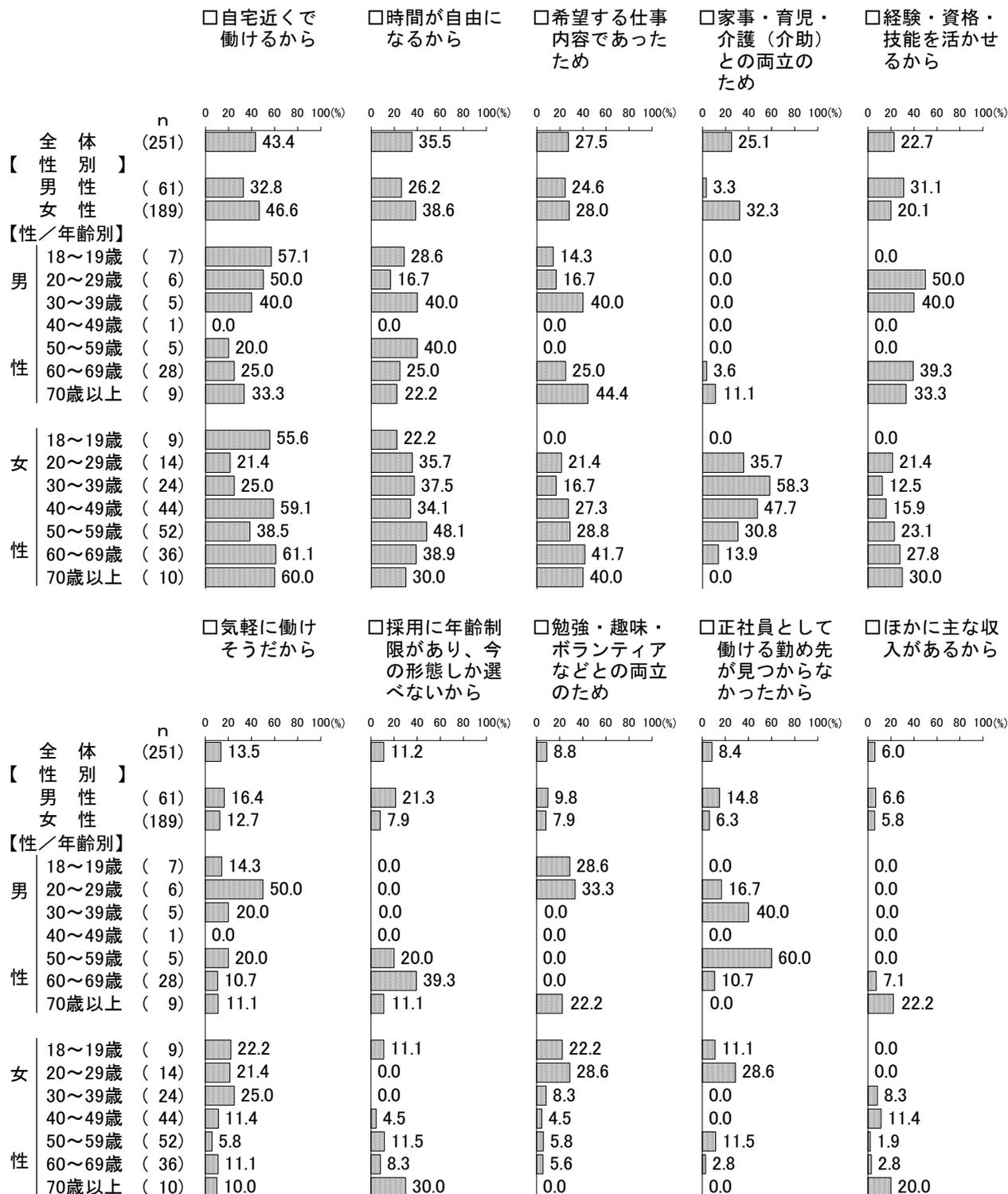


就業形態で「契約社員・派遣社員」「アルバイト・パート」「非常勤・嘱託」と答えた方に、現在の形態で働いている理由を聞いたところ、「自宅近くで働けるから」(43.4%)が4割を超えて最も高く、次いで「時間が自由になるから」(35.5%)、「希望する仕事内容であったため」(27.5%)、「家事・育児・介護(介助)との両立のため」(25.1%)、「経験・資格・技能を活かせるから」(22.7%)となっている。

<性別、性／年齢別>（上位10項目）

性別で見ると、「家事・育児・介護（介助）との両立のため」は女性（32.3%）が男性（3.3%）より29.0ポイント高くなっている。一方、「採用に年齢制限があり、今の形態しか選べないから」は男性（21.3%）が女性（7.9%）より13.4ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、「自宅近くで働けるから」は女性60～69歳（61.1%）で6割を超えて高くなっている。「家事・育児・介護（介助）との両立のため」は女性30～39歳（58.3%）で6割近くと高くなっている。

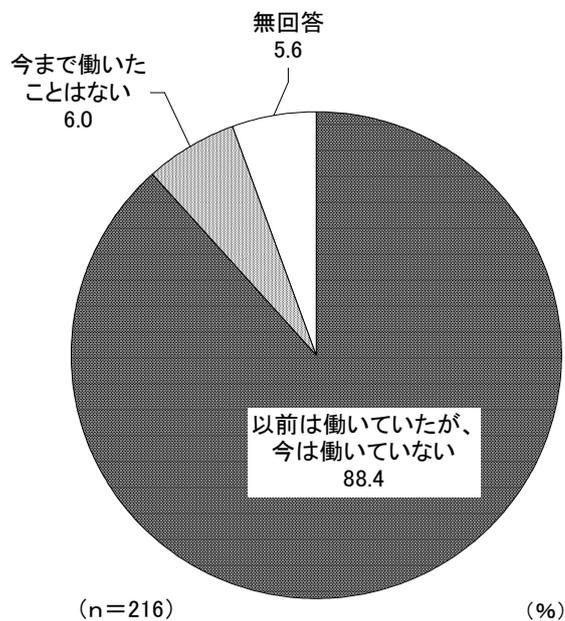


(5) 就業経験の有無

【問17で、「家事専業」「無職」とお答えの方にうかがいます】

問17-4 あなたは、働いたこと（パート・自営業・臨時・内職等も含む）がありますか。

【1つに〇】

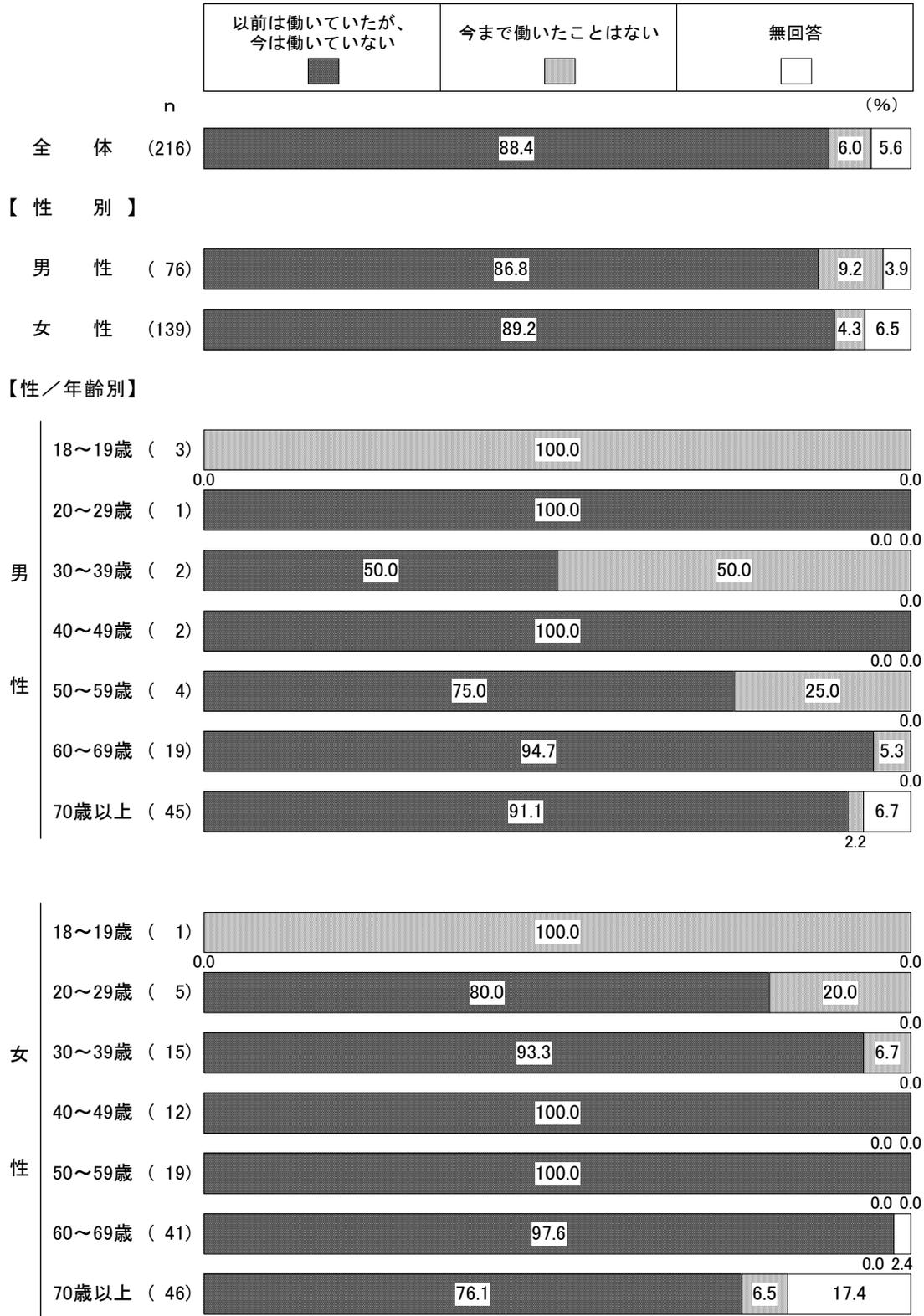


就業形態で「家事専業」「無職」と答えた方に、働いたことがあるか聞いたところ、「以前は働いていたが、今は働いていない」(88.4%)が9割近く、「今まで働いたことはない」(6.0%)は1割未満となっている。

<性別、性／年齢別>

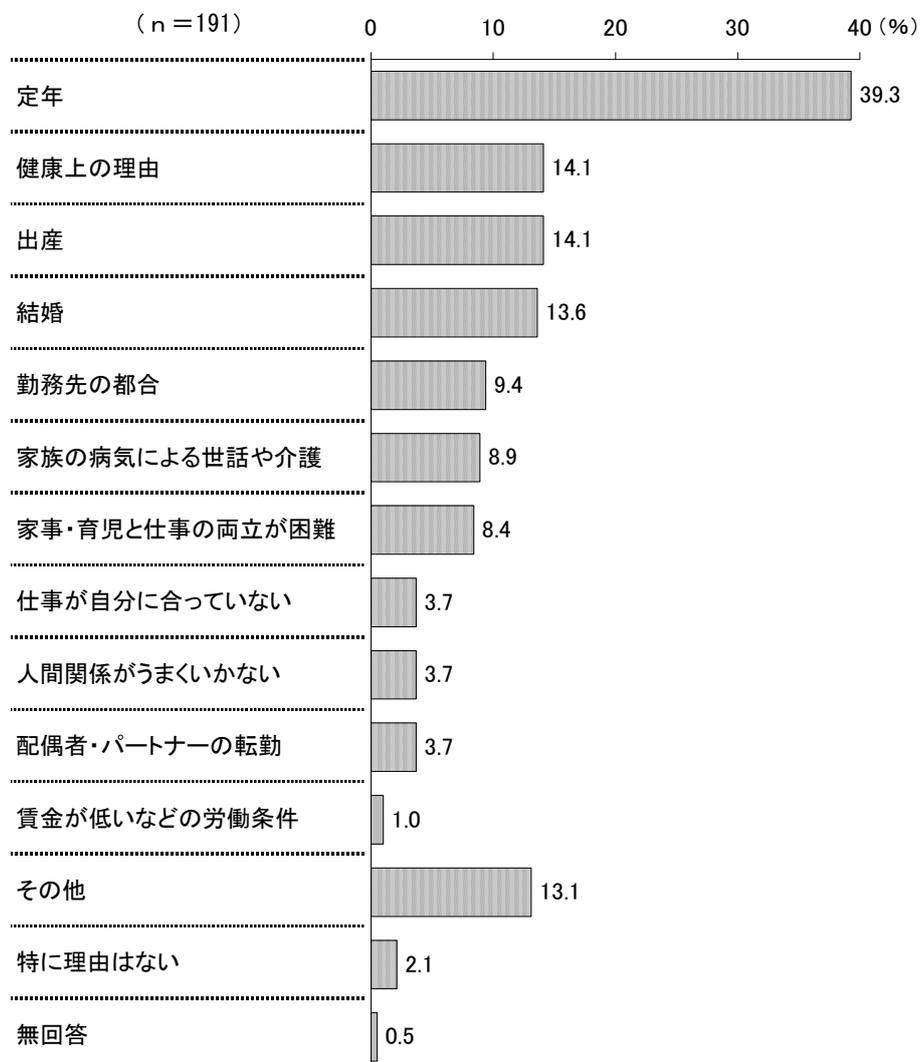
性別で見ると、「今まで働いたことはない」は男性（9.2%）が女性（4.3%）より4.9ポイント高くなっている。

性／年齢別は基数が少ないため、参考に図示する。



(6) 仕事を辞めた理由

【問17-4で、「以前は働いていたが、今は働いていない」とお答えの方にかがいます】
問17-5 あなたが仕事を辞めた理由は何ですか。【3つまでに○】

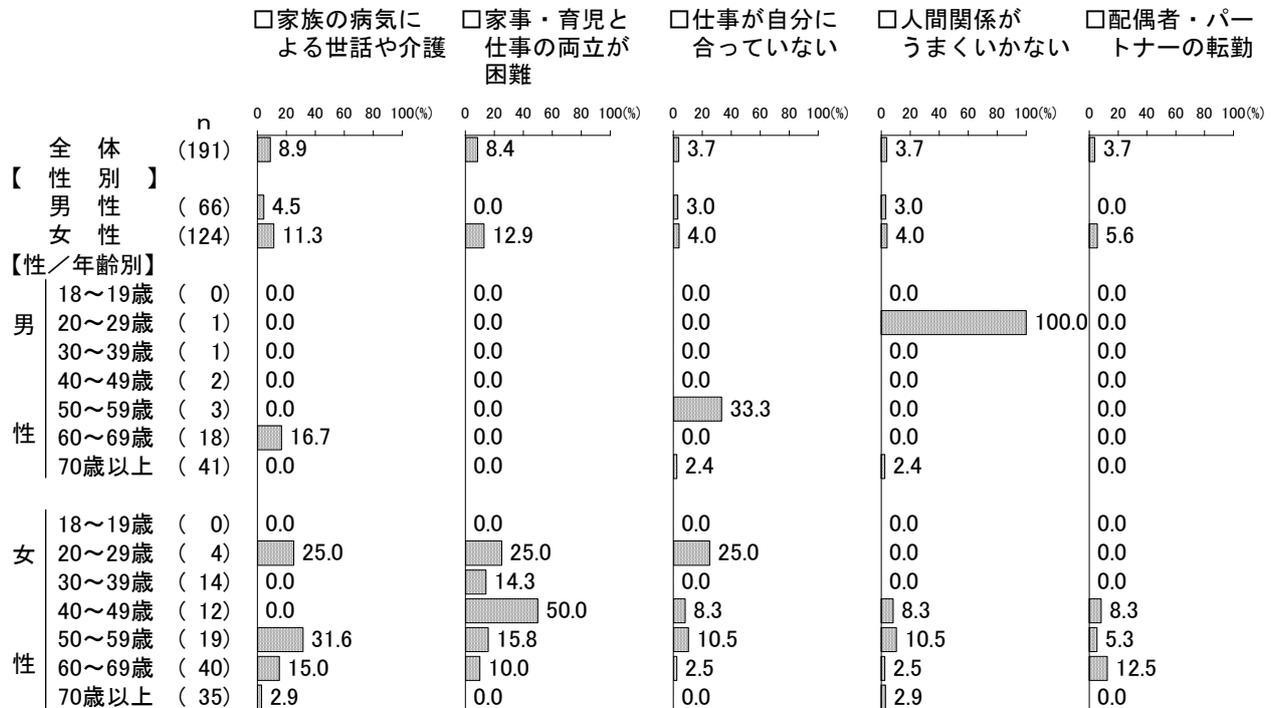
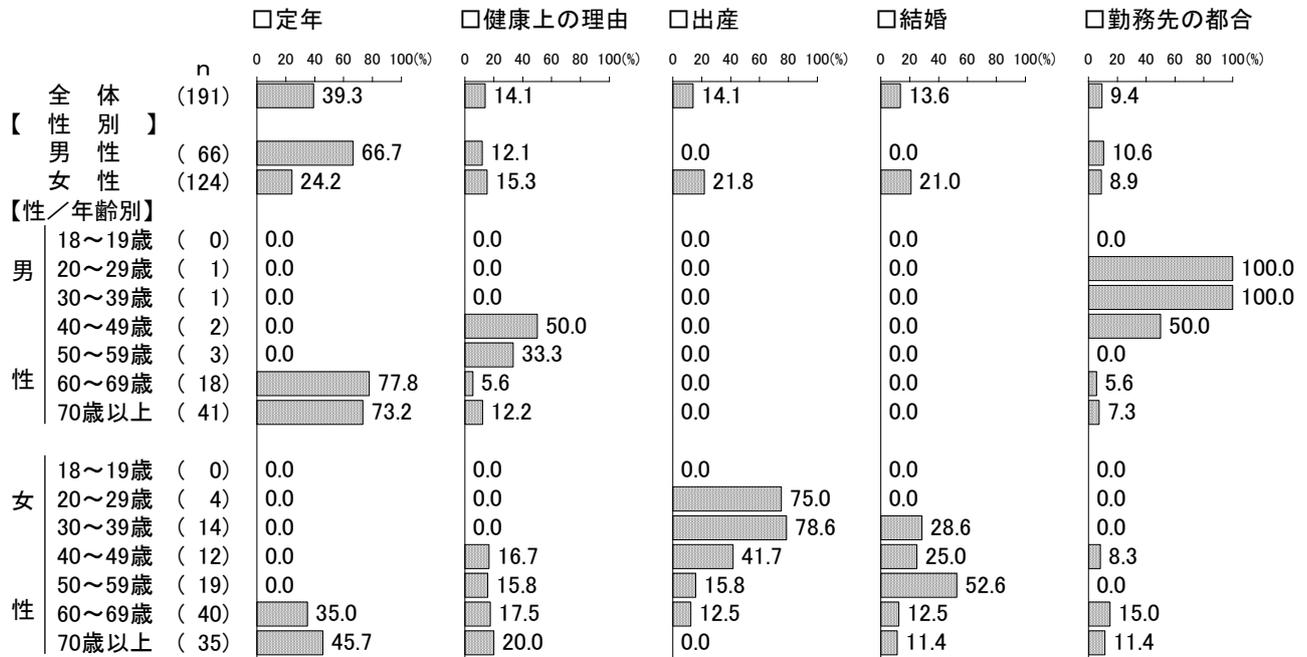


就業経験の有無で「以前は働いていたが、今は働いていない」と答えた方に、仕事を辞めた理由を聞いたところ、「定年」(39.3%)が約4割で最も高く、次いで「健康上の理由」(14.1%)、「出産」(14.1%)、「結婚」(13.6%)、「勤務先の都合」(9.4%)となっている。

<性別、性／年齢別>（上位10項目）

性別で見ると、「定年」は男性（66.7%）が女性（24.2%）より42.5ポイント高くなっている。一方、「結婚」は女性（21.0%）が男性（0.0%）より21.0ポイント高くなっている。「出産」は女性が21.8%となっている。

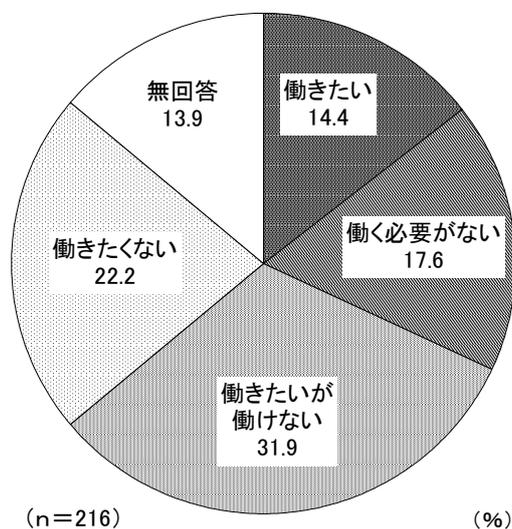
性／年齢別は基数が少ないため、参考に図示する。



(7) 将来の就業希望

【問17で、「家事専業」「無職」とお答えの方にうかがいます】

問17-6 現在または将来、あなたは働きたいと思えますか。ここでは雇われる働き方ではなく、自分や仲間と新しく事業をはじめることも含めてお答えください。【1つに○】

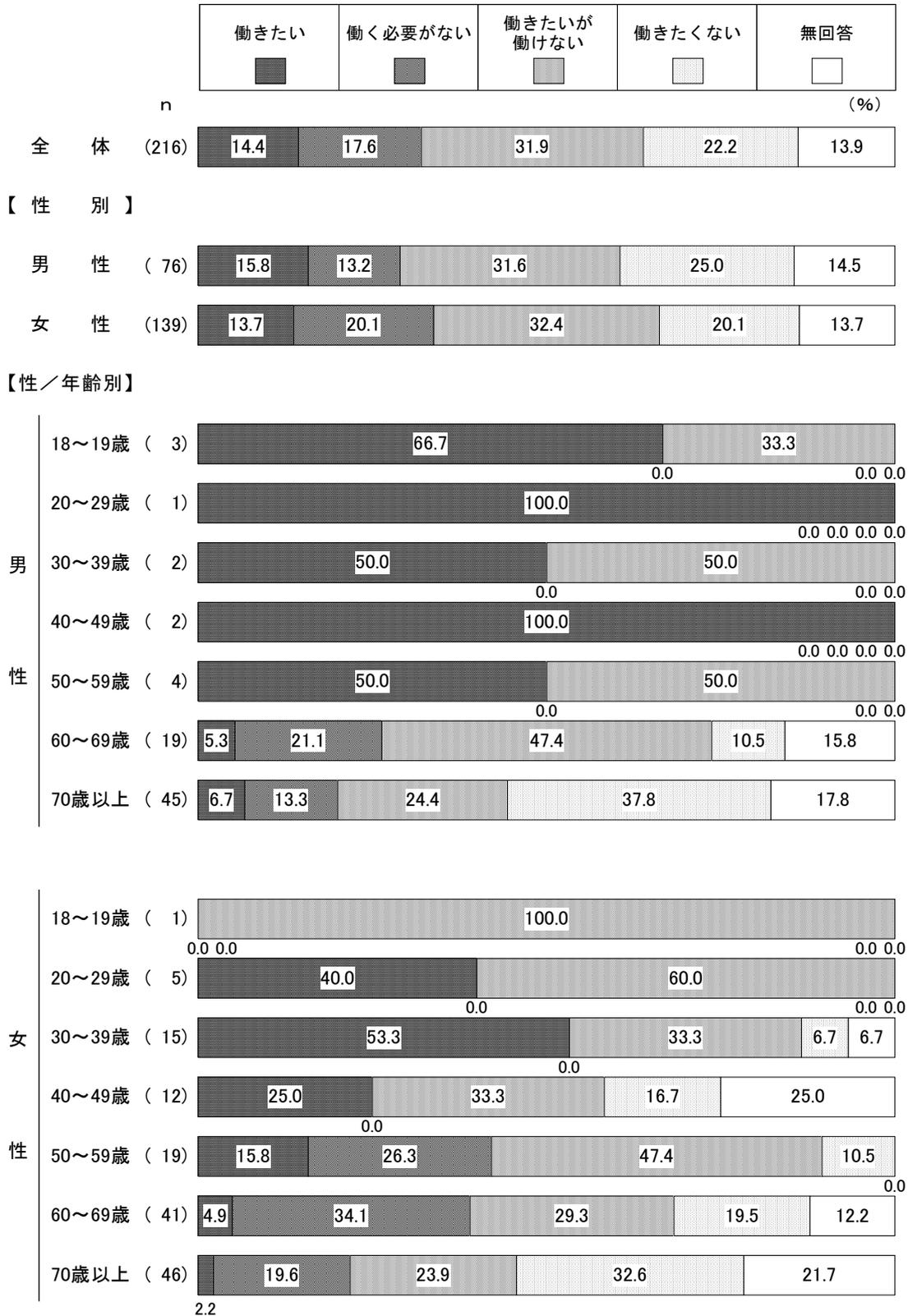


就業形態で「家事専業」「無職」と答えた方に、現在または将来、働きたいと思うか聞いたところ、「働きたいが働けない」(31.9%)が3割を超えて最も高く、次いで「働きたくない」(22.2%)、「働く必要がない」(17.6%)、「働きたい」(14.4%)となっている。

<性別、性／年齢別>

性別で見ると、「働く必要がない」は女性（20.1%）が男性（13.2%）より6.9ポイント高くなっている。一方、「働きたくない」は男性（25.0%）が女性（20.1%）より4.9ポイント高くなっている。

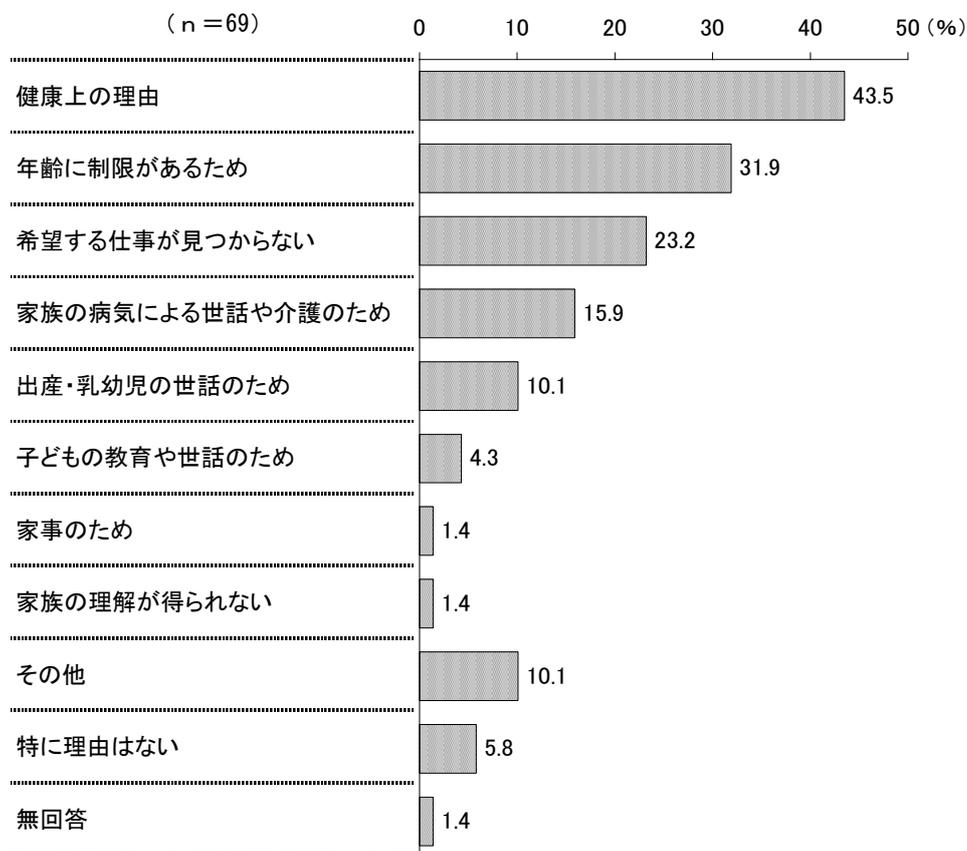
性／年齢別は基数が少ないため、参考に図示する。



(8) 働きたいが働けない理由

【問17-6で、「働きたいが働けない」とお答えの方にかがいます】

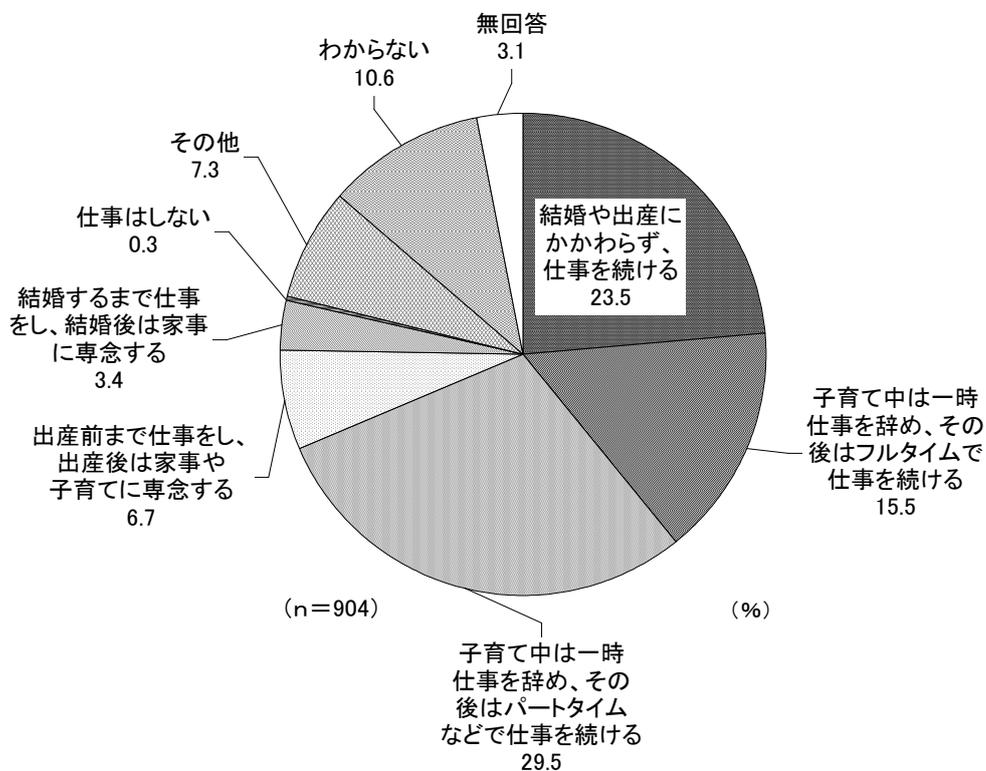
問17-7 その主な理由は何ですか。【2つまでに○】



将来の就業希望で「働きたいが働けない」と答えた方に、その理由を聞いたところ、「健康上の理由」(43.5%)が4割を超えて最も高く、次いで「年齢に制限があるため」(31.9%)、「希望する仕事が見つからない」(23.2%)、「家族の病気による世話や介護のため」(15.9%)、「出産・乳幼児の世話のため」(10.1%)となっている。

(9) 女性の働き方について望ましいと思うもの

問18 女性の働き方について、あなたが望ましいと思うのは次のどれですか。【1つに○】

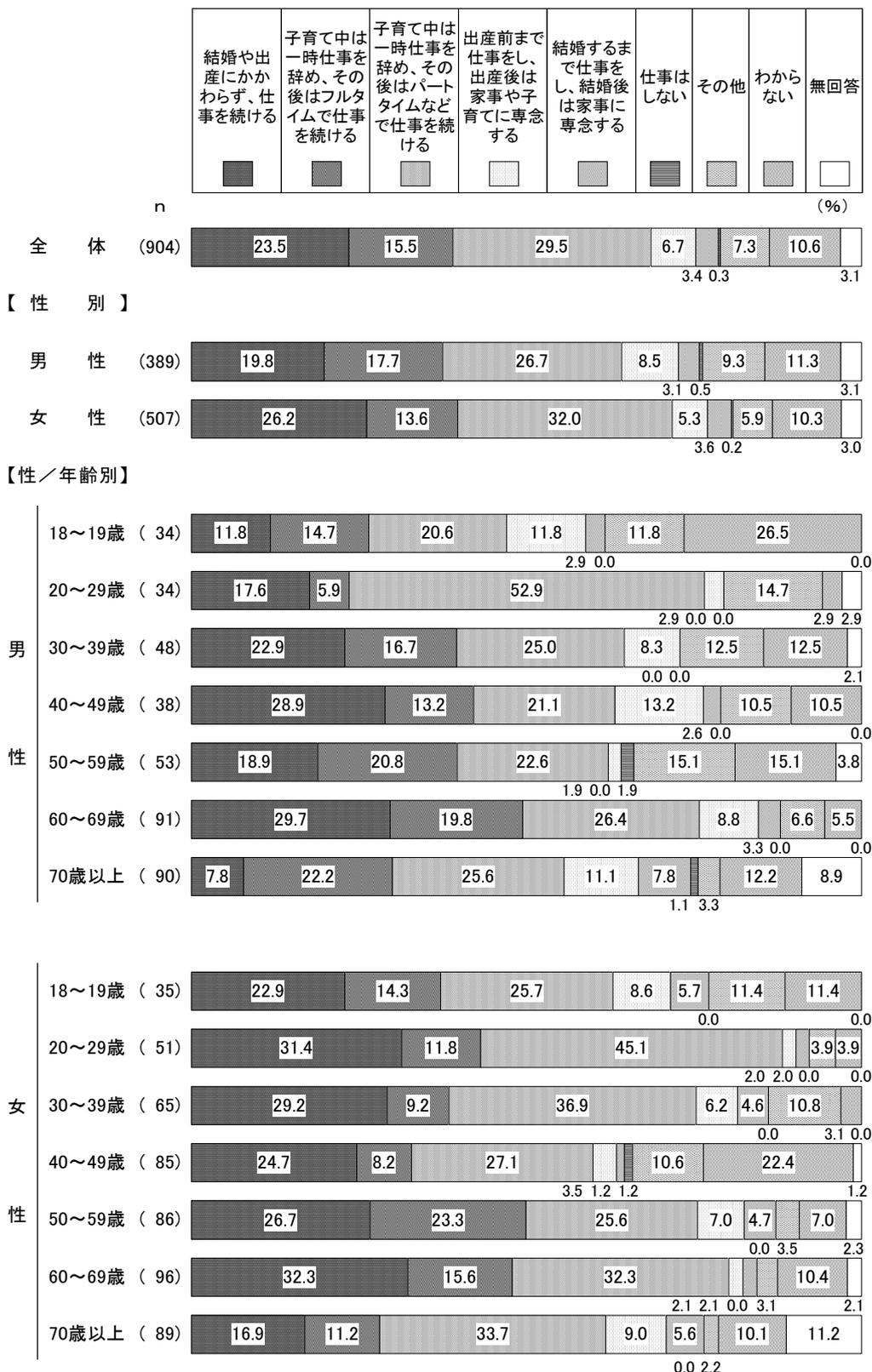


女性の働き方について望ましいと思うものを聞いたところ、「子育て中は一時仕事を辞め、その後はパートタイムなどで仕事を続ける」(29.5%)が3割で最も高く、次いで「結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける」(23.5%)、「子育て中は一時仕事を辞め、その後はフルタイムで仕事を続ける」(15.5%)、「出産前まで仕事をし、出産後は家事や子育てに専念する」(6.7%)となっている。

<性別、性／年齢別>

性別でみると、「結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける」は女性（26.2%）が男性（19.8%）より6.4ポイント高くなっている。一方、「子育て中は一時仕事を辞め、その後はフルタイムで仕事を続ける」は男性（17.7%）が女性（13.6%）より4.1ポイント高くなっている。

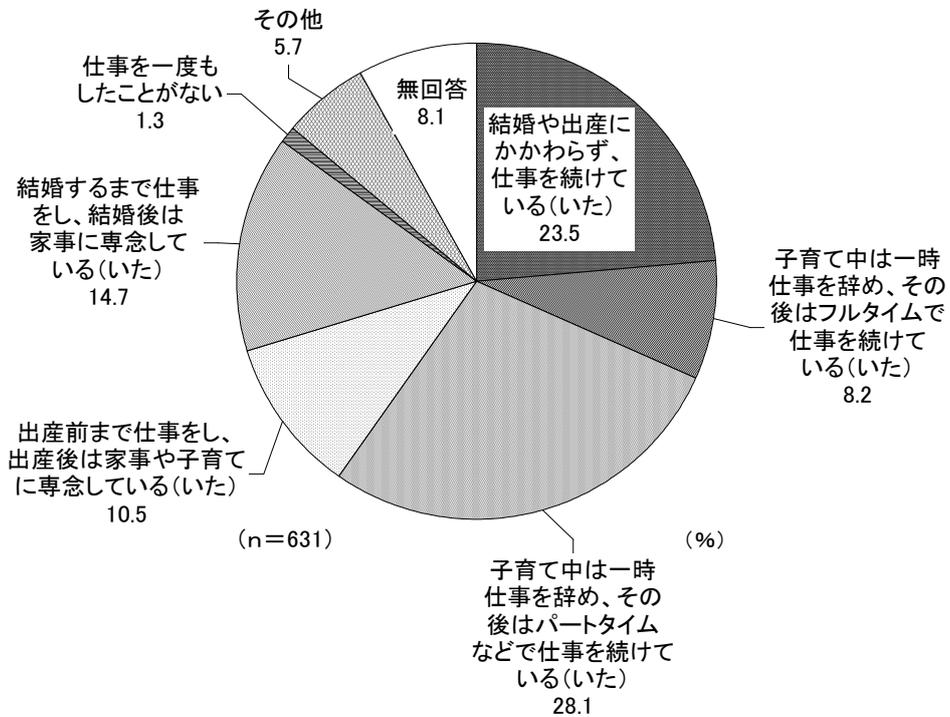
性／年齢別でみると、「結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける」は女性20～29歳（31.4%）と女性60～69歳（32.3%）で3割を超えて高くなっている。「子育て中は一時仕事を辞め、その後はパートタイムなどで仕事を続ける」は男性20～29歳（52.9%）で5割を超えて高くなっている。



(10) 女性の働き方の現状

【配偶者・パートナーがいる方のみうかがいます】

問19 女性（ご自身または配偶者・パートナーに関して）の働き方について、あなたのご家庭での現状は次のどれですか。【1つに〇】

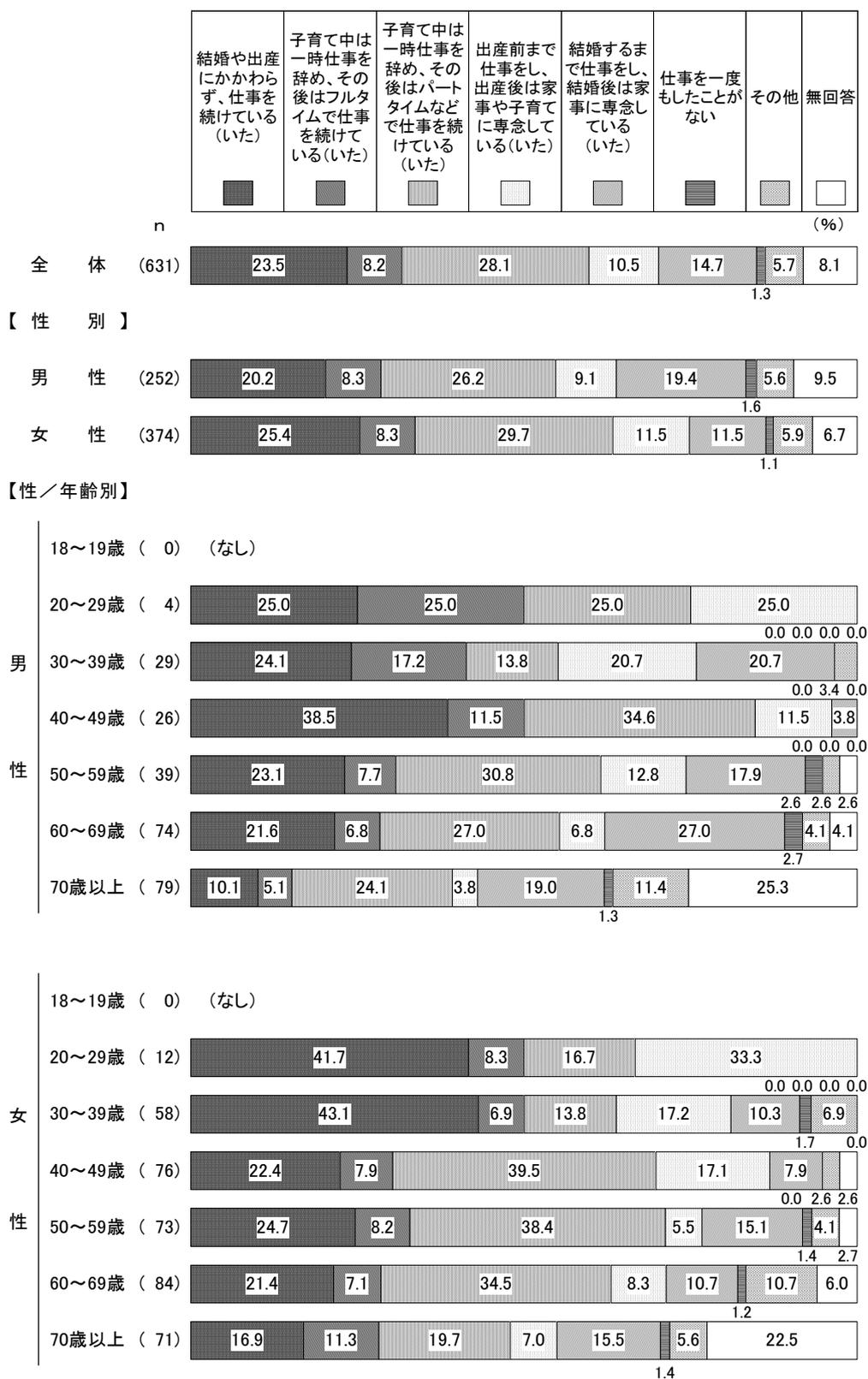


配偶者・パートナーがいる方に、女性の働き方について家庭での現状を聞いたところ、「子育て中は一時仕事を辞め、その後はパートタイムなどで仕事をしている（いた）」（28.1%）が3割近くで最も高く、次いで「結婚や出産にかかわらず、仕事を続けている（いた）」（23.5%）、「結婚するまで仕事をし、結婚後は家事に専念している（いた）」（14.7%）、「出産前まで仕事をし、出産後は家事や子育てに専念している（いた）」（10.5%）となっている。

<性別、性／年齢別>

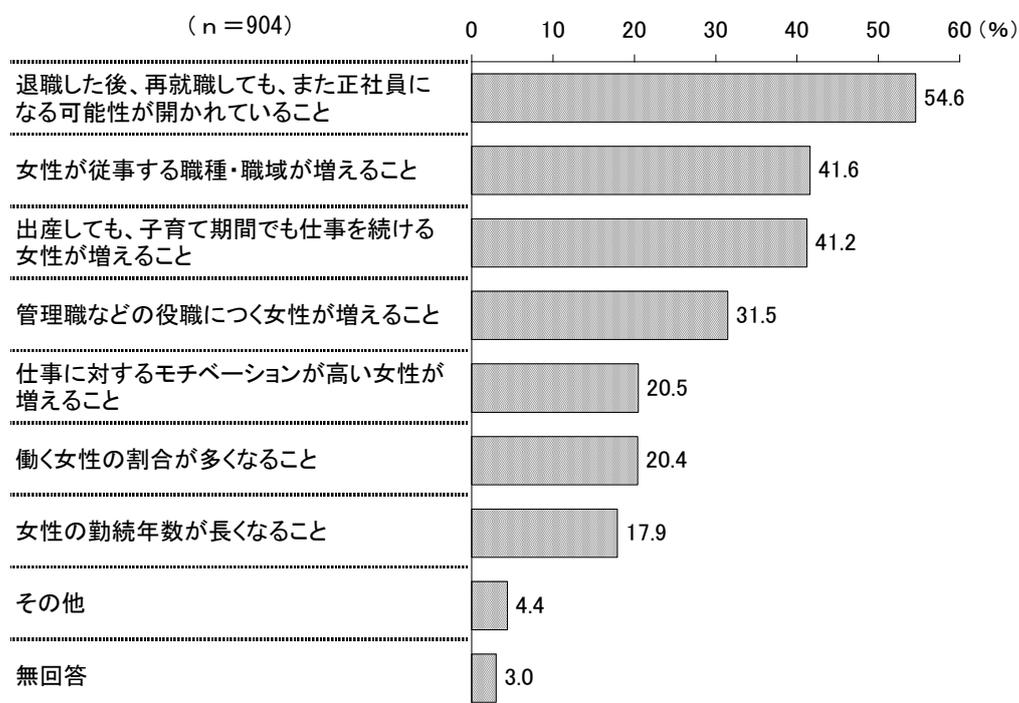
性別でみると、「結婚するまで仕事をし、結婚後は家事に専念している(いた)」は男性(19.4%)が女性(11.5%)より7.9ポイント高くなっている。一方、「結婚や出産にかかわらず、仕事を続けている(いた)」は女性(25.4%)が男性(20.2%)より5.2ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「結婚や出産にかかわらず、仕事を続けている(いた)」は女性30～39歳(43.1%)で4割を超えて高くなっている。「子育て中は一時仕事を辞め、その後はパートタイムなどで仕事を続けている(いた)」は女性40～49歳(39.5%)で4割と高くなっている。



(11) 働く場で「女性の活躍が推進されている」と言えるために必要なこと

問20 働く場で「女性の活躍が推進されている」と言えるためには、どのようなことが必要だと思いますか。【3つまでに○】

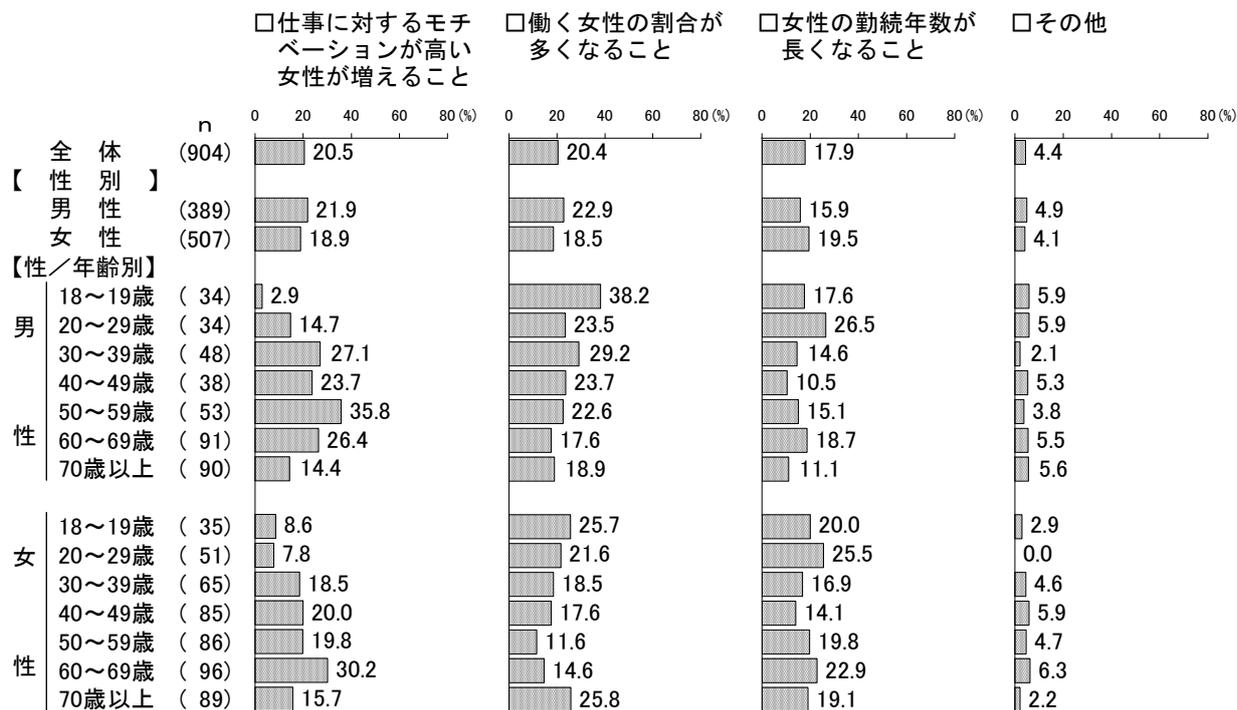
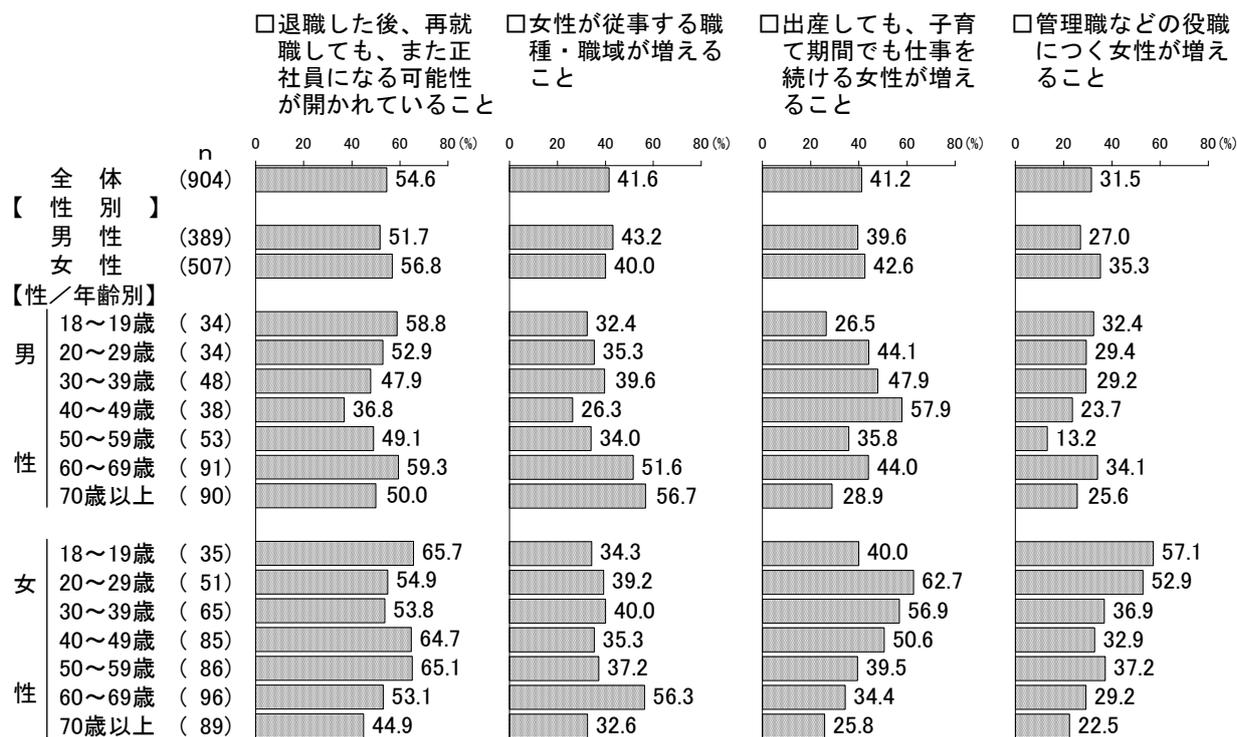


働く場で「女性の活躍が推進されている」と言えるために必要なことを聞いたところ、「退職した後、再就職しても、また正社員になる可能性が開かれていること」(54.6%)が5割半ばで最も高く、次いで「女性が従事する職種・職域が増えること」(41.6%)、「出産しても、子育て期間でも仕事を続ける女性が増えること」(41.2%)、「管理職などの役職につく女性が増えること」(31.5%)となっている。

<性別、性／年齢別>

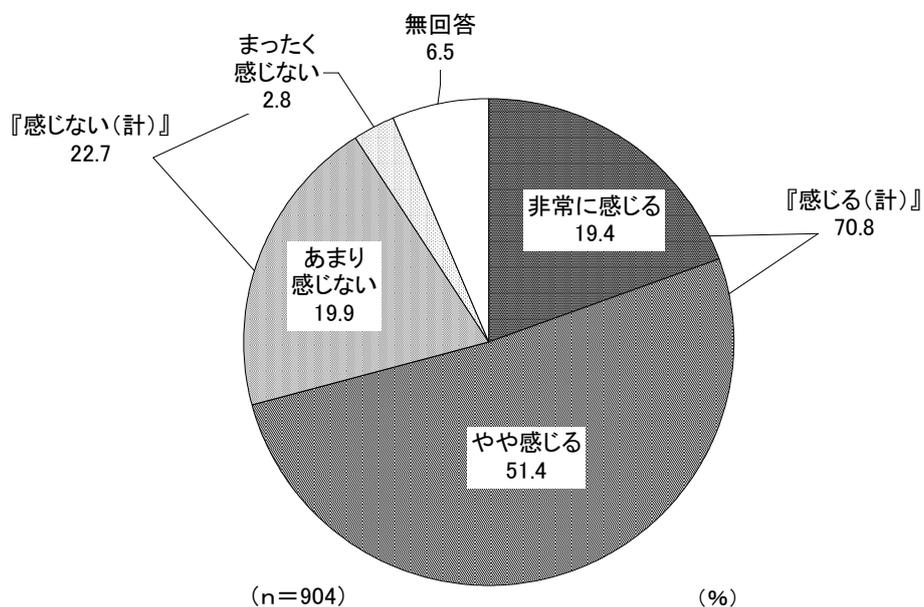
性別で見ると、「管理職などの役職につく女性が増えること」は女性（35.3%）が男性（27.0%）より8.3ポイント、「退職した後、再就職しても、また正社員になる可能性が開かれていること」は女性（56.8%）が男性（51.7%）より5.1ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「働く女性の割合が多くなること」は男性（22.9%）が女性（18.5%）より4.4ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、「退職した後、再就職しても、また正社員になる可能性が開かれていること」は女性18～19歳（65.7%）、女性40～49歳（64.7%）女性50～59歳（65.1%）で6割半ばと高くなっている。「出産しても、子育て期間でも仕事を続ける女性が増えること」は女性20～29歳（62.7%）で6割を超えて高くなっている。



(12) 女性が働き続けることを困難にしたり、妨げになっていることがあると感じるか

問21 今の社会全体から見て、女性が働き続けることを困難にしたり、妨げになっていることがあると感じますか。【1つに○】

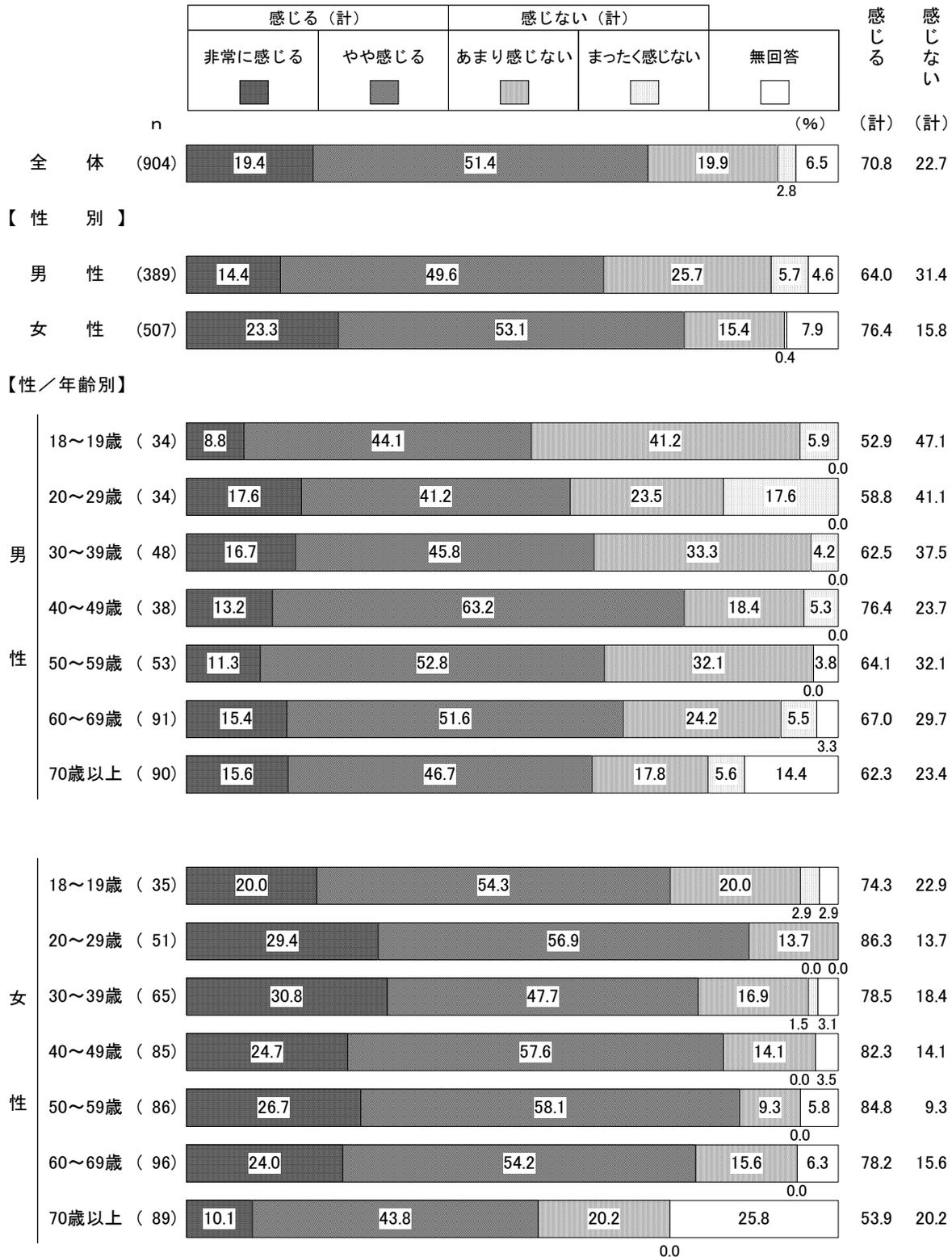


女性が働き続けることを困難にしたり、妨げになっていることがあると感じるか聞いたところ、「非常に感じる」(19.4%)と「やや感じる」(51.4%)を合わせた『感じる(計)』(70.8%)は約7割となっている。一方、「あまり感じない」(19.9%)と「まったく感じない」(2.8%)を合わせた『感じない(計)』(22.7%)は2割を超えている。

<性別、性／年齢別>

性別でみると、『感じる（計）』は女性（76.4%）が男性（64.0%）より12.4ポイント高くなっている。

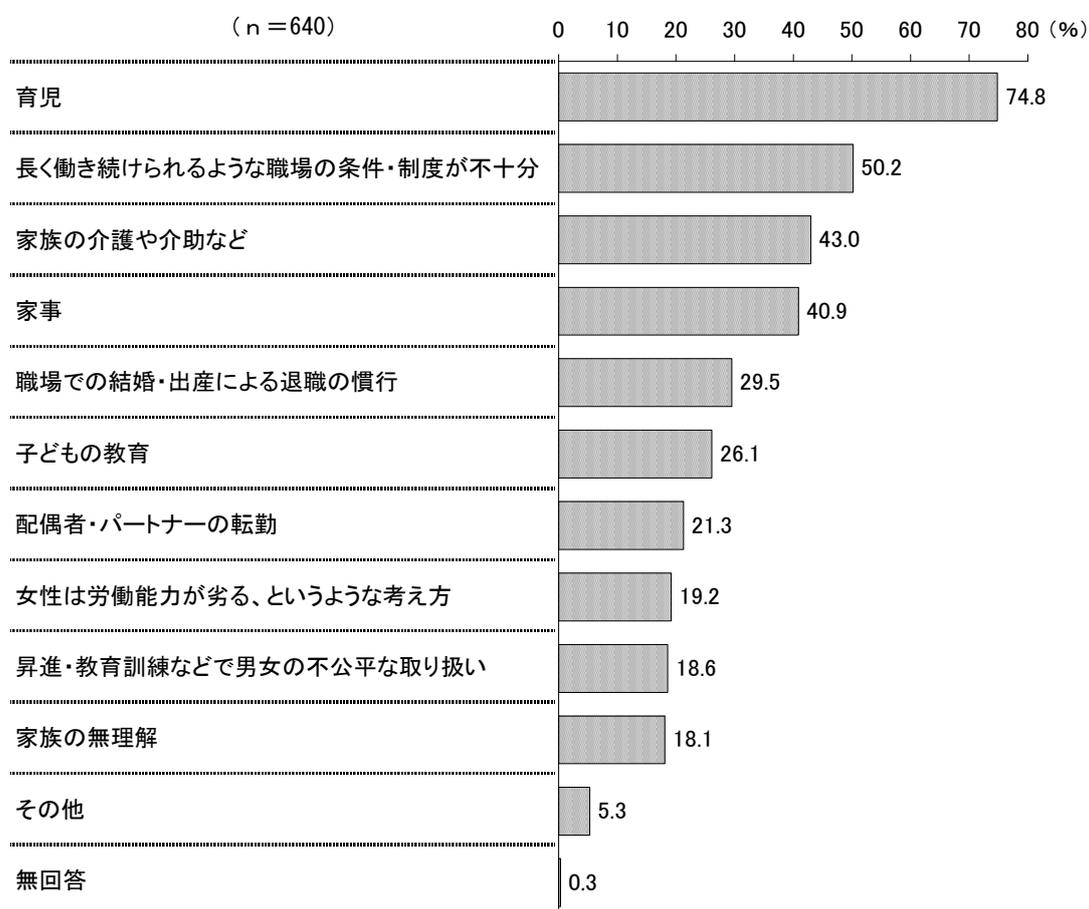
性／年齢別でみると、『感じる（計）』は女性20～29歳（86.3%）、女性40～49歳（82.3%）、女性50～59歳（84.8%）で8割台と高くなっている。一方、『感じない（計）』は男性18～19歳（47.1%）と男性20～29歳（41.1%）で4割台と高くなっている。



(13) 女性が働き続けることを困難にしていること

【問21で、「非常に感じる」「やや感じる」とお答えの方にかがいます】

問21-1 女性が働き続けることを困難にしたり、妨げになっていることは、どのようなことだと思えますか。【あてはまるものすべてに○】

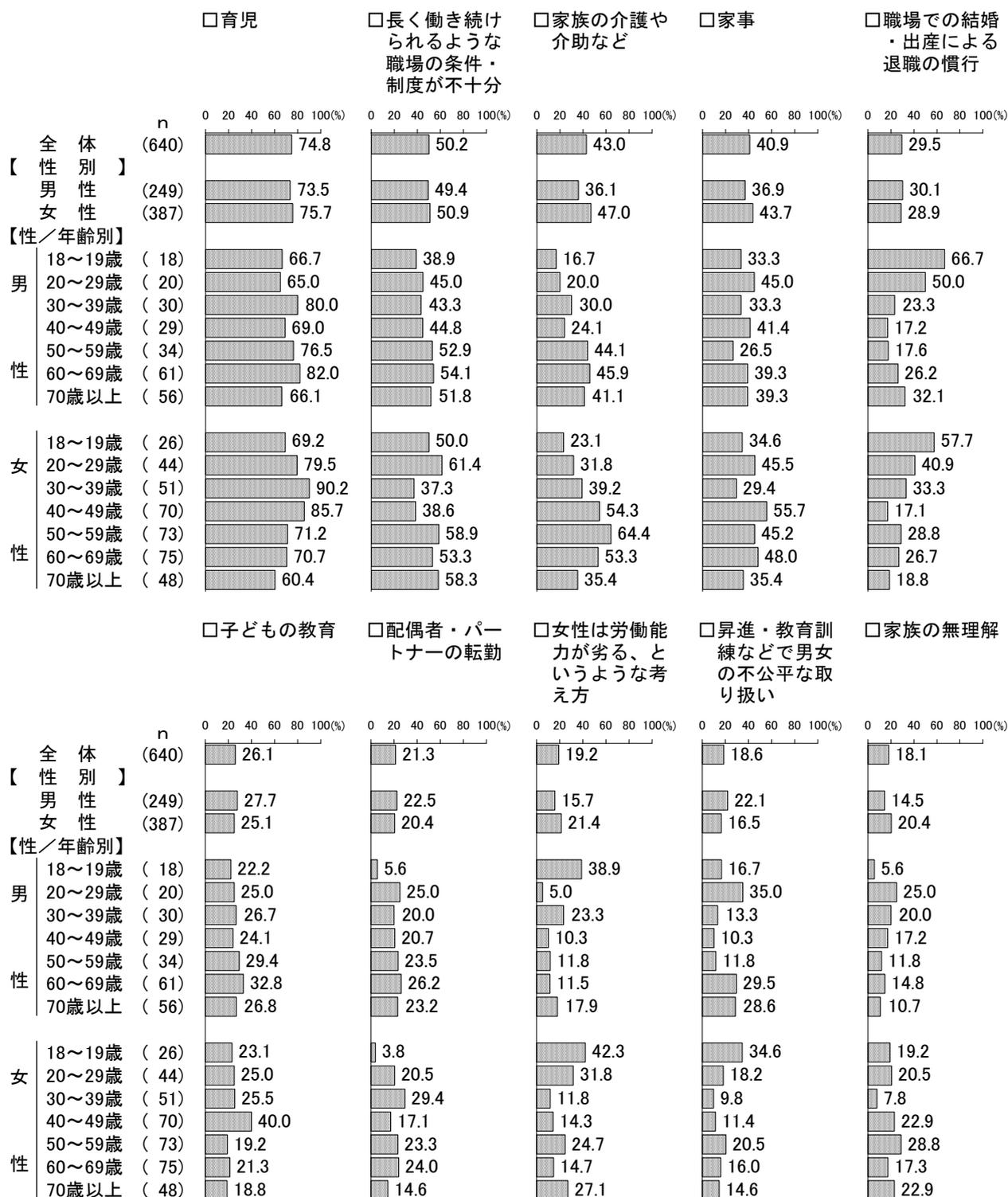


女性が働き続けることを困難にしたり、妨げになっていることがあると「非常に感じる」「やや感じる」と答えた方に、どのようなことか聞いたところ、「育児」(74.8%)が7割半ばで最も高く、次いで「長く働き続けられるような職場の条件・制度が不十分」(50.2%)、「家族の介護や介助など」(43.0%)、「家事」(40.9%)、「職場での結婚・出産による退職の慣行」(29.5%)となっている。

<性別、性／年齢別>

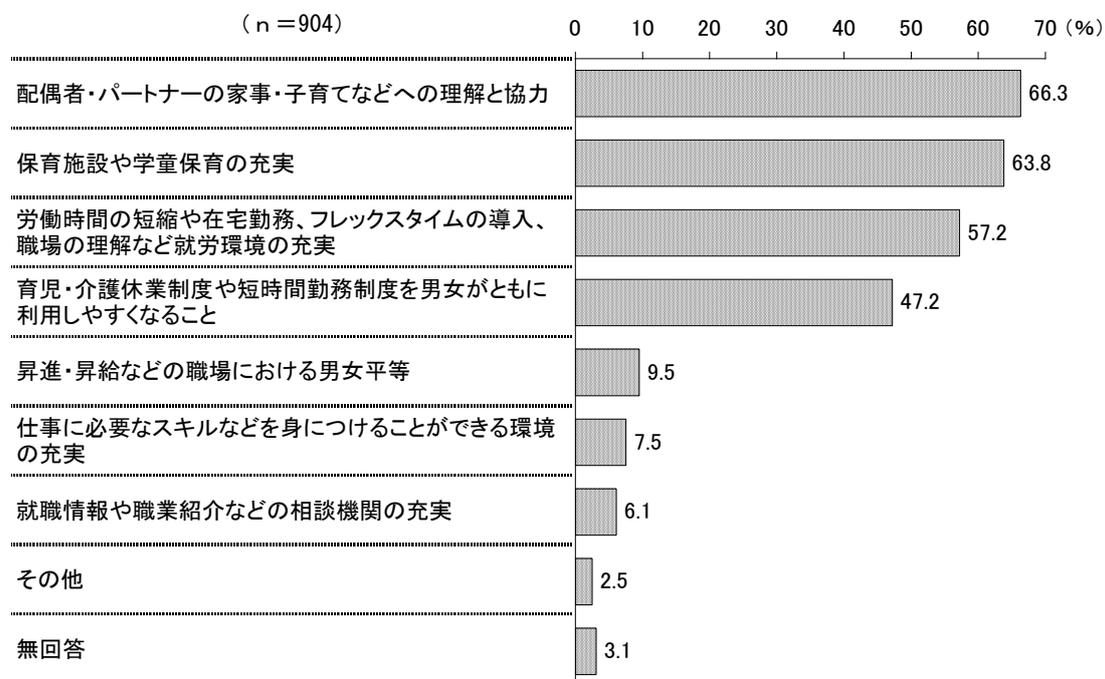
性別でみると、「家族の介護や介助など」は女性（47.0%）が男性（36.1%）より10.9ポイント高くなっている。一方、「昇進・教育訓練などで男女の不公平な取り扱い」は男性（22.1%）が女性（16.5%）より5.6ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「育児」は女性30～39歳（90.2%）で9割と高くなっている。「長く働き続けられるような職場の条件・制度が不十分」は女性20～29歳（61.4%）で6割を超えて高くなっている。「家族の介護や介助など」は女性50～59歳（64.4%）で6割半ばと高くなっている。



(14) 女性が働き続けるために必要なこと

問22 女性が結婚後、出産後も退職せずに働き続けたり、一度離職しても再び働くことができるようにするためには、どのようなことが必要だと考えますか。【3つまでに○】

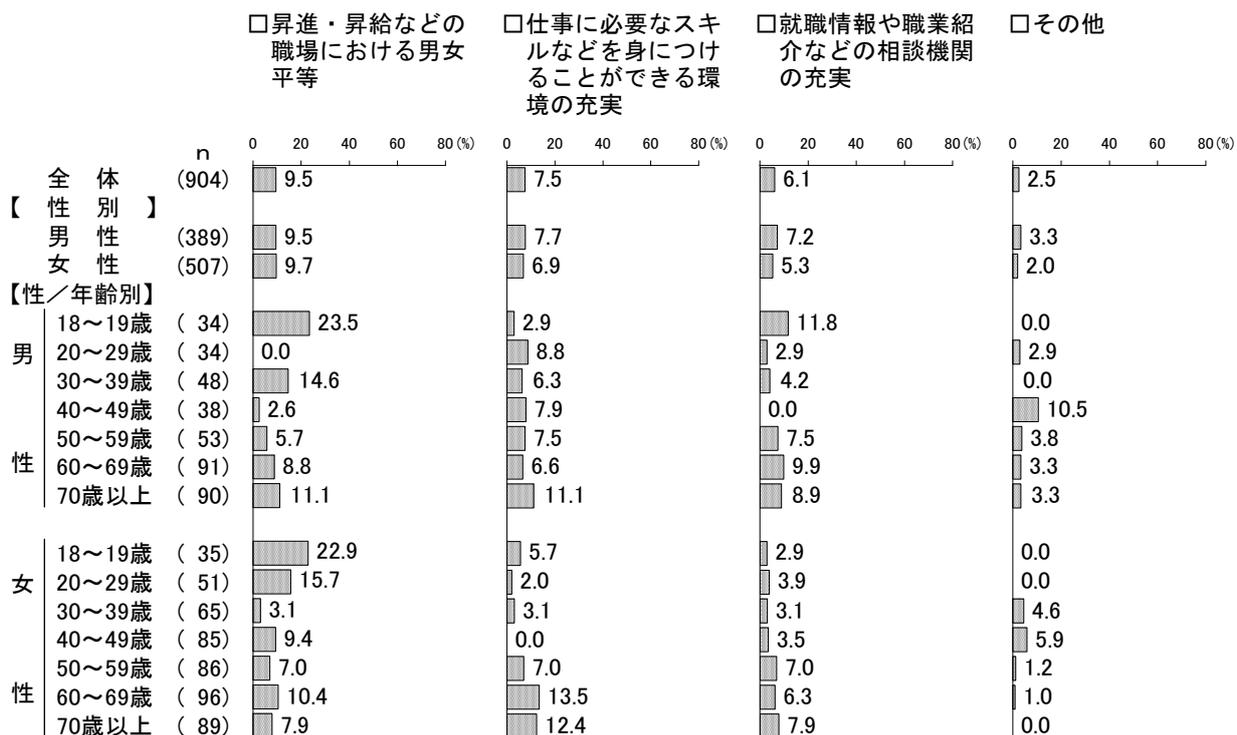
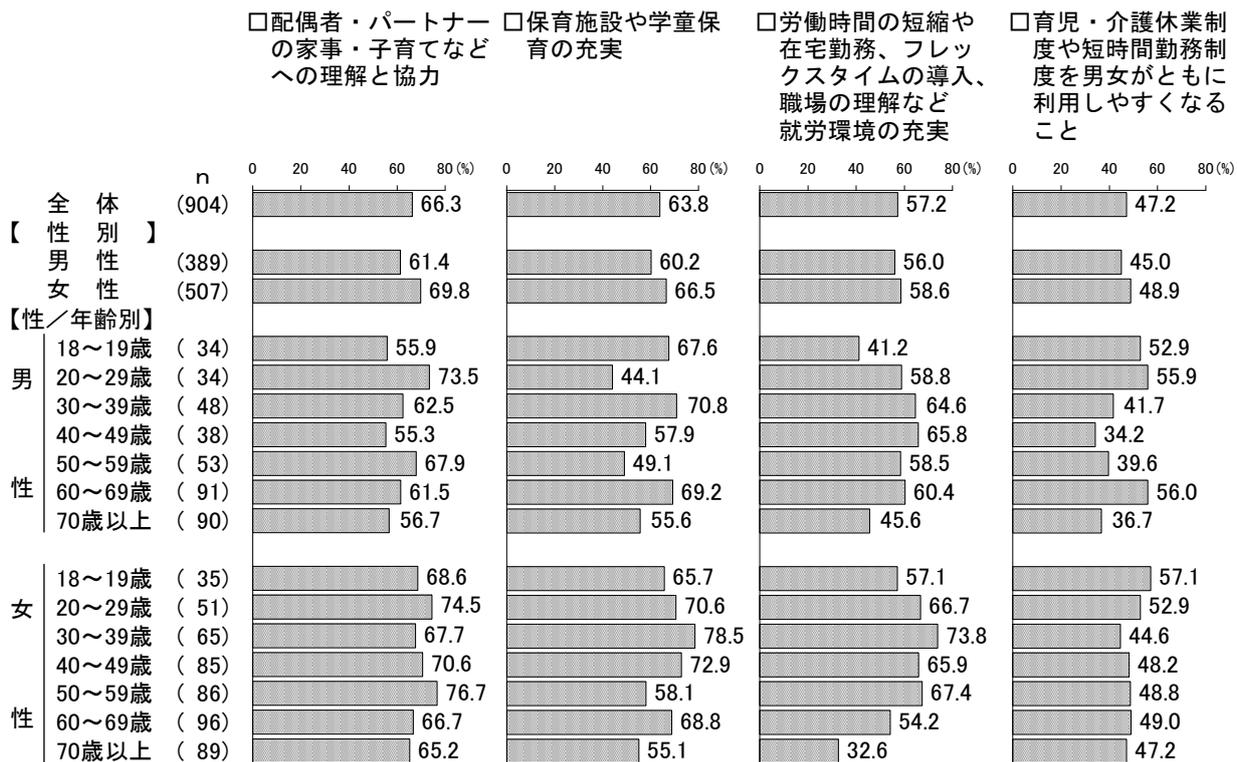


女性が結婚後、出産後も退職せずに働き続けたり、一度離職しても再び働くことができるようにするために必要なことを聞いたところ、「配偶者・パートナーの家事・子育てなどへの理解と協力」(66.3%)が6割半ばで最も高く、次いで「保育施設や学童保育の充実」(63.8%)、「労働時間の短縮や在宅勤務、フレックスタイムの導入、職場の理解など就労環境の充実」(57.2%)、「育児・介護休業制度や短時間勤務制度を男女がともに利用しやすくなること」(47.2%)となっている。

<性別、性／年齢別>

性別で見ると、「配偶者・パートナーの家事・子育てなどへの理解と協力」は女性（69.8%）が男性（61.4%）より8.4ポイント、「保育施設や学童保育の充実」は女性（66.5%）が男性（60.2%）より6.3ポイント、それぞれ高くなっている。

性／年齢別で見ると、「配偶者・パートナーの家事・子育てなどへの理解と協力」は女性50～59歳（76.7%）で8割近くと高くなっている。「保育施設や学童保育の充実」は女性30～39歳（78.5%）で8割近くと高くなっている。「労働時間の短縮や在宅勤務、フレックスタイムの導入、職場の理解など就労環境の充実」は女性30～39歳（73.8%）で7割を超えて高くなっている。

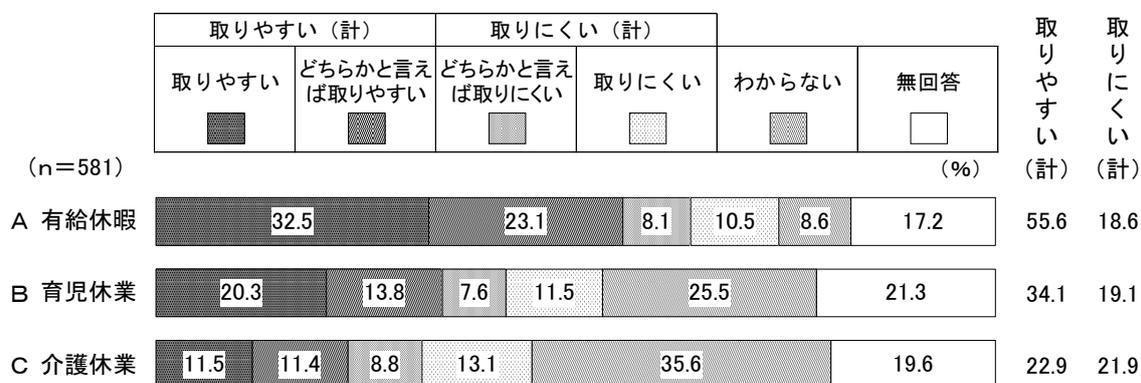


(15) 有給休暇や育児・介護休業の取りやすさ

【現在働いている方のみうかがいます】

問23 あなたの職場では、有給休暇や育児・介護休業を取りやすい環境にありますか。

【それぞれの項目について1つに○】



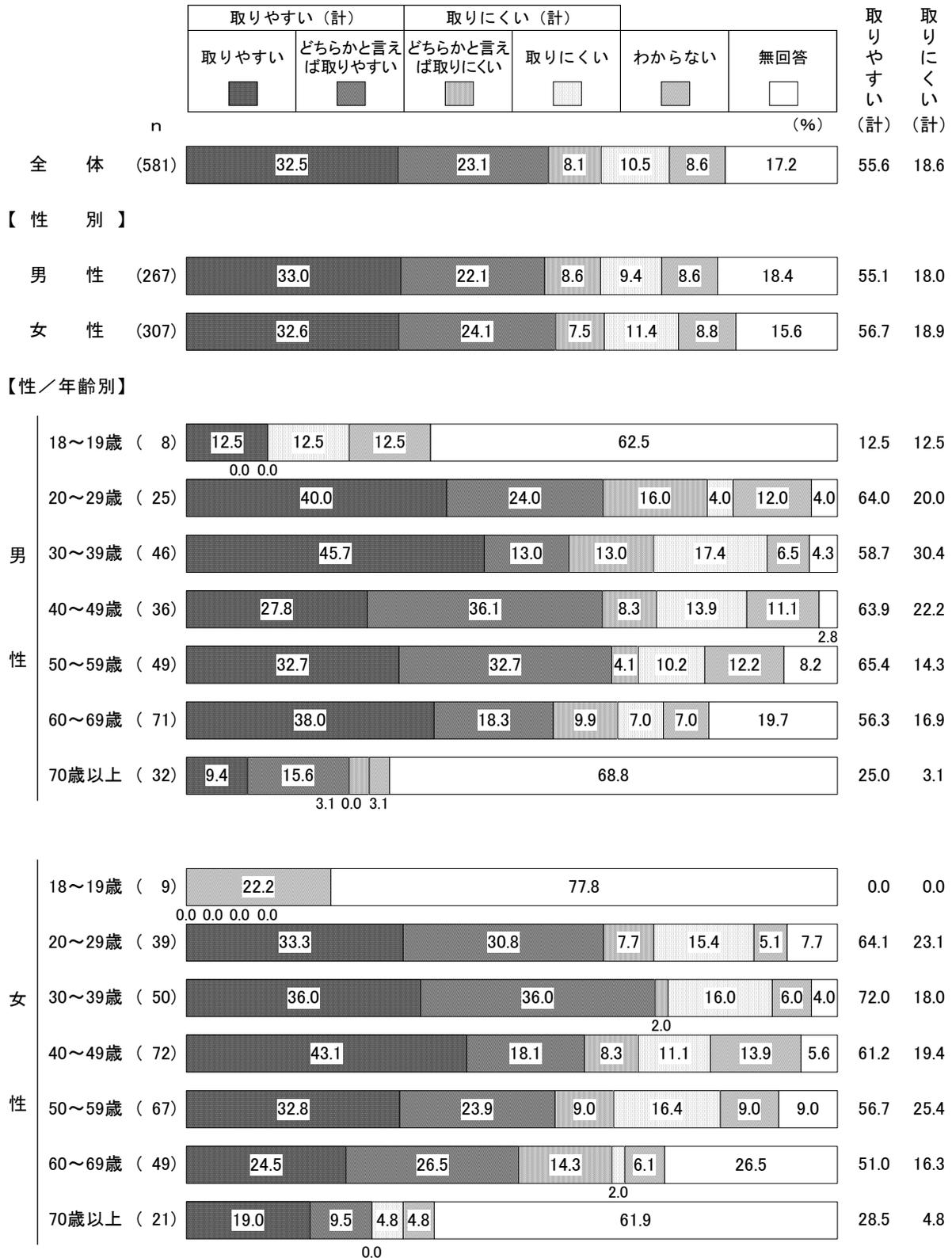
現在働いている方に、有給休暇や育児・介護休業を取りやすい環境にあるか聞いたところ、「取りやすい」と「どちらかと言えれば取りやすい」を合わせた『取りやすい(計)』は“有給休暇”(55.6%)が5割半ばで最も高く、次いで“育児休業”(34.1%)、“介護休業”(22.9%)となっている。

一方、「どちらかと言えれば取りにくい」と「取りにくい」を合わせた『取りにくい(計)』は“介護休業”(21.9%)が2割を超えて最も高くなっている。

<性別、性／年齢別> A 有給休暇

有給休暇について性別でみると、大きな違いはみられない。

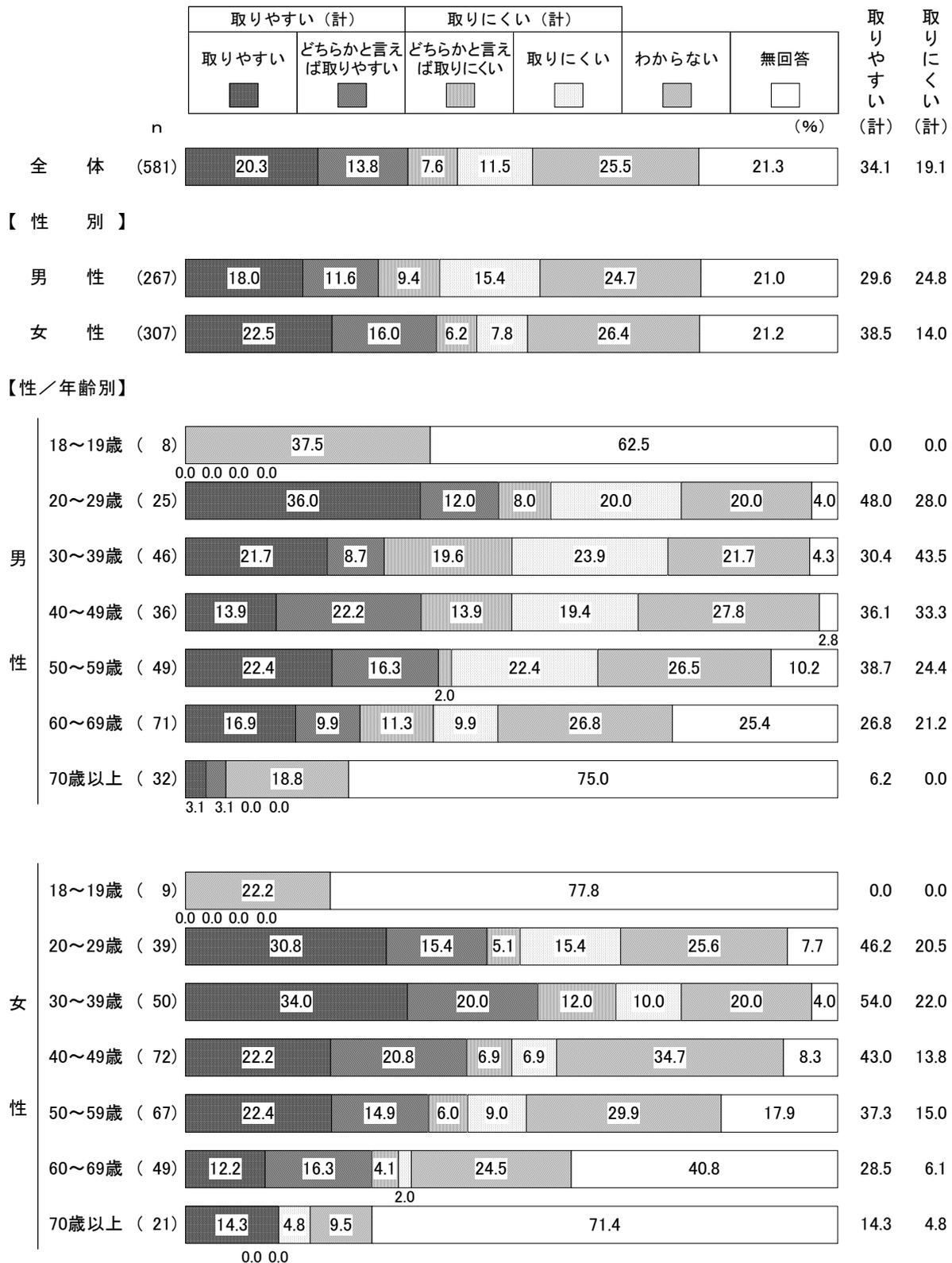
性／年齢別でみると、『取りやすい (計)』は女性30～39歳 (72.0%) で7割を超えて高くなっている。一方、『取りにくい (計)』は男性30～39歳 (30.4%) で3割と高くなっている。



<性別、性／年齢別> B 育児休業

育児休業について性別でみると、『取りやすい（計）』は女性（38.5%）が男性（29.6%）より8.9ポイント高くなっている。一方、『取りにくい（計）』は男性（24.8%）が女性（14.0%）より10.8ポイント高くなっている。

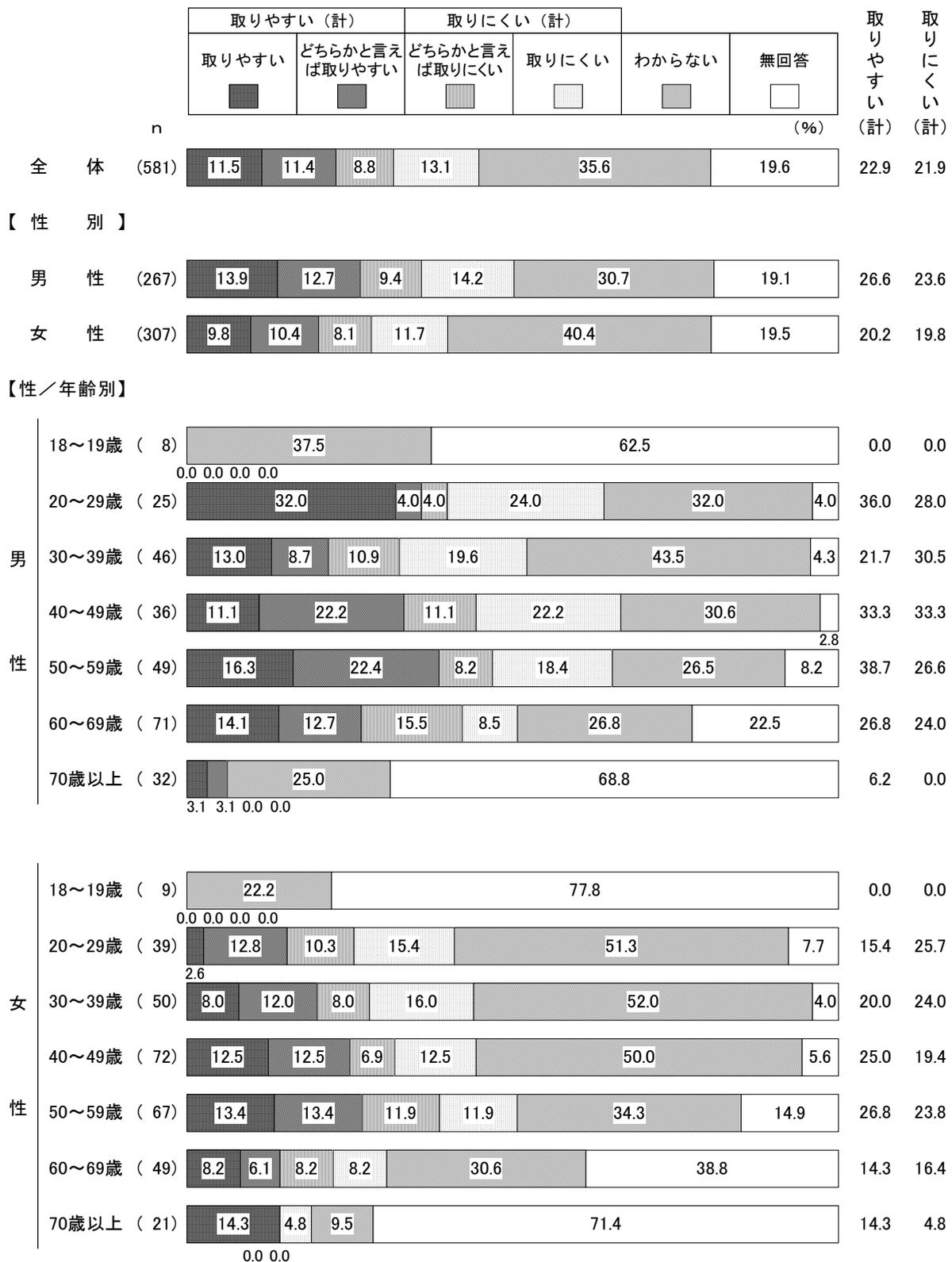
性／年齢別でみると、『取りやすい（計）』は女性30～39歳（54.0%）で5割半ばと高くなっている。一方、『取りにくい（計）』は男性30～39歳（43.5%）で4割を超えて高くなっている。



<性別、性／年齢別> C 介護休業

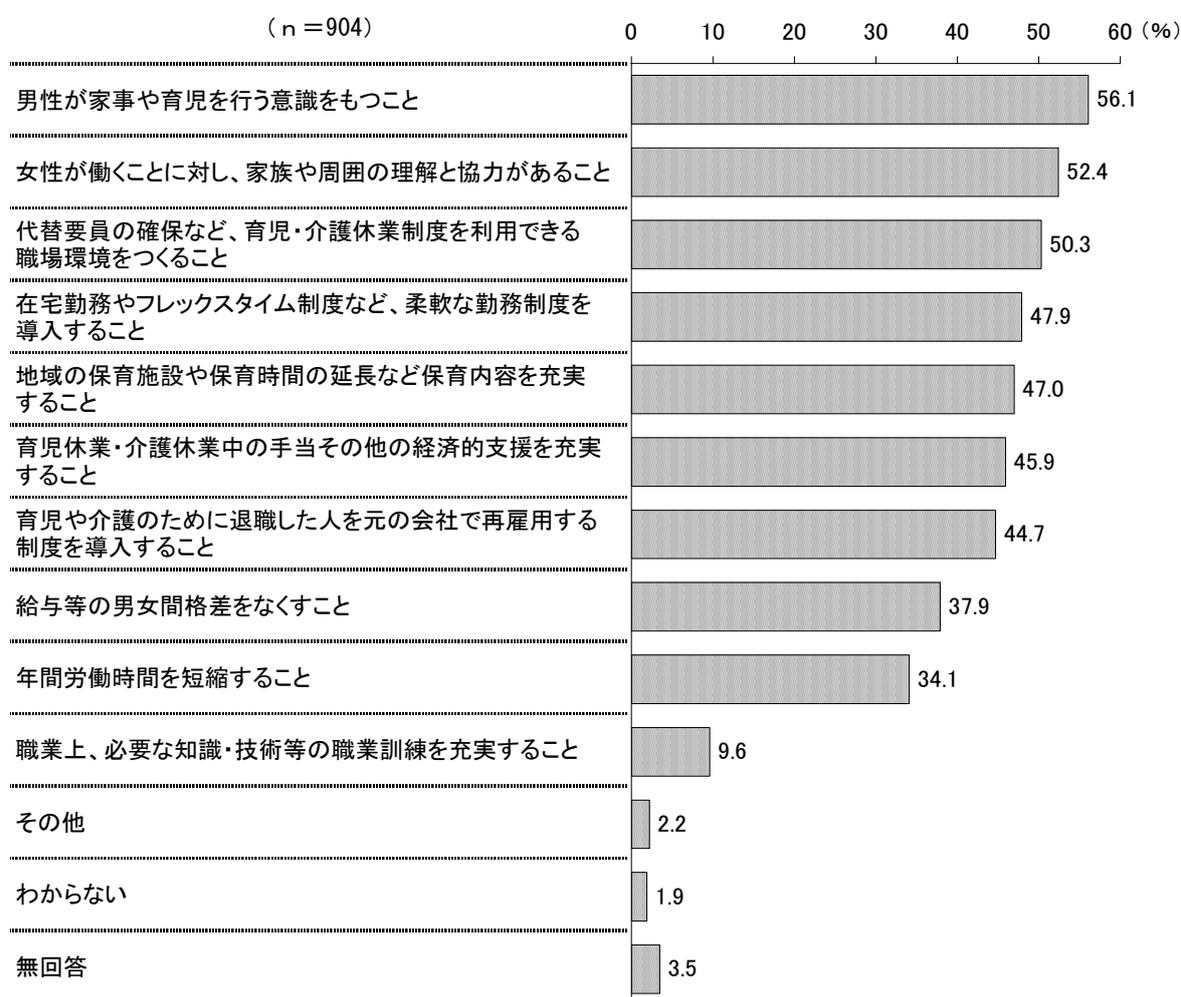
介護休業について性別でみると、『取りやすい（計）』は男性（26.6%）が女性（20.2%）より6.4ポイント高く、『取りにくい（計）』でも男性（23.6%）が女性（19.8%）より3.8ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、『取りやすい（計）』は男性50～59歳（38.7%）で4割近くと高くなっている。一方、『取りにくい（計）』は男性30～39歳（30.5%）と男性40～49歳（33.3%）で3割台と高くなっている。



(16) 男女がともに仕事と家庭を両立するために必要な条件

問24 男女がともに仕事と家庭の両立をしていくためには、どのような条件が必要だと思いますか。【あてはまるものすべてに○】

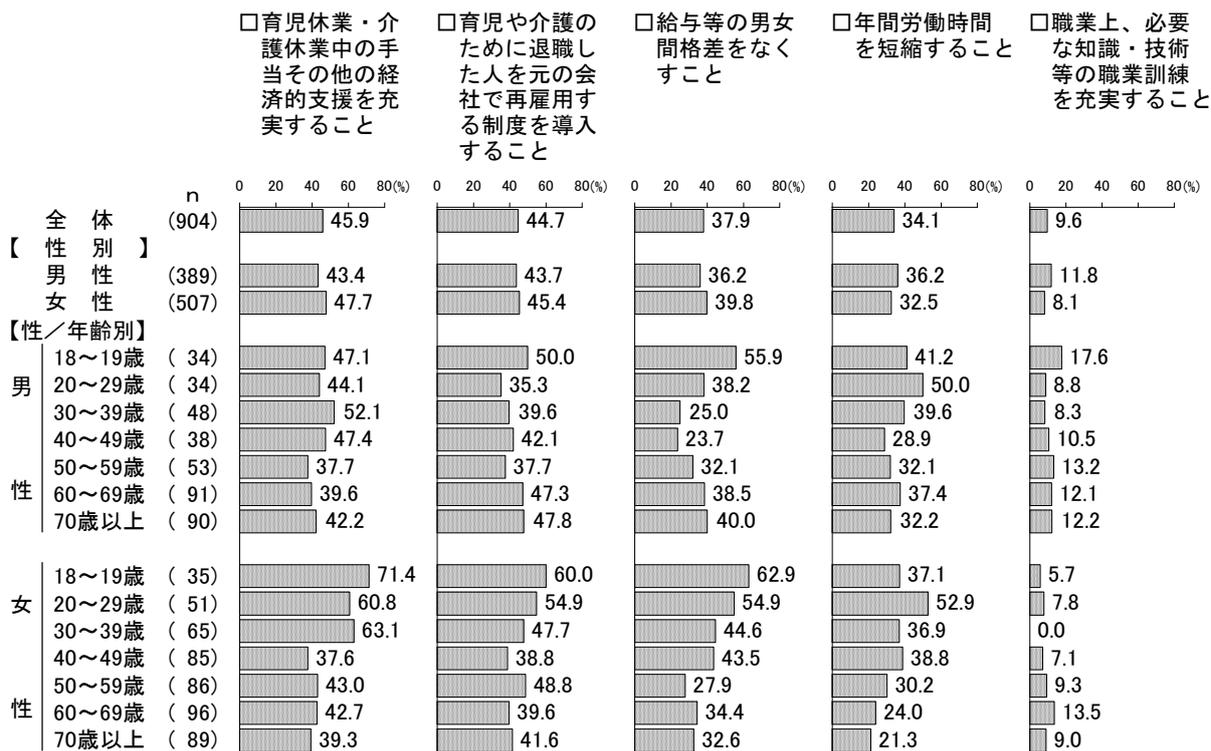
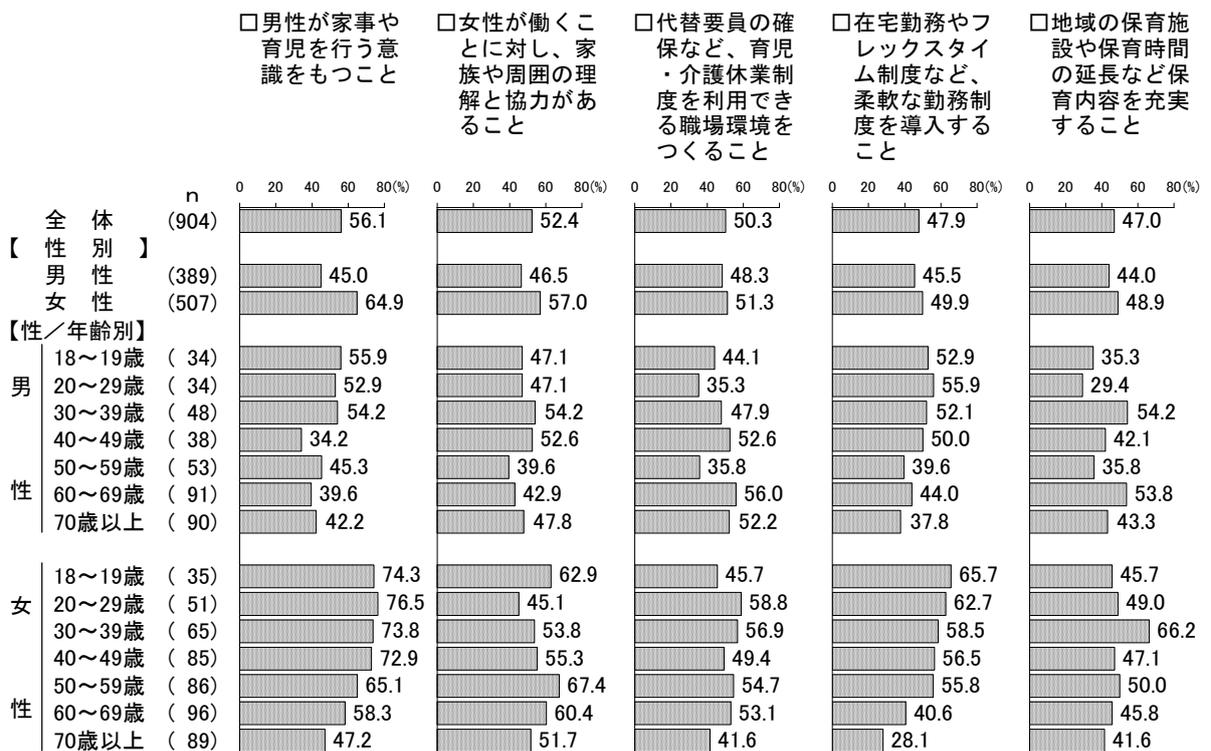


男女がともに仕事と家庭の両立をしていくためには、どのような条件が必要だと思うか聞いたところ、「男性が家事や育児を行う意識をもつこと」(56.1%)が5割半ばで最も高く、次いで「女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があること」(52.4%)、「代替要員の確保など、育児・介護休業制度を利用できる職場環境をつくること」(50.3%)、「在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入すること」(47.9%)、「地域の保育施設や保育時間の延長など保育内容を充実すること」(47.0%)となっている。

<性別、性／年齢別>

性別でみると、「男性が家事や育児を行う意識をもつこと」は女性（64.9%）が男性（45.0%）より19.9ポイント、「女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があること」は女性（57.0%）が男性（46.5%）より10.5ポイント、それぞれ高くなっている。

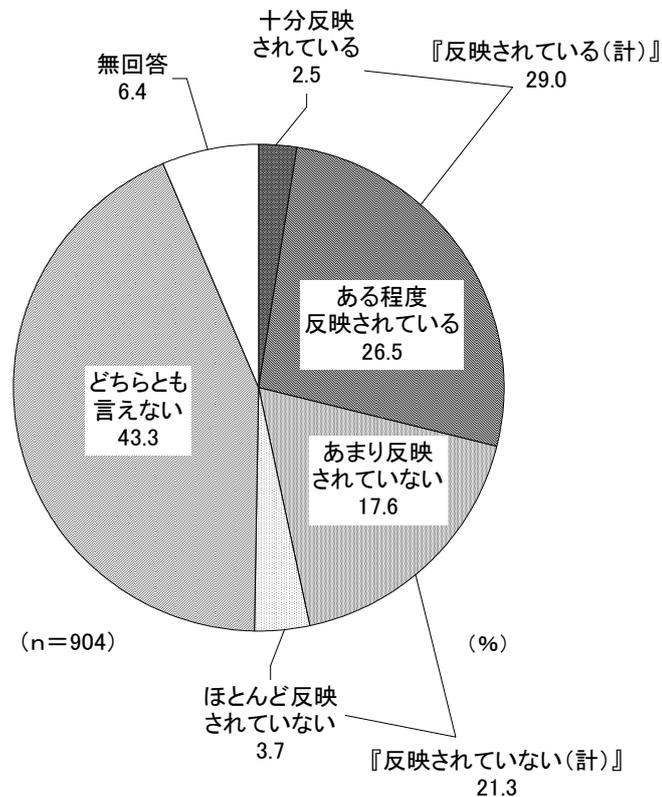
性／年齢別でみると、「男性が家事や育児を行う意識をもつこと」は女性の49歳以下の年代で7割台と高くなっている。「育児休業・介護休業中の手当その他の経済的支援を充実すること」は女性18～19歳（71.4%）で7割を超えて高くなっている。



4 社会参加について

(1) 地方自治体などの施策への女性の意見や考え方の反映

問25 あなたは、地方自治体（県や市町村）などの施策について、女性の意見や考え方がどの程度反映されていると思いますか。【1つに〇】

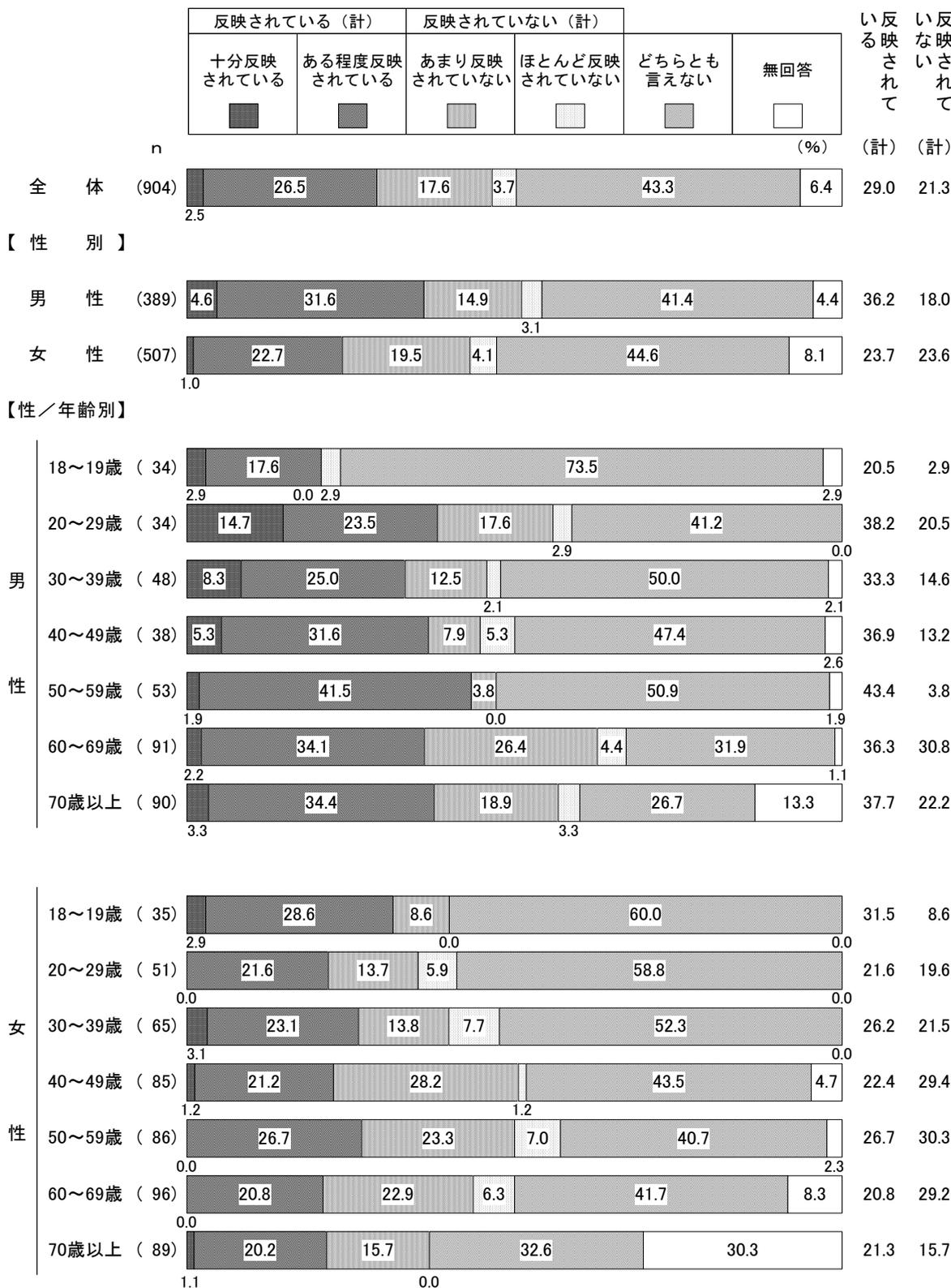


地方自治体（県や市町村）などの施策について、女性の意見や考え方がどの程度反映されているか聞いたところ、「十分反映されている」（2.5%）と「ある程度反映されている」（26.5%）を合わせた『反映されている（計）』（29.0%）は約3割となっている。一方、「あまり反映されていない」（17.6%）と「ほとんど反映されていない」（3.7%）を合わせた『反映されていない（計）』（21.3%）は2割を超えている。

<性別、性／年齢別>

性別で見ると、『反映されている（計）』は男性（36.2%）が女性（23.7%）より12.5ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、『反映されている（計）』は男性50～59歳（43.4%）で4割を超えて高くなっている。一方、『反映されていない（計）』は男性60～69歳（30.8%）と女性50～59歳（30.3%）で3割台と高くなっている。

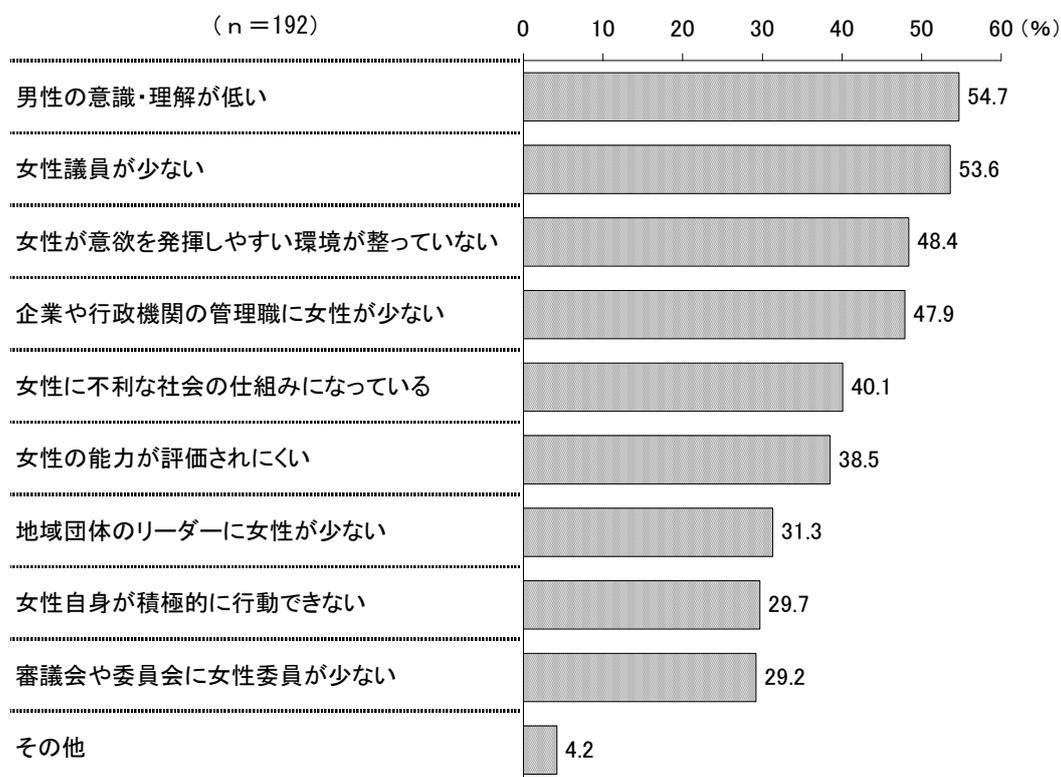


(2) 女性の意見や考え方が社会に反映されにくい理由

【問25で、「あまり反映されていない」「ほとんど反映されていない」とお答えの方にはうかがいます】

問25-1 女性の意見や考え方が社会に反映されにくい理由は何だと思えますか。

【あてはまるものすべてに○】

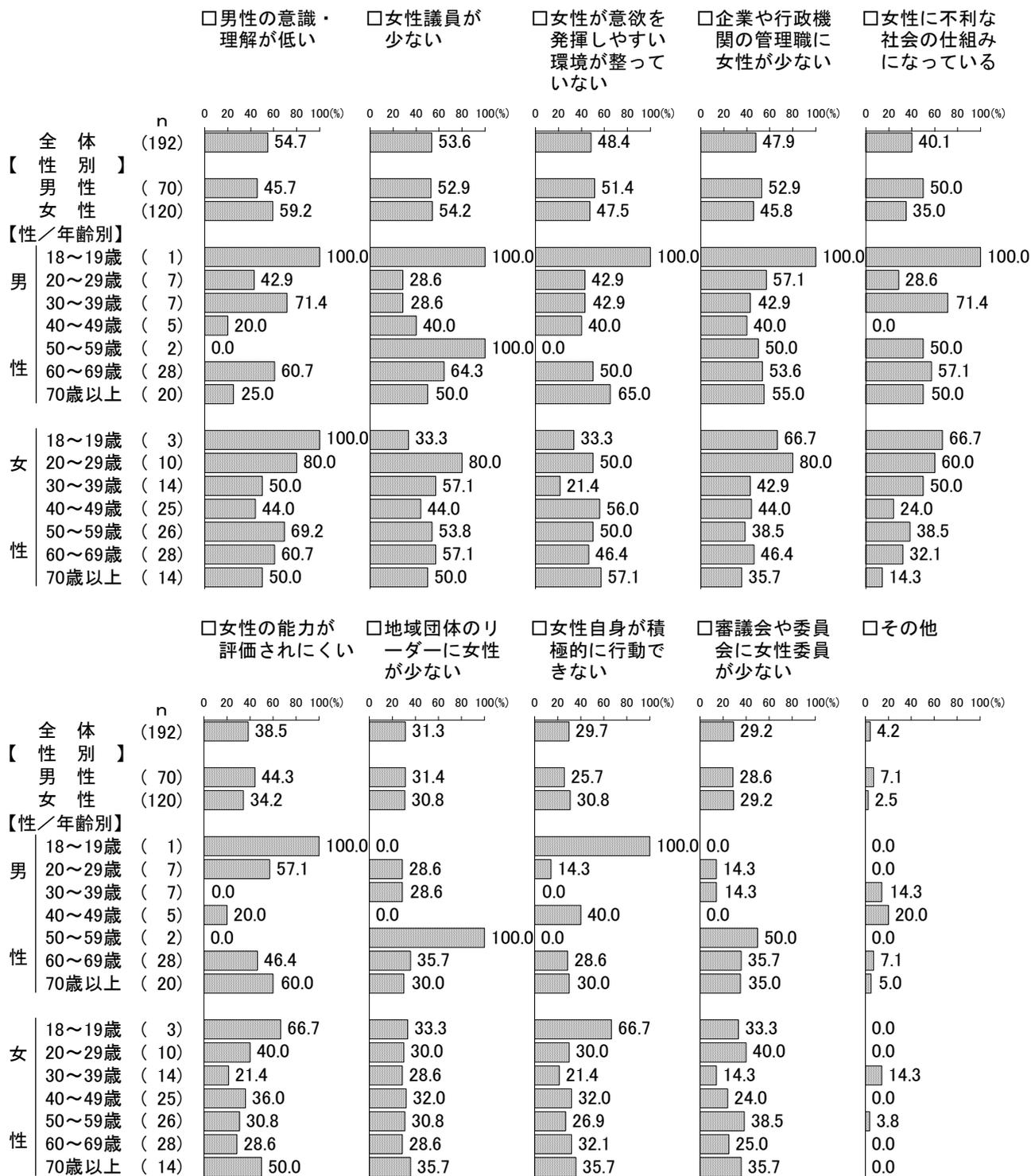


地方自治体などの施策への女性の意見や考え方の反映で、「あまり反映されていない」「ほとんど反映されていない」と答えた方に、社会に反映されにくい理由を聞いたところ、「男性の意識・理解が低い」(54.7%)が5割半ばで最も高く、次いで「女性議員が少ない」(53.6%)、「女性が意欲を発揮しやすい環境が整っていない」(48.4%)、「企業や行政機関の管理職に女性が少ない」(47.9%)、「女性に不利な社会の仕組みになっている」(40.1%)となっている。

<性別、性／年齢別>

性別で見ると、「女性に不利な社会の仕組みになっている」は男性（50.0%）が女性（35.0%）より15.0ポイント高くなっている。一方、「男性の意識・理解が低い」は女性（59.2%）が男性（45.7%）より13.5ポイント高くなっている。

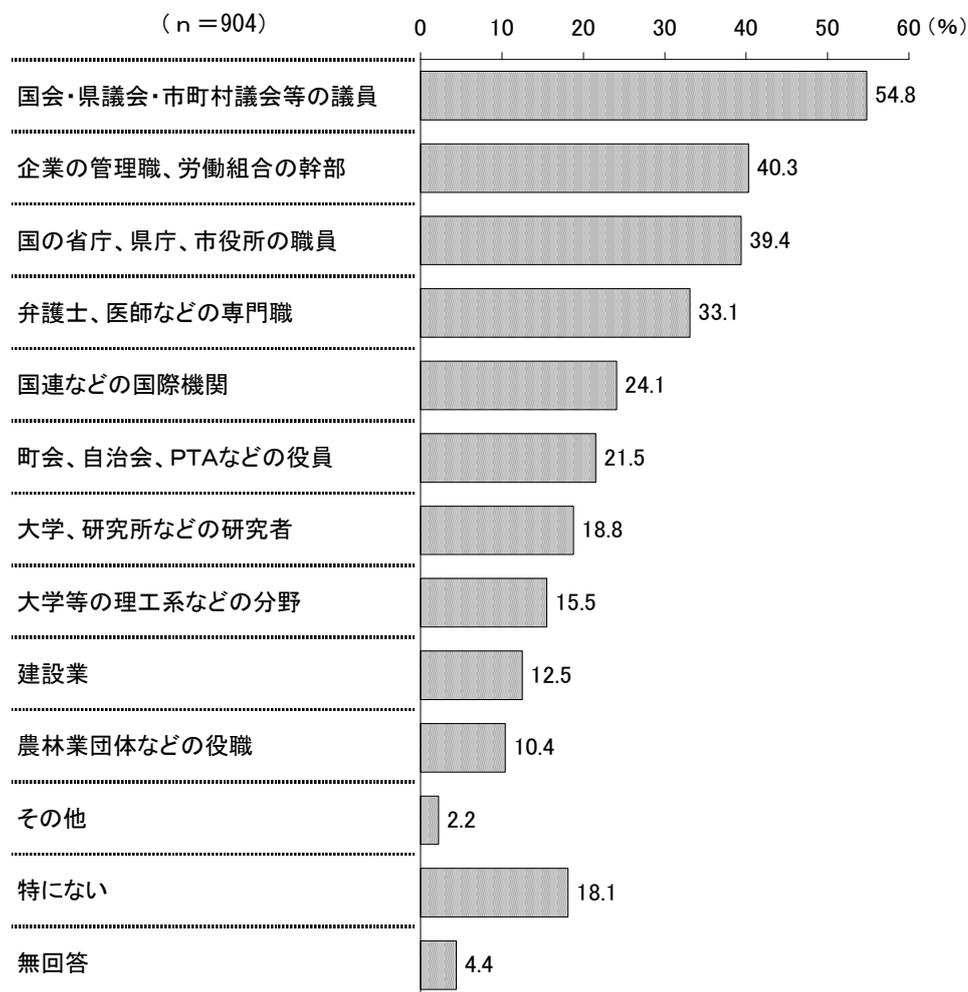
性／年齢別で見ると、「男性の意識・理解が低い」は女性50～59歳（69.2%）で約7割と高くなっている。「女性が意欲を発揮しやすい環境が整っていない」は男性70歳以上（65.0%）で6割半ばと高くなっている。



(3) 女性の参画が進むべきだと思う分野

問26 あなたは、今後どのような分野で、女性の参画が進むべきだと思いますか。

【あてはまるものすべてに○】

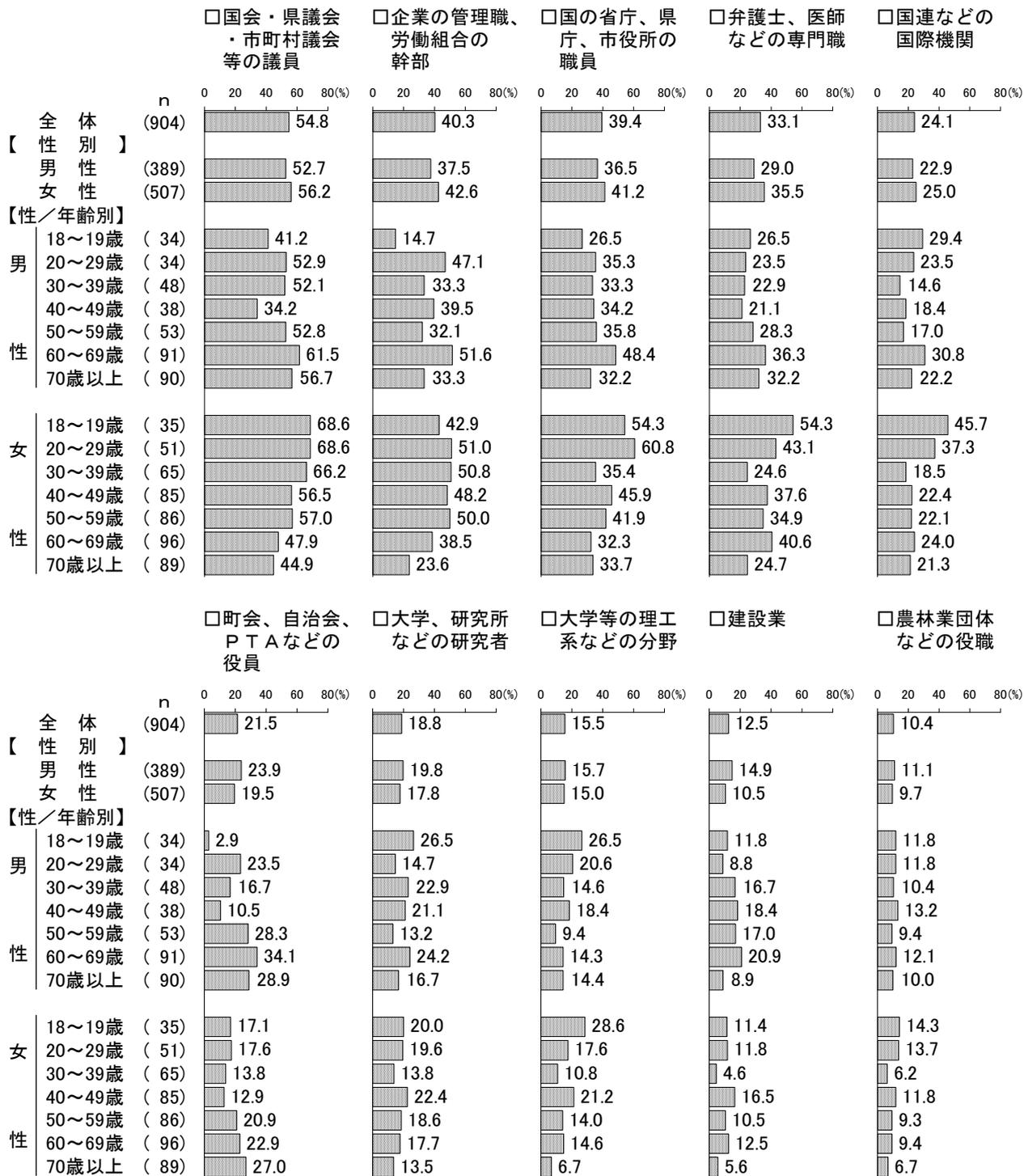


今後どのような分野で、女性の参画が進むべきだと思うか聞いたところ、「国会・県議会・市町村議会等の議員」(54.8%)が5割半ばで最も高く、次いで「企業の管理職、労働組合の幹部」(40.3%)、「国の省庁、県庁、市役所の職員」(39.4%)、「弁護士、医師などの専門職」(33.1%)、「国連などの国際機関」(24.1%)となっている。

<性別、性／年齢別>（「特にない」を除く上位10項目）

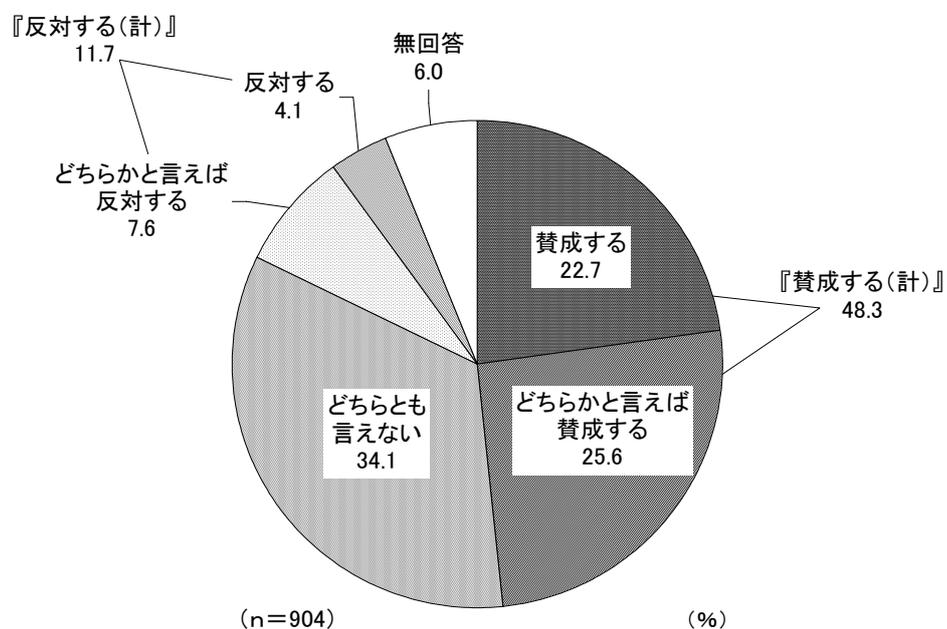
性別で見ると、「弁護士、医師などの専門職」は女性（35.5%）が男性（29.0%）より6.5ポイント高くなっている。一方、「町会、自治会、PTAなどの役員」は男性（23.9%）が女性（19.5%）より4.4ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、「国会・県議会・市町村議会等の議員」は女性18～19歳（68.6%）と女性20～29歳（68.6%）で7割近くと高くなっている。「国の省庁、県庁、市役所の職員」は女性20～29歳（60.8%）で約6割と高くなっている。「弁護士、医師などの専門職」は女性18～19歳（54.3%）で5割半ばと高くなっている。



(4) ポジティブ・アクションについての考え

問27 「男女の格差を改善するため、女性があまり進出していない分野で一時的に女性の優先枠を設けるなどして、男女の実質的な機会を均等に確保すべきである」＝（ポジティブ・アクション）という考え方について、どのように思いますか。【1つに○】

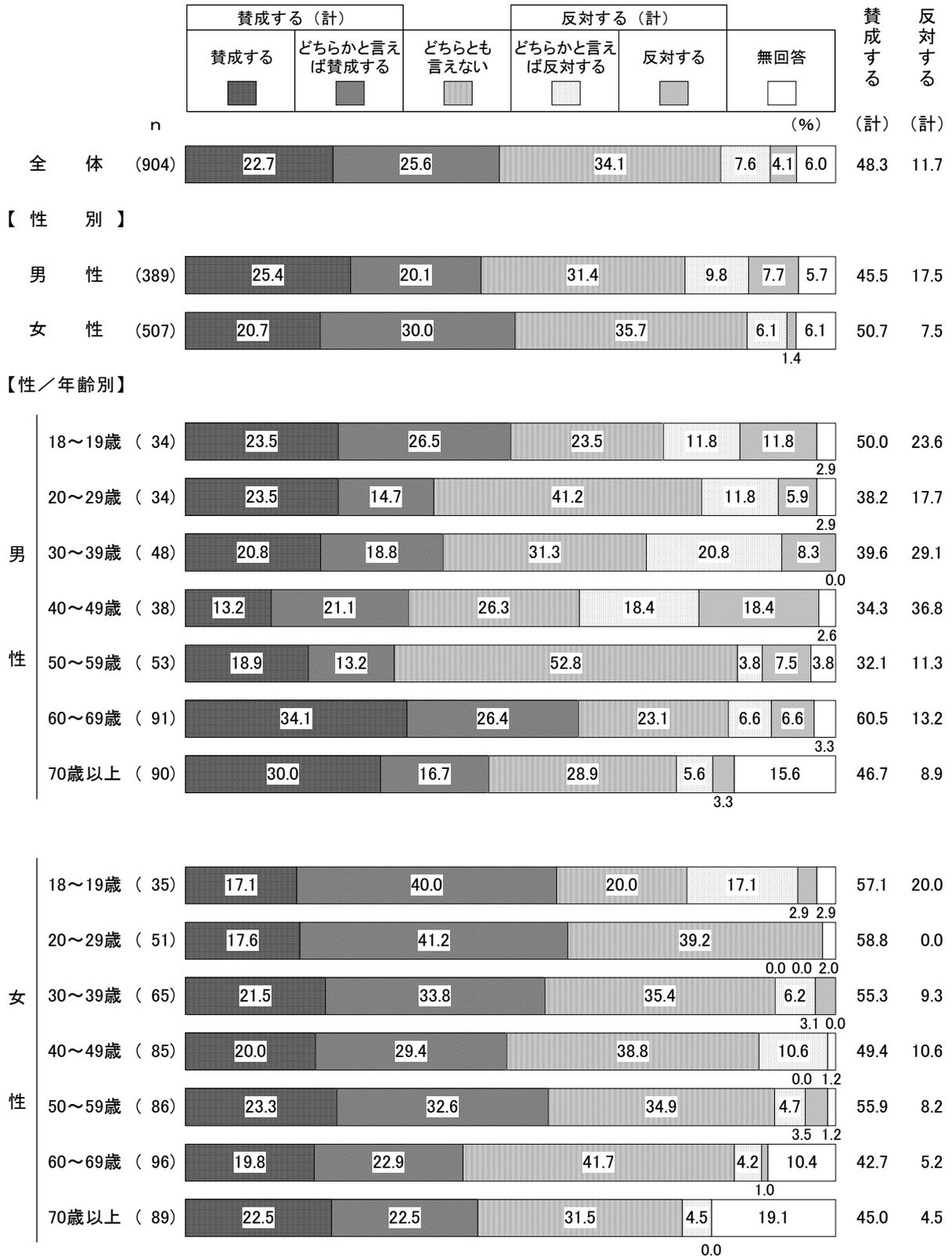


ポジティブ・アクションという考え方について、どのように思うか聞いたところ、「賛成する」(22.7%)と「どちらかと言えば賛成する」(25.6%)を合わせた『賛成する(計)』(48.3%)は5割近くとなっている。一方、「どちらかと言えば反対する」(7.6%)と「反対する」(4.1%)を合わせた『反対する(計)』(11.7%)は1割を超えている。また、「どちらとも言えない」(34.1%)は3割半ばとなっている。

<性別、性／年齢別>

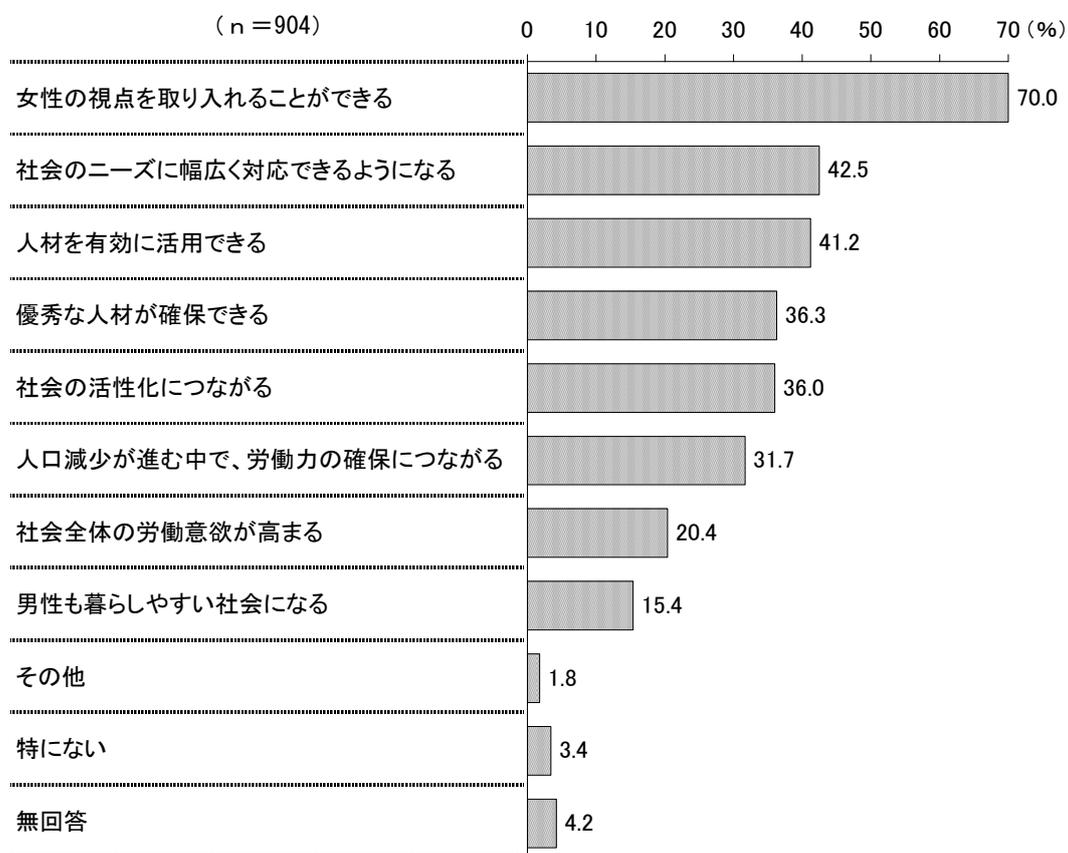
性別でみると、『賛成する（計）』は女性（50.7%）が男性（45.5%）より5.2ポイント高くなっている。一方、『反対する（計）』は男性（17.5%）が女性（7.5%）より10.0ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、『賛成する（計）』は男性60～69歳（60.5%）で約6割と高くなっている。一方、『反対する（計）』は男性40～49歳（36.8%）で4割近くと高くなっている。



(5) 女性が活躍する場を設けることによる社会全体への効果

問28 女性が活躍する場を積極的に設けることによって、社会全体にどのような効果があると思いますか。【あてはまるものすべてに○】

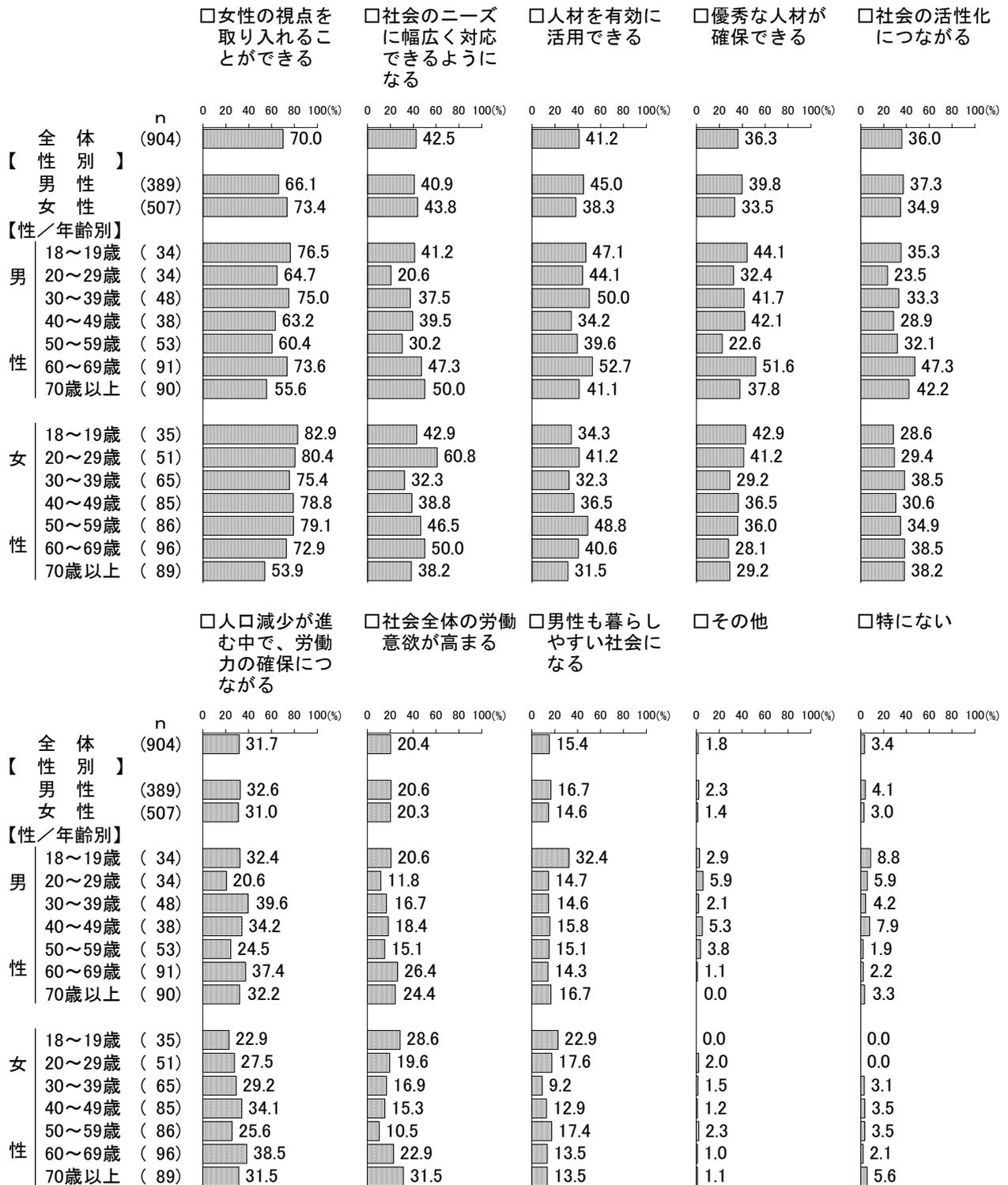


女性が活躍する場を積極的に設けることによって、社会全体にどのような効果があると思うか聞いたところ、「女性の視点を取り入れることができる」(70.0%)が7割で最も高く、次いで「社会のニーズに幅広く対応できるようになる」(42.5%)、「人材を有効に活用できる」(41.2%)、「優秀な人材が確保できる」(36.3%)、「社会の活性化につながる」(36.0%)となっている。

<性別、性／年齢別>

性別で見ると、「女性の視点を取り入れることができる」は女性（73.4%）が男性（66.1%）より7.3ポイント高くなっている。一方、「人材を有効に活用できる」は男性（45.0%）が女性（38.3%）より6.7ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、「女性の視点を取り入れることができる」は女性18～19歳（82.9%）と女性20～29歳（80.4%）で8割台と高くなっている。「社会のニーズに幅広く対応できるようになる」は女性20～29歳（60.8%）で約6割と高くなっている。「優秀な人材が確保できる」は男性60～69歳（51.6%）で5割を超えて高くなっている。

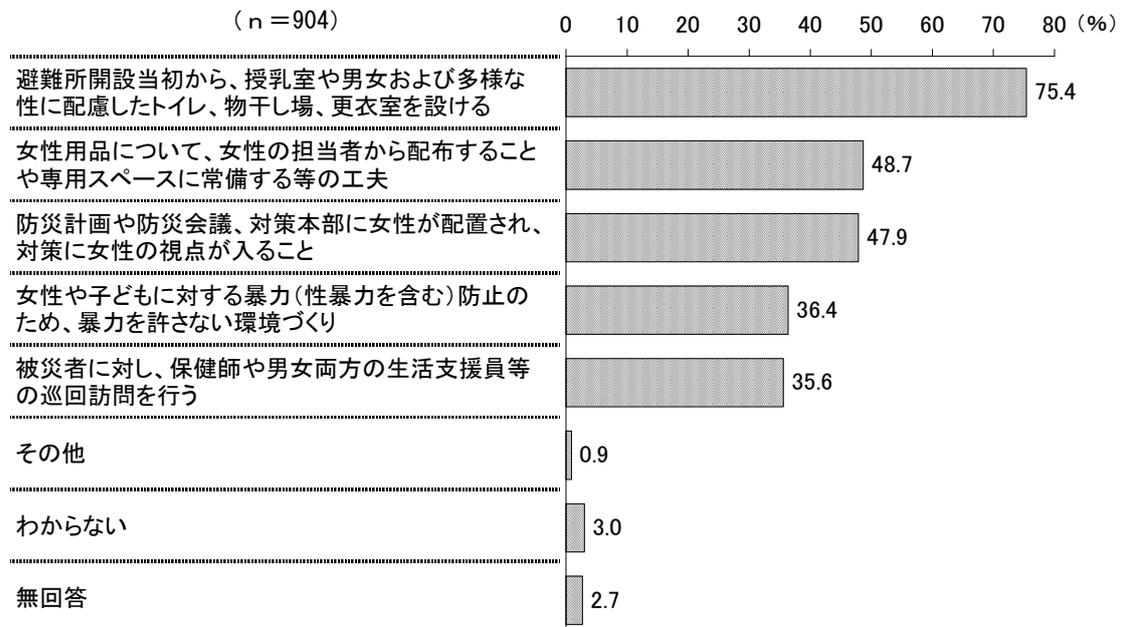


5 災害時の配慮について

(1) 防災・災害復興対策に必要な配慮

問29 防災・災害復興対策で、配慮して取り組む必要があると思うことは何ですか。

【3つまでに○】

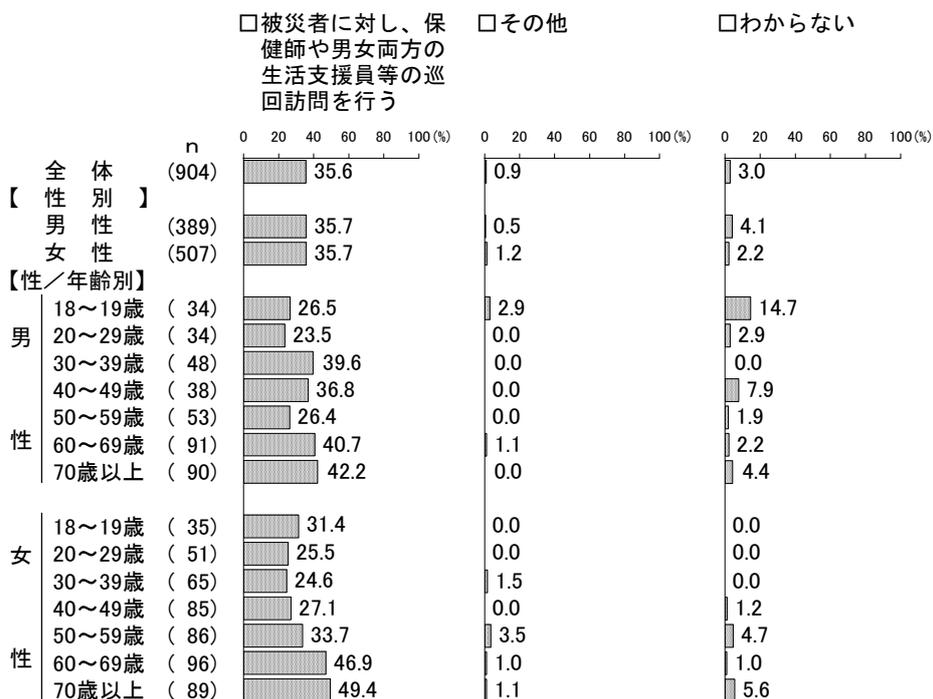
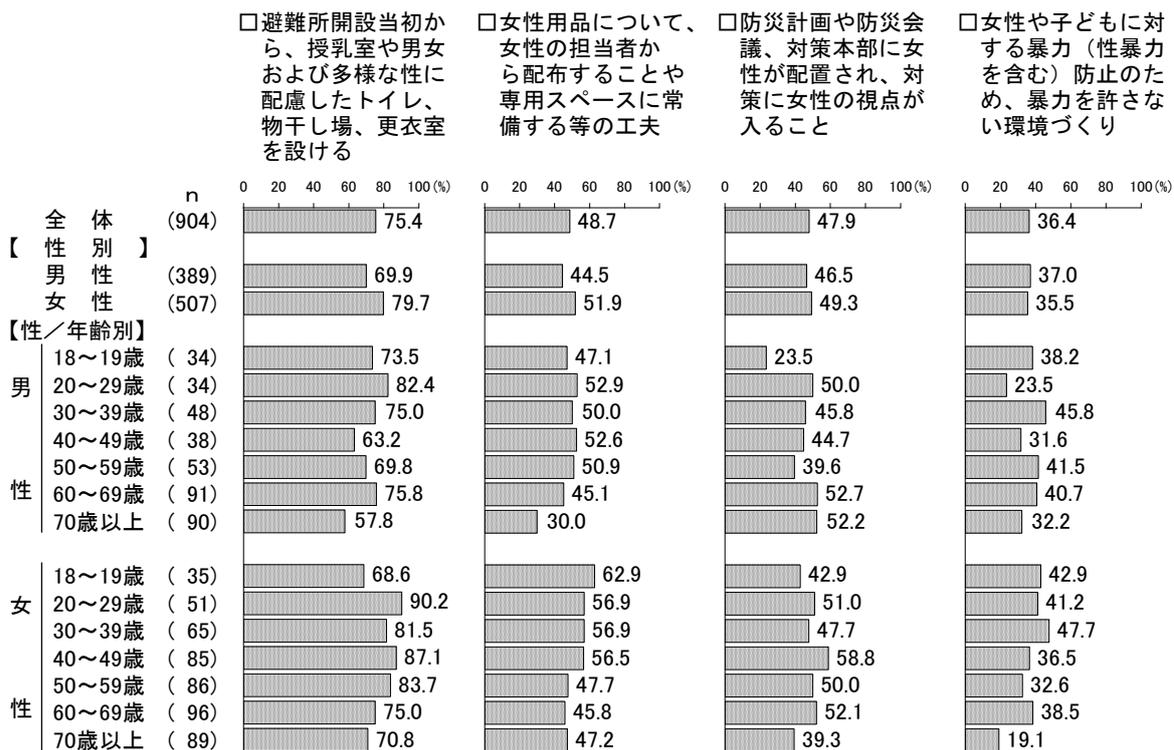


防災・災害復興対策で、配慮して取り組む必要があると思うことを聞いたところ、「避難所開設当初から、授乳室や男女および多様な性に配慮したトイレ、物干し場、更衣室を設ける」(75.4%)が7割半ばで最も高く、次いで「女性用品について、女性の担当者から配布することや専用スペースに常備する等の工夫」(48.7%)、「防災計画や防災会議、対策本部に女性が配置され、対策に女性の視点が入ること」(47.9%)、「女性や子どもに対する暴力(性暴力を含む)防止のため、暴力を許さない環境づくり」(36.4%)、「被災者に対し、保健師や男女両方の生活支援員等の巡回訪問を行う」(35.6%)となっている。

<性別、性/年齢別>

性別でみると、「避難所開設当初から、授乳室や男女および多様な性に配慮したトイレ、物干し場、更衣室を設ける」は女性（79.7%）が男性（69.9%）より9.8ポイント、「女性用品について、女性の担当者から配布することや専用スペースに常備する等の工夫」は女性（51.9%）が男性（44.5%）より7.4ポイント、それぞれ高くなっている。

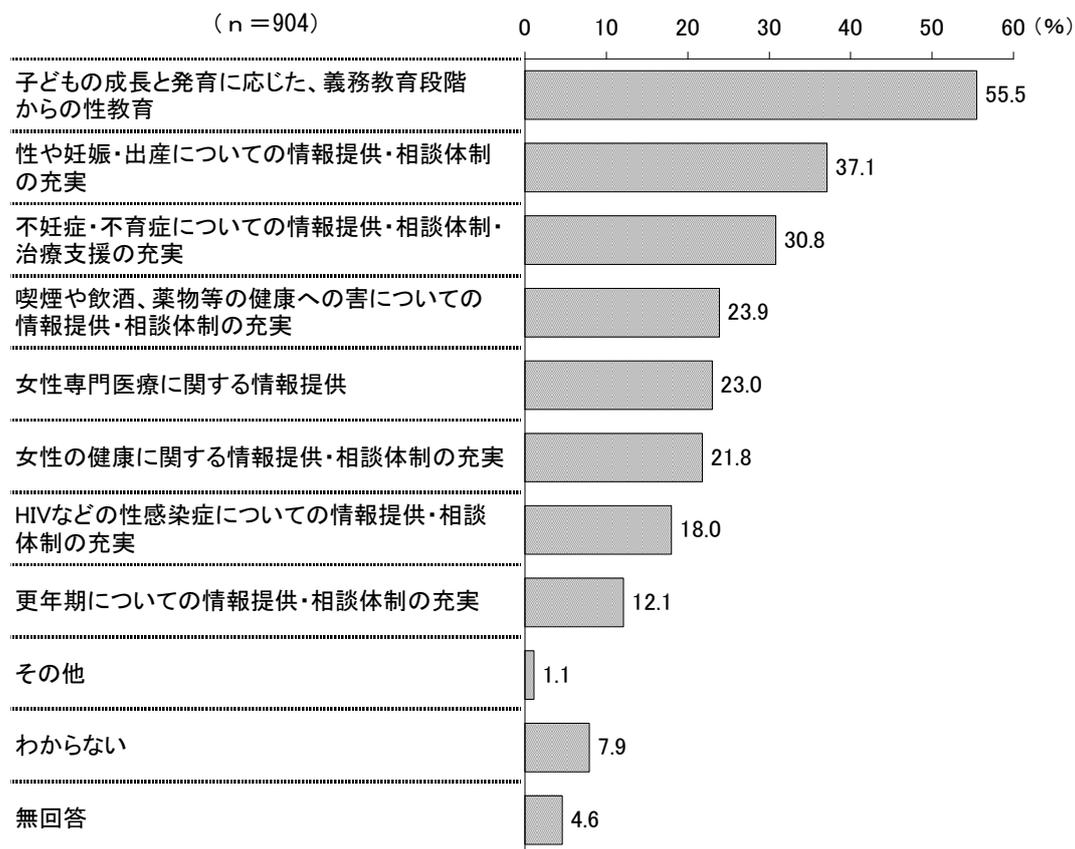
性/年齢別でみると、「避難所開設当初から、授乳室や男女および多様な性に配慮したトイレ、物干し場、更衣室を設ける」は女性20～29歳（90.2%）で9割と高くなっている。「女性用品について、女性の担当者から配布することや専用スペースに常備する等の工夫」は女性18～19歳（62.9%）で6割を超えて高くなっている。



6 性と生殖について

(1) 男女がともに妊娠・出産について考えていくために必要な取り組み

問30 女性が自らの心と身体の健康管理を行い、妊娠・出産に関して主体的に判断できるように、また、男性にとってもパートナーの妊娠・出産について考えていくための支援として、どのような取り組みが必要だと思いますか。【3つまでに○】

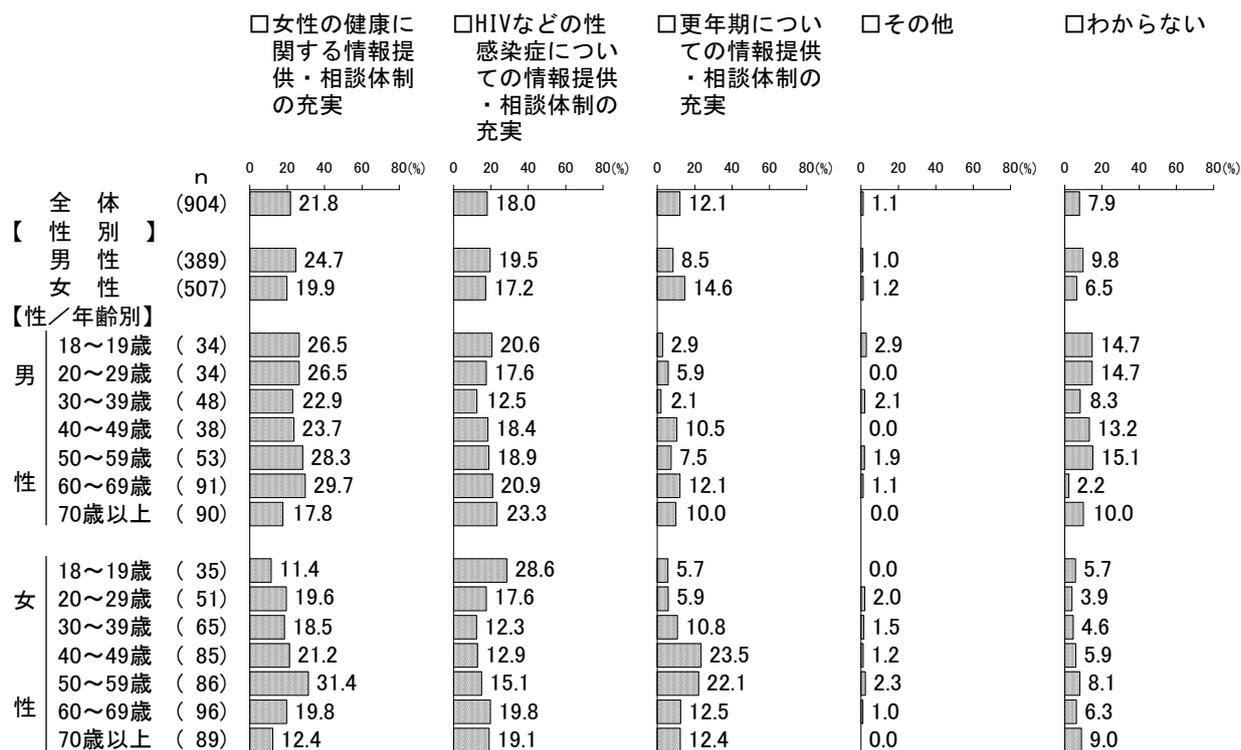
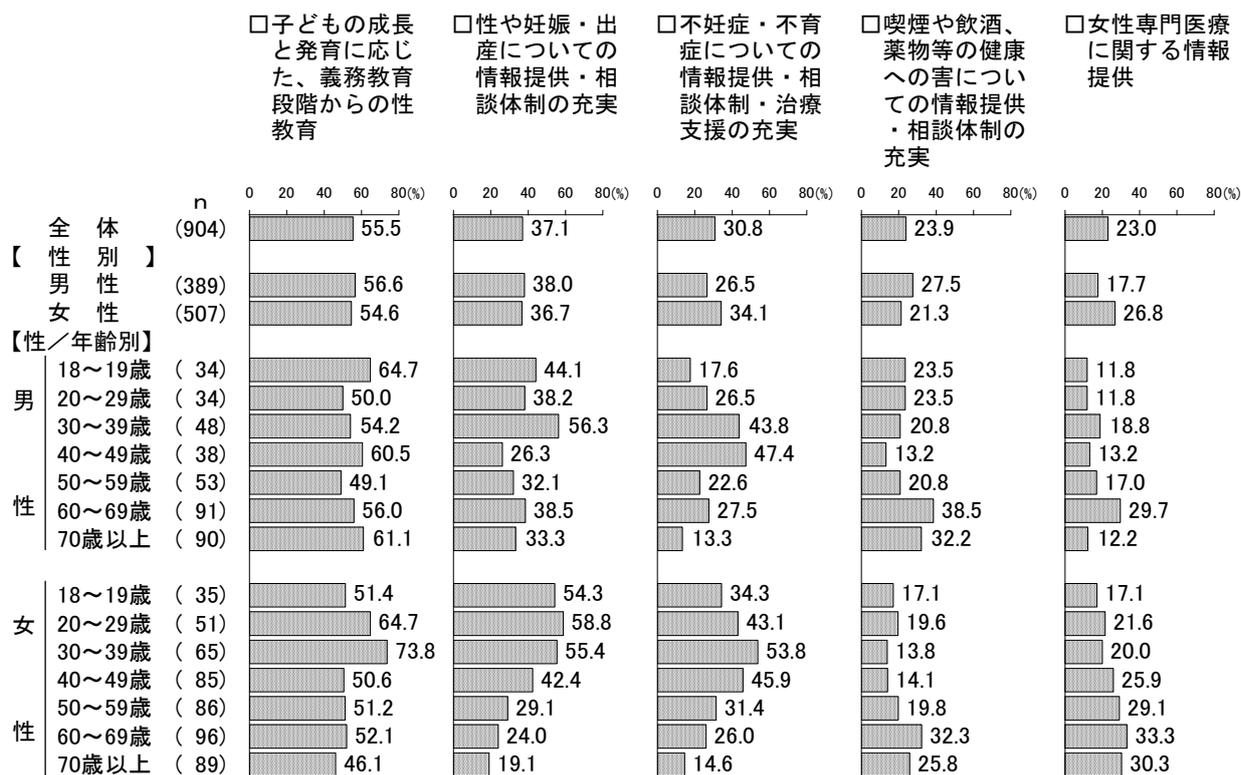


男女がともに妊娠・出産について考えていくために必要な取り組みを聞いたところ、「子どもの成長と発育に応じた、義務教育段階からの性教育」(55.5%)が5割半ばで最も高く、次いで「性や妊娠・出産についての情報提供・相談体制の充実」(37.1%)、「不妊症・不育症についての情報提供・相談体制・治療支援の充実」(30.8%)、「喫煙や飲酒、薬物等の健康への害についての情報提供・相談体制の充実」(23.9%)、「女性専門医療に関する情報提供」(23.0%)となっている。

<性別、性／年齢別>

性別で見ると、「女性専門医療に関する情報提供」は女性（26.8%）が男性（17.7%）より9.1ポイント高くなっている。一方、「喫煙や飲酒、薬物等の健康への害についての情報提供・相談体制の充実」は男性（27.5%）が女性（21.3%）より6.2ポイント高くなっている。

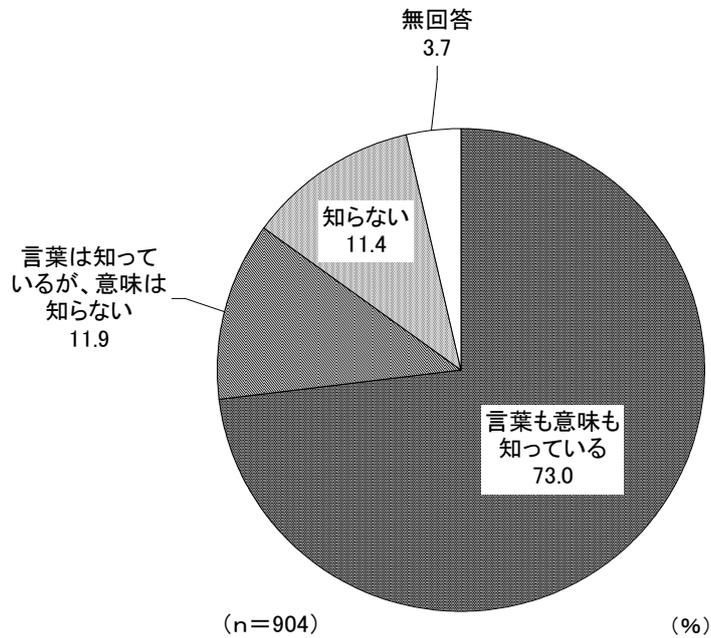
性／年齢別で見ると、「子どもの成長と発育に応じた、義務教育段階からの性教育」は女性30～39歳（73.8%）で7割を超えて高くなっている。「不妊症・不育症についての情報提供・相談体制・治療支援の充実」は女性30～39歳（53.8%）で5割を超えて高くなっている。



7 性的少数者（マイノリティ）について

（1）性的少数者（LGBT等）の認知度

問31 あなたは性的マイノリティ（LGBT等）という言葉を知っていますか。【1つに○】

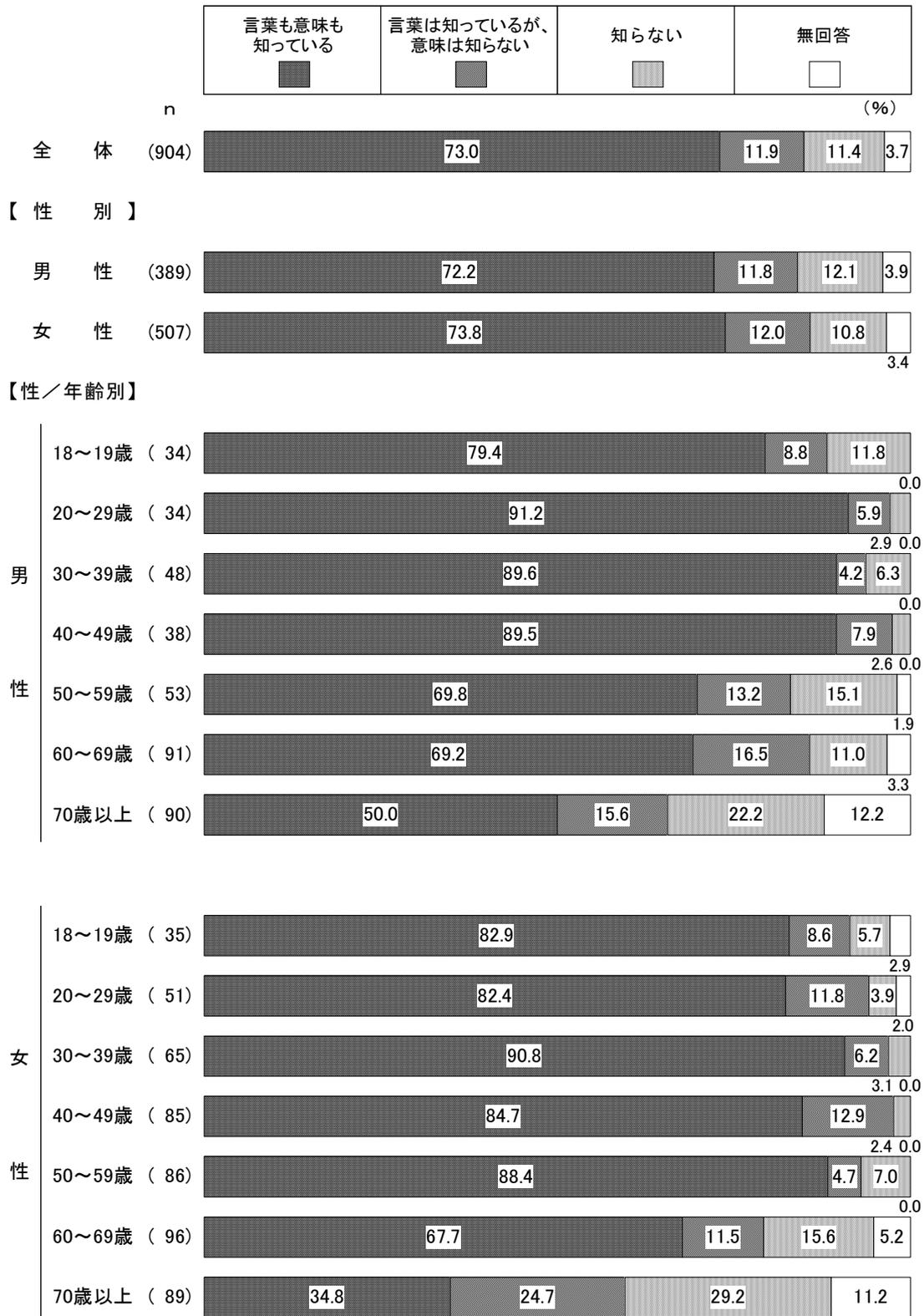


性的マイノリティ（LGBT等）という言葉を知っているか聞いたところ、「言葉も意味も知っている」（73.0%）が7割を超え、「言葉は知っているが、意味は知らない」（11.9%）は1割を超えている。一方、「知らない」（11.4%）は1割を超えている。

<性別、性／年齢別>

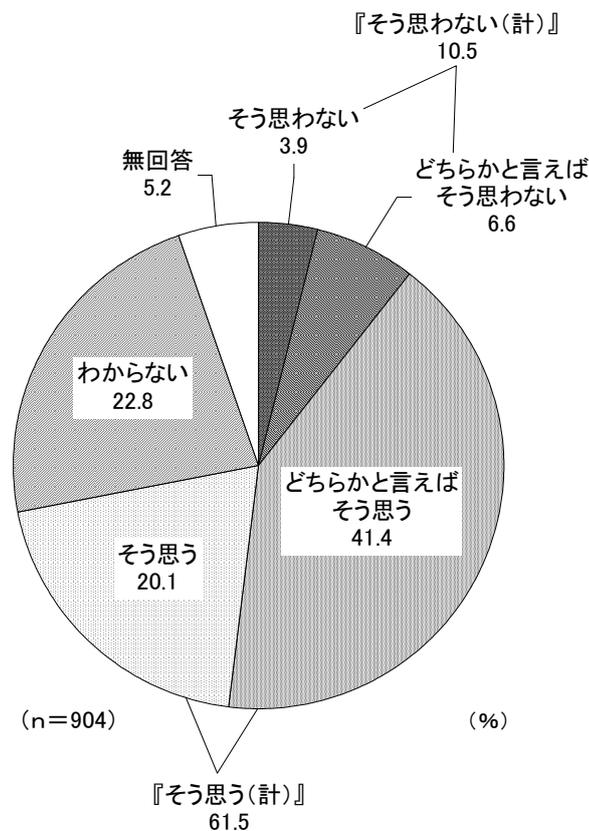
性別でみると、大きな違いはみられない。

性／年齢別でみると、「言葉も意味も知っている」は男性20～29歳（91.2%）と女性30～39歳（90.8%）で9割台と高くなっている。一方、「知らない」は女性70歳以上（29.2%）で約3割と高くなっている。



(2) 性的少数者にとって生活しづらい社会だと思うか

問32 現在、性的少数者の方々にとって、生活しづらい社会だと思いますか。【1つに○】

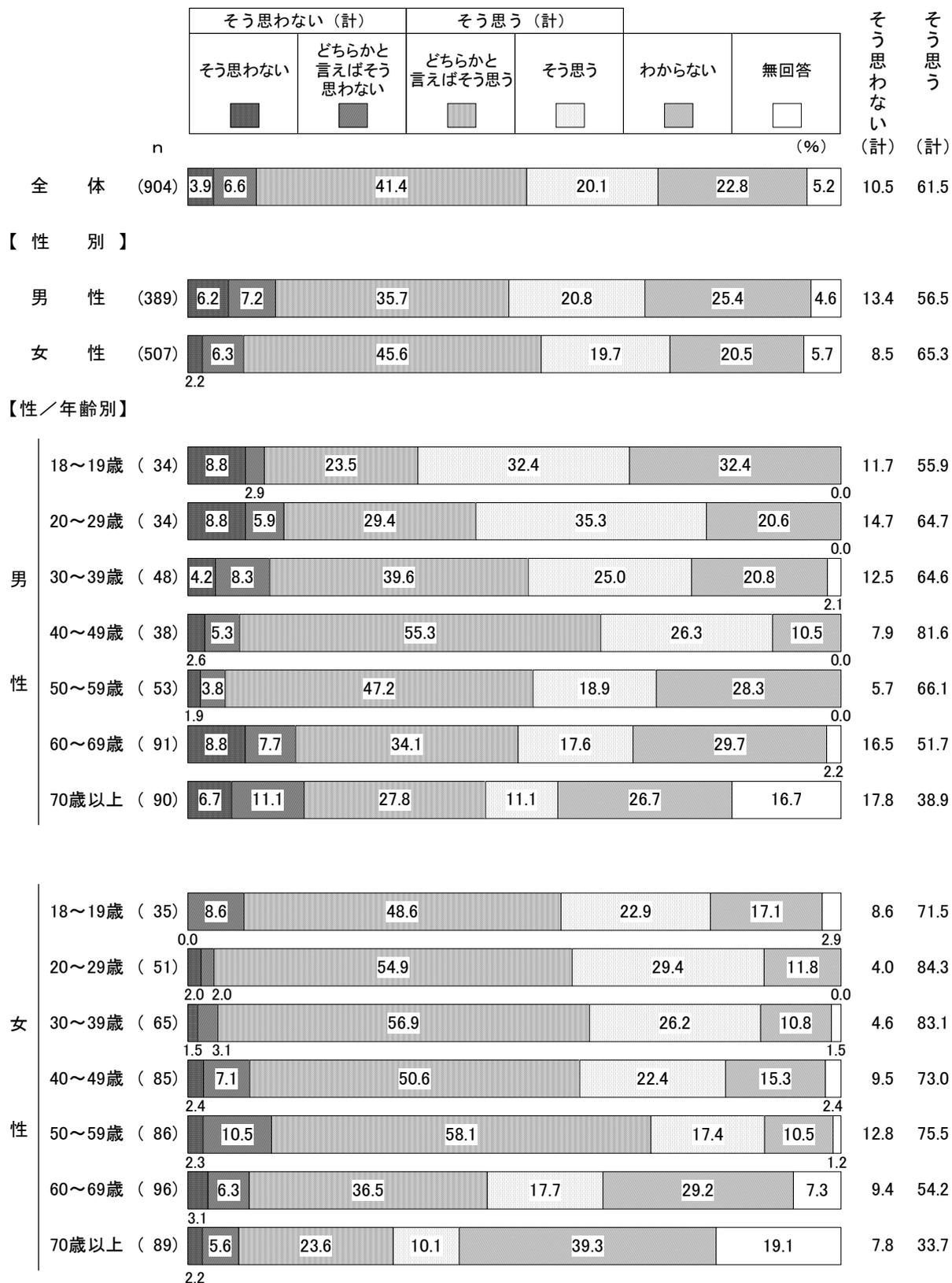


性的少数者の方々にとって、生活しづらい社会だと思うか聞いたところ、「そう思わない」(3.9%)と「どちらかと言えばそう思わない」(6.6%)を合わせた『そう思わない(計)』(10.5%)は約1割となっている。一方、「どちらかと言えばそう思う」(41.4%)と「そう思う」(20.1%)を合わせた『そう思う(計)』(61.5%)は6割を超えている。

<性別、性／年齢別>

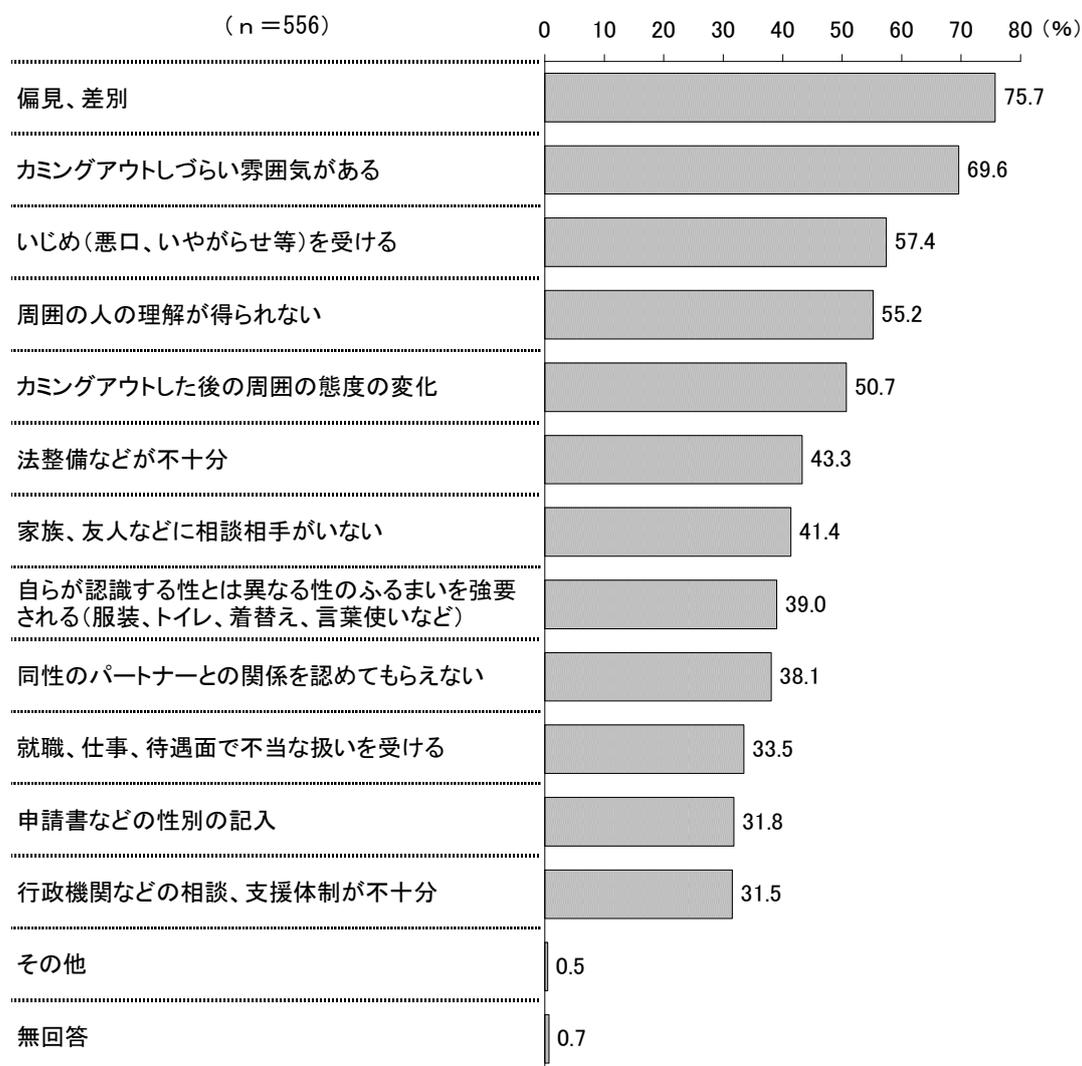
性別でみると、『そう思う（計）』は女性（65.3%）が男性（56.5%）より8.8ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、『そう思う（計）』は女性20～29歳（84.3%）、女性30～39歳（83.1%）、男性40～49歳（81.6%）で8割台と高くなっている。



(3) 性的少数者にとって生活しづらい社会だと思う理由

【問32で、「どちらかと言えばそう思う」「そう思う」とお答えの方にかがいます】
 問32-1 そのように思う理由は何ですか。【あてはまるものすべてに○】

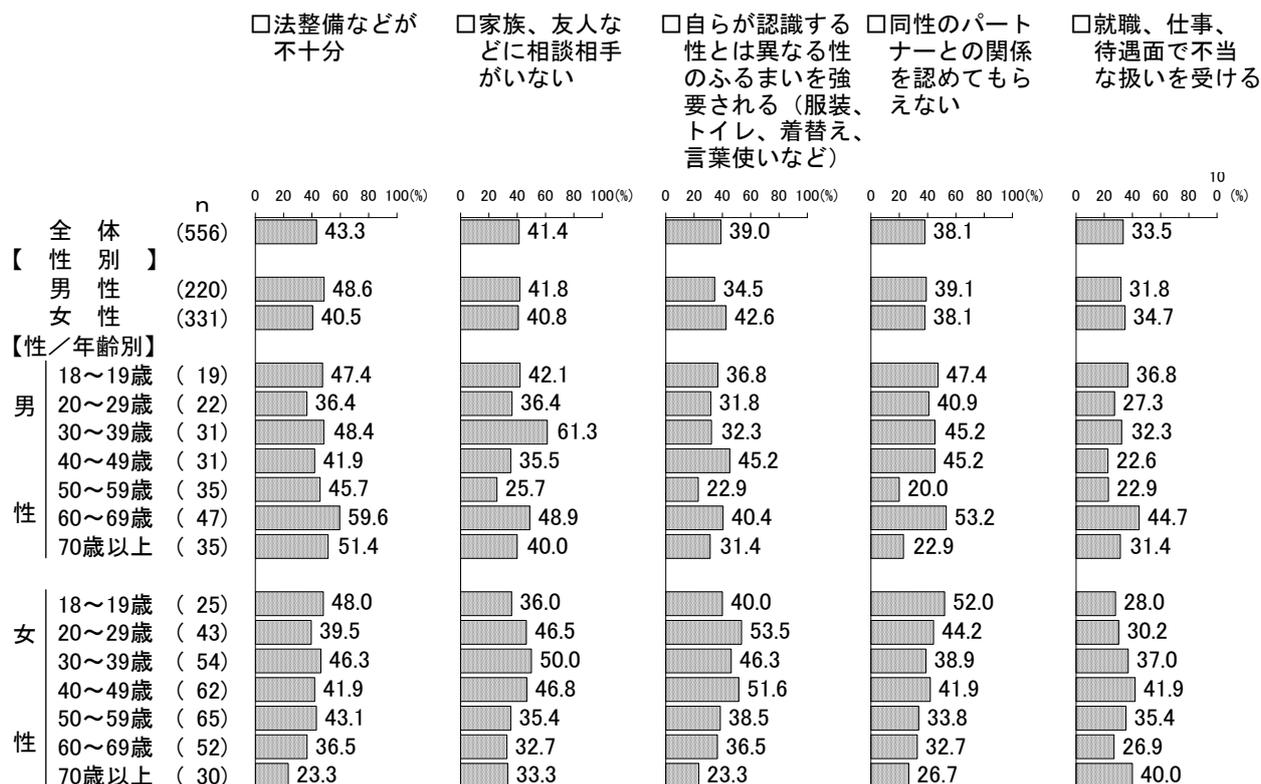
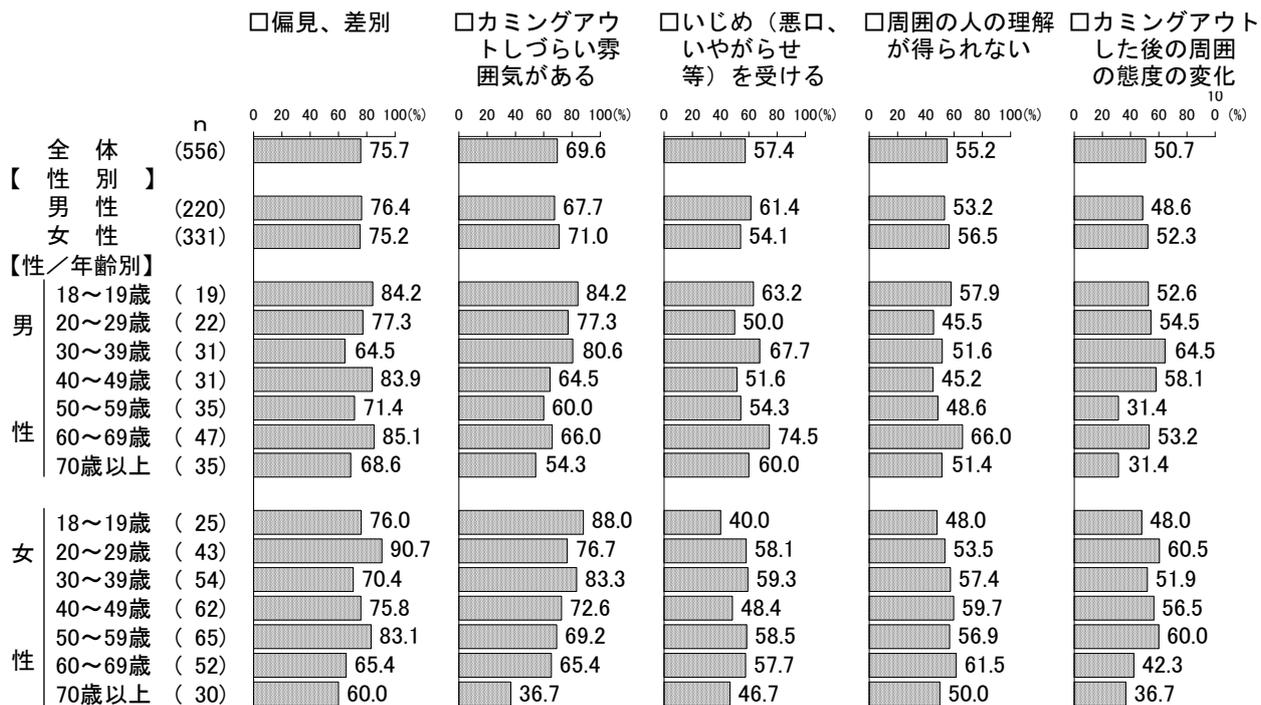


性的少数者にとって生活しづらい社会だと「どちらかと言えばそう思う」「そう思う」と答えた方に、その理由を聞いたところ、「偏見、差別」(75.7%)が7割半ばで最も高く、次いで「カミングアウトしづらい雰囲気がある」(69.6%)、「いじめ(悪口、いやがらせ等)を受ける」(57.4%)、「周囲の人の理解が得られない」(55.2%)、「カミングアウトした後の周囲の態度の変化」(50.7%)となっている。

<性別、性／年齢別>（上位10項目）

性別でみると、「法整備などが不十分」は男性（48.6%）が女性（40.5%）より8.1ポイント高くなっている。一方、「自らが認識する性とは異なる性のふるまいを強要される」は女性（42.6%）が男性（34.5%）より8.1ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「偏見、差別」は女性20～29歳（90.7%）で約9割と高くなっている。「カミングアウトしづらい雰囲気がある」は女性18～19歳（88.0%）で9割近くと高くなっている。「いじめ（悪口、いやがらせ等）を受ける」は男性60～69歳（74.5%）で7割半ばと高くなっている。

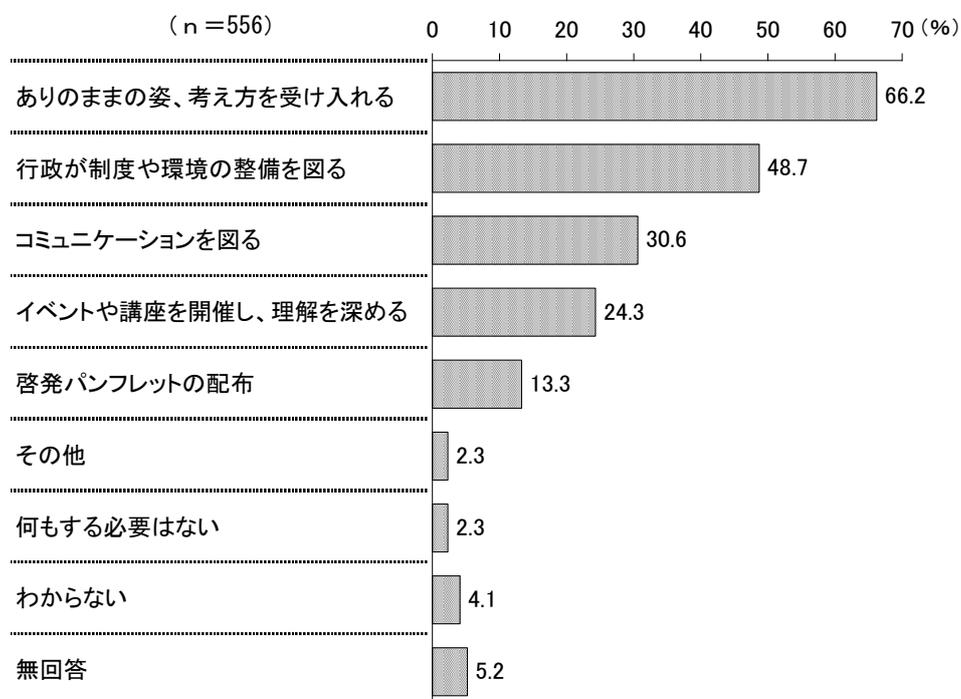


(4) 性的少数者が生活しやすくなるために必要なこと

【問32で、「どちらかと言えばそう思う」「そう思う」とお答えの方にはうかがいます】

問32-2 性的少数者の方々が生活しやすくなるためにはどうすべきだと思いますか。

【あてはまるものすべてに○】

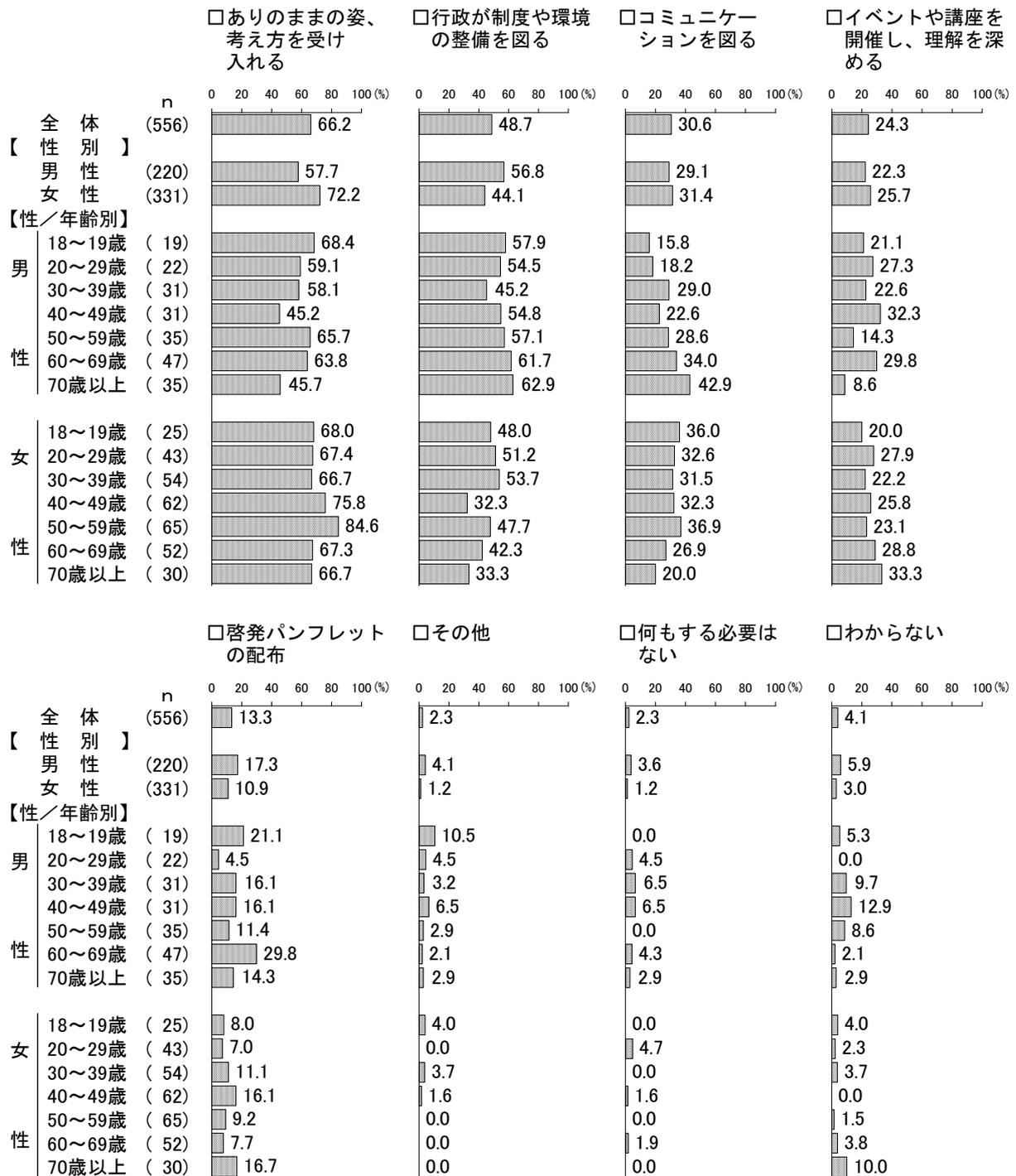


性的少数者にとって生活しづらい社会だと「どちらかと言えばそう思う」「そう思う」と答えた方に、性的少数者の方々が生活しやすくなるためにはどうすべきか聞いたところ、「ありのままの姿、考え方を受け入れる」(66.2%)が6割半ばで最も高く、次いで「行政が制度や環境の整備を図る」(48.7%)、「コミュニケーションを図る」(30.6%)、「イベントや講座を開催し、理解を深める」(24.3%)、「啓発パンフレットの配布」(13.3%)となっている。

<性別、性／年齢別>

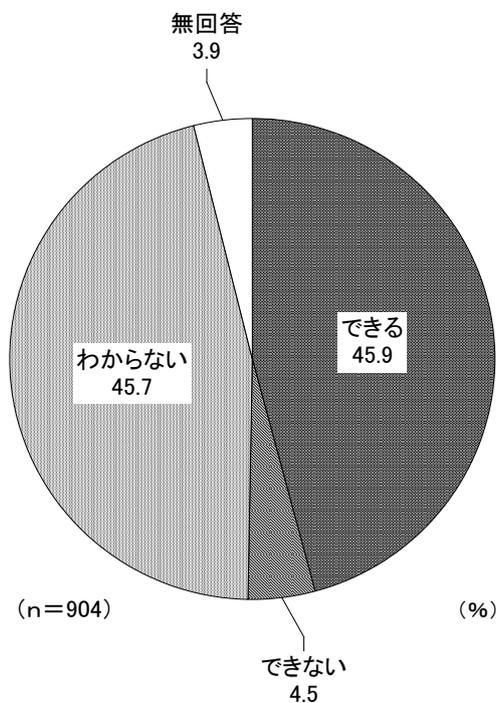
性別で見ると、「ありのままの姿、考え方を受け入れる」は女性（72.2%）が男性（57.7%）より14.5ポイント高くなっている。一方、「行政が制度や環境の整備を図る」は男性（56.8%）が女性（44.1%）より12.7ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、「ありのままの姿、考え方を受け入れる」は女性50～59歳（84.6%）で8割半ばと高くなっている。「行政が制度や環境の整備を図る」は男性60～69歳（61.7%）と男性70歳以上（62.9%）で6割を超えて高くなっている。「コミュニケーションを図る」は男性70歳以上（42.9%）で4割を超えて高くなっている。



(5) 身近な方が性的少数者だった場合の接し方

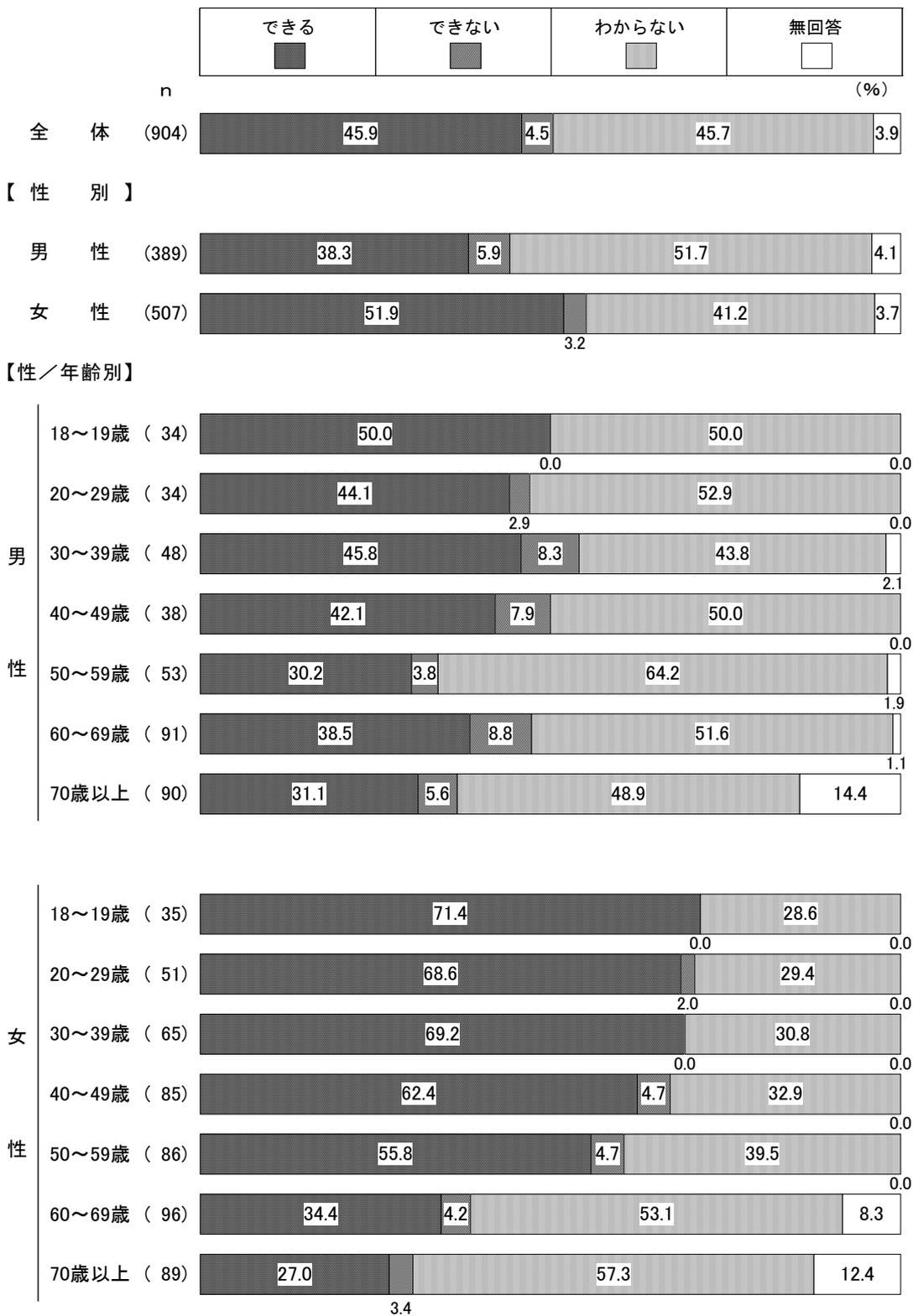
問33 あなたの身近な方（家族、友人など）が性的少数者だった場合、これまでと変わりなく接することができますか。【1つに〇】



身近な方が性的少数者だった場合、これまでと変わりなく接することができるか聞いたところ、「できる」(45.9%)が4割半ば、「できない」(4.5%)はわずかとなっている。また、「わからない」(45.7%)は4割半ばとなっている。

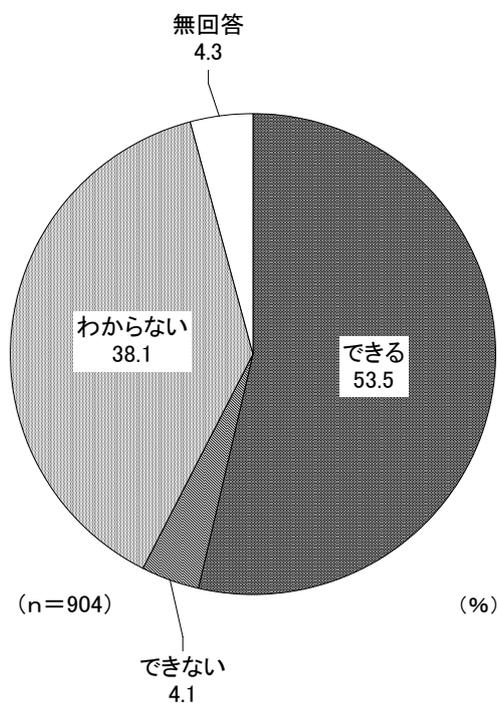
<性別、性／年齢別>

性別でみると、「できる」は女性（51.9%）が男性（38.3%）より13.6ポイント高くなっている。
 性／年齢別でみると、「できる」は女性18～19歳（71.4%）で7割を超えて高くなっている。



(6) 学校や職場内の人が性的少数者だった場合の接し方

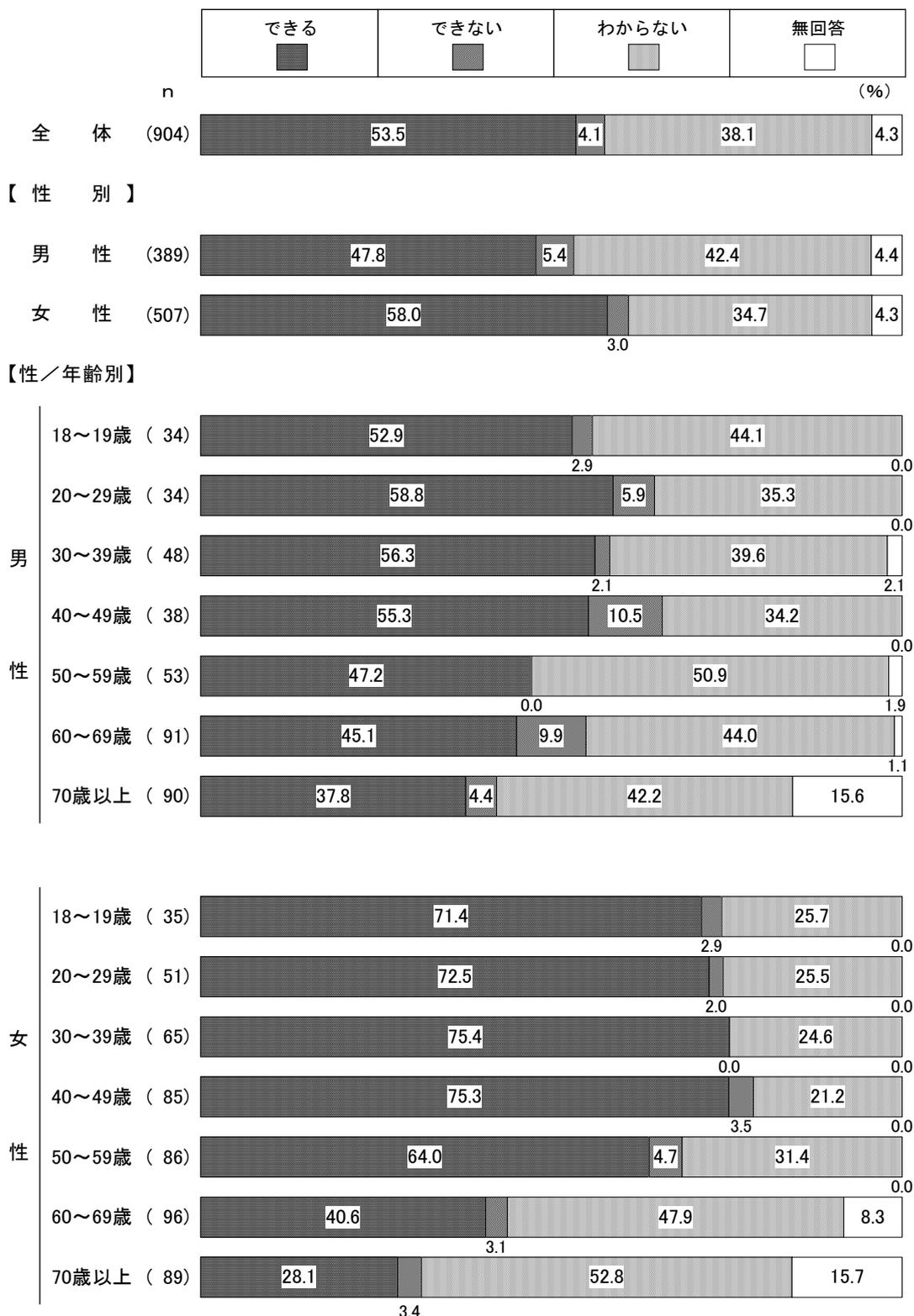
問34 学校や職場内の人が性的少数者だった場合、これまでと変わりなく接することができますか。【1つに〇】



学校や職場内の人が性的少数者だった場合、これまでと変わりなく接することができるか聞いたところ、「できる」(53.5%)が5割を超え、「できない」(4.1%)はわずかとなっている。また、「わからない」(38.1%)は4割近くとなっている。

<性別、性／年齢別>

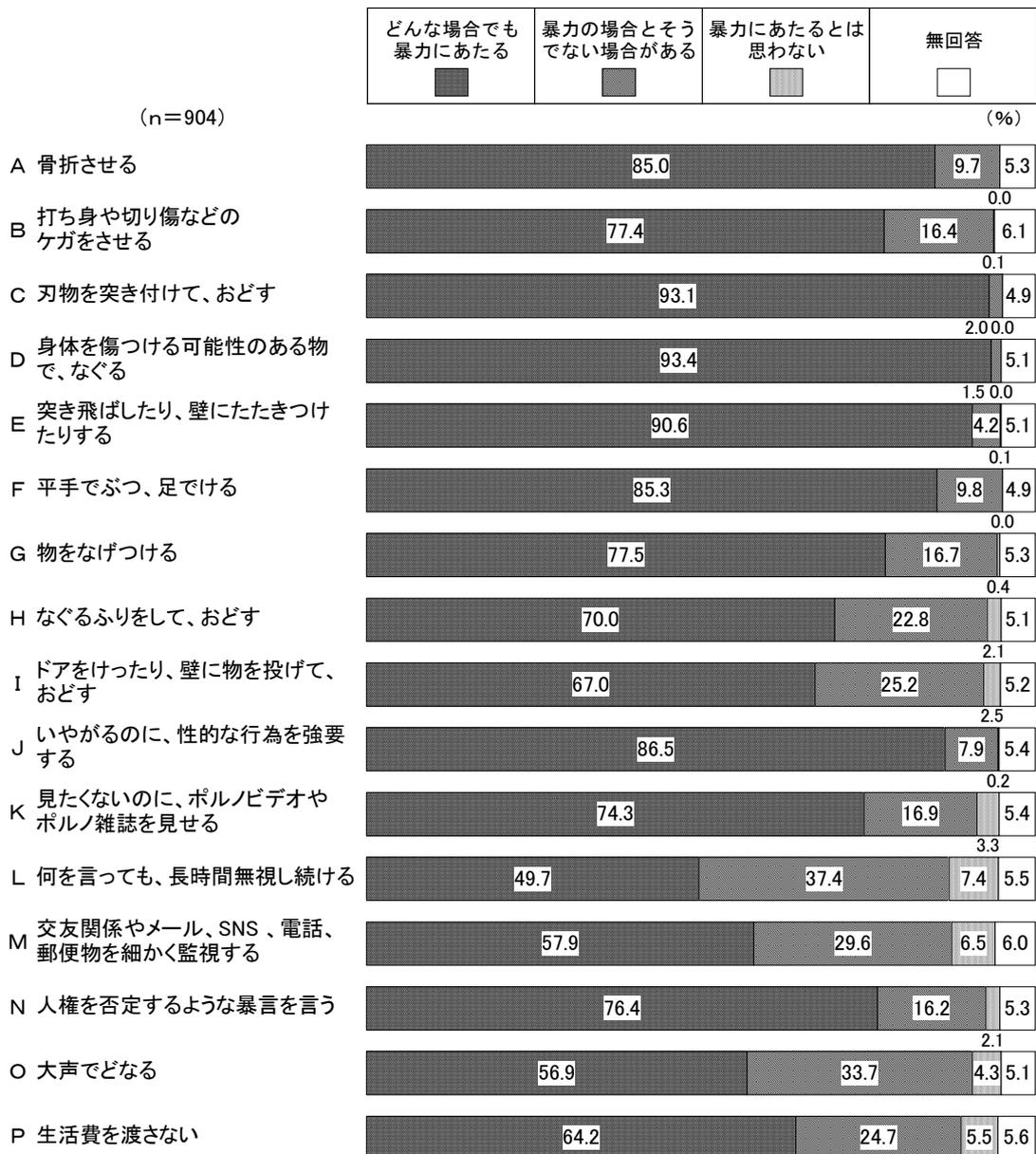
性別でみると、「できる」は女性（58.0%）が男性（47.8%）より10.2ポイント高くなっている。
 性／年齢別でみると、「できる」は女性の49歳以下の年代で7割台と高くなっている。



8 DV（配偶者等からの暴力）について

（1）暴力として認識される行為

問35 次のようなことが夫婦（事実婚や別居中を含む）・パートナーや恋人の間で行われた場合、それを暴力だと思いますか。【それぞれの項目について1つに○】



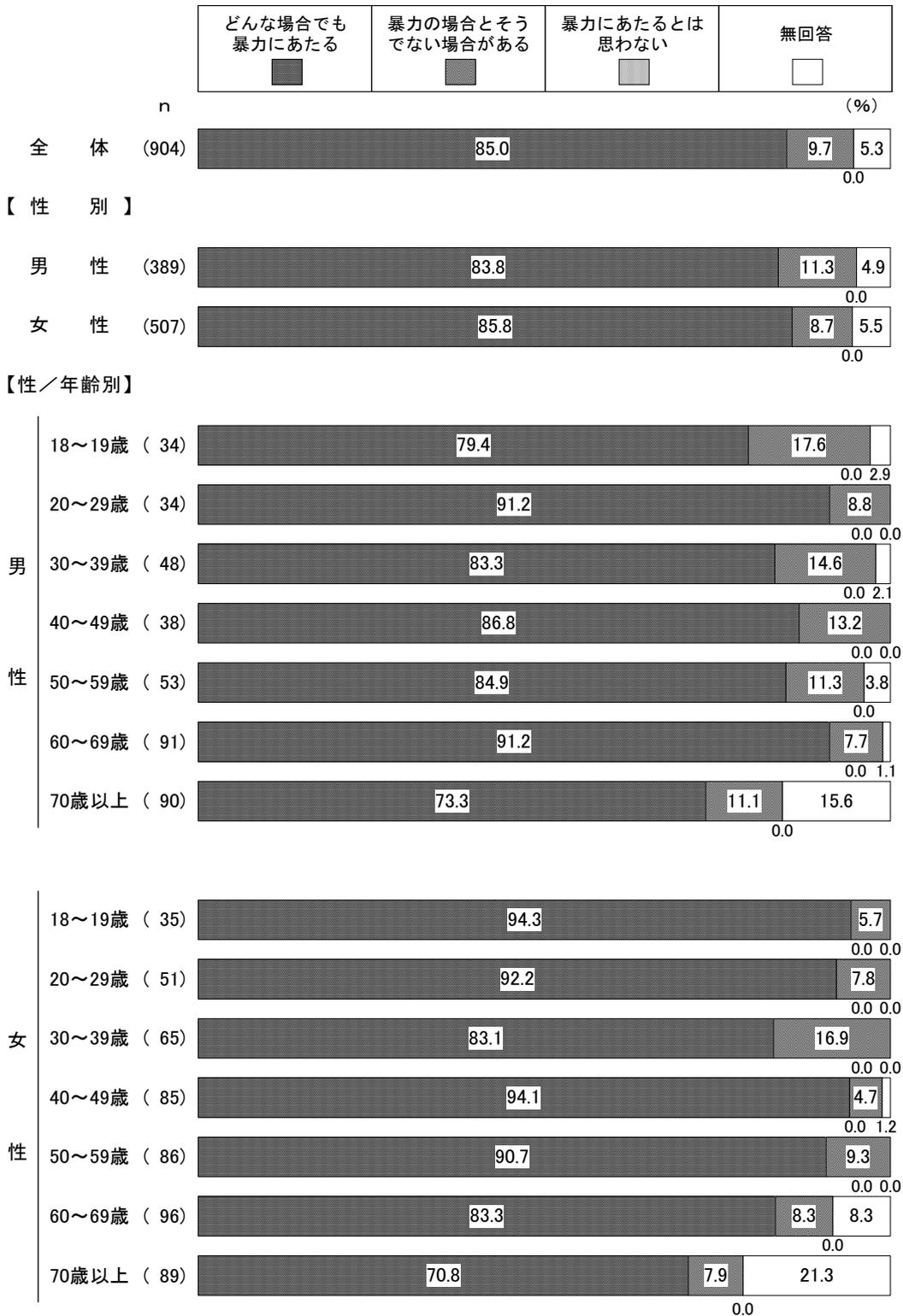
暴力として認識される行為について聞いたところ、「どんな場合でも暴力にあたる」は“身体を傷つける可能性のある物で、なぐる”（93.4%），“刃物を突き付けて、おどす”（93.1%），“突き飛ばしたり、壁にたたきつけたりする”（90.6%）が9割台で高くなっている。

「暴力の場合とそうでない場合がある」は“何を言っても、長時間無視し続ける”（37.4%）が4割近くで最も高く、次いで“大声でどなる”（33.7%），“交友関係やメール、SNS、電話、郵便物を細かく監視する”（29.6%）となっている。

<性別、性／年齢別> A 骨折させる

骨折させるについて性別でみると、大きな違いはみられない。

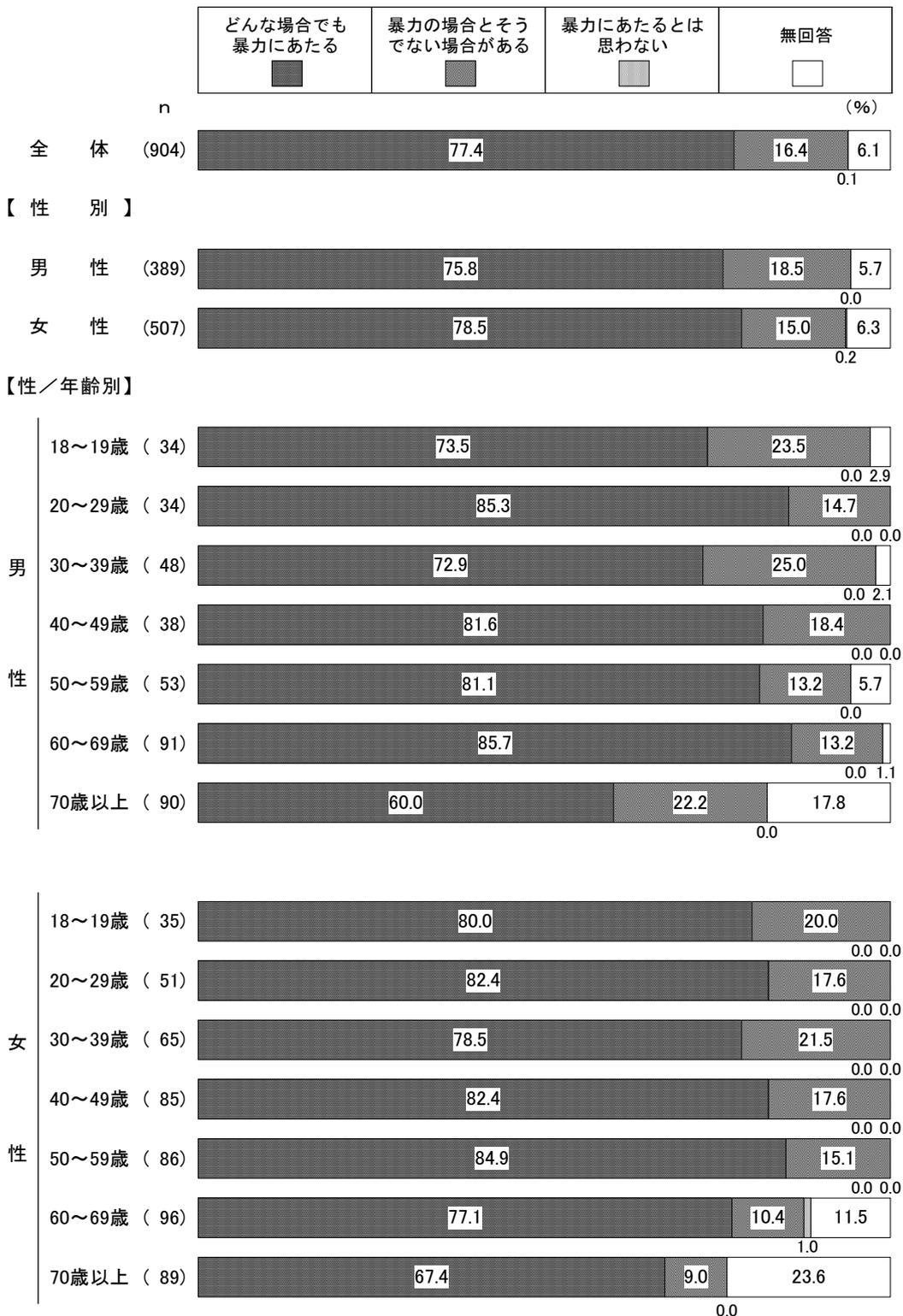
性／年齢別でみると、「どんな場合でも暴力にあたる」は女性18～19歳（94.3%）と女性40～49歳（94.1%）で9割半ばと高くなっている。



<性別、性／年齢別> B 打ち身や切り傷などのケガをさせる

打ち身や切り傷などのケガをさせるについて性別で見ると、「暴力の場合とそうでない場合がある」は男性（18.5%）が女性（15.0%）より3.5ポイント高くなっている。

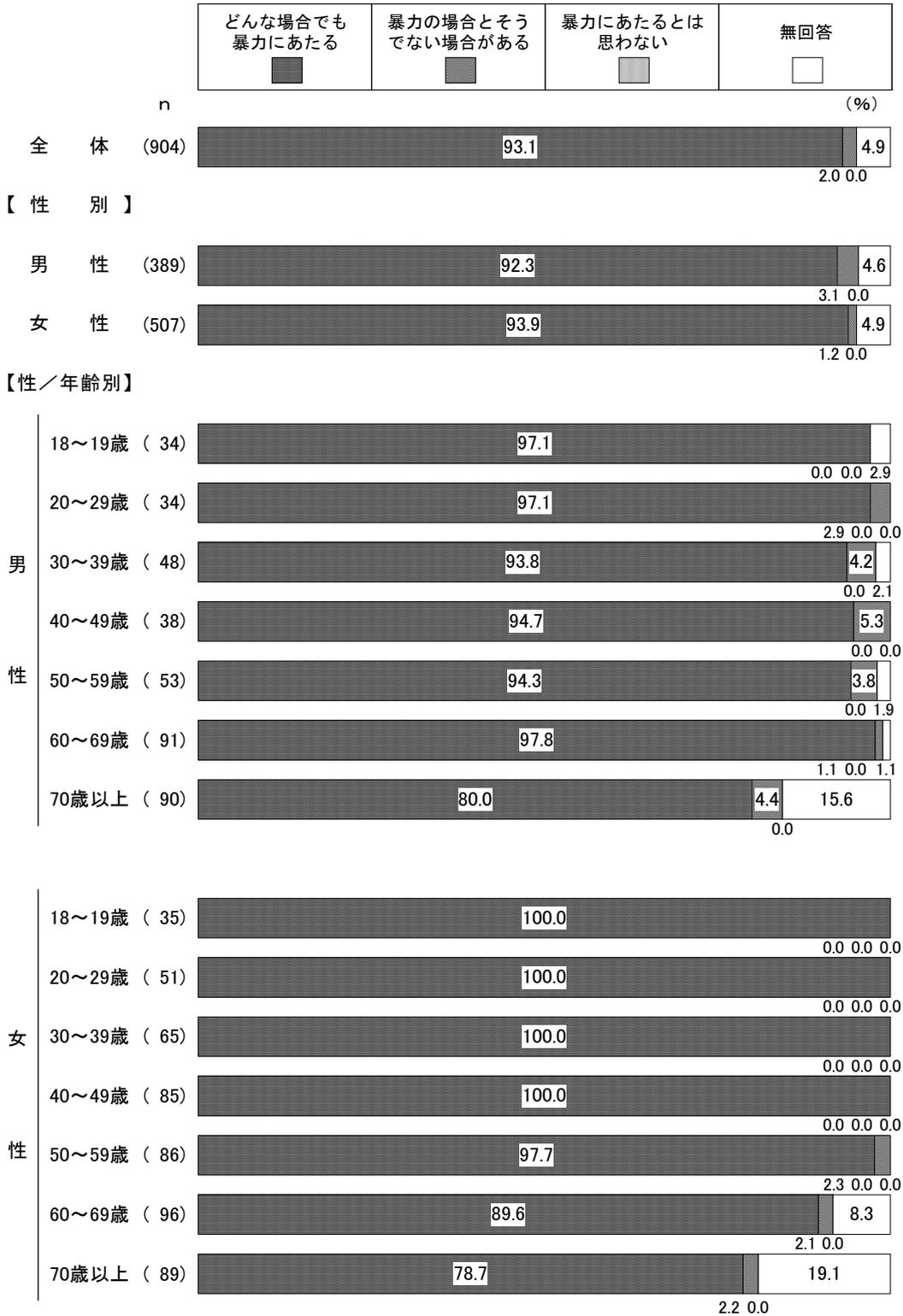
性／年齢別で見ると、「どんな場合でも暴力にあたる」は男性20～29歳（85.3%）、男性60～69歳（85.7%）、女性50～59歳（84.9%）で8割半ばと高くなっている。「暴力の場合とそうでない場合がある」は男性30～39歳（25.0%）で2割半ばと高くなっている。



<性別、性／年齢別> C 刃物を突き付けて、おどす

刃物を突き付けてについて性別で見ると、大きな違いはみられない。

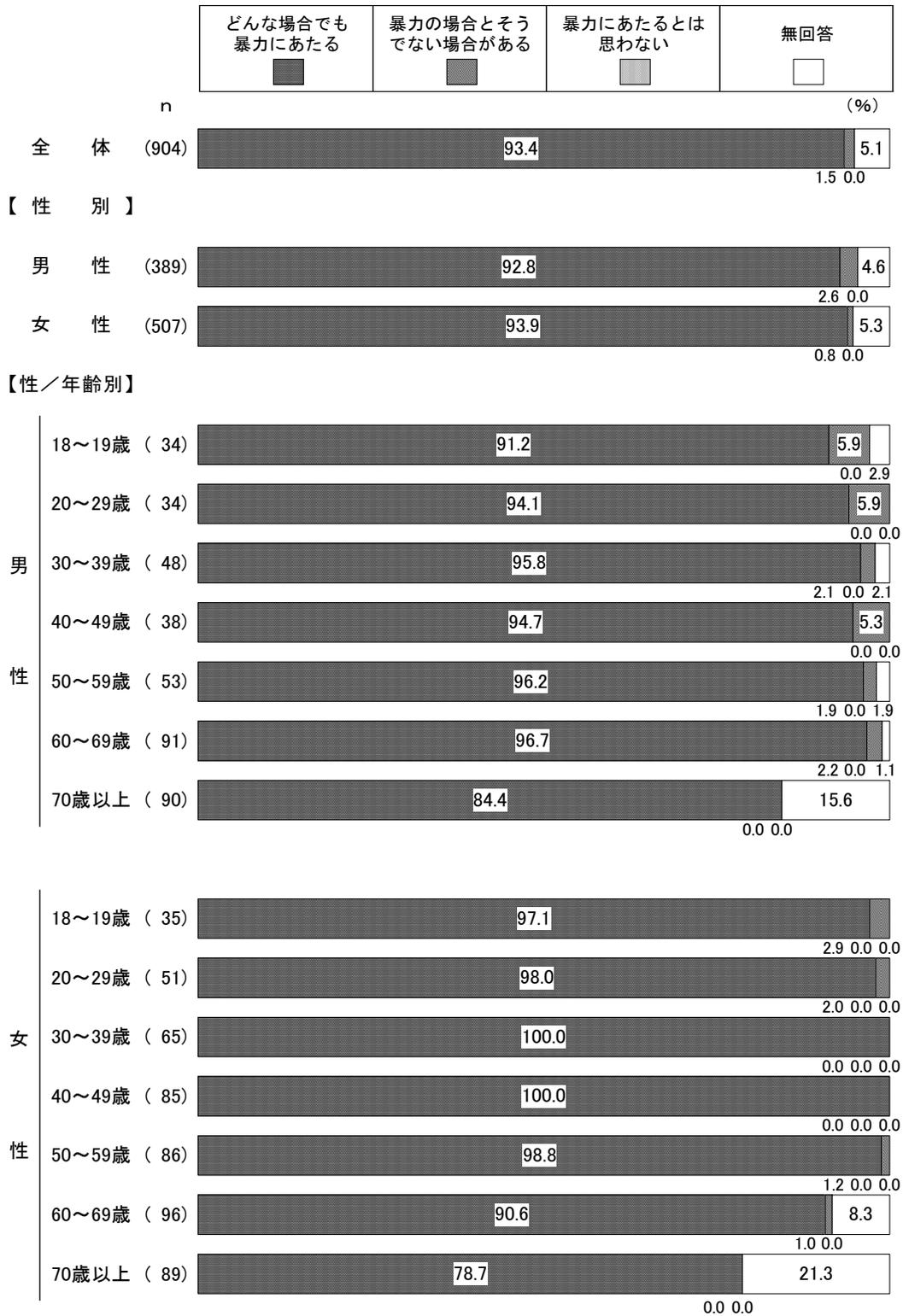
性／年齢別で見ると、「どんな場合でも暴力にあたる」は女性の49歳以下の年代で全数となっている。



<性別、性／年齢別> D 身体を傷つける可能性のある物で、なぐる

身体を傷つける可能性のある物で、なぐるについて性別で見ると、大きな違いはみられない。

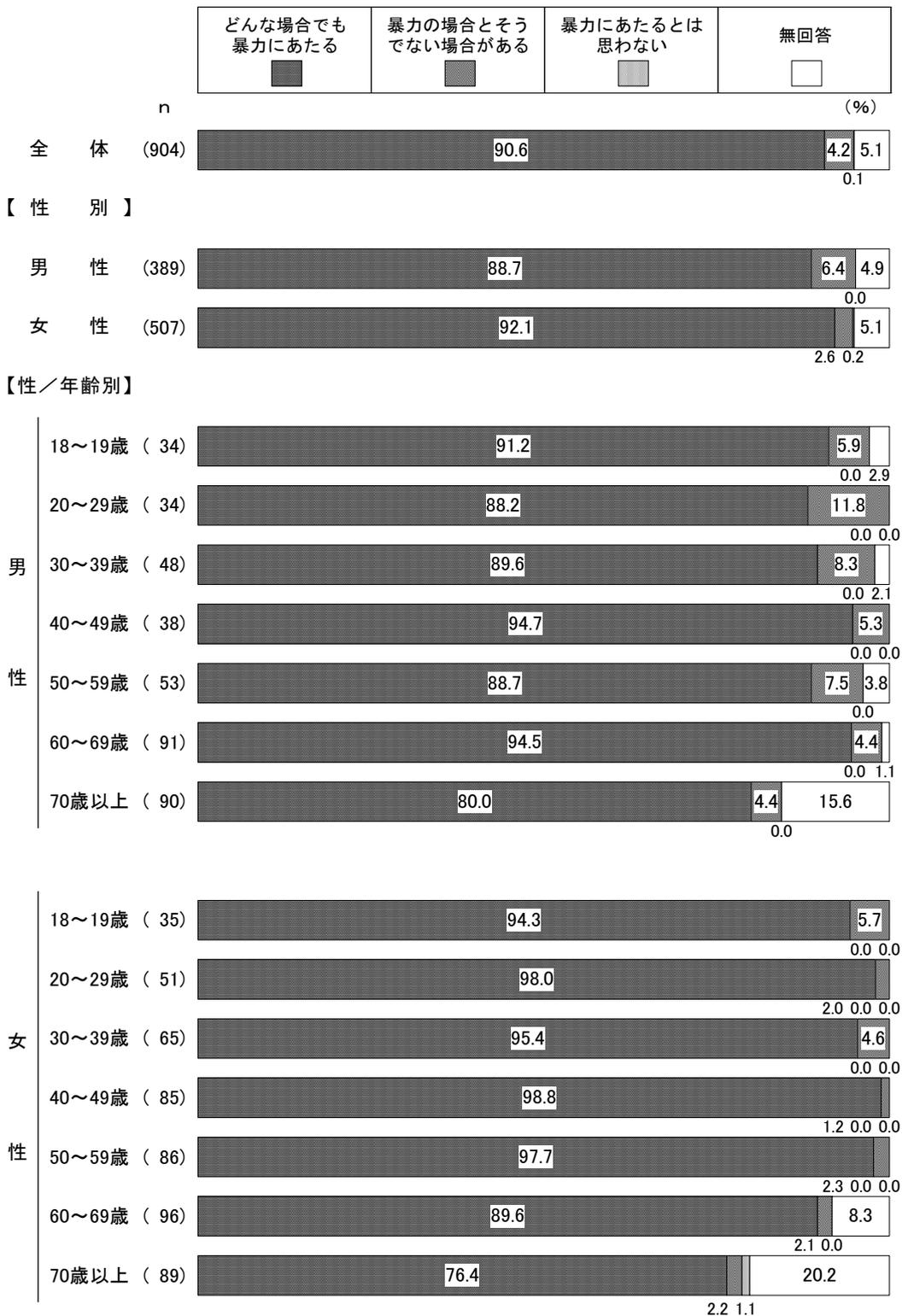
性／年齢別で見ると、「どんな場合でも暴力にあたる」は女性30～39歳（100.0%）と女性40～49歳（100.0%）で全数となっている。



<性別、性／年齢別> E 突き飛ばしたり、壁にたたきつけたりする

突き飛ばしたり、壁にたたきつけたりするについて性別でみると、「暴力の場合とそうでない場合がある」は男性（6.4%）が女性（2.6%）より3.8ポイント高くなっている。一方、「どんな場合でも暴力にあたる」は女性（92.1%）が男性（88.7%）より3.4ポイント高くなっている。

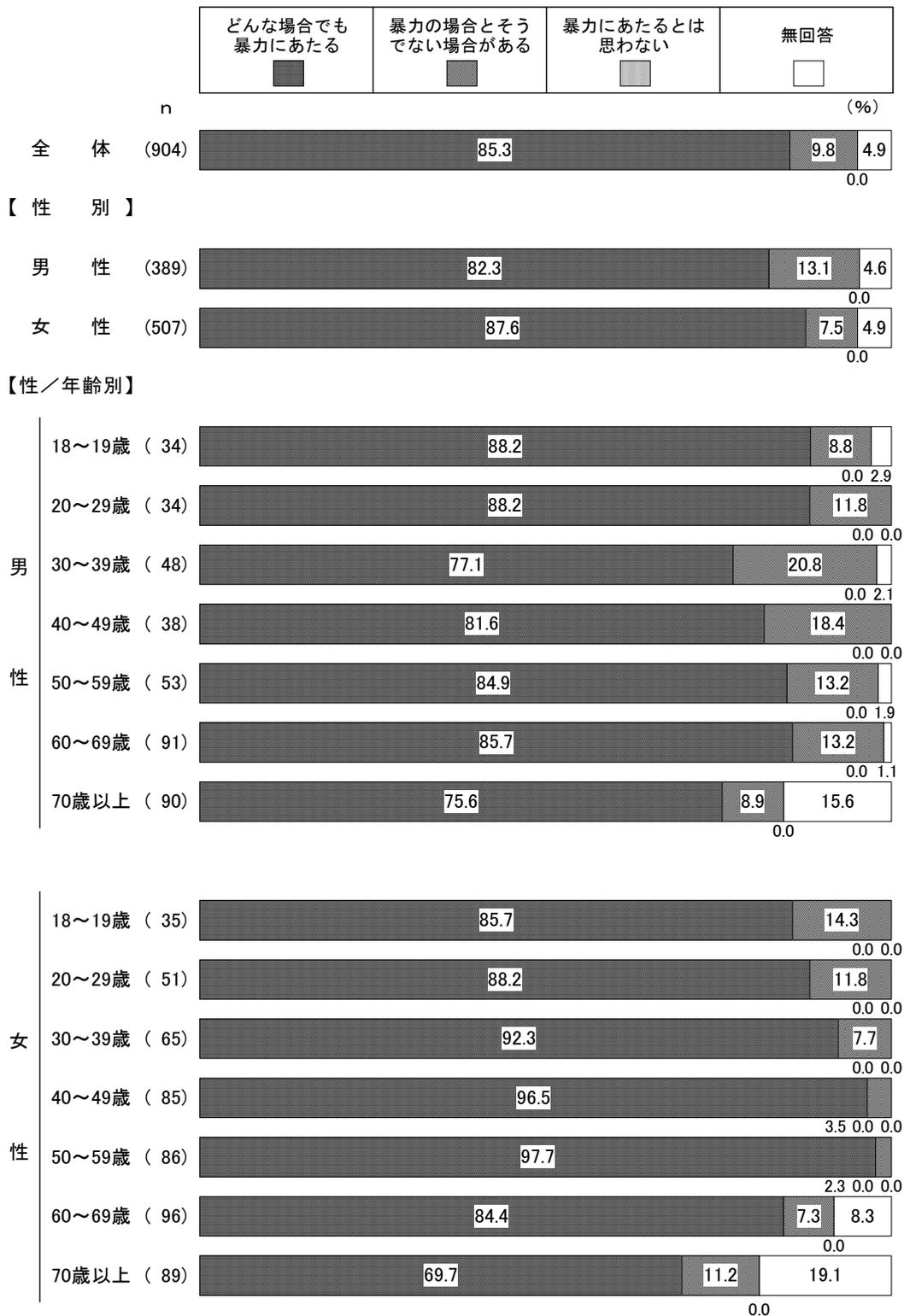
性／年齢別でみると、「どんな場合でも暴力にあたる」は女性20～29歳（98.0%）、女性40～49歳（98.8%）、女性50～59歳（97.7%）で10割近くと高くなっている。



<性別、性／年齢別> F 平手でぶつ、足でける

平手でぶつ、足でけるについて性別でみると、「暴力の場合とそうでない場合がある」は男性（13.1%）が女性（7.5%）より5.6ポイント高くなっている。一方、「どんな場合でも暴力にあたる」は女性（87.6%）が男性（82.3%）より5.3ポイント高くなっている。

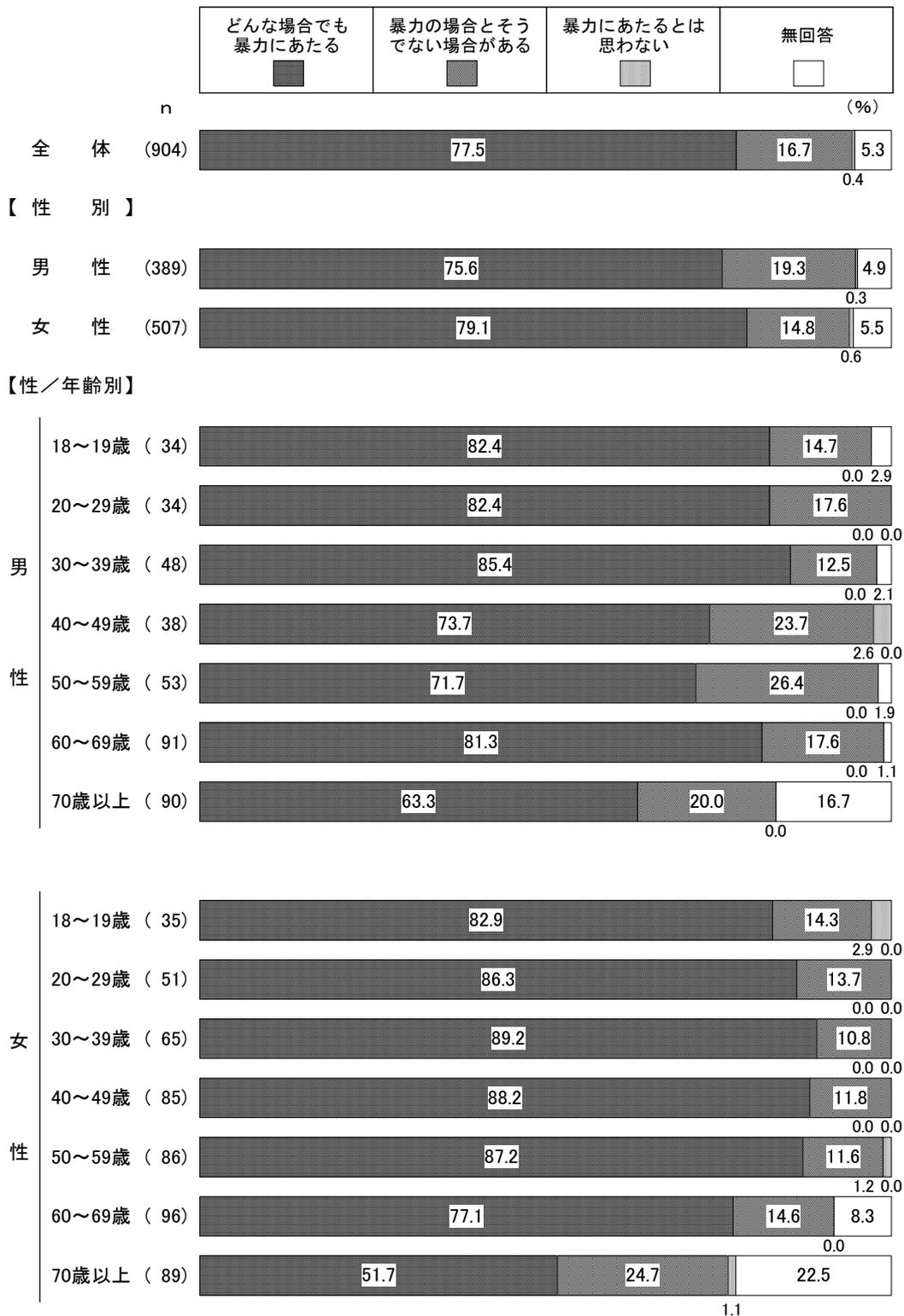
性／年齢別でみると、「どんな場合でも暴力にあたる」は女性30～39歳（92.3%）、女性40～49歳（96.5%）、女性50～59歳（97.7%）で9割台と高くなっている。「暴力の場合とそうでない場合がある」は男性30～39歳（20.8%）で約2割と高くなっている。



<性別、性／年齢別> G 物をなげつける

物をなげつけるについて性別で見ると、「暴力の場合とそうでない場合がある」は男性（19.3%）が女性（14.8%）より4.5ポイント高くなっている。一方、「どんな場合でも暴力にあたる」は女性（79.1%）が男性（75.6%）より3.5ポイント高くなっている。

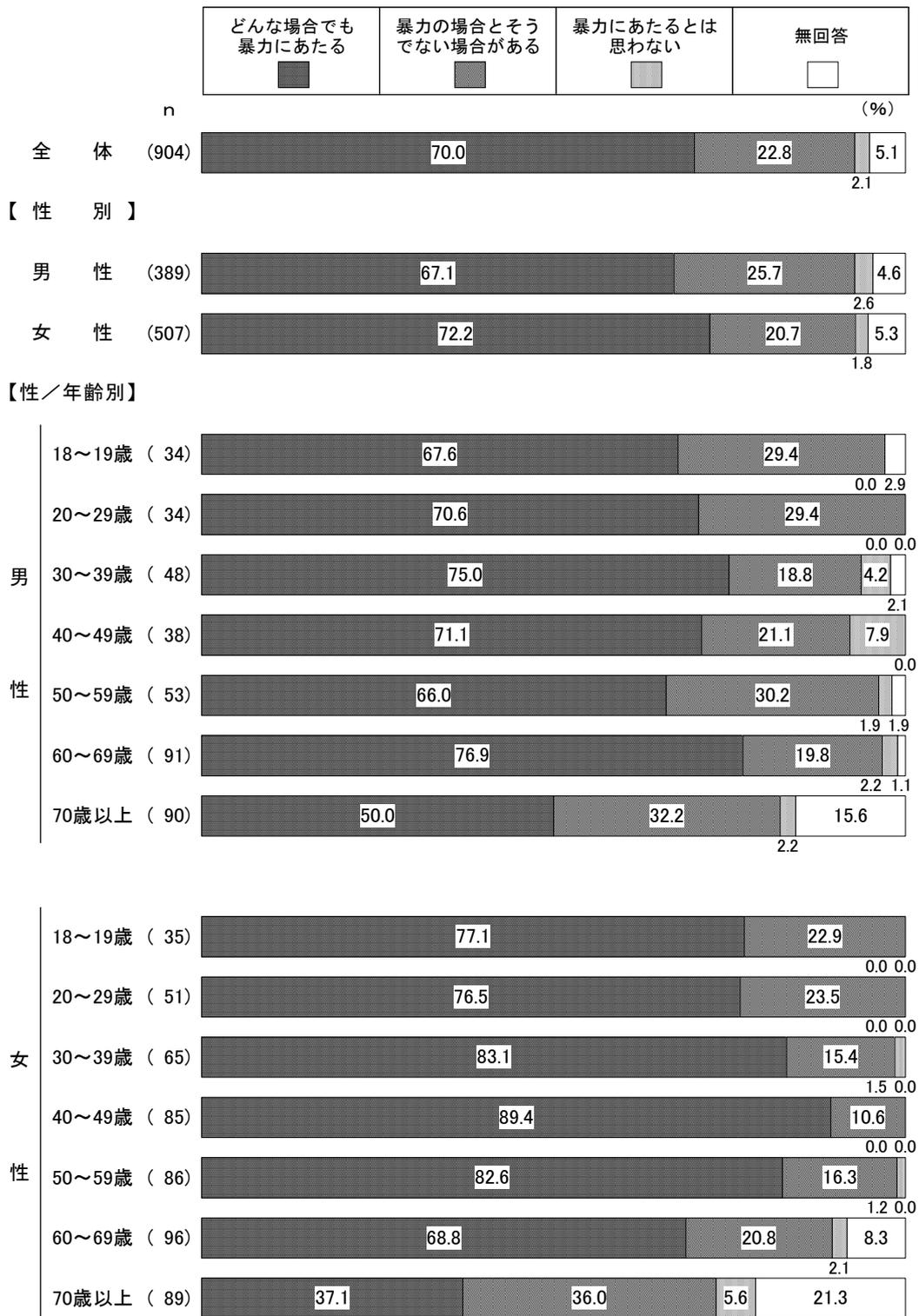
性／年齢別で見ると、「どんな場合でも暴力にあたる」は女性30～39歳（89.2%）で約9割と高くなっている。「暴力の場合とそうでない場合がある」は男性50～59歳（26.4%）と女性70歳以上（24.7%）で2割半ばと高くなっている。



＜性別、性／年齢別＞ H なぐるふりをして、おどす

なぐるふりをして、おどすについて性別でみると、「どんな場合でも暴力にあたる」は女性(72.2%)が男性(67.1%)より5.1ポイント高くなっている。一方、「暴力の場合とそうでない場合がある」は男性(25.7%)が女性(20.7%)より5.0ポイント高くなっている。

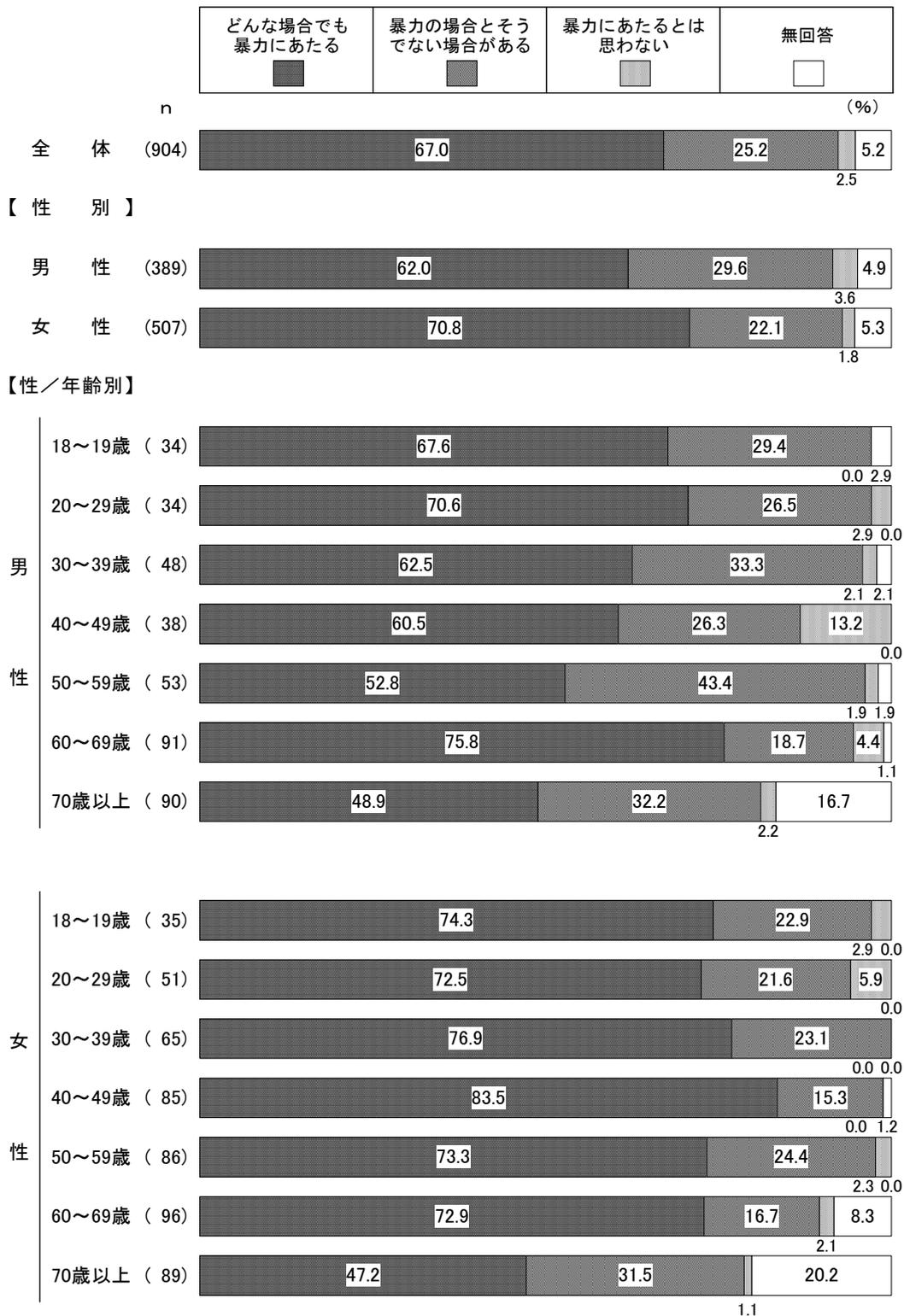
性／年齢別でみると、「どんな場合でも暴力にあたる」は女性40～49歳(89.4%)で約9割と高くなっている。「暴力の場合とそうでない場合がある」は女性70歳以上(36.0%)で3割半ばと高くなっている。



<性別、性／年齢別> I ドアをけったり、壁に物を投げて、おどす

ドアをけったり、壁に物を投げて、おどすについて性別でみると、「どんな場合でも暴力にあたる」は女性（70.8%）が男性（62.0%）より8.8ポイント高くなっている。一方、「暴力の場合とそうでない場合がある」は男性（29.6%）が女性（22.1%）より7.5ポイント高くなっている。

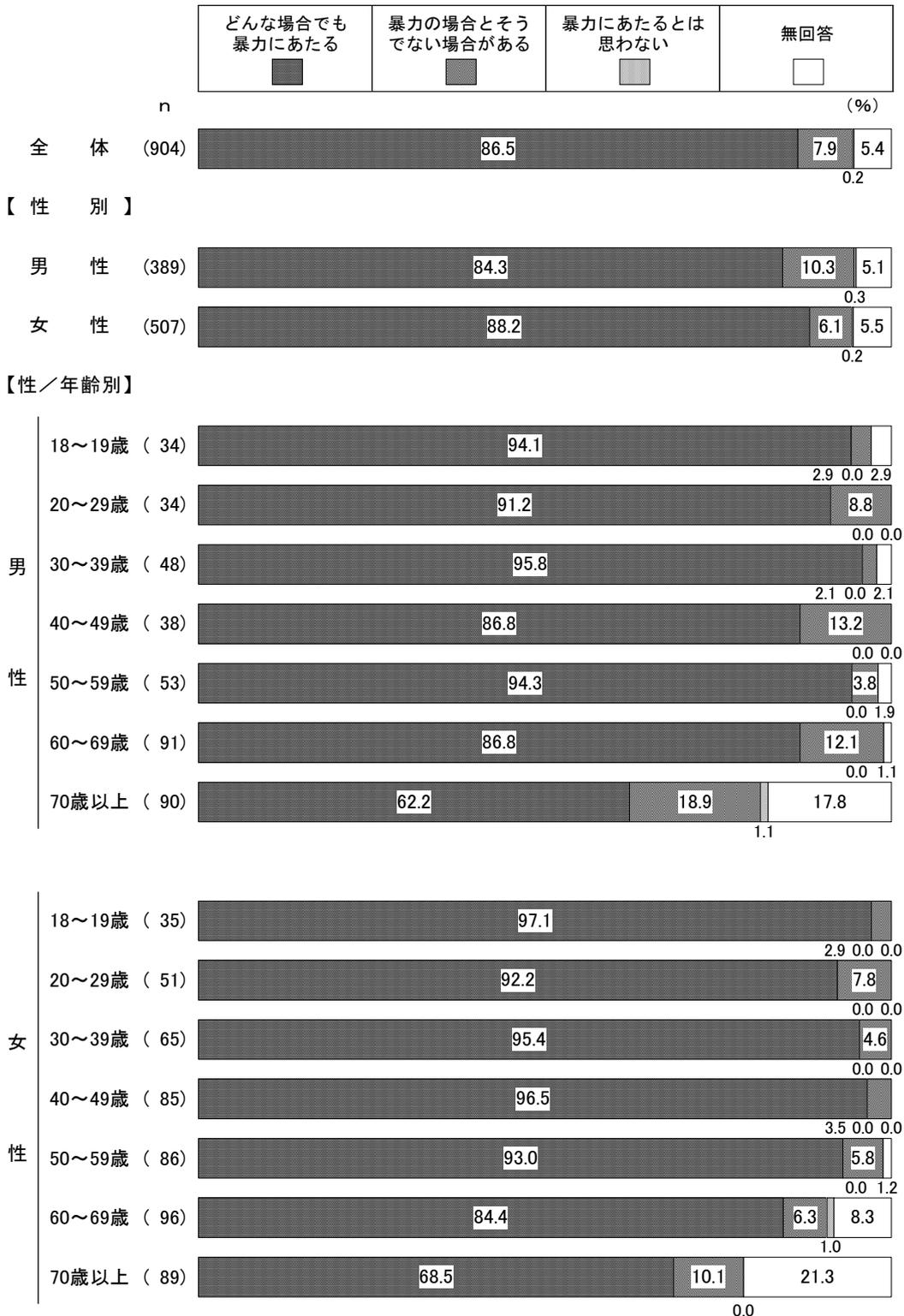
性／年齢別でみると、「どんな場合でも暴力にあたる」は女性40～49歳（83.5%）で8割を超えて高くなっている。「暴力の場合とそうでない場合がある」は男性50～59歳（43.4%）で4割を超えて高くなっている。



<性別、性／年齢別> J いやがるのに、性的な行為を強要する

いやがるのに、性的な行為を強要するについて性別でみると、「暴力の場合とそうでない場合がある」は男性（10.3%）が女性（6.1%）より4.2ポイント高くなっている。一方、「どんな場合でも暴力にあたる」は女性（88.2%）が男性（84.3%）より3.9ポイント高くなっている。

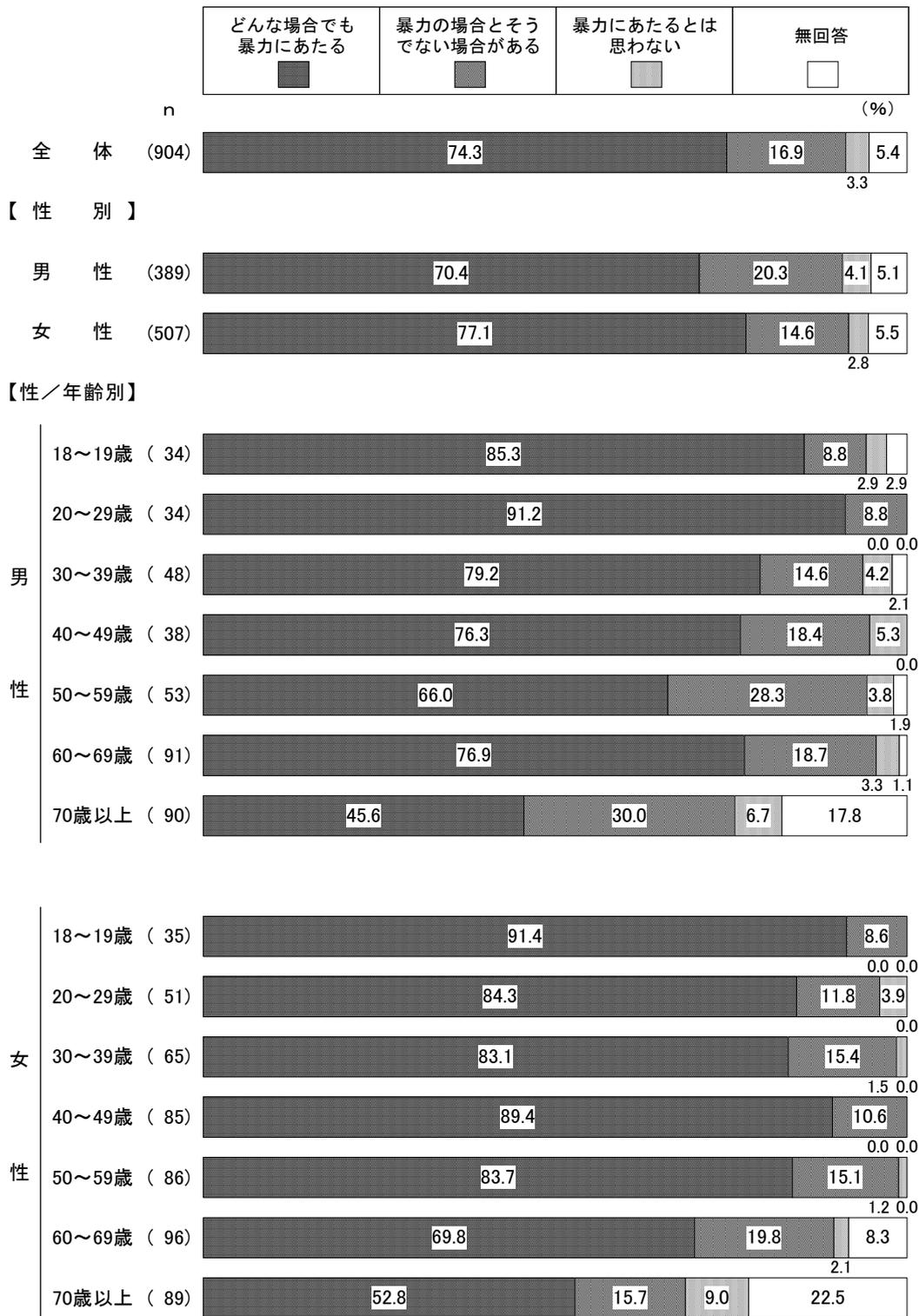
性／年齢別でみると、「どんな場合でも暴力にあたる」は女性18～19歳（97.1%）と女性40～49歳（96.5%）で10割近くと高くなっている。



<性別、性／年齢別> K 見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる

見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せるについて性別でみると、「どんな場合でも暴力にあたる」は女性（77.1%）が男性（70.4%）より6.7ポイント高くなっている。一方、「暴力の場合とそうでない場合がある」は男性（20.3%）が女性（14.6%）より5.7ポイント高くなっている。

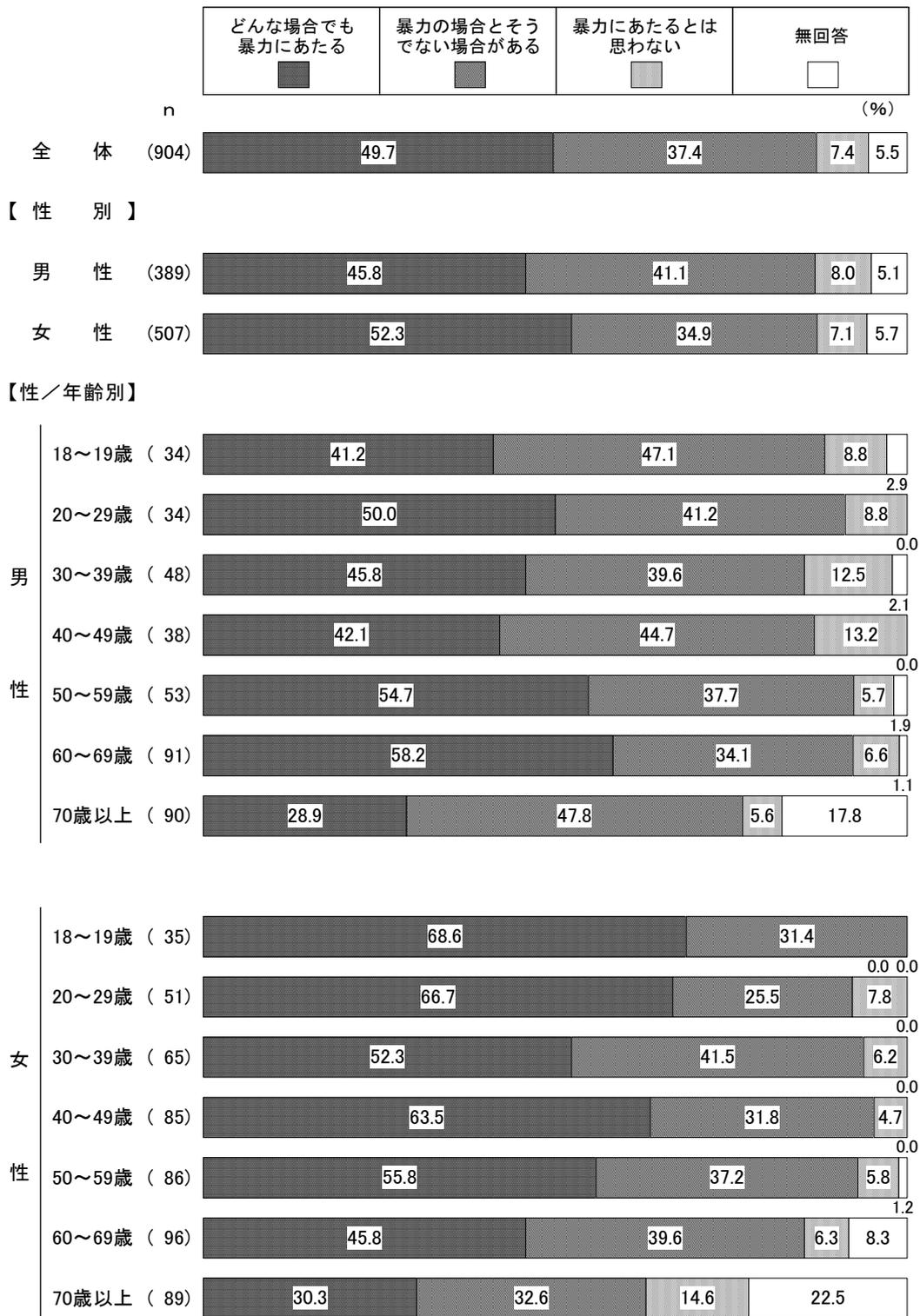
性／年齢別でみると、「どんな場合でも暴力にあたる」は女性18～19歳（91.4%）と男性20～29歳（91.2%）で9割を超えて高くなっている。「暴力の場合とそうでない場合がある」は男性70歳以上（30.0%）で3割と高くなっている。



<性別、性／年齢別> L 何を言っても、長時間無視し続ける

何を言っても、長時間無視し続けるについて性別で見ると、「どんな場合でも暴力にあたる」は女性（52.3%）が男性（45.8%）より6.5ポイント高くなっている。一方、「暴力の場合とそうでない場合がある」は男性（41.1%）が女性（34.9%）より6.2ポイント高くなっている。

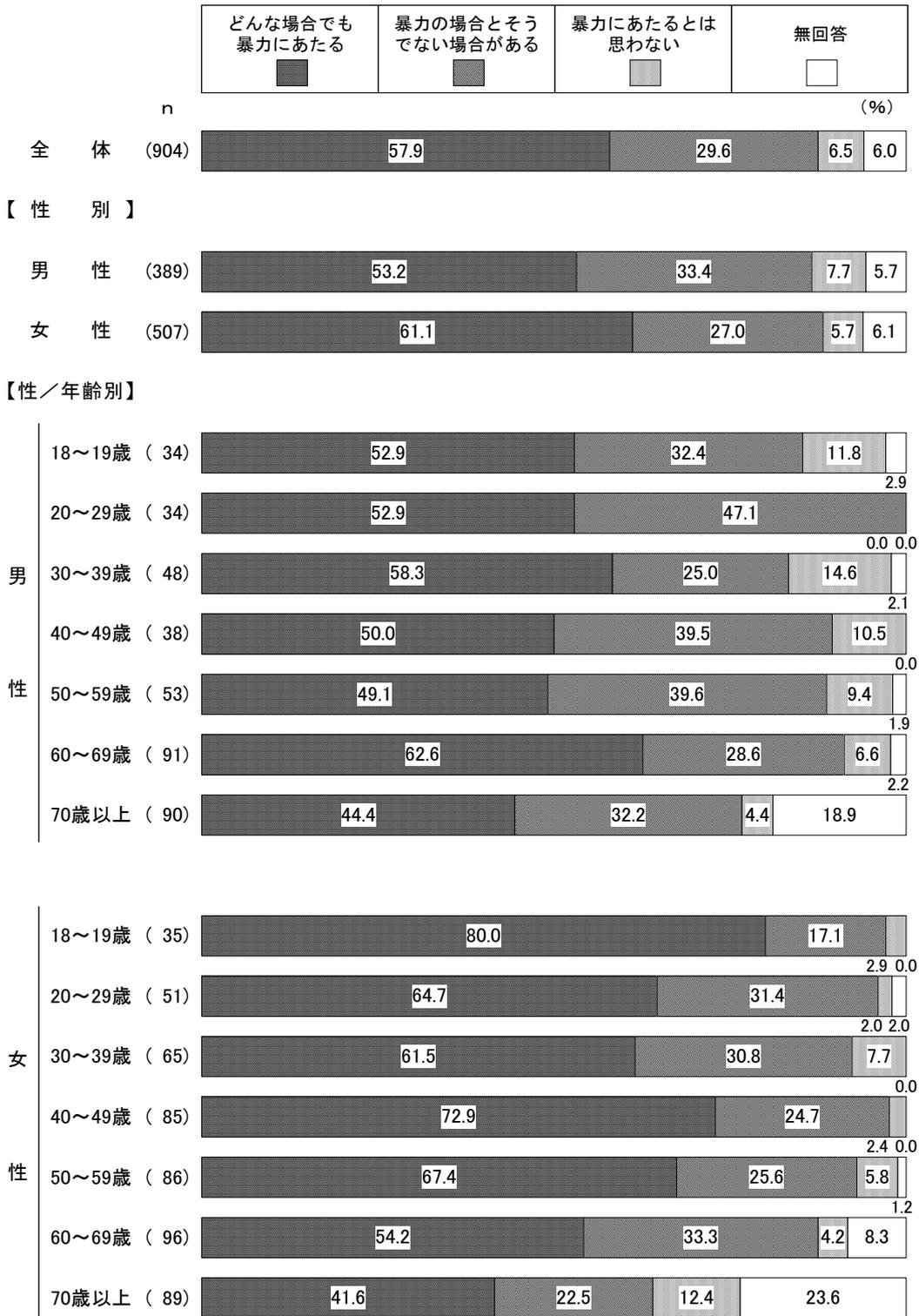
性／年齢別で見ると、「どんな場合でも暴力にあたる」は女性18～19歳（68.6%）と女性20～29歳（66.7%）で7割近くと高くなっている。「暴力の場合とそうでない場合がある」は男性18～19歳（47.1%）と男性70歳以上（47.8%）で5割近くと高くなっている。



<性別、性/年齢別> M 交友関係やメール、SNS、電話、郵便物を細かく監視する

交友関係やメール、SNS、電話、郵便物を細かく監視するについて性別で見ると、「どんな場合でも暴力にあたる」は女性（61.1%）が男性（53.2%）より7.9ポイント高くなっている。一方、「暴力の場合とそうでない場合がある」は男性（33.4%）が女性（27.0%）より6.4ポイント高くなっている。

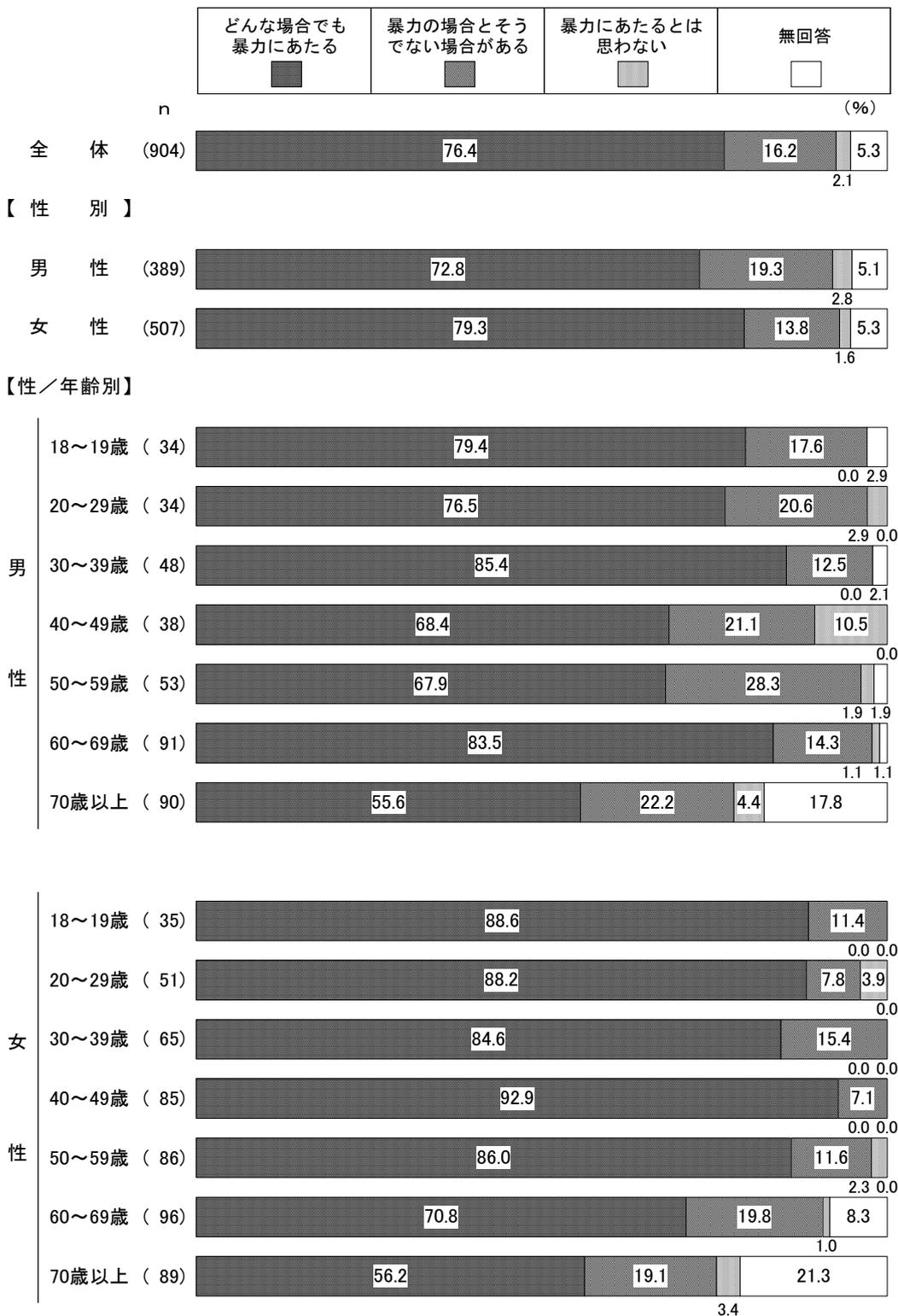
性/年齢別で見ると、「どんな場合でも暴力にあたる」は女性18～19歳（80.0%）で8割、女性40～49歳（72.9%）で7割を超えて高くなっている。「暴力の場合とそうでない場合がある」は男性20～29歳（47.1%）で5割近くと高くなっている。



＜性別、性／年齢別＞ N 人権を否定するような暴言を言う

人権を否定するような暴言を言うについて性別で見ると、「どんな場合でも暴力にあたる」は女性（79.3%）が男性（72.8%）より6.5ポイント高くなっている。一方、「暴力の場合とそうでない場合がある」は男性（19.3%）が女性（13.8%）より5.5ポイント高くなっている。

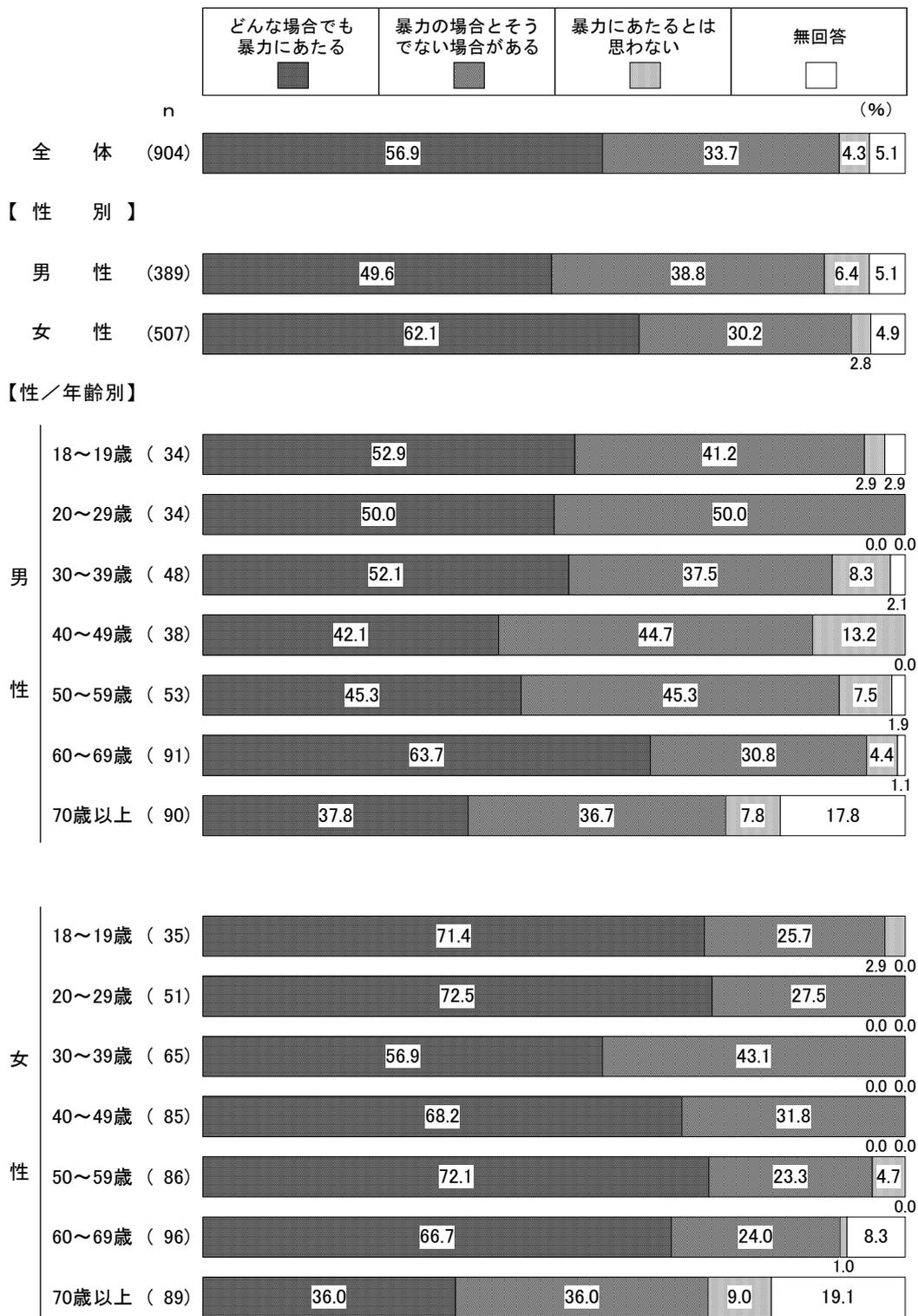
性／年齢別で見ると、「どんな場合でも暴力にあたる」は女性40～49歳（92.9%）で9割を超えて高くなっている。「暴力の場合とそうでない場合がある」は男性50～59歳（28.3%）で3割近くと高くなっている。



<性別、性／年齢別> ○ 大声でどなる

大声でどなるについて性別でみると、「どんな場合でも暴力にあたる」は女性（62.1%）が男性（49.6%）より12.5ポイント高くなっている。一方、「暴力の場合とそうでない場合がある」は男性（38.8%）が女性（30.2%）より8.6ポイント高くなっている。

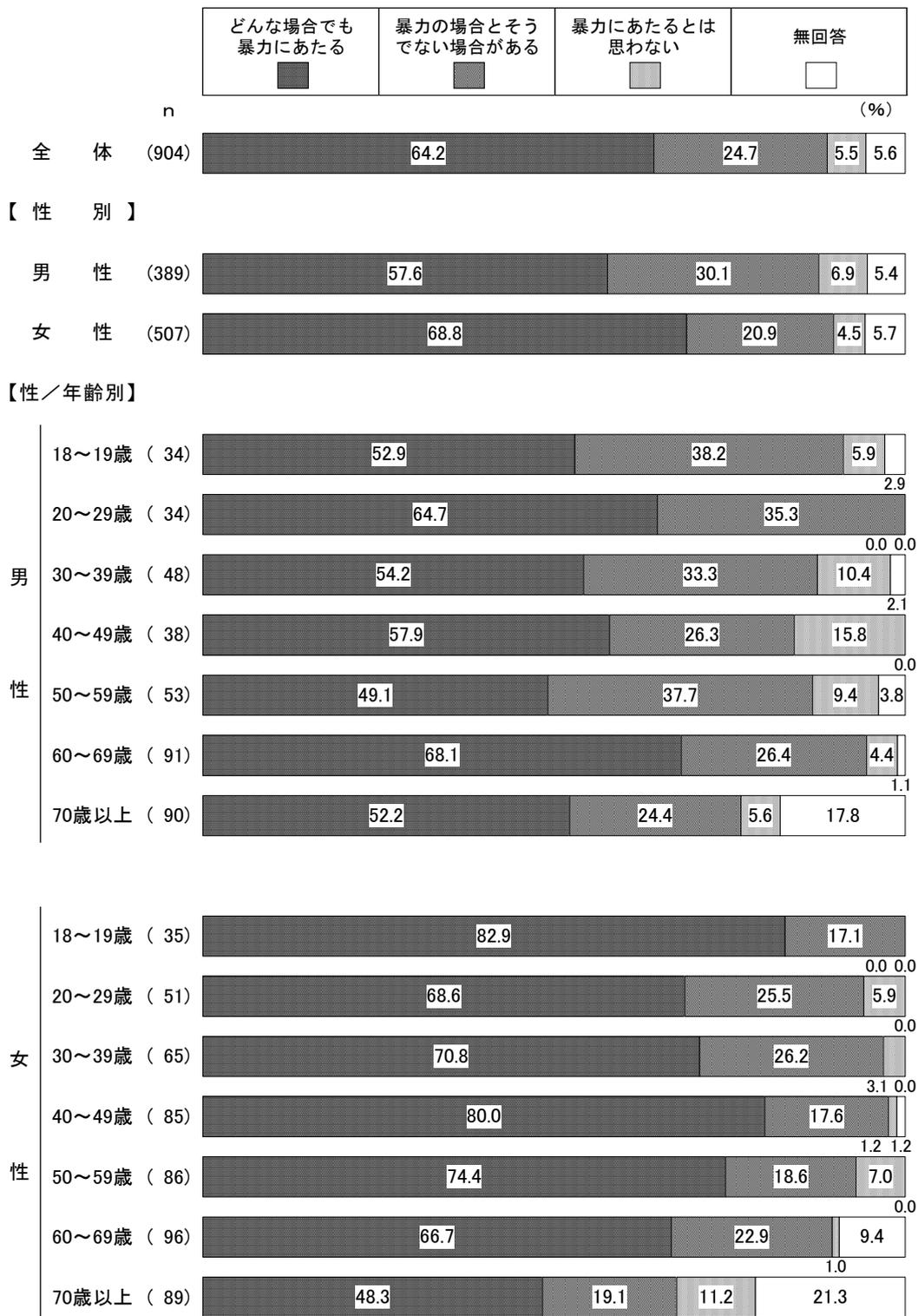
性／年齢別でみると、「どんな場合でも暴力にあたる」は女性18～19歳（71.4%）、女性20～29歳（72.5%）、女性50～59歳（72.1%）で7割を超えて高くなっている。「暴力の場合とそうでない場合がある」は男性20～29歳（50.0%）で5割と高くなっている。



<性別、性／年齢別> P 生活費を渡さない

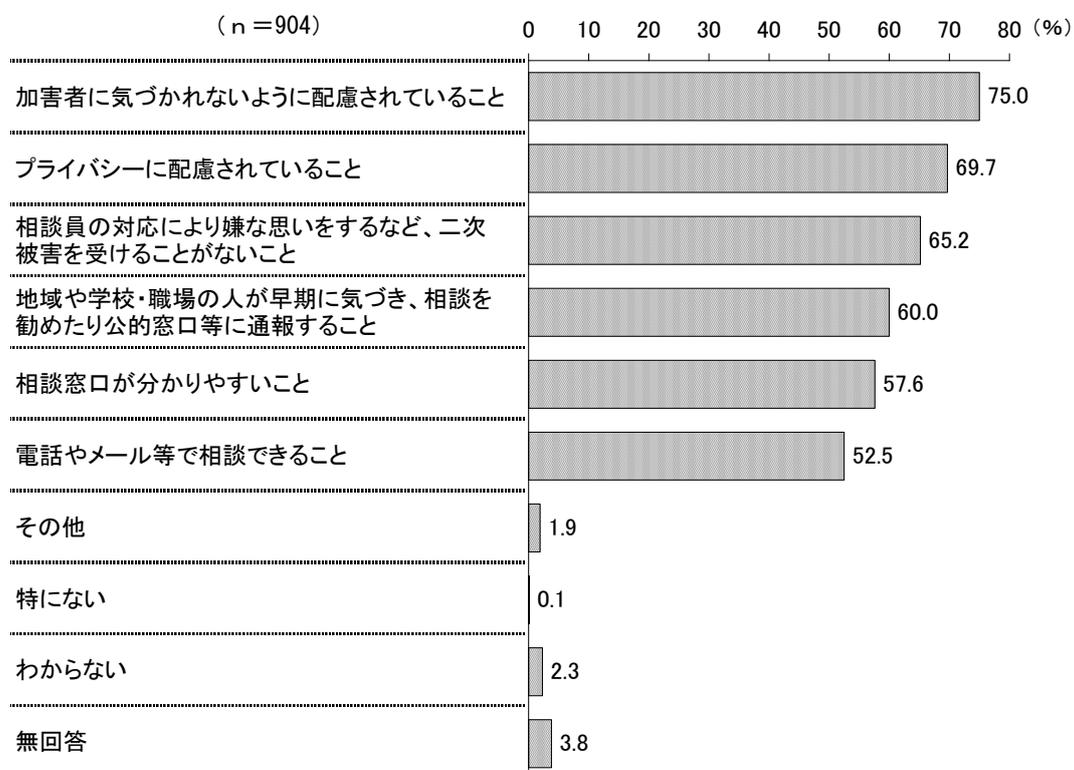
生活費を渡さないについて性別でみると、「どんな場合でも暴力にあたる」は女性（68.8%）が男性（57.6%）より11.2ポイント高くなっている。一方、「暴力の場合とそうでない場合がある」は男性（30.1%）が女性（20.9%）より9.2ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「どんな場合でも暴力にあたる」は女性18～19歳（82.9%）と女性40～49歳（80.0%）で8割台と高くなっている。「暴力の場合とそうでない場合がある」は男性18～19歳（38.2%）と男性50～59歳（37.7%）で4割近くと高くなっている。



(2) DV被害発見や相談しやすい環境づくりに必要なこと

問36 DV被害発見や相談しやすい環境をつくるには、どのようなことが必要だと思いますか。【あてはまるものすべてに○】

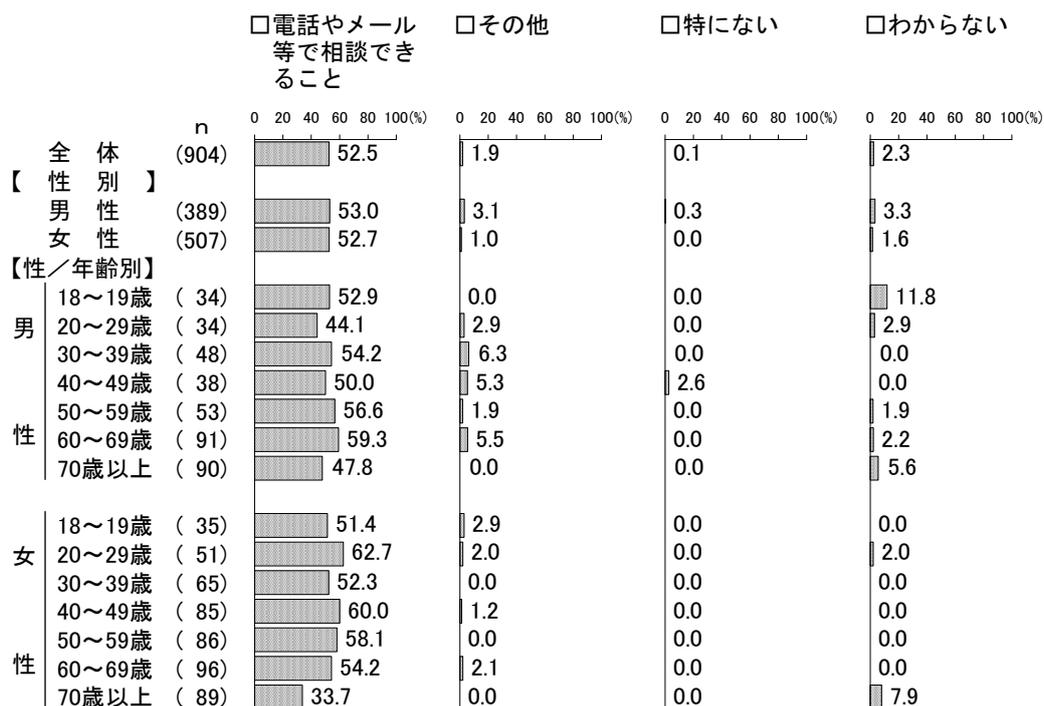
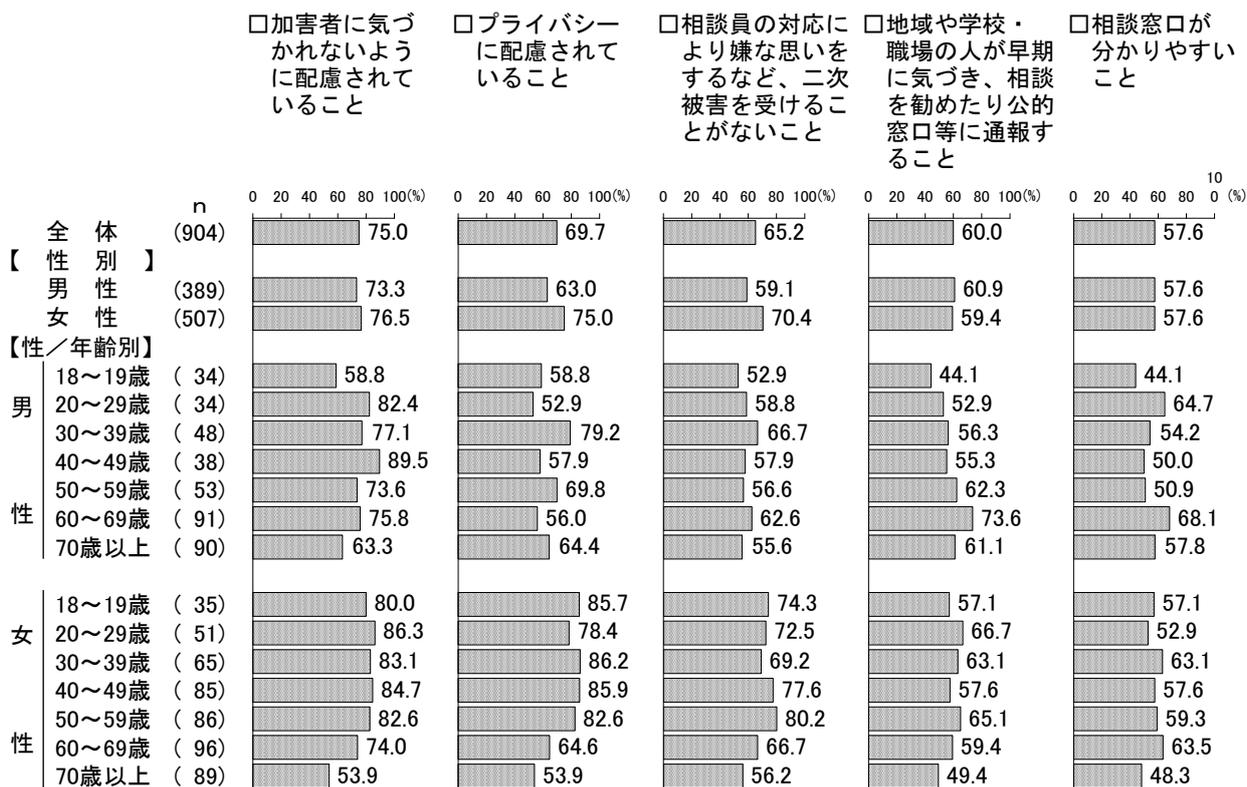


DV被害発見や相談しやすい環境をつくるには、どのようなことが必要か聞いたところ、「加害者に気づかれないように配慮されていること」(75.0%)が7割半ばで最も高く、次いで「プライバシーに配慮されていること」(69.7%)、「相談員の対応により嫌な思いをするなど、二次被害を受けることがないこと」(65.2%)、「地域や学校・職場の人が早期に気づき、相談を勧めたり公的窓口等に通報すること」(60.0%)、「相談窓口が分かりやすいこと」(57.6%)となっている。

<性別、性／年齢別>

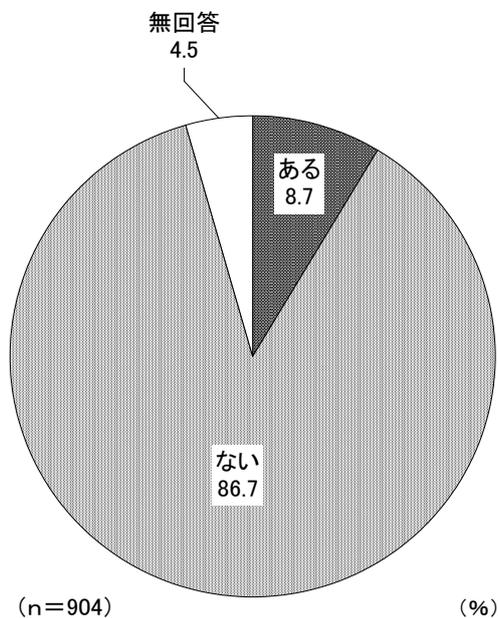
性別で見ると、「プライバシーに配慮されていること」は女性（75.0%）が男性（63.0%）より12.0ポイント、「相談員の対応により嫌な思いをするなど、二次被害を受けることがないこと」は女性（70.4%）が男性（59.1%）より11.3ポイント、それぞれ高くなっている。

性／年齢別で見ると、「加害者に気づかれないように配慮されていること」は男性40～49歳（89.5%）で9割と高くなっている。「相談員の対応により嫌な思いをするなど、二次被害を受けることがないこと」は女性50～59歳（80.2%）で8割と高くなっている。



(3) 配偶者・パートナーまたは恋人から暴力を受けた経験

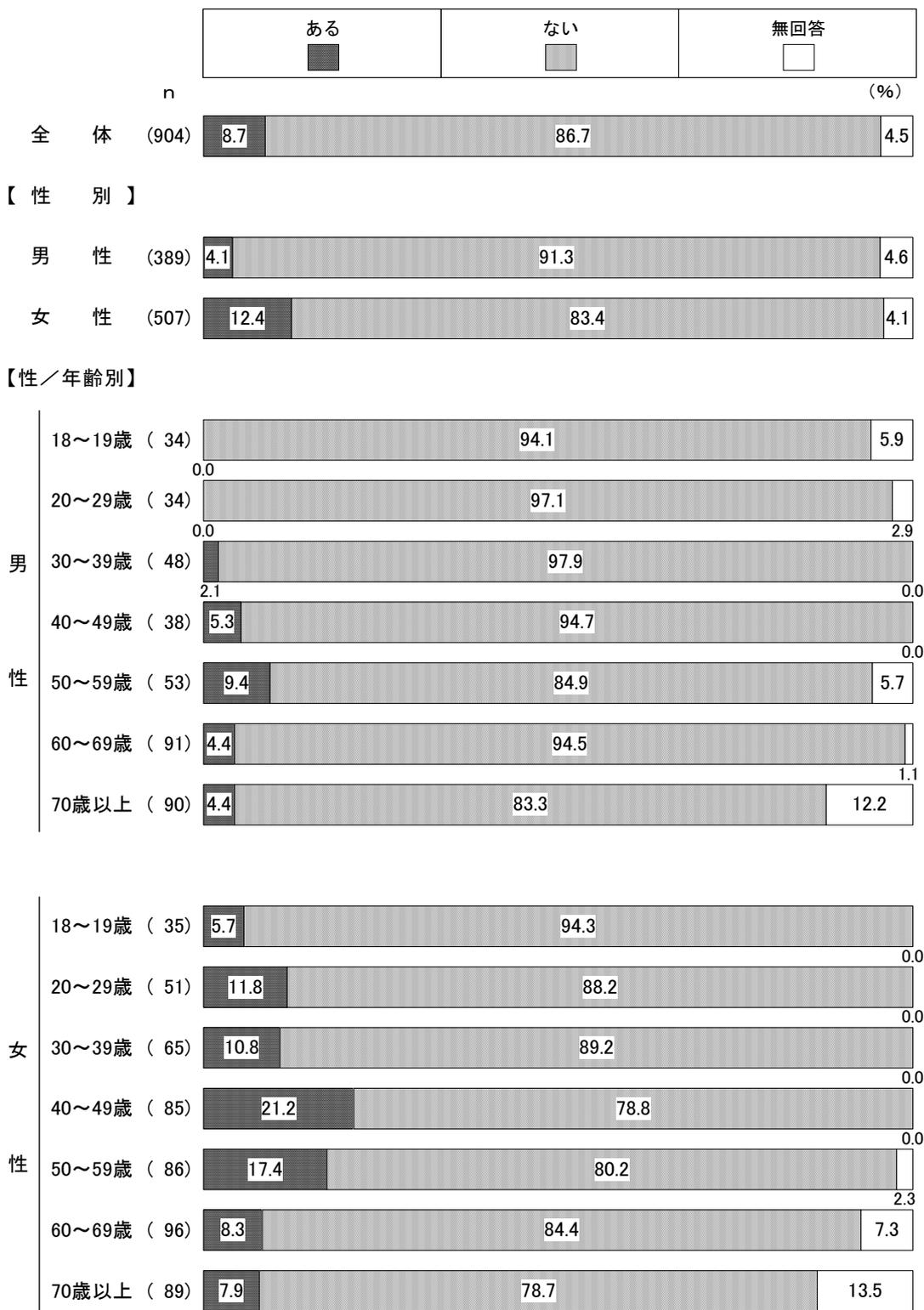
問37 あなたは、これまで配偶者・パートナーまたは恋人から暴力（身体的・精神的・経済的・性的のいずれかまたは複数）を受けたことがありますか。【1つに○】



配偶者・パートナーまたは恋人から暴力を受けたことがあるか聞いたところ、「ある」(8.7%)が1割未満、「ない」(86.7%)は9割近くとなっている。

<性別、性／年齢別>

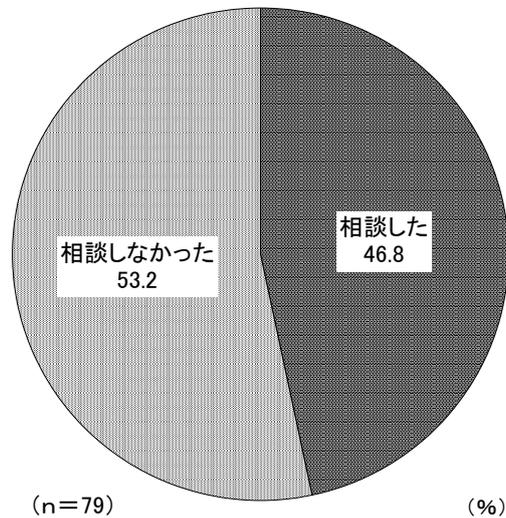
性別でみると、「ある」は女性（12.4%）が男性（4.1%）より8.3ポイント高くなっている。
 性／年齢別でみると、「ある」は女性40～49歳（21.2%）で2割を超えて高くなっている。



(4) 暴力を受けたことについての相談の有無

【問37で、「ある」とお答えの方にかがいます】

問37-1 その行為を受けたことをどなたか（どこか）に相談しましたか。【1つに○】

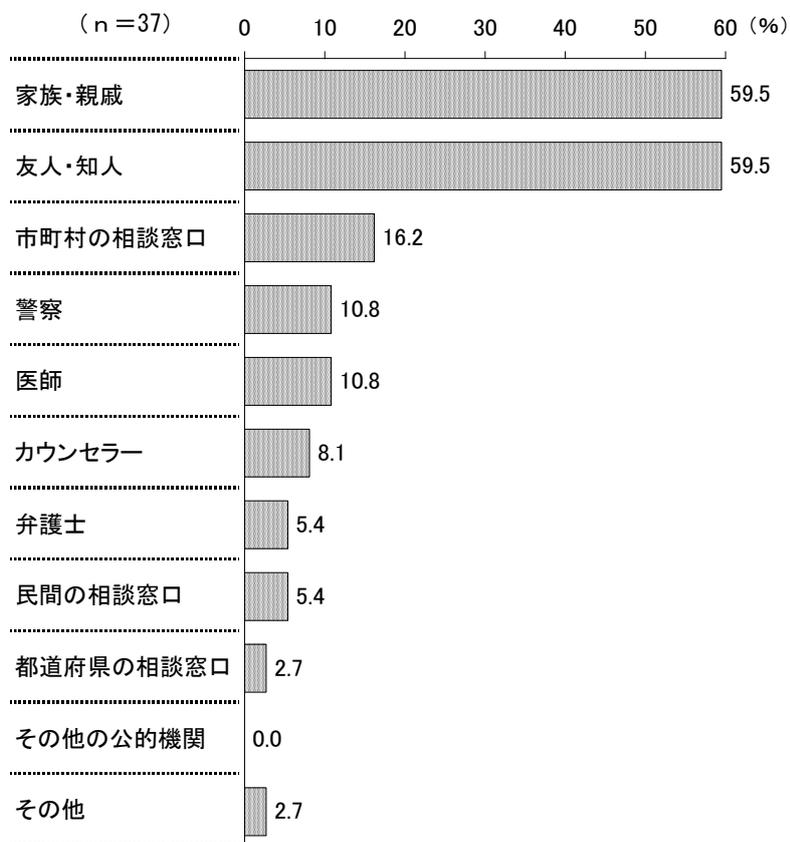


配偶者・パートナーまたは恋人から暴力を受けた経験が「ある」と答えた方に、受けたことをどなたか（どこか）に相談したか聞いたところ、「相談した」（46.8%）が5割近く、「相談しなかった」（53.2%）は5割を超えている。

(5) 暴力を受けたことについての相談先

【問37-1で、「相談した」とお答えの方にかがいます】

問37-2 どなた（どこ）に相談しましたか。【あてはまるものすべてに○】

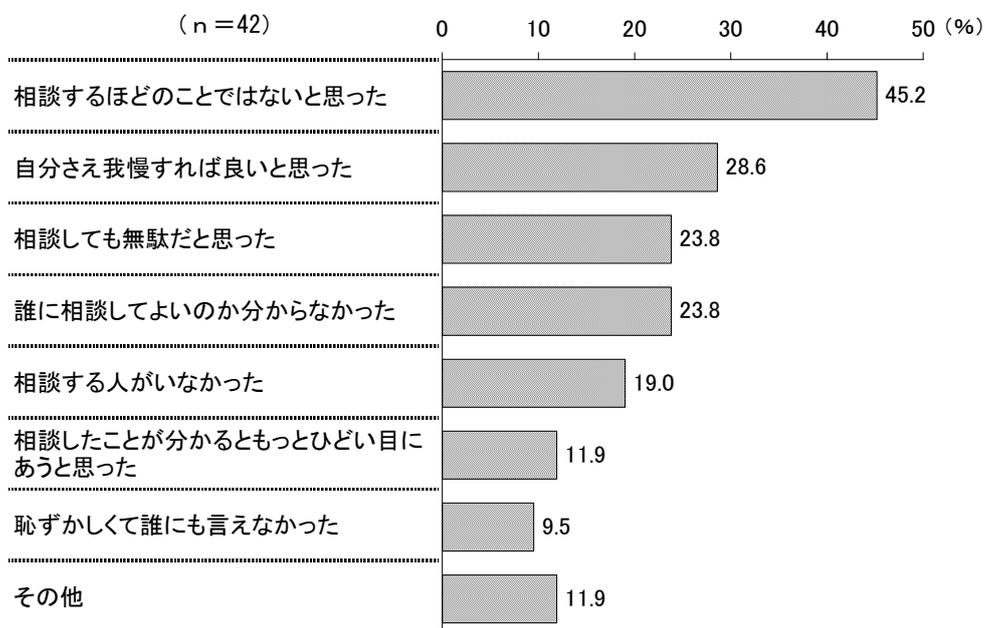


暴力を受けたことについての相談の有無で「相談した」と答えた方に、どなた（どこ）に相談したか聞いたところ、「家族・親戚」（59.5%）と「友人・知人」（59.5%）が6割で高く、次いで「市町村の相談窓口」（16.2%）、「警察」（10.8%）、「医師」（10.8%）となっている。

(6) 暴力を受けたことについて相談しなかった理由

【問37-1で、「相談しなかった」とお答えの方にかがいます】

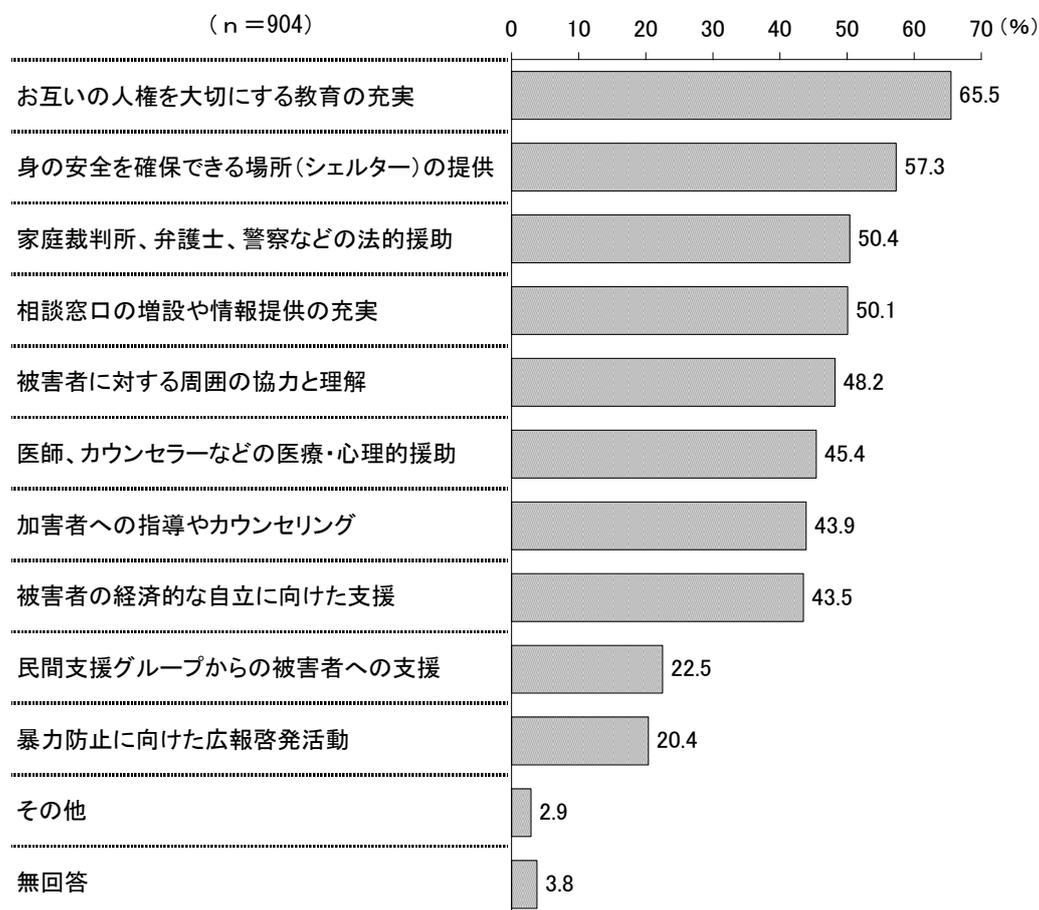
問37-3 相談しなかったのはなぜですか。【あてはまるものすべてに○】



暴力を受けたことについての相談の有無で「相談しなかった」と答えた方に、相談しなかった理由を聞いたところ、「相談するほどのことではないと思った」(45.2%)が4割半ばで最も高く、次いで「自分さえ我慢すれば良いと思った」(28.6%)、「相談しても無駄だと思った」(23.8%)、「誰に相談してよいのか分からなかった」(23.8%)、「相談する人がいなかった」(19.0%)となっている。

(7) 暴力を防止するために必要なこと

問38 配偶者・パートナーまたは恋人との間における暴力を防止するためには、どのようなことが必要だと考えますか。【あてはまるものすべてに○】

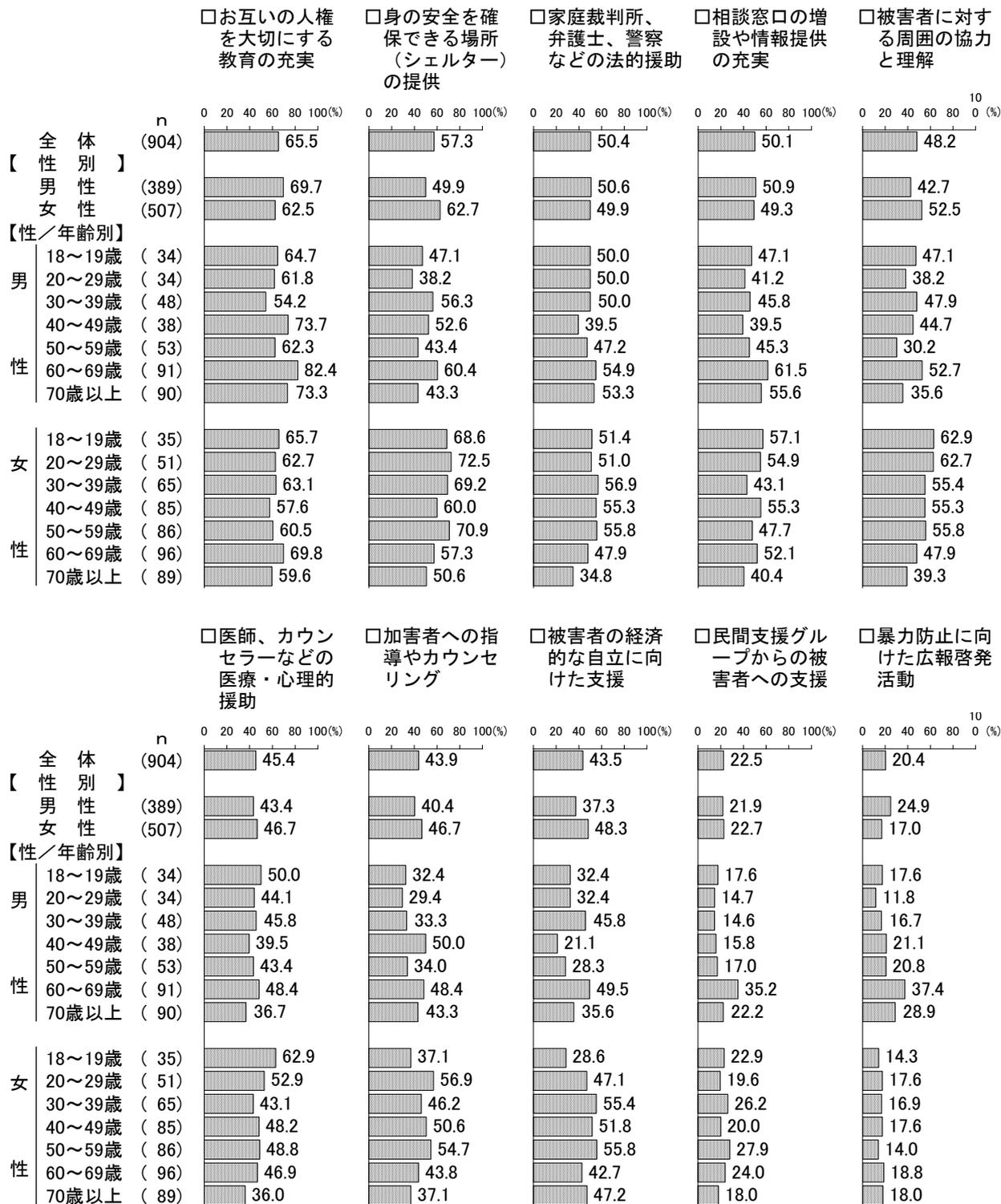


配偶者・パートナーまたは恋人との間における暴力を防止するために必要なことを聞いたところ、「お互いの人権を大切にする教育の充実」(65.5%)が6割半ばで最も高く、次いで「身の安全を確保できる場所(シェルター)の提供」(57.3%)、「家庭裁判所、弁護士、警察などの法的援助」(50.4%)、「相談窓口の増設や情報提供の充実」(50.1%)、「被害者に対する周囲の協力と理解」(48.2%)となっている。

<性別、性／年齢別>

性別でみると、「身の安全を確保できる場所(シェルター)の提供」は女性(62.7%)が男性(49.9%)より12.8ポイント高くなっている。一方、「お互いの人権を大切にする教育の充実」は男性(69.7%)が女性(62.5%)より7.2ポイント高くなっている。

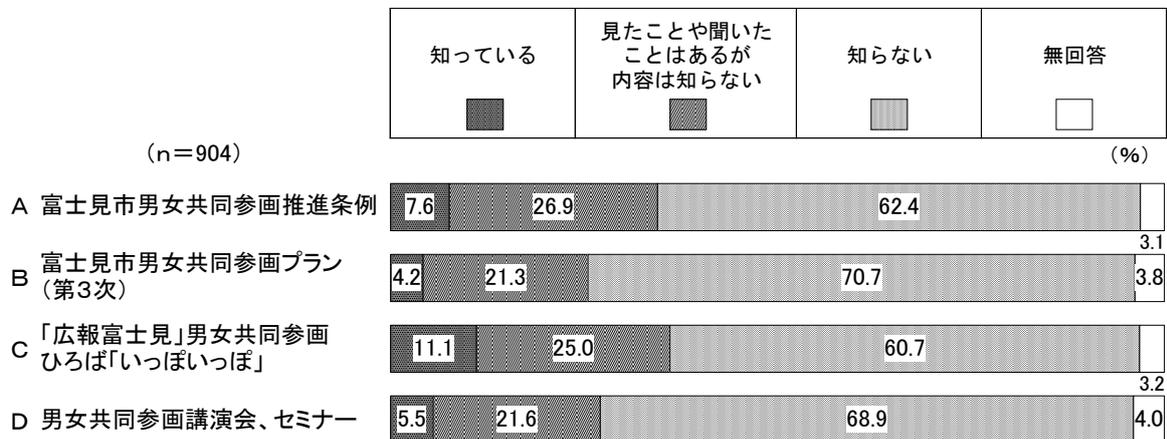
性／年齢別でみると、「お互いの人権を大切にする教育の充実」は男性60～69歳(82.4%)で8割を超えて高くなっている。「身の安全を確保できる場所(シェルター)の提供」は女性20～29歳(72.5%)と女性50～59歳(70.9%)で7割台と高くなっている。「医師、カウンセラーなどの医療・心理的援助」は女性18～19歳(62.9%)で6割を超えて高くなっている。



9 富士見市の取り組みについて

(1) 男女共同参画にかかる富士見市の取り組みの認知度

問39 男女共同参画にかかる富士見市の取り組みや、次にあげる言葉について、見たり聞いたりしたことがありますか。【それぞれの項目について1つに○】



男女共同参画にかかる富士見市の取り組みの認知度を聞いたところ、「知っている」は“「広報富士見」男女共同参画ひろば「いっぽいっぽ」”(11.1%)が1割を超えて最も高くなっている。

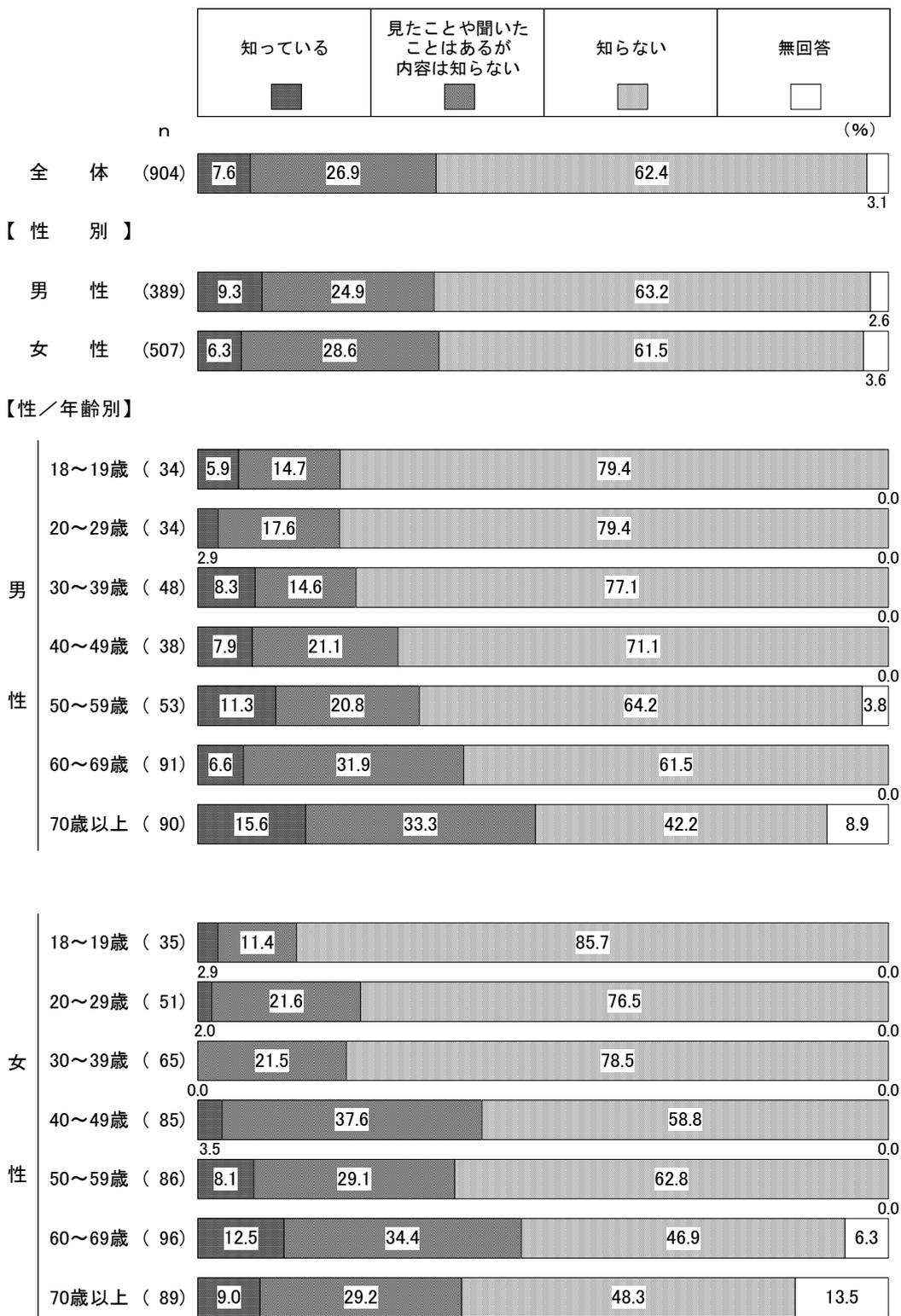
「見たことや聞いたことはあるが内容は知らない」は“富士見市男女共同参画推進条例”(26.9%)が3割近くで最も高く、次いで“「広報富士見」男女共同参画ひろば「いっぽいっぽ」”(25.0%)となっている。

「知らない」は“富士見市男女共同参画プラン(第3次)”(70.7%)が約7割で最も高く、次いで“男女共同参画講演会、セミナー”(68.9%)となっている。

<性別、性／年齢別> A 富士見市男女共同参画推進条例

富士見市男女共同参画推進条例について性別で見ると、「知っている」は男性（9.3%）が女性（6.3%）より3.0ポイント高くなっている。一方、「見たことや聞いたことはあるが内容は知らない」は女性（28.6%）が男性（24.9%）より3.7ポイント高くなっている。

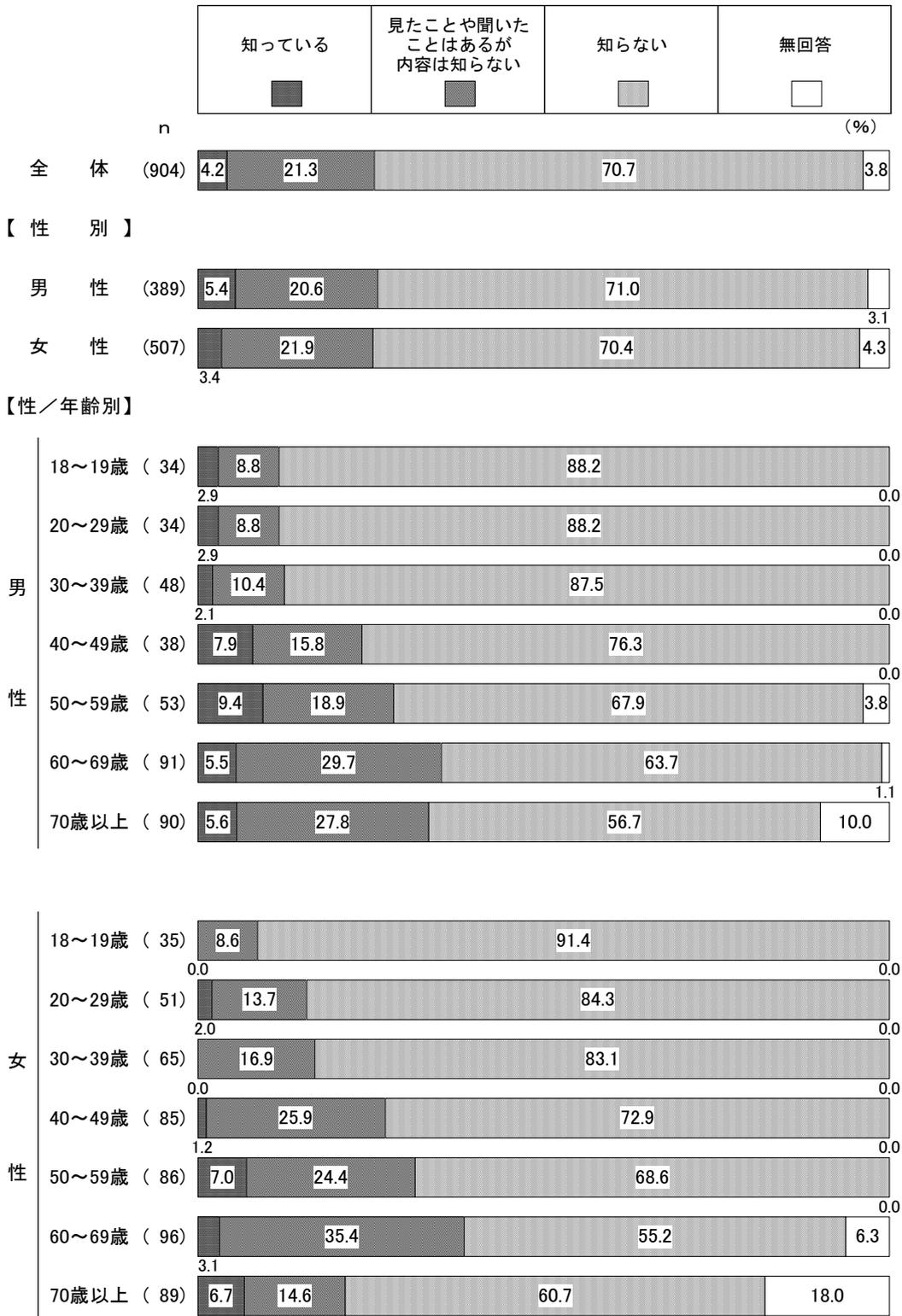
性／年齢別で見ると、「知っている」は男性70歳以上（15.6%）で1割半ばとなっている。「見たことや聞いたことはあるが内容は知らない」は女性40～49歳（37.6%）で4割近くと高くなっている。「知らない」は女性18～19歳（85.7%）で8割半ばと高くなっている。



<性別、性／年齢別> B 富士見市男女共同参画プラン（第3次）

富士見市男女共同参画プラン（第3次）について性別でみると、大きな違いはみられない。

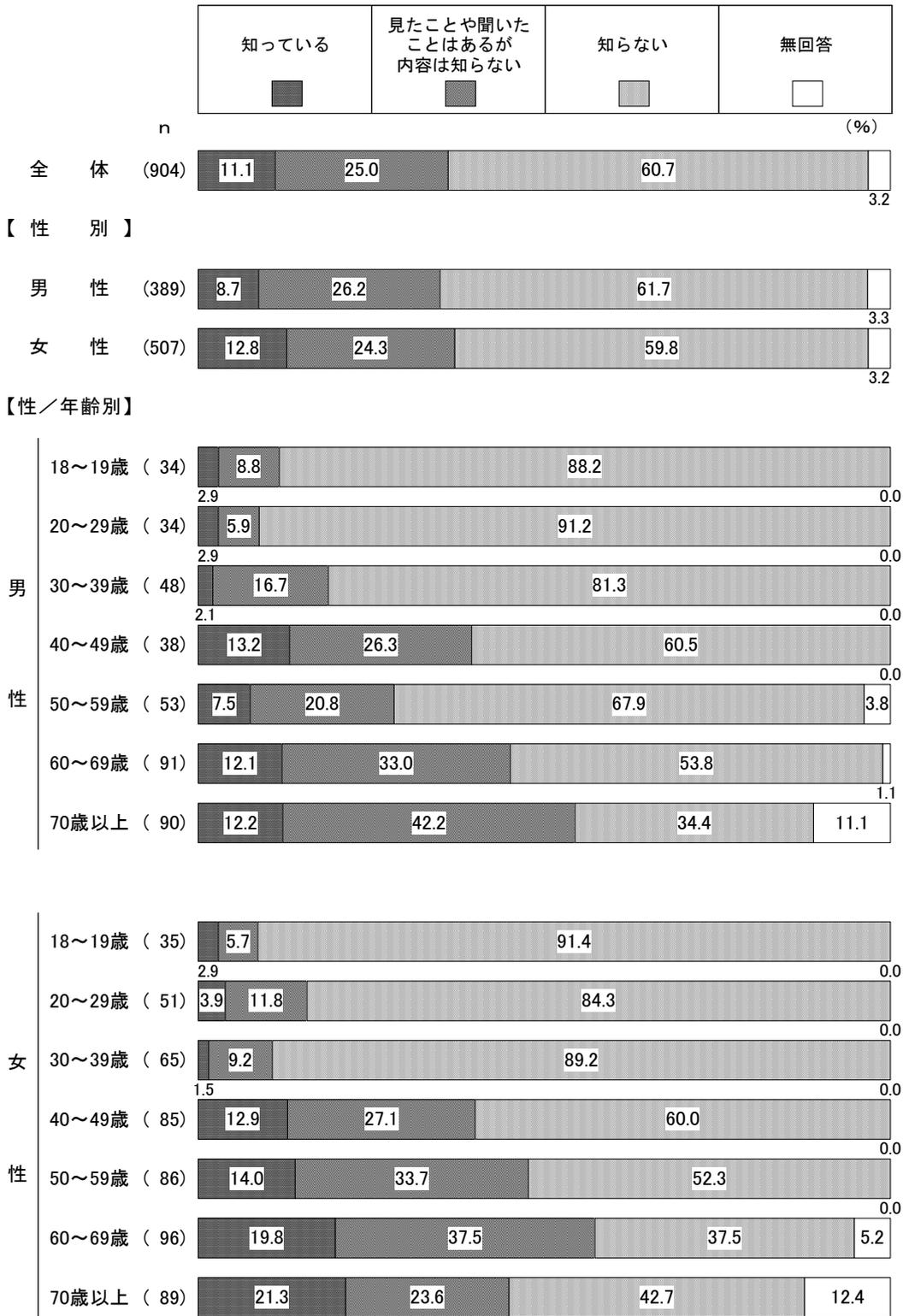
性／年齢別でみると、「見たことや聞いたことはあるが内容は知らない」は女性60～69歳（35.4%）で3割半ばと高くなっている。「知らない」は女性18～19歳（91.4%）で9割を超えて高くなっている。



<性別、性／年齢別> C 「広報富士見」男女共同参画ひろば「いっぱいぽ」

「広報富士見」男女共同参画ひろば「いっぱいぽ」について性別で見ると、「知っている」は女性（12.8%）が男性（8.7%）より4.1ポイント高くなっている。

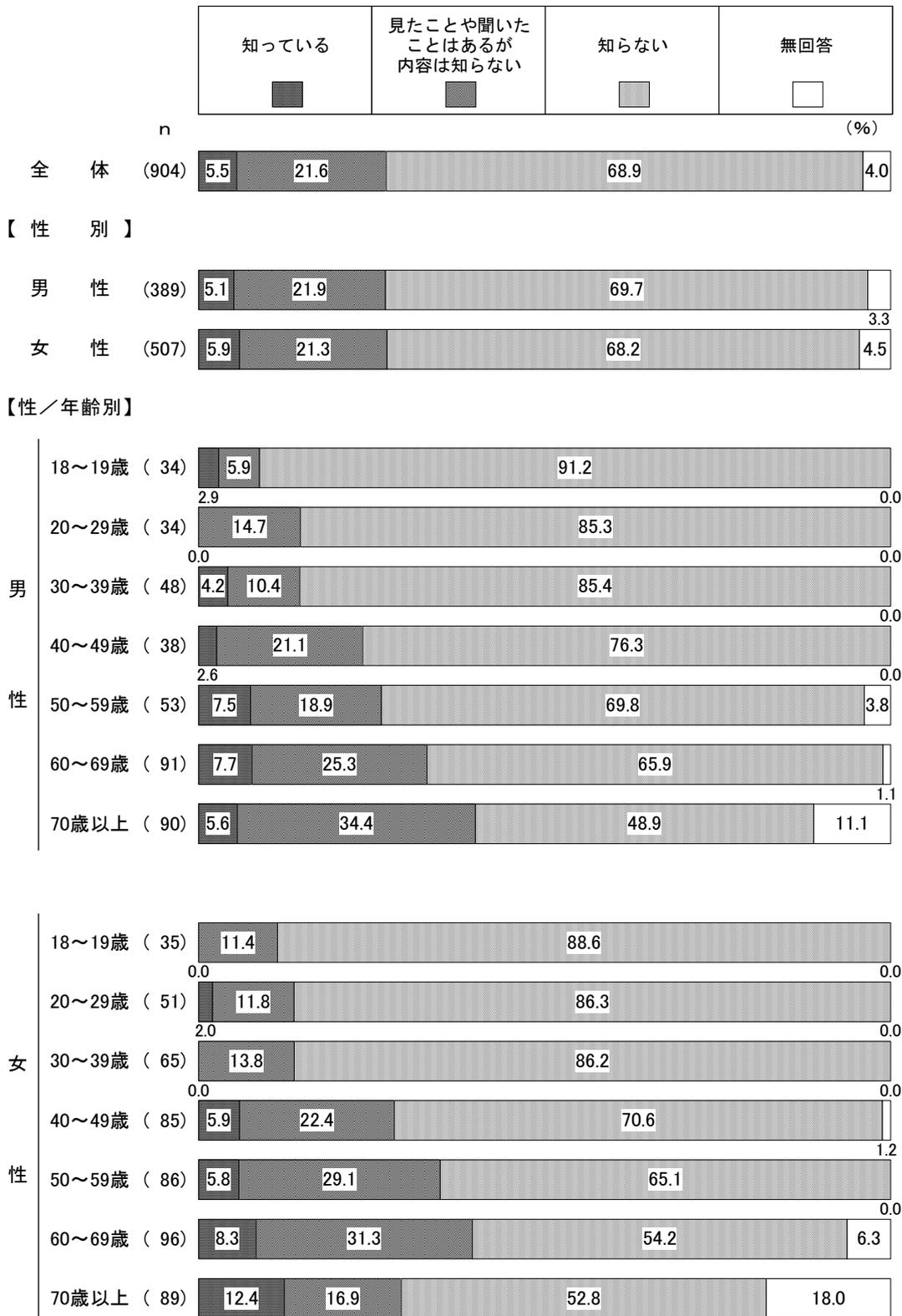
性／年齢別で見ると、「知っている」は女性70歳以上（21.3%）で2割を超えて高くなっている。「見たことや聞いたことはあるが内容は知らない」は男性70歳以上（42.2%）で4割を超えて高くなっている。「知らない」は女性18～19歳（91.4%）と男性20～29歳（91.2%）で9割を超えて高くなっている。



<性別、性／年齢別> D 男女共同参画講演会、セミナー

男女共同参画講演会、セミナーについて性別で見ると、大きな違いはみられない。

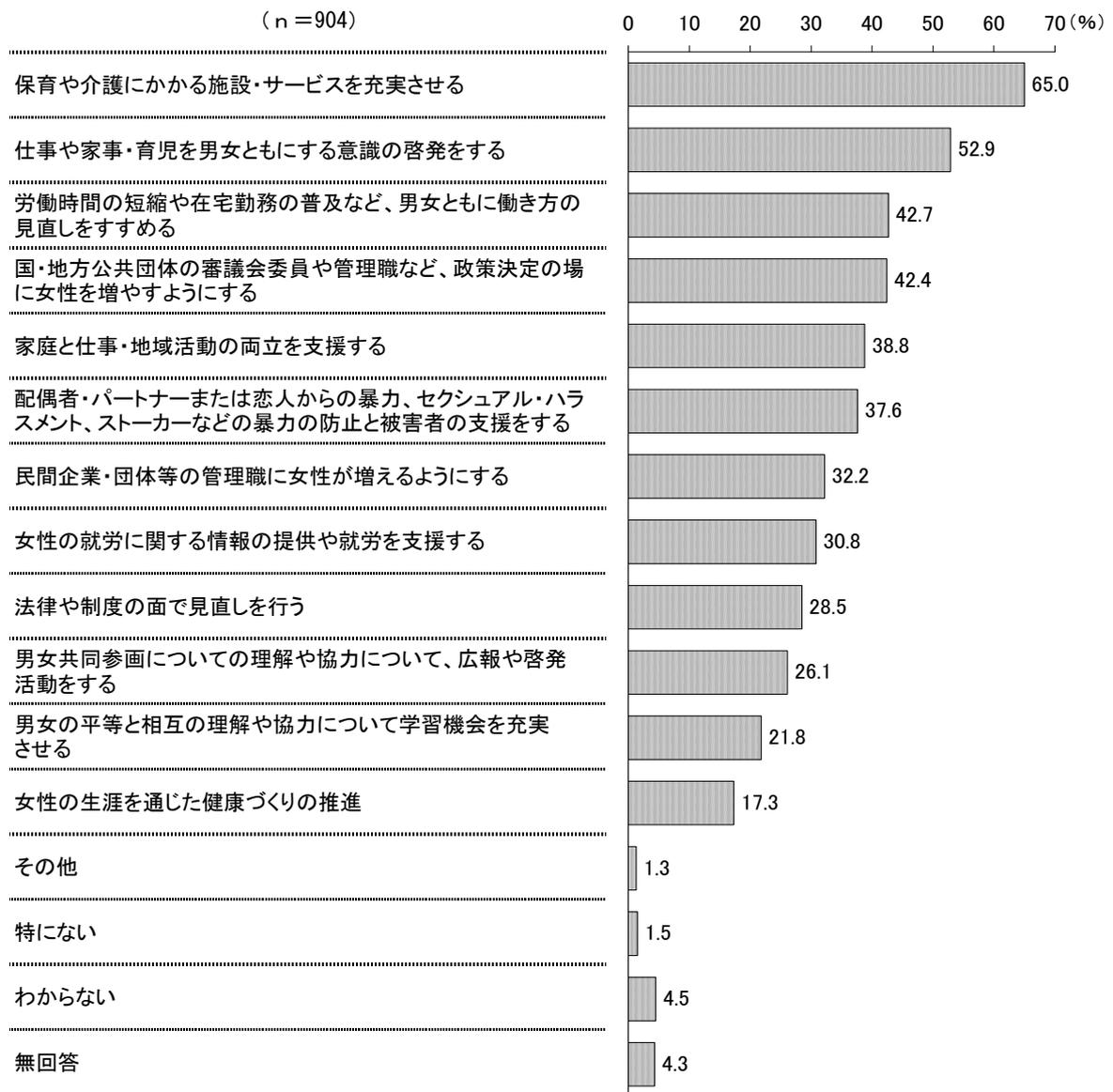
性／年齢別で見ると、「見たことや聞いたことはあるが内容は知らない」は男性70歳以上(34.4%)と女性60～69歳(31.3%)で3割台と高くなっている。「知らない」は男性18～19歳(91.2%)で9割を超えて高くなっている。



10 男女共同参画行政について

(1) 男女共同参画社会の実現のために必要な取り組み

問40 女性も男性も、ともにあらゆる分野に積極的に参画していくために、「行政」はどのようなことに取り組む必要があると思いますか。【あてはまるものすべてに○】

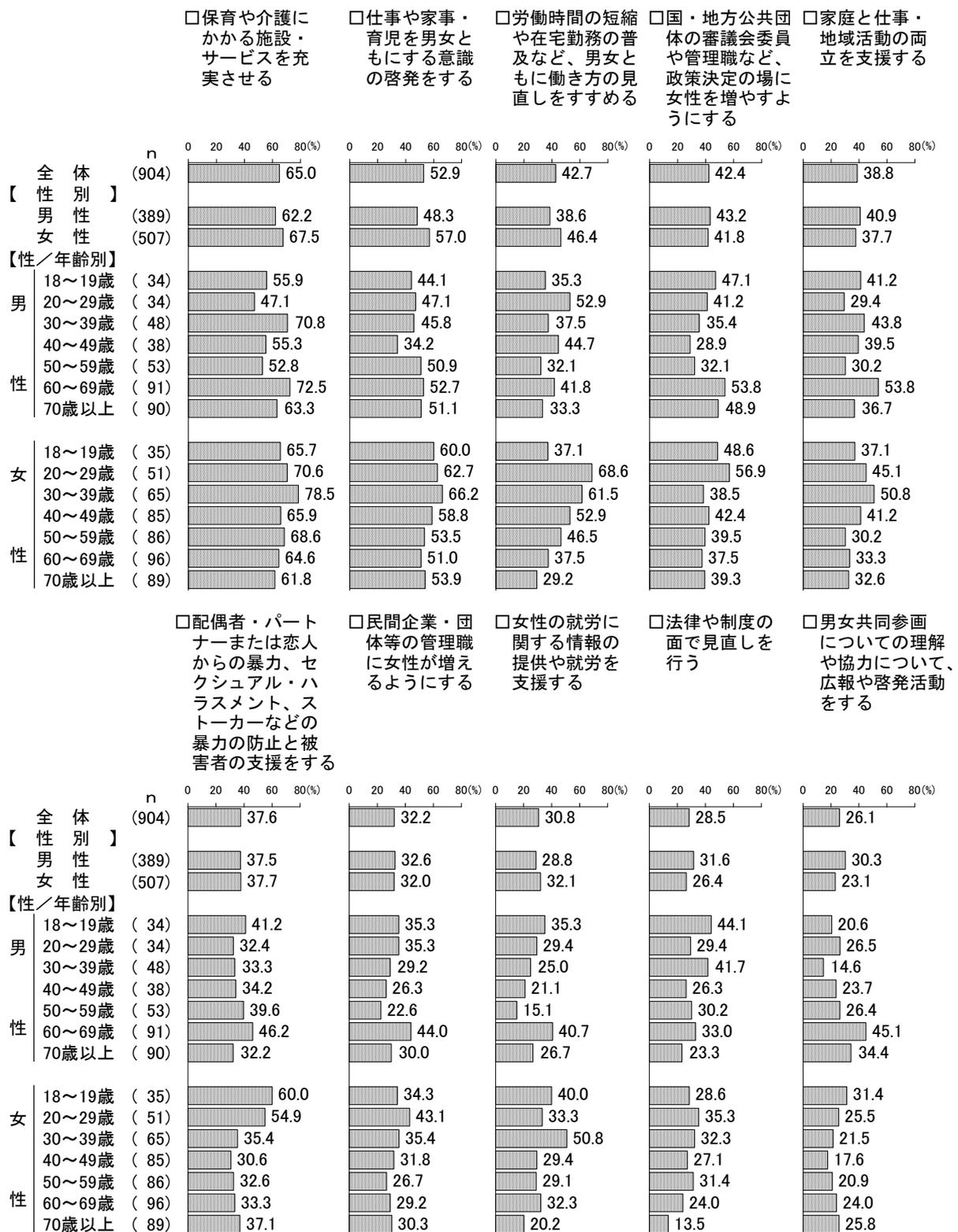


男女共同参画社会の実現のために必要な取り組みを聞いたところ、「保育や介護にかかる施設・サービスを充実させる」(65.0%)が6割半ばで最も高く、次いで「仕事や家事・育児を男女ともにする意識の啓発をする」(52.9%)、「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など、男女ともに働き方の見直しをすすめる」(42.7%)、「国・地方公共団体の審議会委員や管理職など、政策決定の場に女性を増やすようにする」(42.4%)、「家庭と仕事・地域活動の両立を支援する」(38.8%)となっている。

<性別、性/年齢別> (上位10項目)

性別でみると、「仕事や家事・育児を男女ともにする意識の啓発をする」は女性 (57.0%) が男性 (48.3%) より8.7ポイント高くなっている。一方、「男女共同参画についての理解や協力について、広報や啓発活動をする」は男性 (30.3%) が女性 (23.1%) より7.2ポイント高くなっている。

性/年齢別でみると、「保育や介護にかかる施設・サービスを充実させる」は女性30～39歳 (78.5%) で8割近くと高くなっている。「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など、男女ともに働き方の見直しをすすめる」は女性20～29歳 (68.6%) で7割近くと高くなっている。



11 男女共同参画社会に関する意見・要望

最後に男女共同参画社会について、市の取り組みに対するご意見・ご要望などがありましたらご自由にお書きください。

男女共同参画社会について、市の取り組みに対するご意見・ご要望を自由に回答してもらったところ、140人から154件の回答を得た。いただいた意見を項目別に分類し、主な意見を抜粋して以下に掲載する。

1. 男女平等意識の啓発・教育・情報提供

- ・正直あまり関心が無いので、知らない事が多く具体的な事は言えないですが、私のように知らない関心がない若い人は多いと思います。まずは知ってもらう、聞いてもらう所からかと、お歳を召した方々で決めても先はないと思います。私も含めもっと若い人が出られる場を設けるべきです。
- ・男女共同参画社会を実現するためには、個々人の認識の差異を無くしていかなければならないと思うが、育った環境や置かれている状況で、その認識がかなり違うと思うので、男女共同参画についての知識や情報の共有が必要なのではないのでしょうか。学校教育の間は男女で差はないと思っていましたが、社会に出て、出産や育児の場で男性と女性の立場があまりに違うことを実感しました。
- ・一度セミナーを聞いたことがあります但し勉強になりました。これからも機会を増やしてください。
- ・教育が一番大切だと思います。
- ・このアンケートに回答するまで身近な場で男女共同参画への取り組みが行われていることに気が付きませんでした。親しみやすく、わかりやすいパンフレットなどを、例えば市役所を訪れた人に配布するなどしたらよいと思います。
- ・市が、以上のような取り組みをされていること一市民として、知らないことばかりです。多分、全体的に意識は低いと思います。何故なのでしょう…？
- ・広報富士見に目を通していますが、市の取り組みについて記憶にとどまっていません。普段目にしない方は余計に知らないのではないのでしょうか？セミナーや講演会なども興味がある人以外は知られていないと思います。例えば駅の中に市の掲示板を作り、充実させるみたいなたくさんの方の目に触れる場が必要ではないのでしょうか。特に男性の意識にはふつうの人に目にしてほしいです。(いろんなところでいろいろ目にしてほしい)。
- ・若い人たちは、地域が行っていることを、ほとんど知らないし、知ろうとする行動も起こさないと思います。次の時代を背負っている世代であるから、若い人が興味を持つ、プロモーションを強化すべきなのかなと思いました。いつもありがとうございます。頑張ってください。
- ・今迄関わった事がない事。参加した事がないので理解するのは難しいです。
- ・男性、女性に関わらず、その人の能力、努力が正当に評価され、社会に貢献し、生かされることを望みます。定期的に今回のアンケートのような周知活動を行う。
- ・私は、問39であったような政策をほとんど聞いた事がありません。どのようなことをしても知られていないこの体勢をどうにかしなければいけないと思う。例えば、私たち若い世代はスマホを絶対に持っていると思うので、富士見市に関する情報を随時発信するアプリ等を作ることで、このような政策の認知につながると思う。(男女共同参画社会に関する内容でなくて申し訳ございません。)

- ・企画が良くても広報が住宅等の自発的な積極的情報収集になるので、そこを改善出来ない、「積極的に参画」しようがないと思う。
- ・平等と男、女の理解、皆で子ども達が育って行く社会をつくり、仕事を出来る方がいいと思う。
- ・周知されていないと感じるので、広報活動により一層力を入れるべきです。
- ・育児、介護休業制度が導入され、企業内での講習会など増えている職場が多く感じるが、女性の負担を減らす、就労を支援する、情報提供や理解が必要だと思います。家庭と仕事を両立するためにも男女それぞれの特性を生かし理解や協力が十分に得られる社会となつてほしいと願っています。
- ・学校や企業では「男女共同参画」とか「ダイバーシティ」を意識せざるをえないが、どちらにも所属していない大人の意識を変えるような機会があればいい。(町内会とかPTAの人への啓発)とはいえ、無理だろうから、小・中学校への教育に力を入れてほしい。
- ・育短で仕事をし、夫よりも先に帰り、家事、育児をしているが、夫からするとフルタイムで働いている方が上。疲れているという態度を全面的に出す。もう少し、家事、育児は無休、給料、手当でもなし、毎日やっている側の事を考える。考えられるよう、パンフレットの提供。子どもは、小さいうちから、男女平等の気持ちを持つ事を、教育していくべきだと思う。仕事を好きで早くきり上げ帰宅している訳じゃないし、むしろ、収入が減るから、ずっとフルタイムでいたかった。
- ・市民に男女共同参画について啓発を続けて行くこと。
- ・女性と男性と2つのくりにわけているが、同じ女性でも年配の方は、「昔は〇〇だった。今の若い子は…」とか、若い方は子どもを育てた経験なく理解が得られないということもある。男性にいたっては、未だ男尊女卑が根強い。家事・育児は女がやるのが当たり前と口に出さなくとも思っている人がとても多い。まず意識の改革をしなければ何も変わらない。
- ・「男女共同参画」について、女性はもっと責極的に関心を持ち、パートナーも参画に理解と協力が必要です。市などの職員は「男女共同参画」制度をある程度理解していると思われるが一般住民は関心が薄い。もっと行政は、意識の啓発をする事。
- ・当市の「男女共同参画プラン（第3次）」が来年度で終了するとの事。第1次から第3・4次と市民意識調査を実施し、そのアンケートの結果から次プランの策定が行われたと考える。進捗・改正の現況を市民に公開し、周知させる事が重要でないか。
- ・どんな事に取り組んでいるのか、まったく知りません。もっと市民の目にふれる事、耳に入ってくる事をしなければ何もよくなりません。「富士見市はこういう事をしてくれるので住みやすいよ」と周りに言えるようになってほしいです。
- ・男女共同参画社会とは具体的にわかりやすく折にふれ記事を増やしてください。期待しています。
- ・“男女共同参画社会”という言葉は聞いたことはありますが、実際どのような取り組みをしているかは理解していません。私自身が、社会から長い間、離れて、子育てだけという状態であるからかもしれませんが、家庭の中での男女の役割が少しずつ変わってきているというのは感じます。ですが、昔の考えの（男性が優位?!）親に育てられた子どもが、今、親になり会社等で働いていると、なかなか根付いた考えを変えるのは大変なことだと思います。ですが、男性、女性にかかわらずすべての人が、今の時代を生きやすいように市で取り組みを増やして発信して頂きたいと思います。調査に役立てば幸いです。
- ・富士見市が、本件に係わるどのような施策を展開しているのが知りたいです。
- ・問39知らない事ばかりある。

- ・男女共同参画に対する広報が足りない気がする。意識を変えるための周知活動は今後も必要だと思います。
- ・取り組みを強化するには、専門職員を雇用し時間をかけてくまなく市内巡回し、啓蒙活動を行い相談の出来る様なシステムを構築する。
- ・行事そのものは良いと思う。女性の参画を行うよう開かれた社会にする為もっともっと広報等を使って活動行い社会全体が一体になるよう活動するよう望む。
- ・富士見市が市民全体にわけへだてなく生活をしてほしいと願っているのであれば、市報を通して、市民への教育を発進していけばよい。それも1つの福祉活動であり、全国にも発信できる1つの手だてにつながると思う。
- ・富士見の広報を通じて育児に関する情報・例えば保育所の空き状態・増設に関する情報。又就労に関する情報、準公務員として働ける場所の提供などが必要と考えられる。
- ・もっと表に出していったほうが良いと思った。男女平等が叫ばれる世の中に遅れをとってはならないと思う。
- ・市でどんな取り組みをしているのかよくわからない。このアンケートが来て、そんな事があったのかと知りました。20代前半でも分かるようにSNSなどをもっと活用してほしい。分かりやすくしてほしい。
- ・自分の子どもが幼稚園で、男の子、女の子で分けられる事に違和感があり、小さいうちから女の子はこうあるべき、男の子はこうあるべきみたいな事を言っていて驚いた。もう古い考えだと思う。制服も自由に選べたら良いと思う。もう男女でみないで、社会全体で「個人」「人間」としてみれば良いのに、頭の固い人が地域で多い。
- ・行政がどの様な事を行っているのか、もっと周知してほしい。悩んでいる方は沢山いると思いますので、相談できることをアピールして欲しいです。

2. 男女共同参画施策全般について

- ・男女共同参画といっているだけで、実際は男だけで決めているのでは？アンケートをとりつけたからやっているんだといわないでほしい。
- ・男女共同参画社会に進んでいますので良いと思います。
- ・男女共同参加行政については、男と女の性の違いによる考え方や身体の違いもあり全てが平等となる事は無いと考えます。現在の世の中は平等ばかりが先走ってると思う。
- ・仕事の内容が硬すぎる。リラックス出来る様な部署名にする。一番大事な事は総合案内の方達が、いつも笑顔でアテンダントの様に。
- ・結局、市や、行政で男女共同参画社会とうたっていても、今の男女の中でふんばれる人間が少なくなっている。自分ががんばればみとめてもらえるという社会を作らないことには、「私には無理ですー」という人が増える。そしてTVはそれを助長し、女はキレイ、男はカッコイイという風潮から脱しなければ人間の能力を発揮できないと思う。
- ・男女共同参画+外国人労働者 セットで取り組みが必要。
- ・改めて考えてみるといろいろな分野に求められているものが多く今回の取り組みに対していちから考えてみる機会となりました。この男女共同参画についても改めて大きくとりあげてもいいのではないのでしょうか。

- ・そもそも出産するといった違いが男女であるため、総て平等は困難。出産・子育てしなくてはならない女性を男性と同じレベルの労働力として求めるのもどうかと思う。共働きすることが前提のアンケートというのが少し難がある。
- ・要望。共同参画の即廃止。男性が妻等に精神的モラハラを受けている数が多くてもわざとかくしている。メディアが女性に家事、育児することを不満に思わせる洗脳の結果、私の周囲でも、我が家でも妻がやるべきことをやらず、離婚やいがみ合いが多発している。国家権力が私的領域と意識まで改造してくる共産主義女権なわけだから。ささいなけんかでも男性がDVとして離婚されている。やたら「家事育児」質問が多いが、女が働かないのは女性が働きたがらない、上昇志向がないからで、夫のせいにするな。共同参画など認めてない。政治が勝手につつ走っているだけだ。
- ・一昔前は男尊女卑の認識が多かったが、それも少なくなり女性の社会進出が増えたように思う。一方で女性の立場を平等にすることに過剰になっている面もあり、それによって法律も女性も優遇する内容の改正が出てきていることにも目を向けるべきだと感じた。特にパワハラやセクハラ、痴漢被害に関しては女性という立場を利用して権力行使をしたり、冤罪をかけて誤認逮捕されてしまう事件もあり細かい部分が曖昧のまま男女の平等だけを謳う所があるので、誤解なく伝えることと、認識を変えることが課題ではないかと思った。
- ・趣旨には賛成。しかし急ぎすぎや過度になると逆差別につながる恐れ。時間が必要。
- ・市の職員、管理職の半分を女性にしたら良いのではないですか？そこから学べた事が民間に必要な本当の取り組みにつながると思います。
- ・部体制の有る、制度の対応
- ・議会で何を決めようが、現状はそこまで変わらないと思う。
- ・国への要望ですが夫婦別性にならない社会は、男女平等にはなれない事を理解し、早急に法律を見直してほしい。
- ・(人)としても、(才能)としても、(男、女)はすべて(平等)だと思います。その点では男女共同参画社会は大賛成です。様々なとりくみに期待します。けれど(男として)(女として)(マイナリティの方も)生まれてきて(特性)も大切にしてほしいです。(社会)に出て(金銭)を得るのと(家事、育児)は(無報酬)ですけれど(どちらも同等)だと思います。けどこの社会(共働き)をしないと生活していけないのも(現実)です。保育園の充実とか、働く主婦にとっては必要ですよ。もちろん男性の理解も大切です。けれど、やっぱり(子どもが一番)です。どうか(子ども)に(光)をあてた社会になってほしいです。
- ・いろんな取り組み方があると思いますが、時代に合わせた臨機応変さが大切だと思います。あまりお金をかけずに、いろいろ試してください。
- ・男性、女性共に、協力し合い、社会の中で個々の価値観を持ち尊重しあいながら、社会全体のQOLが向上していけるようになると良いです。
- ・平等の考え方が違う気がしています。同じ数、同じ仕事をする事が平等でしょうか？同じ人間として、同じスタートラインに立つからには、力量のある人は、男とか女とかではなく(女だからというだけで、能力もないのに上に立つ仕事をしたりすることなく)同じ尺度で見て、その上で、男性ばかりになったり、女性ばかりになったりするの仕方がない事だと思うのですが。それが本当の平等かと思っています。

- ・世代や職種により生活環境が異なり、これらをまとめ、方針を決めていく事はむずかしい事だと思う。
市民より若年・中年・高齢者など、世代毎に男女の委員を選び、意見交換をしていった方が良いと思う。結果は現在の一般常識的になるかもしれないが、それだけの効果はあると思います。
- ・良い取り組みだと思います。これらのアンケートを参考に、良いものは取り入れて下さい。
- ・これは市がどうかでなく国の問題だ！少子化少子化と口先だけの前にどうすれば良いか簡単だ！男は外で働く女は（産みやすい環境を作り）子育て、家事に専念する状況を作ること！今はそんな時代じゃないとか関係ない！今こそ昭和の時代に戻すことが重要である。最近は何もできない腰抜けも多いと聞くが女が強いとか関係ない！女は男に尽くすこと。そして男は死ぬほど愛してやること、守ってやる「覚悟」が必要。女性の社会進出は男性の「やる気」「やりがい」を妨げるだけ！子どもは女性しか産めない。
- ・男性・女性にかかわらず社会全体への参画はもっと増えるべきであり、互いの理解も十分にしないといけないと思う。
- ・今はまだいろいろな場にとただただ女性を増やせば良いというかんじがする。男性も、女性もお互いにちがいを、理解してリスペクトしあえることが良い世の中になるかと思います。
- ・私はあまりこの問題にかかわる事がなかったので、今までに嫌な思いをした方の意見をよく聞いて見直して頂けると良いと思います。
- ・市、職員が、基本的人権の尊重なども定めた、日本国憲法も尊重・擁護するサービスの基本（義務）により取り組んでいただければ、随分生きやすくなると思います。
- ・生まれもった、男らしさ、女らしさを生かした本当の平等を考えた取り組みをしてほしいです。
- ・富士見市の男女共同参画の事業が積極的に行なわれることによって、富士見市に住むすべての人がより良い生活になることを希望します。
- ・目の前の小さなことから着実に進めていく事が大切だと思います。
- ・企画、立案、アンケート等の準備、活動は多々あると思いますが、実際に施策を実現する所まで持つて行くことは非常に困難であると思います。まずは机上論よりも行動の第一歩が無いと、毎度毎度アンケートを行うだけで、行政側の自己満足で終わってしまうと思います。公務員は実行力のある人材を望みます。
- ・「男女共同参画」の名称を今後は「男」と「女」を区別しないで、例えば「市民共同参画」などとしてみてはどうか。女性への支援も必要であるし、男性へも必要な支援があるはずで、特別に区別しなくても良い社会に向かうことが重要であると思います。
- ・社会参画の面で女性に開かれていても、あえて女性が社会に参画しないというケースも多くあり、「参画すべき」という前提に立った政策は別の面での差別を助長する。
- ・私の周囲には世間の男性優遇は認めながらも、数値目標を掲げるような男女共同参画については迷惑に思っている女性もいます。推進しているからといって、強制的、画一的にならず、選択する余裕があるくらいの懐の広い政策を望みます。
- ・全てに関して「男女平等」であるべきという考え方は疑問。局面毎の「平等」について議論、協議し、何が適切か判断して具体的施策を行うこと。これには地域性も関わるため「富士見市ならでは」の先進性のある施策を期待する。
- ・男性、女性に関わらず、個人の意向が尊重されれば良いと思います。また、身体的特徴や能力的向き不向きを差別と混同されないことを願います。

3. 環境整備・子育て支援の充実

- ・さまざまな取り組みをして下さっていると思いますが、一般的に働いている日時で国・県・市などのセミナーや審議会のようなものは行われます。どういったことが行われていても参加したり傍聴したりができませんし、相談する時、平日のみとなるとなかなか利用しにくかったりしますのでそういった点もご考慮頂けるとうれしいです。
- ・保育園に空きがあれば、もっと早くから働くことができた。保育園が少なすぎる。
- ・保育施設も夜21時までだと助かる。仕事、家事、育児、やりながらのPTA活動は、大迷惑。PTA廃止していただきたい。
- ・保育所をふやす。
- ・特にありません。とにかく働きやすい環境、子育てしやすい環境が整備される事をのぞみます。今は、2つの事が充実しているとは全く思いません。
- ・女性が住みやすい環境になることを願っています。
- ・男女共同参画は良いことだが、個別には適・不適の違いがあると思う。行政は、各人が情報を得て、相談し、自分で判断できる環境を整備する努力が必要だと思います。よろしくお願ひ致します。
- ・男女共に介護に参加しやすくするために、
 - ・バスが通らない区域をなくす
 - ・ネットスーパーが利用できる区域をふやす。今、関沢3丁目に住んでいますが、バス路線がなくまた、利用できるスーパーも近づくなく、介護の負担が大きすぎます。助けてほしい。老老介護の多いところでは。
- ・子育てを楽しくできるように、夫の収入で生活できる世の中になって欲しい。シングルマザーが増え、男性の必要性が（子どもができればあとは居ても居なくてもよい的な）なくなってきていないか？女性が1人でできない事は、妊娠のみとなる、悲しい世の中にならないで欲しい。今や、人工受精の可能な時代。男性が必要なのか（夫婦という型が）となっていくのでは？
- ・今年富士見市に転入。妊娠、出産を希望し、子育て環境を調べるにつけ（フルタイム正社員・東京勤務）、保育所の不足、待機児童の多さに不安を感じている。保育所の新設、保育士の増員・優遇（給与アップ等）を切に願っています。
- ・保育所の充実をもとめます。公立の保育所の正規職員の充実、または民間保育所も職員が確保できないため、受け入れ困難もあるのではないのでしょうか。障がいをもったお子さんも同様、職員が確保できず受け入れ困難なこともあるのではないのでしょうか。

戸田市の取り組みは、保育士が「私らしく働くために「保育士に関する支援」を戸田市独自で取り組んでいます。（1）さまざまな補助制度最大70万円支給（2）充実したスキルアップ研修市内の保育士はこんな研修がうけられます。（3）現場に寄り添う相談体制現場に奮闘するあなたに！（4）子育てしながら働ける！保育士自身が出産したのち、復帰しようとしたとき、保育所が決まらず困っている場合もありますが、戸田市の場合、最優先入所があるようです。全国的にめずらしい市独自のプロジェクトのようです。

国の流れは民間への流れ、富士見市がどう取り組んでいくのか、保育士の確保、保育所の充実、子育てを充実したものにするには、市のサポートは必要です。まずは、保育所の充実、給与が充実したら経験豊富な職員も増え、子育てのアドバイスもできます。子育て中の女性も安心して仕事もでき仕事も充実します。住みやすい地域にどうするのか5年、10年はあつという間です。子育ての施策を充実しないと後退していくと思います。富士見市に入れず、他市に引越して、保育所の入室をきめた人もいます。意見をいろいろ書きましたが、今後の富士見市に期待します。よろしくお願ひします。

- ・保育所を充実させ、女性も働ける環境を作ってほしい。女性が働きたい→子どもを保育所に入れなければ→保育所は働いていないと入れない⇒矛盾していませんか？
- ・月、64時間以上働かないと、保育園に申請すらできないのは困ります。一時預かりは、数も少なく、預けられる保証がないので、働きづらいです。専業主婦の人がいきなりフルタイムではなく、月64時間以内の仕事でも保育園の申請ができるようにして欲しいです。（扶養内の働き方でも保育園に入りたいです。）
- ・母子（父子）家庭等への支援や行政サービスの充実の方が重要だと考えます。
- ・男女共同参画社会には賛成するが、その一方で長期休み（夏・冬休み）で子どもが日中、大人の目がなかったり、親の帰りが遅くなることは教育上大きな問題となっていると思う。
- ・妊婦の時の診療は、妊娠していない人より高い場合があるが、これはおかしいので逆に全て無料にするとか、妊娠したらお金がもらえるなどのサービスを考えてもらいたい。そうなれば、男性も少しは女性を大事にしようという考えになるのでは。少子化にも役に立つのでは。
- ・安心して預けられる保育園であってほしいです（事故・保育士の資質向上など）。我が子は私立保育園ですが、富士見市は公立保育園の建物がとても古く、安全といえるのか不安です。親が安心して預けられ、また点数に限らず入所できれば、働く女性が増えると思います。同じように学童保育も小6まで預けられるようになってほしいと思います。フルタイムの家族の多くの子（小学生4年以上）は、夕方または夜まで留守番をしています。
- ・富士見市は都内からのアクセスも割と良く、若い人達が働きながら子育てするにはとても便利で住みやすい所だと思います。しかし現状保育施設が駅から離れた所にあり、都内へ通勤される方には動線的に不便なのでは？思いきって市内3駅のすべてに保育所を作る等して、これからの時代を担う若い男女に選ばれるような町になっていただきたいです。

4. 仕事と家庭生活の両立

- ・頭では理解されていても実際に突然“休みたい”といわれた時の対応が難しく、その人の人格まで否定されているのを見る。人員配置がギリギリで余裕がないためでしょうか、情報発信だけでなく現場実状の把握もお願いします。法律や規則を作るだけでは不十分だと感じます。仕事も家事も、どちらがするという事では無く、助け合っている事が一番の理想だと思います（介護についても同じです）。
- ・私の配偶者は出産前まで、パートで働いていました。出産前、産後は育児休業で、職場復帰するつもりでしたが、妊娠中のトラブルで緊急帝王切開手術による出産になりました。産後の体調は不良で職場復帰するタイムリミットを過ぎてしまい退職することになりました。職場復帰したくても出来ない人間もいることを知ってほしいと思います。出産後、何のトラブルもなく職場復帰出来るのがあたり前だと思わないで下さい。◎女性が働くことは子どもを幼稚園より保育園に預ける家庭が多いと思います。ですが、幼稚園と保育園では子どもの知育、教育に差があると思います。男女共働きによって、子どもが受けられる教育に差が出来てしまいます。男女共働きで、しわよせを受けるのは子どもだと思います。男女共働きでなければ生活出来ない日本に問題があるのでは…男女共に子育てに専念できる世の中であればと思います。
- ・いろいろな選択ができる世の中になれば生活しやすくなると思います。市内で働く事ができればとっても嬉しいです。8時間労働は妊娠・出産の妨げになります。男女共、労働時間の縛りがなくなるといいです。また、働く事への意識を高める為にも、第3号の制度は廃止にしてほしいです。その分、消費税を上げないでほしいです。

- ・働き方改革とは言っているがまだまだ浸透していない。もっと社会全体で考えてほしいです。
- ・私は、子どもの頃から、家事、育事は、女性がやるものと育てられてきました。主人も、そういう考えだったので私は、パートと子育て、主人は仕事。たまに、せんとくをしてくれるくらいでした。親から女がどんなにがんばっても男性ほどは、稼げないんだから…と言われ、パートの私は、その通りだと思って今まで生きてきました。
- ・男性は働き続けなければならない。女性は家庭を守りながら働きお互い充実した人生にする為に男性も女性も関係なく考えなければならない。だれかに頼るのではなく自ら考える。
- ・男女平等の社会作りを何年もかけて行った所で、出産するのは女性、そこで一旦社会から離れ、再度戻るには、社会（仕事）の状況、(出産前のように行かない)。家庭での仕事、など、現実、女性のやる事が増えてしまう。子どもの発熱で仕事を休む、学校行事で休む、保育園の迎え時間と、制限された仕事時間になる。子どもを育てるにあたりある程度は仕方ない事と思うが、パートになってしまったり、給与がさがったりとする事が、男性がメインで働いていると思わせる1つではと思う。
- ・どんなに努力しても妊娠して出産するのは女性です。女性が働く環境はもちろん必要だと思いますが、子どもとの時間を減らしてまで働く意味はあるのだろうか？という疑問を感じることも多々あります。男性が仕事をするのは、体の仕組み上（妊娠しない）仕方ないのでは？と思うので社会全体の給料がバブル期ぐらいになれば女性は家事育児に専念できていいのに…と思います。お金の為に働くのではない人もたくさんいますし、私もパートはしたいですが、お金の為というより社会と関わりたいという気持ちの方が大きいです。
- ・子育て中でも歓迎してくれるような職場を紹介してくれる専門窓口や相談会、セミナー e t c がもっと充実してほしいです。子育てをしながら働くこと（急に休んだり、職場に迷惑をかけないか）や、一度会社を辞めていてブランクもあること、保育園の手続きや申請など、働きたい気持ちと様々な不安要素を抱えていることとでなかなか踏み出せずにいます。
- ・男女共同参画社会を目指し、労働力を確保する事と、子どもを育てる中での母親の役割は別のものとして考え、産み育てる時間は、子どもに寄り添い、いい子を育ててほしい。母親の仕事を優先させ、子の心を育てない日本にならないかと懸念している。
- ・市内でパート勤務の場合、小学校下校時、パート先に顔を出せるようになると子どもの不安が減少するように思う。パート先で少しのコミュニケーションがとれると、親子共に安心です。

5. 職場での男女平等について

- ・職場で女性アルバイト（学生）への個人的な優遇、プレゼント、世の中は男女平等と言っているが、結局女性が優遇されている。同じミスをしてでも男女で上司からの対応が天と地ほど差がある。電車での女性専用車両は差別でしかない。男性専用車両も作るべき。女性は涙を見せれば許されるのですか？何故、そういうような男性が暮らしにくい社会になってしまったのですか？理不尽だと思います。
- ・年齢が上がっても、男性のように女性を雇用する職種、職場が増えてほしい。又、男性のように稼ぐことができるようになってほしい。
- ・男性、女性に関わらず、その人の能力、努力が正当に評価され、社会に貢献し、生かされることを望みます。
- ・女性の社会進出はこれからは必要ですが、数的平等のための女性優遇は、逆差別も起こしかねないため女性優遇枠は賛同いたしかねます。本来、個々の能力が評価ベースであるべきなので評価する立場の人が男女平等の意識をもって性別問わず評価する社会になればと思います。

- ・日頃から軽作業や接客、事務作業など、男性よりも女性の方が優れていると感じることが多くある。女性が中心となっているパートタイムについては、働きに見合うようもっと時給が高くあるべきだと思う。パート従業員から正社員へ登用する企業が増えるような取り組みが必要だと思う。

6. 本調査について

- ・はじめてのアンケートに回答致しましたが高齢者にとっては何か思う様に反応することが出来ず残念に思いました。定年迄職場に於いても心配事がなくすごして来ましたのでこれからは高齢者と云っていないで大いに勉強しようとアンケートを通じて思いました。今回のアンケートで男女共同参画社会について改めて考えさせられました。今後、市の取り組みに対しても関心を持ちたいと思います。
- ・この春、県外より転入してきたばかりで、よくわかりませんでした。が、男女共同参画社会の先頭を行政がきっていたら、素敵都市でしょうね。アンケートの回収率って、どうなんですか？
- ・アンケートを取る意味が良く分からない。数が多いかどうかより内容が大事と思う。
- ・問 40 については行政が各項目が充分行なわれていれば、この様な質問が無い筈である。実行するのみである。
- ・「女性の」や「女性が」といった言葉遣い控えて頂きたい。男女の公平性を求める立場にある人間が男女差別をしては話にならない。
- ・男女共同参画社会とは…？こちらのアンケートに参加させて頂くまで気にとめていませんでしたし、くわしく知りませんでした。この先、このアンケート結果などから、どんどん広まって市民が意識をもてるようになると良いと思いました。ありがとうございました。
- ・男女共同参画と言っているが、アンケートの聞き方がそもそも「～あるべき」などの言葉を使うのが違うと思う。
- ・初めて男女共同参画…の調査に参画しましたが知らない事ばかりで、勉強になりました。ごくろうさま。
- ・質問が自分の年齢と合わないので答えがむずかしい気がした。私自身が介護の年齢に近づいてきていて、今は二人の両親の介護をしている状況。男女共同参画と云ってもいまいわからない気がする。
- ・とても内容が多くて質問の文もよく読まないとかんたんに答えられない。こんな大変なアンケートをするのにとっても時間がかかるがこれがタダですか？何らかの報酬があってしかり！
- ・アンケートを紙面で送りつけて、アンケート書いて下さいと言われてたところで、ふざけて書く人が多数（特に若者）だと思います。なので、実際に家庭に出向き、質問に答えて下さる方々を中心してアンケートを取った方が、より確実なデータ、証拠となり得ると考えます。
- ・市民の意識を知るためのアンケートは良いと思いますが、このアンケートはボリュームがあり過ぎ、分かりづらかったです。
- ・就職、昇進、昇格、の仕事のあたえ方等において、不平等を無くすことが必要。それに伴い残業休日出勤も同条件になる。女性を優遇することは平等ではない。育児等を家庭内でだれが行うかは、各家庭で考えること。親と同居すれば親に見てもらうことも可能だが、それもやらないで行政にたよるのはおかしい。
- ・毎日お仕事ご苦労様でございます アンケートづくり大へんなお仕事であったと思います 深く感謝致します。私が最初目にしたのが志木駅前建物「男女共同参画」なんだろうと興味がありました。最近少しずつわかってきましたが、このアンケートでより一層勉強になりました。日本中、埼玉県富士見市民の皆様が平等に明るく穏やかに過ごせると良いと思います。

- ・このアンケートの前半部分は恣意的であると感じる。中には専業主婦を積極的に選択している者もいる。全員が労働すべきとする強い意見は職業選択の自由に反している。
- ・男女平等と言うよりは、女性の地位向上のアンケートに感じた。アンケートを取るだけでなく、実際に改善するよう、行政の行動をお願いします。
- ・長い期間専業主婦で現在はパートで働いていますが、今まで男性が上という環境でしたのであまり興味がわきません。私たちの年代の意見よりも 20 代、30 代の若い女性の意見を尊重するべきかと思えます。アンケート対象者の年齢上限を設けるべきだと思います。
- ・今回アンケートに参加させていただきましたが、集計結果や意見などを忠実に広報で知らせてください。

7. その他の意見・要望

- ・結婚したいのに相手がなくて困っているので婚活事業に力を入れてほしい。
- ・生きて行く事ってたいへんな事。人として命の尊さを、今もって考えるべき。
- ・性的マイノリティについては、特に意識する事なく、仕事の場でも普段通りでよいと思う。トイレなどは、障がい者用のトイレを使用してもよいし服装なども本人にまかせれば良いと思う。
- ・他府県から引越してきたのでまだ充分富士見市の行政の事わかりません。今後の行政よろしくをお願いします。
- ・国と地方の間で、どこまでが国でどこまでが地方の責任なのかが良くわからない。(道路、土地、家屋区画整理…、各種の申請、許可の提出先)これが様々な問題の種では?国民が知らなさすぎが多すぎる「業者まかせ」が大きな原因。
- ・アンケートにあったとおりDVを今も受けていますが、経済面で高校生を育てて行くのに不安があります。離婚後の就職は、知り合い(主人と共通の方になってしまいます。主人が自営業なので)に頼めばどうにかなるかもしれませんが他に探すには、両親共に死去、親せきもない私にはとても難しい問題です。生活を担っていける賃金をもらえる職場と、保護のための制度、支援の強化を強く願います。宜しく願い致します。走り書きで申し訳ありません。
- ・75才~85才にはわからない。
- ・高齢の為(79才)直接このようなことに関わりを持って居りませんでした。お働きに感謝します。
- ・大切なのは男女平等ではない、男女もしくはLGBTの人たちとの違いを尊重出来ることだと思います。
- ・頑張ってください。
- ・ともに80才を過ぎているので役に立ちませんで申しわけありません。
- ・長く富士見市に在住していますが、他都市にて仕事をしていて朝は早く、帰りもおそく、又、今までにあまり不都合がなかった事もあり、富士見市の行政や取り組みに興味をもたずに来ました。近年、定年をして、現在定年後再雇用のため、少し時間が出来ました。少しずつ、富士見市のボランティアとかに参加していきたいと思っている。
- ・老若男女が自然に笑う事の出来る場所を作ってほしい。
- ・国と地方の町づくり、それと年金者と子どもたちが、社会が平和に生活する事、市で取り組んでもらいたいと思います。
- ・若者が住みやすい町づくりをする。これしかないでしょう。

- ・このアンケートとは関係がないのですが駅前の周辺のにぎやかな商業地として生まれ変わって欲しいと思います。今では鶴瀬、上福岡、他志木の方が発展しているのでは。その様になれることを願っています。
- ・がんばれ富士見市！！
- ・男女共同参画社会について勉強不足の為意見や希望を申し上げることはできません。
- ・◎デマント交通→12回は少ない検討してほしい。◎循環バス→1時間に1本あるとよい。これも見直してほしい。
- ・昭和、平成、令和と生きてきた私にとりましては世の中の変わり様は、おどろくほどです。いろいろな問題がおきます。自分におきた場合どこに相談窓口があるのかわからない事が多いです。市民の皆さんが分りやすく気がるに相談出来る環境を作って欲しいです。それからすべてはじまると思います。
- ・未成年の女性の飲酒が男性の何倍もの確率でアルコール依存性になると知らずになりました。どうかこれからの子ども達が、無知の為に病気にならない様、教育してあげてください。10人に1人がなりやすい脳を持って生まれます。素敵な人生が送れるように、行政が正しく情報を伝えてください。スポンサーの機嫌取りよりも、未来重視でお願いいたします。
- ・議員定数を同一にするため男女ペアで立候補し、共同参画社会をつくる。
- ・私は通学で電車を使用します。いつも女性専用車両の隣の車両を使用しますが、その車両に乗ってくる女性が多いです。何故女性専用車両に乗らないか疑問に思います。
- ・市職員の幹部の男女比率を50%にする事から始める。
- ・本人やパートナーが働けなくなった場合の相談室を設けてほしい。障がい者や要介護にはあたらないが、仕事ができない状況というのが、年代によって収入面ですごく困ってしまうことがある。
- ・LGBTへの差別には反対だが（人権は尊重するが）、区別は必要と考える。男女間の結婚と同等の法的権利を与えるのには、反対である。

IV 使用した調査票

富士見市男女共同参画に関する市民意識調査

～アンケートにご協力をお願いします～

市民の皆様には、日ごろから市政にご理解とご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

富士見市では、平成22年から令和2年度までを計画期間とする「富士見市男女共同参画プラン（第3次）」を策定し、様々な取り組みを進めてまいりましたが、計画期間が令和2年度をもって終了するにあたり、新たに令和3年度から「男女共同参画プラン（第4次）」を策定します。

そこで新計画を策定するにあたり、今後の計画の内容に反映させることを目的に「富士見市男女共同参画に関する市民意識調査」を実施することになりました。

お忙しいところ大変恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和元年7月

富士見市長 星野 光弘



<ご記入に際してのお願い>

このアンケートは、市内在住の方の中から満18歳以上の男女2,000人を住民基本台帳から無作為に選ばせていただきました。アンケート結果はすべて統計的に処理しますので、個々の回答内容や個人情報が公表されることは一切ございません。ぜひ率直なご意見をお聞かせください。

1 アンケートの記入方法

- ◆宛名のご本人様をご記入ください。ただし、事情によりご本人様の記入が難しい場合には、ご本人様の意見を家族の方が代筆していただいて構いません。
- ◆ご回答は、質問ごとの説明にしたがって、このアンケート用紙に直接ご記入ください。なお、質問によっては、お答えいただく方が限られる場合がありますので、説明にしたがってご記入ください。

2 アンケートの返送方法

- ◆ご記入いただいたアンケート用紙は、同封の返信用封筒に入れ、令和元年8月2日（金）までに郵便ポストへ投かんしてください。（切手は不要です）
- ◆返信用封筒に、お名前・ご住所などのご記入は必要ありません。

3 本アンケート調査に関するお問い合わせ先

- ◆富士見市役所 市民生活部 人権・市民相談課
TEL：049-251-2711（内線）271 FAX：049-254-2000



あなた自身のことについて

問1 あなたの性別は、次のどちらですか。【1つに〇】

1. 男性 2. 女性 3. その他

※この調査は、男女共同参画に関する意識や生活の実態を把握・分析するために、性別欄を設けていますが、性別は多様という観点から「3. その他」を選択肢に加えています。

問2 あなたの年齢は、次のうちどれですか。【1つに〇】

1. 18～19歳 3. 30～39歳 5. 50～59歳 7. 70歳以上
2. 20～29歳 4. 40～49歳 6. 60～69歳

問3 あなたは結婚（事実婚を含む）していますか。【1つに〇】

1. している 3. 離別した 5. その他（ ）
2. 死別した 4. 未婚

問4 あなたの家族構成は、次のうちどれですか。【1つに〇】

1. ひとり暮らし 3. 親と子（2世代世帯） 5. その他（ ）
2. 夫婦（パートナー）のみ 4. 親と子と孫（3世代世帯）



【用語説明】

男女共同参画	「女性（男性）とはこういうもの（こうあるべき）」という考え方によって、行動や考え方、生き方を制限されることなく、男女がよきパートナーとしてお互いに尊重しあい、性別にかかわらず、様々な生活の場面で一人ひとりの個性や能力を十分に発揮できるようにしようとする考えのこと。
育児・介護休業制度	1991年に育児休業法が成立し、1995年に育児・介護休業法として改正。男女の労働者に対し、満1歳未満の子の養育のための休業や、常時介護を要する親族のための3か月未満の休業を認めるもの。その後の法改正により、対象労働者の拡大、育児休業期間の延長（最長2年まで）、介護休業の取得回数制限の緩和などがなされた。
性的マイノリティ（LGBT等）	性的少数者。「LGBT」という言葉は、レズビアン（L）、ゲイ（G）、バイセクシュアル（B）、トランスジェンダー（T）の頭文字を並べた性的少数者の総称。レズビアンは女性同性愛者、ゲイは男性同性愛者、バイセクシュアルは両性愛者、トランスジェンダーは生まれた時の「身体の性」とは異なる性別を生きる・生きたいと望む人のこと。
DV（配偶者等からの暴力）	ドメスティック・バイオレンス。夫婦や恋人など親しい間柄での暴力のこと。身体的暴力だけでなく、精神的暴力や経済的暴力、性的暴力等がある。家庭内で起こることが多いため、他人が介入しづらく、被害が表面化しにくいという問題がある。

【配偶者・パートナーがいる方のみお答えください】

問 11 あなたの家庭では、A～Kに掲げる家事を誰が担当していますか。

(配偶者等にはパートナーを含みます。)【それぞれの項目について1つに○】

	主に自分	自分が主で配偶者等が協力	自分と配偶者等が半分ずつ	配偶者等が主で自分が協力	主に配偶者等	その他の家族等	該当しない
A 家計の管理	1	2	3	4	5	6	
B 掃除(部屋、庭など含む)	1	2	3	4	5	6	
C 洗たく	1	2	3	4	5	6	
D 食事のしたく	1	2	3	4	5	6	
E 食事の後片付け	1	2	3	4	5	6	
F 食料品、日用品の買い物	1	2	3	4	5	6	
G 町会や自治会などの活動	1	2	3	4	5	6	
H 子どもに関する行事への参加	1	2	3	4	5	6	7
I 子どもの教育(遊び・勉強)	1	2	3	4	5	6	7
J 乳幼児の世話	1	2	3	4	5	6	7
K 介護・介助が必要な家族の世話	1	2	3	4	5	6	7



【小学生までの子育て中の方にかがいます】 ※それ以外の方は問 14 へお進みください

問 12 あなたの子育てへの関わりは十分だと思いますか。【1つに〇】

1. 十分である →問13へ

2. 十分でない

▶ 【問 12 で、「2. 十分でない」とお答えの方にかがいます】

問 12-1 あなたが子育てへの関わりに十分でないと思う理由には、どのようなことがあげられると思いますか。【あてはまるものすべてに〇】

1. 仕事が忙しすぎる
2. 通勤時間が長すぎる
3. 育児休業制度が不十分または利用しにくい
4. 子育ては、どちらか一方が担えばよいと思っている
5. 趣味や自分の個人的な楽しみを大切にする
6. 子どものことや家庭のことにあまり関心がない
7. 子どもの世話が面倒だと考えている
8. 子どもとどのように接したらよいか分からない
9. 子育てに関する知識が乏しい
10. その他（)

【小学生までの子育て中で、配偶者・パートナーがいる方にかがいます】 ※それ以外の方は問 14 へお進みください

問 13 あなたの配偶者・パートナーの子育てへの関わりは十分だと思いますか。【1つに〇】

1. 十分である →問14へ

2. 十分でない

▶ 【問 13 で、「2. 十分でない」とお答えの方にかがいます】

問 13-1 あなたの配偶者・パートナーが子育てへの関わりに十分でないと思う理由には、どのようなことがあげられると思いますか。【あてはまるものすべてに〇】

1. 仕事が忙しすぎる
2. 通勤時間が長すぎる
3. 育児休業制度が不十分または利用しにくい
4. 子育ては、どちらか一方が担えばよいと思っている
5. 趣味や自分の個人的な楽しみを大切にする
6. 子どものことや家庭のことにあまり関心がない
7. 子どもの世話が面倒だと考えている
8. 子どもとどのように接したらよいか分からない
9. 子育てに関する知識が乏しい
10. その他（)

就業についておうかがいします

問 17 あなたの就業形態は、次のうちどれですか。【1つに〇】

- | | | |
|--------------|--------------|-----------------|
| 1. 自営業・自由業 | 4. アルバイト・パート | 7. 家事専業 →問17-4へ |
| 2. 正社員・正職員 | 5. 非常勤・嘱託 | 8. 無職 →問17-4へ |
| 3. 契約社員・派遣社員 | 6. その他（ ） | 9. 学生 →問18へ |

【問 17で、「1」～「6」とお答えの方におうかがいします】

問 17-1 あなたが働いて収入を得ている主な理由は何ですか。【3つまでに〇】

- | | |
|----------------------|--------------------|
| 1. 生計を維持するため | 7. 視野を広めたり、友人を得るため |
| 2. 生活費補助のため | 8. 社会的な信用を得るため |
| 3. 将来に備えて貯蓄するため | 9. 働くのが当たり前だと思うから |
| 4. 自分で自由になる収入がほしいため | 10. 家業だから |
| 5. 自分の能力、技能、資格を活かすため | 11. 時間に余裕があるから |
| 6. 働くことが好きだから | 12. その他（ ） |

【問 17で、「1」～「6」とお答えの方におうかがいします】

問 17-2 あなたの職場では、仕事の内容や待遇面で女性に対して次のようなことがありますか。【あてはまるものすべてに〇】

- | | |
|----------------------|-------------------------------|
| 1. 賃金に男女差がある | 7. 結婚や出産で退職しなければならないような雰囲気がある |
| 2. 昇進、昇格に男女差がある | 8. 中高年以上の女性に退職を勧奨するような雰囲気がある |
| 3. 能力を正當に評価されていない | 9. 教育・研修を受ける機会が少ない |
| 4. 配置場所が限られている | 10. その他（ ） |
| 5. 補助的な仕事しかやらせてもらえない | 11. 特にな |
| 6. 幹部職員に登用されにくい | |

【問 17で、「3. 契約社員・派遣社員」「4. アルバイト・パート」「5. 非常勤・嘱託」とお答えの方におうかがいします】 ※それ以外の方は問 18 へお進みください

問 17-3 現在の形態で働いている主な理由は何ですか。【3つまでに〇】

- | | |
|--------------------------|-----------------------------|
| 1. 経験・資格・技能を活かせるから | 9. 採用に年齢制限があり、今の形態しか選べないから |
| 2. 希望する仕事内容であったため | 10. 正社員として働ける勤め先が見つからなかったから |
| 3. 時間が自由になるから | 11. 家族の理解が得られにくいから |
| 4. 気軽に働けそうだから | 12. その他（ ） |
| 5. 自宅近くで働けるから | 13. 特にな |
| 6. ほかに主な収入があるから | |
| 7. 家事・育児・介護（介助）との両立のため | |
| 8. 勉強・趣味・ボランティアなどとの両立のため | |

【問 17で、「7. 家事専業」「8. 無職」とお答えの方に向かってください】

問 17-4 あなたは、働いたこと（パート・自営業・臨時・内職等も含む）がありますか。

【1つに〇】

1. 以前は働いていたが、今は働いていない

2. 今まで働いたことはない →問17-6へ

【問 17-4で、「1. 以前は働いていたが、今は働いていない」とお答えの方に向かってください】

問 17-5 あなたが仕事を辞めた理由は何ですか。【3つまでに〇】

1. 仕事が自分に合っていない

8. 家族の病気による世話や介護

2. 人間関係がうまくいかない

9. 結婚

3. 勤務先の都合

10. 出産

4. 賃金が低いなどの労働条件

11. 家事・育児と仕事の両立が困難

5. 健康上の理由

12. その他（ ）

6. 定年

13. 特に理由はない

7. 配偶者・パートナーの転勤

【問 17で、「7. 家事専業」「8. 無職」とお答えの方に向かってください】

問 17-6 現在または将来、あなたは働きたいと思いますか。ここでは雇われる働き方ではなく、自分や仲間と新しく事業をはじめめることも含めてお答えください。

【1つに〇】

1. 働きたい

2. 働く必要がない

3. 働きたいが働けない

4. 働きたくない

【問 17-6で、「3. 働きたいが働けない」とお答えの方に向かってください】

問 17-7 その主な理由は何ですか。【2つまでに〇】

1. 希望する仕事が見つからない

6. 子どもの教育や世話のため

2. 健康上の理由

7. 家族の病気による世話や介護のため

3. 年齢に制限があるため

8. 家族の理解が得られない

4. 出産・乳幼児の世話のため

9. その他（ ）

5. 家事のため

10. 特に理由はない



【すべての方にうかがいます】

問 18 女性の働き方について、あなたが望ましいと思うのは次のどれですか。【1つに〇】

1. 結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける
2. 子育て中は一時仕事を辞め、その後はフルタイムで仕事を続ける
3. 子育て中は一時仕事を辞め、その後はパートタイムなどで仕事を続ける
4. 出産前まで仕事をし、出産後は家事や子育てに専念する
5. 結婚するまで仕事をし、結婚後は家事に専念する
6. 仕事はしない
7. その他 ()
8. わからない

【配偶者・パートナーがいる方のみうかがいます】 ※それ以外の方は問 20 へお進みください

問 19 女性（ご自身または配偶者・パートナーに関して）の働き方について、あなたのご家庭での現状は次のどれですか。【1つに〇】

1. 結婚や出産にかかわらず、仕事を続けている（いた）
2. 子育て中は一時仕事を辞め、その後はフルタイムで仕事を続けている（いた）
3. 子育て中は一時仕事を辞め、その後はパートタイムなどで仕事を続けている（いた）
4. 出産前まで仕事をし、出産後は家事や子育てに専念している（いた）
5. 結婚するまで仕事をし、結婚後は家事に専念している（いた）
6. 仕事を一度もしたことがない
7. その他 ()

【すべての方にうかがいます】

問 20 働く場で「女性の活躍が推進されている」と言えるためには、どのようなことが必要だと思いますか。【3つまでに〇】

1. 女性の勤続年数が長くなること
2. 出産しても、子育て期間でも仕事を続ける女性が増えること
3. 退職した後、再就職しても、また正社員になる可能性が開かれていること
4. 働く女性の割合が多くなること
5. 女性が従事する職種・職域が増えること
6. 仕事に対するモチベーションが高い女性が増えること
7. 管理職などの役職につく女性が増えること
8. その他 ()

【すべての方にうかがいます】

問 21 今の社会全体から見て、女性が働き続けることを困難にしたり、妨げになっていることがあると感じますか。【1つに〇】

- 1. 非常に感じる
- 2. やや感じる

- 3. あまり感じない →問22へ
- 4. まったく感じない →問22へ

→【問 21 で、「1. 非常に感じる」「2. やや感じる」とお答えの方にうかがいます】

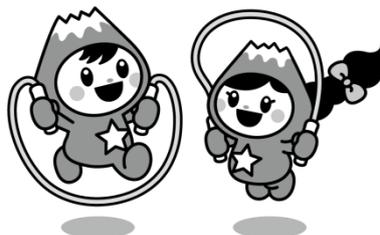
問 21-1 女性が働き続けることを困難にしたり、妨げになっていることは、どのようなことだと思いますか。【あてはまるものすべてに〇】

- | | |
|-----------------|-----------------------------|
| 1. 育児 | 7. 職場での結婚・出産による退職の慣行 |
| 2. 家族の介護や介助など | 8. 長く働き続けられるような職場の条件・制度が不十分 |
| 3. 子どもの教育 | 9. 昇進・教育訓練などで男女の不公平な取り扱い |
| 4. 家事 | 10. 女性は労働能力が劣る、というような考え方 |
| 5. 配偶者・パートナーの転勤 | 11. その他（ ） |
| 6. 家族の無理解 | |

【すべての方にうかがいます】

問 22 女性が結婚後、出産後も退職せずに働き続けたり、一度離職しても再び働くことができるようにするためには、どのようなことが必要だと考えますか。【3つまでに〇】

- 1. 配偶者・パートナーの家事・子育てなどへの理解と協力
- 2. 保育施設や学童保育の充実
- 3. 労働時間の短縮や在宅勤務、フレックスタイムの導入、職場の理解など就労環境の充実
- 4. 育児・介護休業制度や短時間勤務制度を男女がともに利用しやすくなること
- 5. 昇進・昇給などの職場における男女平等
- 6. 就職情報や職業紹介などの相談機関の充実
- 7. 仕事に必要なスキルなどを身につけることができる環境の充実
- 8. その他（ ）



DV（配偶者等からの暴力）についておうかがいします

問 35 次のようなことが夫婦(事実婚や別居中を含む)・パートナーや恋人の間で行われた場合、それを暴力だと思いますか。【それぞれの項目について1つに○】

	どんな場合でも 暴力にあたる	暴力の場合とそつ でない場合がある	暴力にあたることは 思わない
A 骨折させる	1	2	3
B 打ち身や切り傷などのケガをさせる	1	2	3
C 刃物を突き付けて、おどす	1	2	3
D 身体を傷つける可能性のある物で、なぐる	1	2	3
E 突き飛ばしたり、壁にたたきつけたりする	1	2	3
F 平手でぶつ、足でける	1	2	3
G 物をなげつける	1	2	3
H なぐるふりをして、おどす	1	2	3
I ドアをけったり、壁に物を投げて、おどす	1	2	3
J いやがるのに、性的な行為を強要する	1	2	3
K 見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる	1	2	3
L 何を言っても、長時間無視し続ける	1	2	3
M 交友関係やメール、SNS、電話、郵便物を細かく監視する	1	2	3
N 人権を否定するような暴言を言う	1	2	3
O 大声でどなる	1	2	3
P 生活費を渡さない	1	2	3

問 36 DV被害発見や相談しやすい環境をつくるには、どのようなことが必要だと思いますか。

【あてはまるものすべてに○】

1. 地域や学校・職場の人が早期に気づき、相談を勧めたり公的窓口等に通報すること
2. 相談窓口が分かりやすいこと
3. プライバシーに配慮されていること
4. 加害者に気づかれないように配慮されていること
5. 電話やメール等で相談できること
6. 相談員の対応により嫌な思いをするなど、二次被害を受けることがないこと
7. その他（ ）
8. 特にない
9. わからない

問 37 あなたは、これまで配偶者・パートナーまたは恋人から暴力（身体的・精神的・経済的・性的のいずれかまたは複数）を受けたことがありますか。【1つに○】

1. ある
2. ない →問38へ

【問 37 で、「1. ある」とお答えの方にはうかがいます】

問 37-1 その行為を受けたことをどなたか（どこか）に相談しましたか。【1つに○】

1. 相談した
2. 相談しなかった →問37-3へ

【問 37-1 で、「1. 相談した」とお答えの方にはうかがいます】

問 37-2 どなた（どこ）に相談しましたか。【あてはまるものすべてに○】

1. 家族・親戚
2. 友人・知人
3. 警察
4. 弁護士
5. 市町村の相談窓口
6. 都道府県の相談窓口
7. その他の公的機関
8. 民間の相談窓口
9. 医師
10. カウンセラー
11. その他（ ）

【問 37-1 で、「2. 相談しなかった」とお答えの方にはうかがいます】

問 37-3 相談しなかったのはなぜですか。【あてはまるものすべてに○】

1. 相談するほどのことではないと思った
2. 相談しても無駄だと思った
3. 恥ずかしくて誰にも言えなかった
4. 相談する人がいなかった
5. 相談したことが分るともっとひどい目にあうと思った
6. 自分さえ我慢すれば良いと思った
7. 誰に相談してよいのか分からなかった
8. その他（ ）

男女共同参画に関する市民意識調査 報告書

令和元年9月発行

調査主体 富士見市 市民生活部 人権・市民相談課
〒354-8511 富士見市大字鶴馬 1800 番地の1
電話 049-251-2711 (代表)

調査実施 株式会社エスピー研
〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 3 - 11 - 20
電話 03-3239-0071 (代表)